

來ルトキハ累接四列鉄固着ト爲スベシ
 横肋骨ノ下端ノ肘板ハ單山形鋼ヲ以テ第二甲板ニ二列鉄固着ト爲スベシ

外板トノ固着 横肋骨ハ之ト同一ノ厚サヲ有スル單山形鋼ヲ以テ外板ニ固着スベシ
 縦肋骨トノ固着 船側横肋骨ト縦肋骨トハ第二十四條第二項ノ規定ニ依ル短防撓山形鋼ヲ以テ固着スベシ但シ山形鋼ノ厚サハ横肋骨ノ厚サヲ超ユルコトヲ要セス

防撓山形鋼ト縦肋骨トノ固着ニ付テハ第十八條第三項ノ規定ニ依ル
第二十八條 船側横肋骨ニ設クル輕目穴ハ徑150耗以下ト爲シ縦肋骨ニ對スル切込ノ間ニ於テ其ノ中央附近ノ成ルベク外板ニ接近シタル箇所ニ設クベシ

第四節 横置梁

第二十九條 横置梁ハ船側横肋骨ニ接續シテ設ケ銅板ノ下縁ニ面材ヲ取附ケタル構造ト爲スベシ但シ膨脹「トランク」内ノ上甲板横置ノ下端ハ面材ノ代リニ曲縁ト爲スコトヲ得

上甲板(夏期油槽間) 夏期油槽ニ於ケル上甲板横置梁ヲ構成スル銅板ノ深サハ次ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

一、Bガ15米未滿ナルトキ
 $2.66B(S-1.5)+230$ (耗ニテ)

二、Bガ15米以上ナルトキ
 $5.5(B-8)(S-0.9)+210$ (耗ニテ)

Sハ横置梁ノ心距(米ニテ)

前項ノ銅板ノ厚サハ其ノ深サニ應ジ次表ニ依リ之ヲ定ムベシ

深	サ(耗)	250ヲ超エ 280以下	280 290	290ヲ超エ 440以下
厚	サ(耗)	9	9.5	10

夏期油槽ニ於ケル上甲板横置梁ノ下縁ニ附スル面材ハ形鋼ヲ用ヒタルトキ其ノ截面積ヲ次ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲

スベシ

一、Bガ15米未滿ナルトキ
 $0.665B+8$ (平方糎ニテ)

二、Bガ15米以上ナルトキ
 $1.055B+2.15$ (平方糎ニテ)

膨脹「トランク」内

膨脹「トランク」内ノ上甲板横置梁ヲ構成スル銅板ノ深サハ次ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲シ其ノ下端ヲ曲縁ト爲ストキハ其ノ幅ヲ130耗ト爲スベシ但シB12米以下ナルトキハ曲縁ノ幅ヲ120耗ト爲スコトヲ得

一、Bガ12米未滿ナルトキ
 $14.5(B-15)(5-S)+470$ (耗ニテ)

二、Bガ12米以上ナルトキ
 $10B+44(S-2.5)+241$ (耗ニテ)

Sハ横置梁ノ心距(米ニテ)

前項ノ銅板ノ厚サハ其ノ深サニ應ジ次表ニ依リ之ヲ定ムベシ

深	サ(耗)	250ヲ超エ 340以下	340" 360"	360ヲ超エ 520以下
厚	サ(耗)	9	9.5	10

第二甲板 第二甲板横置梁ヲ構成スル銅板ノ深サハ次ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

一、Bガ15米未滿ナルトキ
 $4.65(B+14)(S+0.3)$ (耗ニテ)

二、Bガ15米以上ナルトキ
 $32.3B+134S-442$ (耗ニテ)

Sハ横置梁ノ心距(米ニテ)

前項ノ銅板ノ厚サハ其ノ深サニ應ジ次表ニ依リ之ヲ定ムベシ

深 サ(耗)	300ヲ超エ	340 "	650ヲ超エ
	340以下	650 "	810以下
厚 サ(耗)	9.5	10	11

第二甲板横置梁ノ下縁ニ附スル面材ハ形鋼ヲ用ヒタルトキ其ノ截面積ヲ次ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

- 一、Bガ15米未滿ナルトキ $1.8B+4.3$ (平方糎ニテ)
- 二、Bガ15米以上ナルトキ $1.15B+14$ (平方糎ニテ)

第三十條 横置梁ハ之ヲ構成スル鋼板ノ厚サト同一ノ厚サヲ有スル單山形鋼ヲ以テ上甲板トハ一列銲固着、第二甲板トハ二列銲固着ト爲スベシ

横置梁ニ設クル輕目穴ハ其ノ徑ヲ100耗以下ト爲シ縦梁ニ對スル切込ノ間ニ於テ其ノ中央附近ノ成ルベク甲板ニ接近シタル箇所ニ設クベシ

第三十一條 横置梁ト縦梁トハ山形鋼ヲ以テ固着シ之ヲ横置梁ノ面材ノ縁迄延長シ横置梁ヲ防撓スベシ但シ膨脹「トランク」内ノ上甲板横置梁ニ在リテハ交互ニ横置梁ノ下端迄縦梁ノ下端ヨリ下方150耗ノ箇所迄延長スベシ

前項ノ防撓山形鋼ノ厚サハ横置梁ヲ構成スル鋼板ノ厚サニ等シクシ其ノ邊ノ幅ハ深サ610耗ヲ超ユル第二甲板横置梁ニ在リテハ長防撓山形鋼、其ノ他ノ横置梁ニ在リテハ短防撓山形鋼ニ對スル第二十四條第二項ノ規定ヲ準用シテ之ヲ定ムベシ

防撓山形鋼ト縦梁トノ固着ニ付テハ第十八條第三項ノ規定ヲ準用ス

第三十二條 夏期油槽ニ於ケル上甲板横置梁ノ下縁ニ附スル面材ハ膨脹「トランク」ノ側壁ヨリ船側横肋骨ノ内縁迄達セシムベシ
夏期油槽ニ於ケル上甲板横置梁ヲ膨脹「トランク」ノ側壁ニ固着スル肘板ハ其ノ厚サヲ横置梁ヲ構成スル鋼板ノ厚サト等シクシ甲板ヨリ測リタル深サ及側壁ヨリ測リタル幅ヲ横置梁ノ深サノ2倍ト爲ス

ベシ
前項ノ肘板ハ横置梁ヲ構成スル鋼板ニ累接ニ列銲固着ト爲シ膨脹「トランク」ノ側壁ニ肘板ノ厚サト同一ノ厚サヲ有スル二重山形鋼ヲ以テ一列銲固着ト爲スベシ

第三十三條 膨脹「トランク」内ノ上甲板横置梁ト中心線隔壁又ハ膨脹「トランク」ノ側壁ニ附スル堅桁トハ累接シ横置梁ヲ隔壁又ハ側壁迄達セシムルトキハ二列銲固着ト爲シ堅桁ヲ甲板迄達セシムルトキハ三列銲固着ト爲スベシ

中心線隔壁ノ堅桁ノ反對側ニ於テハ上甲板横置梁ト中心線隔壁トヲ肘板ヲ以テ固着スベシ

前項ノ肘板ノ厚サハ横置梁ヲ構成スル鋼板ノ厚サト等シクシ甲板ヨリ測リタル深サハ横置梁ノ深サノ2倍、幅ハ横置梁ノ深サノ1.3倍ト爲スベシ

前項ノ肘板ハ横置梁ニ累接ニ列銲固着ト爲シ中心線隔壁ニ肘板ノ厚サト同一ノ厚サヲ有スル二重山形鋼ヲ以テ一列銲固着ト爲スベシ

第三十四條 第二甲板横置梁ノ下縁ニ附スル面材ハ中心線隔壁ヨリ船側横肋骨ノ内縁迄達セシムベシ

膨脹「トランク」ノ部分ニ於テハ第二甲板横置梁ノ上縁ニ第二十九條第九項ニ依ル面材ヲ附シ中心線隔壁ヨリ膨脹「トランク」ノ外方ニ在ル最初ノ縦梁迄達セシムベシ

第二甲板横置梁ト中心線隔壁ノ堅桁トノ固着ニ付テハ該梁ト船側横肋骨トノ固着ニ關スル規定ヲ準用ス

中心線隔壁ノ堅桁ノ反對側ニ於テハ次ノ各號ノ規定ニ依リ第二甲板横置梁ト中心線隔壁トヲ肘板ヲ以テ固着スベシ

- 一、肘板ノ寸法ハ前項ノ規定ニ依リ横置梁ト堅桁トヲ固着スル肘板ノ寸法ト等シクシ其ノ遊縁ヲ130耗曲縁スベシ
- 二、肘板ト隔壁板トノ固着ニ付テハ第十六條第四項ノ規定ヲ準用ス
- 三、肘板ト隔壁板トヲ固着スル山形鋼ハ總テ横置梁ノ上縁ニ附スル面材迄延長スベシ

四、肘板ノ遊縁ノ長サ 1.7 米ヲ超ユルトキハ第十六條第三項ニ定ムル寸法ノ山形鋼ヲ以テ該肘板ヲ防撓スベシ
 膨脹「トランク」ノ部分ニ於ケル第二甲板横置梁ノ上縁ニ附スル面材ハ横置梁ヲ構成スル鋼板ノ厚サニ 1 耗ヲ加ヘタル厚サヲ有スル水平控板ヲ以テ中心線隔壁板ニ固着スベシ

第三十五條 横置梁ノ端ニ於ケル肘板ヲ横置梁ノ上端迄延長スルトキハ之ト横置梁ヲ構成スル鋼板トハ三列銲固着ト爲スベシ

第五節 船底縱肋骨

截面抵抗率 **第三十六條** 船底縱肋骨ハ心距 760 耗ノトキ其ノ截面抵抗率ヲ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

$$(S+n)^2(0.0016 D^4+0.064 D^2+27.7) \quad (\text{種ノ三乗ニテ})$$

S ハ横肋骨間ノ間隔又ハ横置隔壁ト横肋骨トノ間隔 (米ニテ)
 n ハ一油槽内ニ設クル横肋骨ノ數一箇ナルトキハ 0、二箇又ハ三箇ナルトキハ 0.6

L 122 米ヲ超ユル場合ニ於テハ横置隔壁ノ兩側ニ於テ隔壁ヨリ横肋骨ノ心距ノ 40% ニ相當スル間船底縱肋骨ニ背面山形鋼ヲ附シ外板ニ一列銲ヲ以テ固着スベシ

横置隔壁トノ固着 **第三十七條** 船底縱肋骨ハ横置隔壁ノ位置ニ於テ切斷シ遊縁ヲ曲線シタル肘板ヲ以テ該隔壁ニ固着スベシ

前項ノ肘板ノ幅及深サハ縱肋骨ノ深サノ 2 倍ニ 650 耗ヲ加ヘタルモノト爲シ其ノ厚サハ肘板ノ深サニ應ジ次表ニ依リ定ムベシ但シ縱肋骨ガ鋼板及面材ヲ以テ構造シタルモノナルトキハ肘板ノ幅ヲ深サヨリ 250 耗減ジタルモノト爲スコトヲ得

肘板ノ深サ(耗)	ヲ超エ 1150 以下	1150 〃 1250 〃	1250 〃 1350 〃	1350 〃ヲ超ユ ルモノ
肘板ノ厚サ(耗)	10	10.5	11	11.5

肘板ハ之ト同一ノ厚サヲ有スル單山形鋼ヲ以テ隔壁ニ固着スベシ
 前項ノ山形鋼ハ横置隔壁ノ最下水平防撓材ヨリ 300 耗未滿ノ箇所迄

延長スベシ

斷切桁材 **第三十八條** B 18.5 米ヲ超ユルトキハ船ノ中心線ヨリ B ノ約 $\frac{1}{4}$ ニ相當スル箇所ノ附近ニ船底横肋骨ト同一ノ深サヲ有スル斷切桁材ヲ縱肋骨ノ代リニ設クベシ

斷切板ノ厚サハ横肋骨板ノ厚サヨリ 1 耗ヲ減ジタルモノト爲シ其ノ上端ニ斷切板ト同一ノ厚サヲ有シ各邊ノ幅 90 耗ナル二重山形鋼ヲ取附クベシ

斷切桁材ハ横肋骨ノ心距 3 米以下ナルトキハ中央ニ一箇、3 米ヲ超ユルトキハ心距ノ三等分點ニ各一箇ノ堅山形鋼ヲ取附ケ之ヲ防撓スベシ

第三十九條 斷切桁板ハ横置隔壁又ハ船底横肋骨ニ單山形鋼ヲ以テ二列銲固着ト爲スベシ

斷切桁板ト隔壁トヲ固着スル山形鋼ハ桁材ノ上端ヨリ上方 150 耗以上ノ箇所迄延長スベシ

斷切桁材ノ面材ト横肋骨ノ面材トハ覆板ヲ以テ固着スベシ

第六節 船側縱肋骨

第二甲板下 **第四十條** 第二甲板下ノ船側縱肋骨ハ球山形鋼ヲ用ヒ心距 760 耗ノトキ其ノ截面抵抗率ヲ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ但シ $h+0.4 D$ ガ 4.5 米未滿ナルトキハ 4.5 米トス

$$10(S+n)^2+20(h+0.4 D-5)(S+2n-2) \quad (\text{種ノ三乗ニテ})$$

S ハ横肋骨間ノ間隔又ハ横置隔壁ト横肋骨トノ間隔 (米ニテ)

h ハ當該縱肋骨ヨリ船側ニ於ケル上甲板ニ至ル深サ (米ニテ)

n ハ一油槽内ニ設クル横肋骨ノ數一箇ナルトキハ 0.1、二箇又ハ三箇ナルトキハ 0.4

甲板間 **第四十一條** 上甲板及第二甲板間ノ船側縱肋骨ノ數ハ甲板間ノ高サ 2.5 米ノトキ二箇ト爲シ縱肋骨ニ球山形鋼ヲ用ヒタル場合其ノ截面抵抗率ヲ次ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

一、一油槽内ニ横肋骨一箇ヲ設クルトキ

$$32 \{1+0.01(D-2)^2\}(S-0.67) \quad (\text{種ノ三乗ニテ})$$

二、一油槽内ニ二箇又ハ三箇ノ横肋骨ヲ設クルトキ
 $32 \{1 + 0.013(D-2)\} (S-0.60)$ (噸ノ三乗ニテ)

S ハ横肋骨間ノ間隔又ハ横置隔壁ト横肋骨トノ間隔 (米ニテ)

彎曲部 **第四十二條** 船底彎曲部ニ於ケル縦肋骨ノ寸法ハ船底縦肋骨ト船側縦肋骨トノ間ニ於テ強力ニ急激ナル變化ナキ様之ヲ定ムベシ

横置隔壁トノ固着 **第四十三條** 船側縦肋骨ハ横置隔壁ノ位置ニ於テ切斷シ遊縁ヲ曲線シタル肘板ヲ以テ隔壁ニ固着スベシ
 前項ノ肘板ノ幅及深サハ縦肋骨ノ深サノ3倍ニ200 耗ヲ加ヘタルモノト爲シ其ノ厚サハ肘板ノ深サニ應ジ次表ニ依リ定ムベシ但シ甲板間ニ於ケル肘板ノ厚サハ10 耗ヲ超ユルコトヲ要セズ

肘板ノ深サ(耗)	ヲ超エ 850 以下	850 〃 1000 〃	1000 ヲ超ユ ルモノ
肘板ノ厚サ(耗)	10	10.5	11

肘板ハ之ト同一ノ厚サヲ有スル單山形鋼ヲ以テ隔壁ニ固着スベシ

第七節 縦 梁

上甲板 **第四十四條** 上甲板ノ縦梁ハ球山形鋼ヲ用ヒ心距760 耗ノトキ其ノ截面抵抗率ヲ次ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

一、一油槽内ニ横置梁一箇ヲ設クルトキ

(イ) L ガ120 米未滿ナル場合
 $0.39 L + 38(S-3) + 57$ (噸ノ三乗ニテ)

(ロ) L ガ120 米以上ナル場合
 $0.62 L \{1 + 0.5(S-3)\} + 30$ (噸ノ三乗ニテ)

二、一油槽内ニ二箇又ハ三箇ノ横置梁ヲ設クルトキ

$0.57 L + 36(S-2.5) + 33$ (噸ノ三乗ニテ)

S ハ横置梁間ノ間隔又ハ横置隔壁ト横置梁トノ間隔 (米ニテ)

第二甲板 第二甲板ノ縦梁ハ球山形鋼ヲ用ヒ心距760 耗ノトキ其ノ截面抵抗率ヲ次ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

一、一油槽内ニ横置梁一箇ヲ設クルトキ

$50 S + 0.0027 L^2 - 65$ (噸ノ三乗ニテ)

二、一油槽内ニ二箇又ハ三箇ノ横置梁ヲ設クルトキ

$50 S + 0.0025 L^2 - 45$ (噸ノ三乗ニテ)

S ハ横置梁間ノ間隔又ハ横置隔壁ト横置梁トノ間隔 (米ニテ)

横置隔壁トノ固着 **第四十五條** 縦梁ハ横置隔壁ノ位置ニ於テ切斷シ肘板ヲ以テ隔壁ニ固着スベシ

前項ノ肘板ノ幅及深サハ縦梁ノ深サノ4倍ト爲シ其ノ厚サハ縦梁ノ深サニ應ジ次表ニ依リ定ムベシ

縦梁ノ深サ(耗)	ヲ超エ 150 以下	150 〃 200 〃	200 ヲ超ユ ルモノ
肘板ノ厚サ(耗)	10	10.5	11

肘板ハ之ト同一ノ厚サヲ有スル單山形鋼ヲ以テ横置隔壁ニ一列鉄固着ト爲スベシ

肘板ノ各邊ニ於ケル鉄ノ數ガ十箇以上ナルトキハ肘板ノ遊縁ヲ曲線スベシ

第八節 外 板

平板龍骨 **第四十六條** 平板龍骨ノ幅ハ第三章第五條ノ規定ニ依リ之ヲ定メ其ノ厚サハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ但シ中央部 L ノ $\frac{3}{5}$ 間ノ前後ニ於テハ漸次其ノ厚サヲ減ジ首尾兩端ニ於テハ算式ニ依ルモノノ77% ト爲スコトヲ得

$$\left(12.2 - 0.55 \frac{L}{D}\right) \left(\frac{L}{100}\right)^2 - \left(1.37 - 0.33 \frac{L}{D}\right) \left(\frac{L}{100}\right) + \left(16.4 - 0.36 \frac{L}{D}\right) \quad (\text{耗ニテ})$$

船側外板 **第四十七條** 中央部 L ノ $\frac{1}{2}$ 間ニ於ケル船側外板ノ厚サハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

$$1.37 \left(\frac{L}{100}\right)^2 + \left(10.9 - 0.5 \frac{L}{D}\right) \left(\frac{L}{100}\right) + \left(4.37 + 0.2 \frac{L}{D}\right) \quad (\text{耗ニテ})$$

船底外板 **第四十八條** 中央部 L ノ $\frac{1}{2}$ 間ニ於ケル船底外板ノ厚サハ前條ニ依ル

船側外板ノ厚サニ次表ニ掲グル厚サヲ加ヘタルモノ以上ト爲スベシ

L-	ヲ超エ 135 以下	135 〃 150 〃	150 〃 160 〃	160 〃 175 〃	175 〃 ヲ超ユ ルモノ
加フベキ厚サ (耗)	0.5	1.0	1.5	2.0	2.5

第四十九條 縦肋骨ノ心距ガ760耗ヲ超ユルトキハ超過10耗ニ付0.1耗ノ割合ヲ以テ船側外板及船底外板ノ厚サヲ増スベシ

第五十條 舷側厚板ノ幅ハ第十章第七條ノ規定ニ依リ之ヲ定メ其ノ厚サハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ但シ中央部Lノ $\frac{1}{2}$ 間ノ前後ニ於テハ漸次之ヲ減ジ首尾兩端ニ於テハ船側外板ノ首尾ノ厚サニ等シカラシムルコトヲ得

$$\frac{L}{60} \left(\frac{L}{D} - 3.8 \right) + 3.2 \quad (\text{耗ニテ})$$

第五十一條 外板ノ横縁ハ油槽ノ部分ニ於テハ成ルベク之ヲ少クシ且其ノ位置ハ油密横置隔壁ト十分ニ避距スベシ

第五十二條 船橋樓ノ兩端及船尾樓ノ前端ノ前後適當ノ間舷側厚板ノ厚サヲ中央部ニ於ケル規定ノ厚サヨリ20%増シ船樓外板ヲ適當ノ間船樓外ニ延長シ順次其ノ高サヲ減ジ船樓端ヨリ1.5米ヲ超エザル間隔ニ設ケタル銅板製ノ堅桁ニテ支ヘ上下兩甲板ノ強力ノ連續ニ急激ナル變化ナカラシムベシ
船尾樓ノ前端ガ中央部Lノ $\frac{1}{2}$ 間ニ在ルトキハ該端ノ補強ニ付テハ前項ノ規定ニ拘ラズ第十五章第九條ノ規定ニ依ル

第九節 甲板

第五十三條 上甲板ノ梁上側板ノ幅ハ中央部Lノ $\frac{1}{2}$ 間ニ於テハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲シ首尾兩端ニ於テハ其ノ70%以上ト爲スベシ

$$0.037L^2 + 870 \quad (\text{耗ニテ})$$

上甲板ノ梁上側板ノ厚サハ次ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

一、中央部Lノ $\frac{1}{2}$ 間

$$6.9 + 0.4 \frac{L}{D} + \left(0.22 \frac{L}{D} - 0.87 \right) \left(\frac{L}{100} \right)^3 \quad (\text{耗ニテ})$$

二、首尾兩端 $6.5 + 0.033L$ (耗ニテ)

第五十四條 中央部Lノ $\frac{1}{2}$ 間ニ於ケル第二甲板ノ梁上側板ノ幅ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

$$0.013L^2 + 930 \quad (\text{耗ニテ})$$

第二甲板ノ梁上側板ノ厚サハ鋼甲板ノ厚サガ11耗以下ナルトキハ之ニ0.5耗ヲ加ヘタルモノト爲シ11.5耗以上ナルトキハ其ノ厚サニ等シク爲スベシ

第五十五條 鋼甲板ノ厚サハ次ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

一、中央部Lノ $\frac{1}{2}$ 間ニ於ケル上甲板 $7.1 + \left(0.41 \frac{L}{D} - 2.58 \right) \left(\frac{L}{100} \right)^3$ (耗ニテ)

二、首尾ニ於ケル上甲板 $0.663\sqrt{L+42.4}$ (耗ニテ)

三、第二甲板 $0.94\sqrt{L-5.4}$ (耗ニテ)

縦梁ノ心距ガ760耗ヲ超ユルトキハ超過50耗ニ付0.3耗ノ割合ヲ以テ鋼甲板ノ厚サヲ前項ノ規定ニ依ルモノヨリ増スベシ

第五十六條 同一横截面ニ於ケル上甲板ノ開口ノ幅ノ和ガ2.5米ヲ超ユルトキハ上甲板ノ梁上側板及鋼甲板ノ厚サヲ増加シ其ノ截面積ノ和ヲ開口ノ幅ノ和ガ2.5米ナル場合ニ於ケル規定ノ梁上側板及鋼甲板ノ截面積ノ和以上ト爲スベシ

第五十七條 第二甲板ノ梁上側板及鋼甲板ノ厚サハ油槽及防油區畫ノ範圍ニ於テハ中央部ノ厚サヲ保持スルコトヲ要ス

上甲板ノ梁上側板及鋼甲板ハ中央部ニ於ケル厚サヲ船尾樓ノ前端ヨリ後方少クトモBノ $\frac{1}{3}$ ニ相當スル箇所迄持續スベシ

上甲板ノ梁上側板ノ厚サハ船橋樓ノ兩端及船尾樓ノ前端ニ於テ少クトモ6米ノ間中央部ニ於ケル規定ノ厚サヨリ20%増スベシ

船尾樓ノ前端ガ中央部 L ノ $\frac{1}{2}$ 間ニ在ルトキハ該端ノ補強ニ付テハ前二項ノ規定ニ拘ラズ第十五章第九條ノ規定ニ依ル

第五十八條 油槽ノ部分ニ於ケル上甲板ノ舷緣山形鋼ノ厚サハ梁上側板ノ厚サニ等シクシ其ノ各邊ノ幅ハ舷側厚板ノ厚サニ應ジ次表ニ依リ定ムベシ

舷側厚板ノ厚サ (耗)	以 上 24 以 下	24.5 % 29.0 %	29.5 以 上 30.5 以 下
各 邊 ノ 幅(耗)	150	180	200

第二甲板ノ舷緣山形鋼ハ横置隔壁ヲ貫通センメ其ノ厚サハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲シ其ノ各邊ノ幅ハ L 80 米未滿ノ船舶ニ在リテハ 130 耗、 L 80 米以上ノ船舶ニ在リテハ 150 耗以上ト爲スベシ

$$0.756\sqrt{L+89} \quad (\text{耗ニテ})$$

舷緣山形鋼ノ各邊ハ二列鋸固着ト爲スベシ

第五十九條 鋼甲板及梁上側板ノ横緣ハ油槽ノ部分ニ於テハ成ルベク之ヲ少クシ且其ノ位置ハ油密横置隔壁ト十分ニ避距スベシ
甲板ニ設クル開口ノ四隅ニハ十分丸味ヲ附スベシ
上甲板ノ舷緣山形鋼ニ排水ノ爲切込ヲ設クルコトハ成ルベク之ヲ避クベシ

第十節 横置 隔 壁

第六十條 本節ノ規定ハ油槽ノ隔壁、防油區畫及「ポンプ」室ノ隔壁ニ之ヲ適用ス

第六十一條 隔壁板ノ厚サハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ但シ 8.5 耗ヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$7.38+0.40 H \quad (\text{耗ニテ})$$

H ハ各隔壁板ノ下緣ヨリ船ノ中心線ニ於ケル上甲板迄ノ距離(米ニテ)

水平防撓材ノ心距 ≥ 760 耗ヲ超ユルトキハ超過 100 耗ニ付 0.5 耗ノ

割合ヲ以テ隔壁板ノ厚サヲ前項ノ規定ニ依ルモノヨリ増スベシ
隔壁ノ最下部ニ用フル板ノ厚サハ前二項ノ規定ニ依ル厚サニ 1 耗ヲ加ヘタルモノ以上ト爲シ其ノ幅ハ船底縱肋骨ニ附スル肘板及其ノ固着用山形鋼ノ上部ニ於テ縱緣固着ヲ爲スニ足ルモノト爲スコトヲ要ス

第六十二條 横置隔壁ト外板、甲板、中心線隔壁竝ニ膨脹「トランク」ノ側壁及頂板トハ二重山形鋼ヲ以テ一列鋸固着ト爲スカ又ハ單山形鋼ヲ以テ二列鋸固着ト爲スベシ

前項ノ二重山形鋼ハ横置隔壁ノ深サ 8.5 米以下ナルトキハ各邊ノ幅ヲ 75 耗、厚サヲ隔壁ノ最下部ノ板ノ厚サヨリ 2 耗減ジタルモノト爲シ横置隔壁ノ深サ 8.5 米ヲ超ユルトキハ各邊ノ幅ヲ 90 耗、厚サヲ最下部ノ板ノ厚サヨリ 2.5 耗減ジタルモノト爲スベシ

第一項ノ單山形鋼ノ各邊ノ幅ハ 150 耗ト爲シ厚サハ隔壁ノ最下部ノ板ノ厚サト等シク爲スベシ

第六十三條 第二甲板下ノ横置隔壁ニハ第六十四條乃至第六十八條ノ規定ニ依リ堅桁ヲ設クベシ

堅桁ハ桁板ノ内緣ニ面材ヲ取附ケタル構造ト爲シ桁板ノ寸法ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

$$\text{深サ} \quad 31.5(S+0.43)l+150 \quad (\text{耗ニテ})$$

$$\text{厚サ} \quad 0.0033 d_0+7.7 \quad (\text{耗ニテ})$$

S ハ當該堅桁ヨリ之ニ隣接スル堅桁、中心線隔壁又ハ外板ニ至ル各區間ノ中心間ノ距離(米ニテ)但シ各舷ニ堅桁三箇ヲ設クルトキハ中央ノ堅桁ニ付テハ其ノ左右ノ堅桁ニ至ル區間ノ距離ノ代リニ其ノ 1.1 倍ヲ採ルモノトス

l ハ船底縱肋骨ノ上緣ヨリ第二甲板迄測リタル堅桁ノ長サ(米ニテ)

d_0 ハ桁板ノ深サ(耗ニテ)

面材ハ形鋼ヲ用ヒタルトキ其ノ截面積ヲ次ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

一、 l が 6 米未満ナルトキ
 $1.33l^2 - 1.4l(6.79 - h) + 17.5$ (平方糎 = テ)

二、 l が 6 米以上ナルトキ
 $0.96l^2 + 1.4lh - 2.16l - 7.94$ (平方糎 = テ)

l ハ船底縦肋骨ノ上縁ヨリ第二甲板迄測リタル堅桁ノ長サ (米 = テ)

h ハ堅桁ノ上端ヨリ船ノ中心線ニ於ケル上甲板ニ至ル高サ (米 = テ)

第六十四條 堅桁ニ設ケル輕目穴ハ其ノ徑ヲ 150 糎以下ト爲シ水平防撓材ニ對スル切込ノ間ニ於テ其ノ中央附近ノ成ルベク隔壁ニ接近シタル箇所ニ設クベシ

第六十五條 堅桁ノ面材ハ縦梁ノ下端ヨリ船底縦肋骨ノ上端迄達セシムベシ

第六十六條 堅桁ノ端ハ桁板ノ厚サニ 1 糎ヲ加ヘタル厚サヲ有シ遊縁ヲ 13 糎曲縁シタル肘板ヲ以テ縦梁及船底縦肋骨ニ固着スベシ
 前項ノ肘板ノ深サハ縦梁ノ下縁又ハ船底縦肋骨ノ上縁ヨリ測リ堅桁ノ長サノ 20% 以上ト爲シ幅ハ桁板ノ遊縁ヨリ測リ 750 糎以上ト爲スベシ

肘板ト堅桁ノ桁板、縦梁及船底縦肋骨トハ累接ニ列銀固着ト爲スベシ又肘板ヲ隔壁板迄延長シ桁板ニ兼用スルトキハ之ト之ニ隣接スル桁板トハ累接ニ列銀固着ト爲スベシ

第六十七條 堅桁ノ桁板ト水平防撓材トハ次ノ各號ノ規定ニ依リ固着スベシ

- 一、堅桁ノ長サノ略中央ニ於ケル水平防撓材ト桁板トハ其ノ面材ノ縁ニ達スル水平肘板ヲ以テ固着スベシ
- 二、其ノ他ノ水平防撓材ト桁板トハ山形鋼ヲ以テ固着シ之ヲ交互ニ堅桁ノ面材ノ縁迄及桁板ノ深サノ $\frac{1}{2}$ 迄延長シ桁板ヲ防撓スベシ但シ桁板ノ深サノ $\frac{1}{2}$ ノ箇所ガ水平防撓材ノ遊縁ヨリ 150 糎未満ノ距離ニ在ルトキハ遊縁ヨリ 150 糎ノ箇所迄山形鋼ヲ延長スベシ

縦梁及船底縦肋骨トノ固着
 水平防撓材トノ固着

前項第二號ノ防撓山形鋼ハ堅桁ノ深サ 500 糎以下ナルトキハ總テ面材ノ縁迄達セシムルコトヲ要シ又堅桁ノ下端ノ肘板ノ範圍ニ在ル水平防撓材ヲ固着スルモノニ在リテハ該肘板ノ遊縁迄達セシムルコトヲ要ス

防撓山形鋼ノ寸法ハ其ノ長短ニ從ヒ桁板ノ深サニ應ジ第二十四條ノ表ヲ準用シテ之ヲ定ムベシ但シ堅桁ノ下半部ニ附スル防撓山形鋼ハ總テ長防撓山形鋼ノ寸法ニ依ルベシ

防撓山形鋼ト水平防撓材トノ固着ニ付テハ第十八條第三項ノ規定ヲ準用ス

第六十八條 堅桁ハ桁板ト同一ノ厚サヲ有スル單山形鋼ヲ以テ隔壁板ニ列銀固着ト爲スベシ但シ D 7 米以下ナルトキハ一列銀固着ト爲スコトヲ得

堅桁ト隔壁板トヲ固着スル銀ノ徑ハ D 7.6 米以下ナルトキハ 19 糎、7.6 米ヲ超ユルトキハ 22 糎ト爲スベシ

第六十九條 膨脹「トランク」内ノ横置隔壁ニハ次ノ各號ノ規定ニ依リ堅桁ヲ設クベシ

- 一、堅桁ハ遊縁ヲ曲縁ト爲シタル桁板ヲ單山形鋼ヲ以テ隔壁ニ固着シタル構造ト爲スベシ
- 二、桁板ノ深サ及厚サハ次表ニ依リ之ヲ定メ曲縁ノ幅ハ 130 糎ト爲スベシ

B	桁板ノ深サ及厚サ (糎)		B	桁板ノ深サ及厚サ (糎)	
	甲板間ノ高サ			甲板間ノ高サ	
	2.5 米	3.0 米		2.5 米	3.0 米
9	410×9	440×9	16	450×10.5	480×10.5
10	430×9	440×9.5	18	470×10.5	500×10.5
12	440×9.5	450×10	21	490×10.5	530×10.5
14	440×10	460×10.5	24	510×10.5	550×10.5

隔壁板ト固着
 堅桁 (膨脹「トランク」内)

- 三、堅桁ノ端ハ肘板ヲ以テ二列鋌固着ト爲スベシ
肘板ノ幅及深サハ桁板、縦梁又ハ固着用山形鋼トノ累接ノ部分ヲ除キ桁板ノ深サ以上ト爲スベシ
 - 四、甲板間ノ高サガ 2.5 米ヲ超ユルトキハ桁板ト隔壁板トヲ二列鋌固着ト爲スベシ
- 前項ノ堅桁ノ桁板ト水平防撓材トハ山形鋼ヲ以テ固着シ之ヲ堅桁ノ内端迄延長シ桁板ヲ防撓スベシ
- 前項ノ防撓山形鋼ノ厚サハ桁板ノ厚サニ等シクシ其ノ邊ノ幅ハ船側横肋骨ノ短防撓山形鋼ニ對スル第二十四條ノ規定ニ依リ之ヲ定ムベシ
- 防撓山形鋼ト水平防撓材トノ固着ニ付テハ第十八條第三項ノ規定ヲ準用ス

水平防撓材

第七十條 第二甲板下及膨脹「トランク」内ニ於ケル横置隔壁ニハ次ノ各號ノ規定ニ依リ水平防撓材ヲ設クベシ

- 一、水平防撓材ハ球山形鋼ヲ用ヒ心距 760 耗ノトキ其ノ截面抵抗率ヲ支點間隔ノ種別ニ應ジ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ此ノ場合一防撓材ニ付其ノ部分ニ依リ支點間隔ガ異ルトキハ最大ノ間隔ニ對シ算定シタルモノ以上ナルコトヲ要ス

支點間隔ノ種別	h	算式
堅桁間ノ間隔	3 米以上	$5.15S^2h$ (糧ノ三乗ニテ)
	3 米未滿	$5.15S^2h + 23.3(3-h)$ (糧ノ三乗ニテ)
外板又ハ中心線隔壁ト堅桁トノ間隔	3 米以上	$5.15(S-0.75)^2h + 30$ (糧ノ三乗ニテ)
	3 米未滿	$5.15(S-0.75)^2h + 30 + 13.3(3-h)$ (糧ノ三乗ニテ)

- S ハ各場合ニ於ケル支點間隔 (米ニテ)
- h ハ當該水平防撓材ヨリ船ノ中心線ニ於ケル上甲板ニ至ル深サ (米ニテ)
- 二、最下水平防撓材ハ船底縦肋骨ヲ隔壁ニ固着スル肘板ノ上端ヨリ

760 耗以下ニシテ且該肘板ト隔壁板トヲ固着スル山形鋼ノ上端ヨリ 300 耗未滿ノ箇所ニ取附クベシ

- 三、水平防撓材ト中心線隔壁ノ水平防撓材及船側縦肋骨トハ第四十三條ノ規定ヲ準用シ肘板ヲ以テ固着スベシ但シ中心線隔壁ノ水平防撓材ニ固着スル肘板ハ横置隔壁ノ水平防撓材ノ深サガ 250 耗未滿ナルトキハ其ノ遊縁ヲ曲線スルコトヲ要セズ

第七十一條 横置隔壁ニハ第二甲板ノ位置ニ膨脹「トランク」ノ側壁ヨリ側壁ニ達スル横桁ヲ設クベシ但シ第二甲板ニ依リ該部分ノ横置隔壁ヲ支持スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

横桁ノ幅ハ第二甲板下ノ堅桁ノ幅ノ 1.5 倍及 750 耗ノ中大ナルモノ以上、桁板ノ厚サハ堅桁ノ桁板ノ厚サ以上ト爲シ其ノ遊縁ニ 130 耗ノ曲線ヲ設クベシ

横桁ト横置隔壁トハ山形鋼ヲ以テ一列鋌固着ト爲シ横桁ト中心線隔壁又ハ膨脹「トランク」側壁トハ單山形鋼ヲ以テ二列鋌固着ト爲スベシ

横桁ト第二甲板下ノ堅桁トハ桁板ノ厚サニ 1 耗ヲ加ヘタル厚サヲ有シ遊縁ヲ曲線シタル肘板ヲ以テ固着スベシ

前項ノ肘板ノ深サハ堅桁ノ長サノ 20% 以上ト爲シ其ノ幅ハ横桁ノ内端ニ達スルモノト爲スベシ

横桁ト堅桁及肘板トハ桁板ト同一ノ厚サヲ有スル二重山形鋼ヲ以テ二列鋌固着ト爲スベシ

水平防撓材

第七十二條 夏期油槽内ノ横置隔壁ニハ船側縦肋骨ノ位置ニ水平防撓材ヲ設クベシ

水平防撓材ハ球山形鋼ヲ用ヒ心距 760 耗ノトキ其ノ截面抵抗率ヲ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

$$13(l-3)^2(h-0.75)^2 + 32l + 20h - 36 \quad (\text{糧ノ三乗ニテ})$$

l ハ水平防撓材ノ長サ (米ニテ)

h ハ當該水平防撓材ヨリ上甲板ニ至ル深サ (米ニテ)

前項ノ防撓材ハ次ノ各號ノ規定ニ依リ堅防撓材ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

一、防撓材ニハ球山形鋼ヲ用ヒ其ノ寸法ハ甲板間ノ高サ 2.5 米ナルトキハ 150×75×10 (耗ニテ)、甲板間ノ高サ 3 米ナルトキハ 165×75×10 (耗ニテ) ト爲スベシ

二、防撓材ノ下端ノ肘板ヲ第二甲板ニ固着スル鋸ノ數ハ甲板間ノ高サ 2.5 米ナルトキハ四箇、3 米ナルトキハ五箇ト爲スベシ

第七十三條 肘板ヲ隔壁板ニ固着スル山形鋼ハ肘板ノ端ヲ超エ少クトモ 150 耗延長スベシ

肘板及山形鋼ハ周圍山形鋼ヨリ十分離シテ隔壁ニ取附ケ有效ニ填隙シ得ル餘地ヲ存セシムベシ

第十一節 中心線隔壁

第七十四條 第六十一條ノ規定ハ中心線隔壁ニ之ヲ準用ス

D ガ 8.5 米ヲ超ユルトキハ隔壁ノ最上部ニ用フル板ハ其ノ幅ヲ 15 米以上、其ノ厚サヲ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲シ其ノ直下ノ板ノ厚サハ其ノ上下ニ隣接スル板ノ厚サノ平均以上ト爲スベシ

$$0.732 D + 3.3 \quad (\text{耗ニテ})$$

第七十五條 中心線隔壁ト平板龍骨及上甲板トハ二重山形鋼ヲ以テ一列鋸固着ト爲スベシ

中心線隔壁ト平板龍骨トヲ固着スル山形鋼ハ各邊ノ幅ヲ 100 耗ト爲シ其ノ厚サヲ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

$$0.0372 L + 9.5 \quad (\text{耗ニテ})$$

前項ノ山形鋼ノ厚サハ中央部 L ノ $\frac{1}{2}$ 間ノ前後ニ於テハ漸次減少シテ首尾兩端ニ於テハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノト爲スコトヲ得

$$0.0284 L + 9.5 \quad (\text{耗ニテ})$$

中心線隔壁ト上甲板トヲ固着スル山形鋼ノ各邊ノ幅ハ L 120 米以下ナルトキハ 75 耗、120 米ヲ超ユルトキハ 90 耗ト爲シ其ノ厚サハ

平板龍骨及上甲板トノ固着

次ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

$$0.0214 L + 7.3 \quad (\text{耗ニテ})$$

第七十六條 第二甲板下ノ中心線隔壁ニハ船底横肋骨ノ位置ニ次ノ各號ノ規定ニ依リ堅桁ヲ設クベシ

一、堅桁ノ桁板ノ幅及面材ノ寸法ハ之ニ對應スル船側横肋骨ノモノト等シク爲スベシ

二、桁板ノ厚サハ船側横肋骨板ノ厚サヨリ 1.5 耗ヲ減ジタルモノト爲スベシ但シ 9 耗未滿ト爲スコトヲ得ズ

三、船底横肋骨ト堅桁ト固着ニ付テハ該横肋骨ト船側横肋骨トノ固着ニ關スル規定ヲ準用シ第二甲板横置梁ト堅桁トノ固着ニ付テハ該横置梁ト船側横肋骨トノ固着ニ關スル規定ヲ準用ス

四、水平防撓材ト堅桁ノ桁板トノ固着ニ付テハ第六十七條ノ規定ヲ準用ス

五、堅桁ハ桁板ト同一ノ厚サヲ有スル單山形鋼ヲ以テ隔壁板ニ二列鋸固着ト爲スベシ

六、堅桁ト隔壁板トヲ固着スル鋸ノ徑ハ L ト横肋骨心距 (米ニテ) トノ積ガ 370 以下ナルトキハ 19 耗、370 ヲ超ユルトキハ 22 耗ト爲スベシ

第七十七條 膨脹「トランク」内ノ中心線隔壁ニハ前條ノ堅桁ノ位置ニ次ノ各號ノ規定ニ依リ堅桁ヲ設クベシ

一、堅桁ハ遊縁ヲ 130 耗曲線シタル桁板ヲ單山形鋼ヲ以テ隔壁板ニ固着シタル構造ト爲スベシ

二、桁板ノ厚サハ堅桁ノ長サガ 3 米以下ナルトキハ 10 耗、3 米ヲ超ユルトキハ 10.5 耗ト爲スベシ

三、桁板ノ幅ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ但シ其ノ下端ヨリ漸次減少シテ上端ニ於テハ次ノ算式ニ依ルモノヨリ 150 耗ヲ減ジタルモノト爲スコトヲ得

$$275\sqrt{LS} - 55 \quad (\text{耗ニテ})$$

L, ハ堅桁ノ長サ (米ニテ)

膨脹「トランク」内

S ハ 堅桁ノ心距 (米ニテ)

四、桁板ト上甲板及第二甲板ノ横置梁ヲ構成スル鋼板トハ累接二列
鋌固着ト爲スベシ但シ桁板ヲ上甲板迄延長シ該鋼板ニ兼用スルト
キハ之ト横置梁ヲ構成スル鋼板トハ累接三列鋌固着ト爲スベシ

五、水平防撓材ト堅桁ノ桁板トハ山形鋼ヲ以テ固着シ之ヲ交互ニ桁
板ノ内端迄及水平防撓材ノ遊縁ヨリ 200 耗ノ箇所迄延長シ桁板ヲ
防撓スベシ

六、前號ノ防撓山形鋼ノ厚サハ桁板ノ厚サニ等シクシ其ノ邊ノ幅ハ
船側横肋骨ノ短防撓山形鋼ニ關スル第二十四條ノ規定ニ依リ之ヲ
定ムベシ

七、防撓山形鋼ト水平防撓材トノ固着ニ付テハ第十八條第三項ノ規
定ヲ準用ス

水平防撓材 **第七十八條** 中心線隔壁ニハ横置隔壁ノ水平防撓材ノ位置ニ次ノ各號
材ノ規定ニ依ル水平防撓材ヲ設クベシ

一、水平防撓材ハ球山形鋼ヲ用ヒ心距 760 耗ノトキ其ノ截面抵抗率
ヲ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

$$10(S+n)^2 + 20(h-2)(S+2n-2) \quad (\text{種ノ三乗ニテ})$$

S ハ 堅桁間ノ間隔又ハ横置隔壁ト堅桁トノ間隔 (米ニテ)

h ハ 當該水平防撓材ヨリ船ノ中心線ニ於ケル上甲板ニ至ル深サ
(米ニテ) 但シ 2 米未滿ナルトキハ 2 米トス

n ハ 一油槽内ニ設クル堅桁ノ數一箇ナルトキハ 0.1、二箇又ハ三
箇ナルトキハ 0.3

二、水平防撓材ト横置隔壁ノ水平防撓材トハ第七十條第三號ノ規定
ニ依リ肘板ヲ以テ固着スベシ

第七十九條 中心線隔壁ヲ横置隔壁ニ止ムルトキハ横置隔壁ノ他面ニ
大ナル肘板ヲ設ケ強力ノ急激ナル變化ヲ避クルコトヲ要ス

第八十條 肘板ヲ隔壁板ニ固着スル山形鋼ハ肘板ノ端ヲ超エ少クトモ
150 耗延長スベシ

肘板及山形鋼ハ周圍山形鋼ヨリ十分離シテ隔壁ニ取附ケ有效ニ填隙

シ得ル餘地ヲ存セシムベシ

第十二節 膨脹「トランク」

第八十一條 膨脹「トランク」ノ側壁板ノ厚サハ第二甲板ノ厚サト等
シク爲スベシ

膨脹「トランク」ノ側壁ハ内面ニ堅桁及水平防撓材ヲ設ケ之ヲ防撓
スベシ

前項ノ堅桁及水平防撓材ノ寸法及固着ハ第七十七條及第七十八條ノ
規定ヲ準用シテ定ムベシ

第八十二條 膨脹「トランク」ノ側壁板ト上甲板トハ第六十二條第二
項ノ規定ヲ準用シテ定メタル寸法ノ單山形鋼ヲ以テ一列鋌固着ト爲
シ側壁板ト第二甲板トハ第二甲板ノ舷緣山形鋼ノ寸法ニ等シキ寸法
ノ單山形鋼ヲ以テ二列鋌固着ト爲スカ又ハ側壁板若ハ第二甲板ノ鋼
甲板ヲ曲縁シ二列鋌固着ト爲スベシ

第八十三條 膨脹「トランク」ノ側壁ハ後部ニ於テハ機關室圍壁ニ連
續セシメ前部ニ於テハ防油區畫外ニ於テ漸次其ノ深サヲ減少シ強力
ノ急激ナル變化ヲ避クベシ
適當ナル補強ヲ爲ストキハ「ポンプ」室及防油區畫ノ内部ニ於テハ
膨脹「トランク」ノ側壁ニ通行口ヲ設クルコトヲ得

第十三節 艙 口

第八十四條 艙口ノ大サ及數ハ油槽内ノ検査、清掃、通風等ニ必要ナ
ル程度ヲ超エテ増加スルコトヲ得ズ

二箇以上ノ艙口ヲ同一横截面ニ配置スルコトハ成ルベク之ヲ避クベ
シ

艙口ノ四隅ニハ十分丸味ヲ附スベシ

第八十五條 艙口縁材ノ厚サハ 10 耗以上ナルコトヲ要ス
高サ 760 耗ヲ超エ且長サ 1.25 米ヲ超ユル側縁材又ハ端縁材ニハ堅
防撓材ヲ附シ且縁材ノ上端ヲ適當ニ防撓スベシ

第八十六條 艙口蓋板ハ鋼製ト爲シ次ノ規定ニ依リ構造スベシ

一、蓋板ノ厚サヲ 12.5 耗以上ト爲スベシ

二、船口ノ面積1平方米ヲ超エ 2.5 平方米以下ナルトキハ 610 耗以下ノ心距ニ於テ 100×75×10 (耗ニテ) ノ山形鋼ヲ以テ蓋板ヲ防撓スベシ但シ蓋板ノ厚サ 15 耗以上ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

三、船口ノ面積 2.5 平方米ヲ超ユルトキハ 610 耗以下ノ心距ニ於テ 125×75×10 (耗ニテ) ノ山形鋼ヲ以テ蓋板ヲ防撓スベシ

船口縁材ニハ各隅ヨリ 230 耗以内ノ箇所及該箇所ヨリ 380 耗以下ノ心距ニ配置シタル縮具ヲ備ヘ蓋板ヲ油密ニ縮附ケ得ル構造ト爲スベシ

第八十七條 船口蓋板ニハ徑 150 耗以上ノ開口ヲ設ケ之ヲ螺栓又ハ覗キ蓋ニ依リ油密ニ閉鎖シ得ル構造ト爲スベシ

船口縁材ニハ瓦斯「コツク」又ハ適當ナル排氣装置ヲ設クベシ

第十四節 油槽外ノ構造配置

第八十八條 油槽、「ポンプ」室、防油區畫及燃料油庫ヲ除ク船ノ前後部ノ構造ハ縱肋骨式、橫肋骨式又ハ其ノ併用式ト爲スコトヲ得

第八十九條 縱肋骨式構造ヨリ橫肋骨式構造ニ移ル部分ニ於テハ強力ノ連續ヲ保持スル様特ニ注意スベシ

油槽及防油區畫ノ範圍外ニ於テ第二甲板ヲ設ケザルトキハ強力ノ急激ナル變化ヲ避クル様適當ナル構造ト爲スベシ

第九十條 機關室、船首尾艙、脚荷水艙、船首船底ノ構造竝ニ首尾防撓構造ニ付テハ橫肋骨式構造法ニ依ラザル場合ト雖モ特ニ適當ナル補強ヲ爲スベシ

第十五節 銲 接 合

第九十一條 本節ノ規定ニ於ケル外板、鋼甲板及梁上側板ニハ船樓ニ於ケルモノヲ包含セズ

攝氏 65 度以上ノ引火點ヲ有スル油ノ積載ニ専用スル油槽ヲ構成スル鋼板ノ固着ニ付テハ以下本節ノ規定ニ拘ラズ深油槽ニ關スル第二十四章第五節ノ規定ニ依ルコトヲ得

第九十二條 板ノ橫縁接合ニ於ケル銲列ハ板ノ厚サニ應ジ次表ニ依リ之ヲ定メ銲列ガ二列以上ナル場合ノ銲ノ配置ハ竝列ト爲スベシ

銲列 (横縁)

横縁ノ種類	板ノ厚サ(耗)										
	以上 9.5 以下	10.0	11.0	12.5	14.0	15.5	18.0	20.0	22.0	24.5	以上 27.0 以下
1 中央部Lノ $\frac{1}{2}$ 間ニ於ケル船底外板ノ横縁			3		4						5列又ハ二重覆板3列
2 中央部Lノ $\frac{1}{2}$ 間ニ於ケル平板龍骨ノ横縁	2		3				4				5列又ハ二重覆板3列
3 船底又ハ船側横肋骨ノ肋骨板及隔壁ニ附スル桁材ノ桁板ノ横縁							4				
4 中央部Lノ $\frac{1}{2}$ 間ニ於ケル船側外板ノ横縁	2		3			4					
5 首尾Lノ $\frac{1}{4}$ 間ニ於ケル舷側厚板及其ノ直下ノ外板ノ横縁	2			3					4		
6 首尾Lノ $\frac{1}{4}$ 間ニ於ケル上甲板ノ梁上側板ノ横縁											
7 首尾Lノ $\frac{1}{4}$ 間ニ於ケル鋼甲板ノ横縁	2										
8 横置隔壁及中心線隔壁ノ隔壁板ノ横縁(第10欄ノ横縁ヲ除ク)											
9 膨脹「トランク」側壁板ノ横縁			2								
10 中心線隔壁ノ最下部ノ板ノ横縁			3								

備考 板ノ厚サ等シカラザルトキハ小ナル厚サニ依リ銲列ヲ定ムベシ但シ厚サノ差大ナルトキハ銲列ニ付適當ナル考慮ヲ加フベシ

第九十三條 外板ノ縱縁、鋼甲板及梁上側板ノ縱縁、横置隔壁及中心線隔壁ノ隔壁板ノ縱縁竝ニ膨脹「トランク」側壁板ノ縱縁ハ二列銲以上ノ接合ト爲スベシ

L 125 米以上 145 米未滿ノ船舶ニ在リテハ船側外板ノ二縱縁、L 145 米以上 160 米未滿ノ船舶ニ在リテハ其ノ三縱縁、L 160 米以上 170

米未滿ノ船舶ニ在リテハ其ノ四縦線ヲ前項ノ規定ニ拘ラス船首隔壁ヨリ船尾隔壁ニ至ル迄三列鉸以上ノ接合ト爲スベシ
前二項ノ接合ニ於ケル鉸ノ配置ハ並列ト爲スベシ

心距 **第九十四條** 板ノ横縁接合ニ於ケル鉸ノ心距ハ次表ニ依ル
(横縁)

欄	種 類	心 距 (鉸徑ノ倍數ニテ)
1	平板龍骨、外板及梁上側板ノ横縁(第4欄及第7欄ノ横縁ヲ除ク)	$3\frac{1}{2}$
2	鋼甲板ノ横縁(板ノ厚サ 12.5 耗以下ナル場合)	
3	横置隔壁板、中心線隔壁板及膨脹「トランク」側壁板ノ横縁(板ノ厚サ 12.5 耗以下ナル場合)	
4	四列鉸接合又ハ二重覆板三列鉸接合ト爲ス平板龍骨、外板及梁上側板ノ横縁	4
5	鋼甲板ノ横縁(板厚サ 12.5 耗ヲ超ユル場合)	
6	横置隔壁板、中心線隔壁板及膨脹「トランク」側壁板ノ横縁(板ノ厚サ 12.5 耗ヲ超ユル場合)	
7	五列鉸接合ト爲ス平板龍骨、外板及梁上側板ノ横縁	$4\frac{1}{2}$

縦縁 **第九十五條** 板ノ縦縁接合ニ於ケル鉸ノ心距ハ次表ニ依ル

欄	種 類	心 距 (鉸徑ノ倍數ニテ)
1	外板、鋼甲板及梁上側板ノ縦縁(板ノ厚サ 12.5 耗以下ナル場合)	$3\frac{1}{2}$
2	横置隔壁板、中心線隔壁板及膨脹「トランク」側壁板ノ縦縁(板ノ厚サ 12.5 耗以下ナル場合)	
3	外板、鋼甲板及梁上側板ノ縦縁(板ノ厚サ 12.5 耗ヲ超ユル場合)	4
4	横置隔壁板、中心線隔壁板及膨脹「トランク」側壁板ノ縦縁(板ノ厚サ 12.5 耗ヲ超ユル場合)	

前項ノ規定ニ拘ラス次ニ掲グル船側外板ノ縦縁ノ接合ノ鉸ノ心距ハ船首隔壁ヨリ船尾隔壁ニ至ル間ニ於テハ鉸徑ノ 3.5 倍以下ト爲スベシ

一、L 140 米ヲ超エ 145 米未滿ノ船舶ノ船側外板ノ縦縁
二、L 155 米以上 170 米未滿ノ船舶ノ船側外板ノ縦縁ニシテ第九十三條第二項ノ規定ニ依リ三列鉸以上ノ接合ト爲スモノ

形 鋼 **第九十六條** 肋骨、梁、桁材、防撓材、舷縁山形鋼及隔壁ノ周圍山形鋼ニ於ケル鉸ノ心距ハ次表ニ依ル

欄	種 類	心 距 (鉸徑ノ倍數ニテ)
1	船底又ハ船側横肋骨ト外板トノ固着(第2欄ノ固着ヲ除ク)	$4\frac{1}{2}$
2	第十七條又ハ第二十三條ニ依リ背面山形鋼ヲ増設スル場合若ハ LトSトノ積ガ 280 以下ナル場合ニ於ケル船底又ハ船側横肋骨ト外板トノ固着	5
3	肋骨板相互ノ固着	
4	肋骨板ト肘板トノ固着	
5	肋骨板ト面材トノ固着	6
6	横置梁ト鋼甲板又ハ梁上側板トノ固着	5
7	梁ヲ構成スル鋼板相互ノ固着	
8	梁ヲ構成スル鋼板ト肘板トノ固着	
9	梁ヲ構成スル鋼板ト面材トノ固着	6
10	LトSトノ積ガ 280 ヲ超ユル場合ニ於ケル縦肋骨ト外板トノ固着ノ中横肋骨又ハ隔壁ニ近接スル 3.28×S 箇ノ鉸ニ依ル固着	$3\frac{1}{2}$
11	LトSトノ積ガ 280 以下ナル場合ニ於ケル縦肋骨ト外板トノ固着ノ中横肋骨又ハ隔壁ニ近接スル 3.28×S 箇ノ鉸ニ依ル固着	$4\frac{1}{2}$
12	船首ヨリ最初ノ油槽内ニ於ケル船底縦肋骨ト外板トノ固着	
13	船底縦肋骨ト外板トノ固着(前3欄ノ固着ヲ除ク)	
14	船底縦肋骨ノ代リニ設クル斷切桁材ト外板トノ固着	6
15	組合縦肋骨又ハ縦肋骨ノ代リニ設クル斷切桁材ヲ構成スル各材相互間ノ固着	

欄	種	類	心距 (鉸徑ノ倍) 數ニテ
16	船側縱肋骨	船側=於ケル上甲板=至ル距離 7.6 米ヲ超ユル縱肋骨ト外板トノ固着ノ中横肋骨又ハ隔壁=近接スル 3.28×S 箇ノ鉸=依ル固着	3 $\frac{1}{2}$
17		船側=於ケル上甲板=至ル距離 4.6 米ヲ超エ 7.6 米以下ナル縱肋骨ト外板トノ固着ノ中横肋骨又ハ隔壁=近接スル 3.28×S 箇ノ鉸=依ル固着	4 $\frac{1}{2}$
18		船側縱肋骨ト外板トノ固着(前2欄ノ固着ヲ除ク)	6
19	縱梁	縱梁ト鋼甲板又ハ梁上側板トノ固着	6
20	横置隔壁	豎桁ト隔壁板トノ固着	4 $\frac{1}{2}$
21		横桁ト隔壁板トノ固着	5
22		膨脹「トランク」ノ上端=至ル距離 5.5 米以上ナル水平防撓材ト隔壁板トノ固着	
23		豎桁ノ桁板相互ノ固着	
24		豎桁又ハ横桁ノ桁板ト肘板トノ固着	6
25		周圍山形鋼ノ兩邊ノ固着	
26		豎桁ノ桁板ト面材トノ固着	
27	膨脹「トランク」ノ上端=至ル距離 5.5 米未満ナル水平防撓材ト隔壁板トノ固着		
28	中心線隔壁	船側=於ケル上甲板=至ル距離 7.6 米ヲ超ユル水平防撓材ト隔壁板トノ固着ノ中横肋骨又ハ横置隔壁=近接スル 3.28×S 箇ノ鉸=依ル固着	3 $\frac{1}{2}$
29		船側=於ケル上甲板=至ル距離 4.6 米ヲ超エ 7.6 米以下ナル水平防撓材ト隔壁板トノ固着ノ中横肋骨又ハ横置隔壁=近接スル 3.28×S 箇ノ鉸=依ル固着	4 $\frac{1}{2}$
30		LトSトノ積ガ280ヲ超ユル場合=於ケル豎桁ト隔壁板トノ固着	5
31		LトSトノ積ガ280以下ナル場合=於ケル豎桁ト隔壁板トノ固着	
32		豎桁ノ桁板相互ノ固着	
33		豎桁ノ桁板ト肘板トノ固着	5
34		周圍山形鋼ノ兩邊ノ固着	

欄	種	類	心距 (鉸徑ノ倍) 數ニテ
35	中心線隔壁	平板龍骨ト隔壁板トノ固着	5
36		豎桁ノ桁板ト面材トノ固着	6
37		水平防撓材ト隔壁板トノ固着(第28欄及第29欄ノ固着ヲ除ク)	
38		LトSトノ積ガ280ヲ超ユル場合=於ケル豎桁ト隔壁板トノ固着	4 $\frac{1}{2}$
39	膨脹「トランク」	LトSトノ積ガ280以下ナル場合=於ケル豎桁ト隔壁板トノ固着	5
40		側壁板ト上甲板又ハ第二甲板トノ固着	
41		水平防撓材ト側壁板トノ固着	6
42		舷緣山形鋼ト外板又ハ梁上側板トノ固着	5

備考 S ハ横肋骨ノ心距(米ニテ)

肘板ノ鉸 第九十七條 船底縱肋骨、船側縱肋骨又ハ縱梁ヲ横置隔壁ニ固着スル肘板ノ各邊ニ於ケル鉸ノ徑ハ 22 耗ト爲シ其ノ數ハ次表ニ依リ定ムベシ

縱肋骨又ハ縱梁ノ種類及深サ (耗)	船底縱肋骨		船側縱肋骨 各邊ニ於ケル鉸數	上甲板ノ縱梁 各邊ニ於ケル鉸數	第二甲板ノ縱梁 各邊ニ於ケル鉸數	
	豎邊ニ於ケル鉸數	水平邊ニ於ケル鉸數				
球山形鋼	130		5	5	5	
	140		5	5	5	
	150		6	6	6	
	165		6	6	7	
	180		7	7	7	
	200		8	7	8	
	230	9	12	9	8	9
	250	10	13	10	9	01
	280	11	14	11		
	300	11	15	11		

縦肋骨又ハ縦梁ノ種類及深サ (耗)	船底縦肋骨		船側縦肋骨	上甲板ノ 縦梁	第二甲板 ノ縦梁
	豎邊ニ於 ケル鉸數	水平邊ニ於 ケル鉸數	各邊ニ於 ケル鉸數	各邊ニ於 ケル鉸數	各邊ニ於 ケル鉸數
溝形鋼	280	11	16	11	
	300	12	17	12	
	320	13	17	13	
	350	14	18	14	
	380	14	19	14	
400	15	20			
組立肋骨	440	15			
	470	16	上下ニ四列 ニ配置スベ シ		
	500	17			
	530	18			

第九十八條 肋骨、梁、豎桁又ハ水平防撓材ガ板ノ縦横縁ト交叉スル箇所ニハ少クトモ縦横縁ノ固着鉸ノ列數ト同數ノ鉸ヲ配置スベシ
二列鉸固着ヲ要スル山形鋼ノ鉸ノ配置ハ竝列ト爲スベシ

第十六節 機關室口圍壁、常設歩路及舷牆

第九十九條 上甲板上ノ機關室口圍壁ハ逡信省令船舶滿載吃水線規程ニ定ムル標準ノ高サ以上ノ高サノ蔽圍シタル船尾樓又ハ之ト同一ノ高サ及同等ノ強力ヲ有スル甲板室ニ依リ之ヲ保護スルコトヲ要シ又該圍壁ノ開口ニハ鋼製ノ戸ヲ備フルコトヲ要ス
前項ノ船樓又ハ甲板室ハ其ノ前端ニ於テ第十五章第三條ノ規定ニ依ル船橋樓前端隔壁ト同様ノ構造ノ隔壁ヲ備ヘ之ニ設クル出入口ニハ甲板上 457 耗以上ノ高サノ縁材ヲ設ケ且有效ナル閉鎖裝置ヲ備フルコトヲ要ス

第一百條 歩路ハ差支ナキ限り船ノ中心線ニ近キ箇所ニ設ケ之ニ厚サ 60 耗以上ノ木板又ハ適當ナル厚サノ縞鋼板ヲ張り其ノ兩側ニ兩邊ノ幅 100 耗、厚サ 10 耗以上ノ山形鋼ヲ縦通セシメ之ニ高サ 1 米以上ニシテ上端共三條以上ノ横棒又ハ保護索ヲ取附ケタル欄干ヲ固着スベシ

第一百一條 歩路ニハ適當ノ箇所ニ膨脹接手ヲ設クベシ

歩路ノ支柱ノ構造ハ次ノ各號ノ規定ニ依ルモノヲ標準ト爲スベシ但シ歩路ニ送油管ヲ取附クルトキハ適當ニ其ノ強力ヲ増スベシ

- 一、支柱ノ脚ノ左右ノ間隔ハ 1.25 米ト爲シ各對ノ支柱ノ前後ノ間隔ハ 2.5 米ト爲スベシ
- 二、支柱ニハ兩邊ノ幅 100 耗、厚サ 10 耗以上ノ山形鋼ヲ用フベシ
- 三、左右ノ支柱ノ間ニハ 75×75×7.5 (耗ニテ)ノ山形鋼二條ヲ筋違ニ交叉セシメ相互ニ連結スベシ
- 四、支柱各對ノ間ニハ一間置ニ 90×90×9 (耗ニテ)ノ山形鋼二條ヲ各側ニ於テ筋違ニ交叉セシメ前後ノ支柱ヲ連結スベシ

舷牆 第一百二條 甲板ノ暴露部ニ於テハ該部分ノ $\frac{1}{2}$ 以上ノ間ヲ開放欄干ト爲スカ又ハ閉塞舷牆ニ次ノ各號ノ規定ニ依ル放水口ヲ備フベシ
一、放水口ノ全面積ハ舷牆ノ面積ノ $\frac{1}{4}$ 以上ト爲スベシ
二、放水口ハ成ルベク低キ位置ニ設ケ細長キ形狀ノモノト爲スベシ「トランク」ノ兩端ガ船樓ニ連續スル場合ニ於テハ該部分ニ於ケル上甲板ノ暴露部ノ全長ニ互リ開放欄干ヲ設クルコトヲ要ス

第十七節 「ポンプ」裝置

第一百三條 貨物油ニ對シテハ適當ナル「ポンプ」裝置ヲ備ヘ「ポンプ」ハ油密構造ニシテ機關室ト直接連絡ナキ「ポンプ」室ニ之ヲ設クベシ
油「ポンプ」裝置ト脚荷水用「ポンプ」裝置トハ相互ニ區別シ置クベシ
燃料油用諸管ト貨物油用諸管トハ相互ニ區別シ置クベシ

第一百四條 脚荷水用諸管ハ油槽ヲ又油「ポンプ」裝置ニ屬スル管ハ水槽ヲ通過セシムルコトヲ得ズ
油槽ノ前方ニ脚荷水槽ヲ備フル船舶ニ在リテハ其ノ箇所ニ該水槽ニ對スル別箇ノ脚荷水「ポンプ」ヲ設備スベシ

第一百五條 油槽ノ直上ニ在ル甲板間ノ排水ノ爲有效ナル排水裝置ヲ設クベシ

防油區畫ニハ測深管ヲ設クベシ

第十八節 通風装置

第百六條 油槽ヲ構造スル桁板其ノ他ノ材料ガ瓦斯ノ流通ヲ妨グル虞アルトキハ之ニ十分ナル丸形ノ通氣孔ヲ設クベシ

油槽ニハ有害瓦斯ヲ排除スル爲人工通風装置又ハ蒸汽送入装置ヲ設クベシ

第百七條 「ポンプ」室、防油區畫、甲板室其ノ他蔽圍シタル場所ニハ有放ナル通風装置ヲ設クベシ

第十九節 油槽ノ水密試験

第百八條 各油槽ハ別々ニ充水シテ其ノ水密ヲ試験スベシ

前項ノ水密試験ハ成ルベク管其ノ他ノ附屬品ヲ取附ケタル後之ヲ執行スベシ

第百九條 水密試験ノ試験壓力ハ主油槽ニ對シテハ膨脹「トランク」ノ最高所以上 2.4 米、夏期油槽ニ對シテハ上甲板以上 2.4 米ニ相當スル水高壓力ト爲スベシ但シ油ノ到達スベキ最高所ニ相當スル水高壓力ヨリ小ナルコトヲ得ズ

第百十條 防油區畫ハ之ニ充水シ艙口ノ頂部迄ノ水高壓力ヲ以テ其ノ水密ヲ試験スベシ

第二十九章 對氷構造

第一條 氷中ヲ航行スル船舶ハ成ルベク本章ノ規定ニ依リ對氷ノ構造ヲ施スベシ

舵 **第二條** 舵頭材ノ徑及舵腕ノ寸法ハ第二十一章ノ規定ニ依ルモノノ 1.1 倍ト爲スベシ

舵、操舵装置及船尾骨材ニ於ケル舵ノ壺金ノ各部ノ寸法ハ前項ニ依リ増加シタル舵頭材ノ徑ニ應ジ之ヲ定ムベシ

肋骨 **第三條** 前部 L ノ $\frac{1}{5}$ 間ニ於ケル肋骨ハ次ノ各號ノ一ニ依リ構造スベシ

一、肋骨ノ中間ニ於テ滿載吃水線上 600 耗以上ノ箇所ト二重底緣板ノ外側又ハ船底彎曲下部トノ間ニ船首艙ノ肋骨ノ截面抵抗率ノ 75

%以上ノ截面抵抗率ヲ有スル中間肋骨ヲ附スルコト

二、肋骨心距ヲ 500 耗以下ト爲シ且前號ノ部分ニ於ケル肋骨ノ強力ヲ前號ニ依ル場合ト同等以上ト爲スコト

外板 **第四條** 滿載吃水線上 600 耗以上ノ箇所ト輕吃水線下 600 耗以上ノ箇所トノ間ニ於ケル外板ノ厚サハ前部 L ノ $\frac{1}{5}$ 間ニ於テハ前條第一號ニ依リ肋骨ヲ構造シタルトキハ中央部ノ厚サノ 1.4 倍以上ト爲シ前條第二號ニ依リ肋骨ヲ構造シタルトキハ 1.5 倍以上ト爲スベシ但シ 25 耗ヨリ大ト爲スコトヲ要セズ

前項ノ外板ノ厚サハ船首ヨリ L ノ $\frac{1}{5}$ ニ相當スル箇所ヨリ後方ニ於テハ漸次之ヲ減ジ船首ヨリ L ノ $\frac{1}{4}$ ニ相當スル箇所ニ於テ中央部ノ厚サニ一致セシムベシ

第五條 船首材ニハ「ラベット」ヲ設クルカ其ノ他適當ナル方法ニ依リ船首端ニ於ケル外板ノ先緣ヲ保護スベシ

船側縱通材 **第六條** 船首隔壁ヨリ後方ニ於テハ第十四章第六條乃至第八條ノ規定ニ依ル船側縱通材ヲ設ケ之ヲ船首ヨリ L ノ $\frac{1}{4}$ ニ相當スル箇所迄延長スベシ

第七條 滿載吃水線上 600 耗ノ箇所ヨリ下方ニ在ル外板ノ縱緣ハ前部 L ノ $\frac{1}{4}$ 間ニ於テハ少クトモ二列鉄固着ト爲スベシ

第八條 滿載吃水線下ニ於テ外板ニ取附クル海水弁、排出管等ハ氷又ハ寒氣ノ爲破損セラレザル様装置スベシ

循環水「ポンプ」ノ吸水口ハ之ニ蒸汽ヲ送込ミ得ル装置ト爲スカ其ノ他適當ナル方法ニ依リ氷ノ爲閉塞セララルコトヲ防止シ得ル様爲スベシ

第三編 機關ノ構造及備品

第一章 總 則

第一條 本編ニ於テ汽機又ハ内燃機トハ特ニ規定スル場合ヲ除クノ外推進軸系ニ連接スル汽機又ハ内燃機ヲ謂ヒ汽罐ニハ補汽罐ヲ包含ス

第二條 第一種螺旋軸トハ一體被金ヲ有スルカ又ハ同等ノ耐蝕性ヲ有スル螺旋軸ヲ謂ヒ第二種螺旋軸トハ第一種螺旋軸以外ノ螺旋軸ヲ謂フ
適當ナル船尾管内潤滑油装置ヲ備フル螺旋軸ハ前項ノ規定ニ拘ラス之ヲ第一種螺旋軸ト看做ス

第三條 機關ノ種別ハ甲種、乙種及丙種ノ三種トス

航路ニ制限ナキ船舶及航路ヲ近海區域ニ制限スル汽船ノ推進機關ハ甲種機關ナルコトヲ要ス

航路ヲ近海區域ニ制限スル帆船ノ推進機關ハ甲種機關又ハ乙種機關ナルコトヲ要ス

航路ヲ沿海區域以下ニ制限スル船舶ノ推進機關ニハ丙種機關ヲ使用スルコトヲ得

漁船ノ推進機關ニハ漁船ノ種類大小ニ應ジ委員會ノ適當ト認ムル種別ノ機關ヲ使用スベシ

第四條 本編ニ規定スル各部分ノ寸法ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外第五編ノ規定ニ適合スル材料ヲ使用スル場合ニ付之ヲ定メタルモノトス

第五條 本編ノ規定ニ依ル試験ハ検査員立會ノ下ニ之ヲ執行スベシ

材料試験ハ委員會ノ適當ト認ムル證明書アル材料ニ付テハ之ヲ省略スルコトヲ得

第六條 汽罐ニ付テハ第二章第二節又ハ第三節ノ規定ニ依リ算定シタル汽罐各部ノ強力ニ對スル制限汽壓中ノ最小ノモノヲ以テ其ノ制限汽壓トス但シ該汽罐ニ連絡スル汽機、汽管又ハ給水管ノ強力ニ對スル制限汽壓ヨリ大ナルコトヲ得ズ

第七條 本編ノ規定ニ該當セザル機關ノ構造若ハ寸法又ハ機關ニ關スル設備

ト雖モ委員會ニ於テ本編ノ規定ニ適合スルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムル場合ニ限り之ヲ本編ノ規定ニ適合スルモノト看做ス

本會船級及聯盟船級協會船級ヲ併セ登録スル外國船ノ機關ニ付テハ當該聯盟船級協會ノ規定ニ適合スルトキハ之ヲ本編ノ規定ニ適合スルモノト看做ス
機關ノ構造若ハ寸法又ハ機關ニ關スル設備ニシテ本編ニ規定ナキモノニ付テハ検査員ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第八條 外國船ニ在リテハ本編ノ規定ニ依ルノ外所屬國政府ノ規則ニ依ルノ必要アル場合アルコトニ注意スベシ

第二章 蒸汽機關ヲ主機トスル船舶ノ機關

第一節 汽 機

第一條 汽機ハ容易ニ反轉セシメ且船舶ニ充分ナル後退力ヲ有セシメ得ルモノナルコトヲ要ス

第二條 軸ノ鏝又ハ銻ノ鏝若ハ又端ハ之ヲ本體ト鍛合又ハ熔接シタル構造ノモノト爲スコトヲ得ズ

前項ノ鏝又ハ又端ガ組成型ナルトキハ十分ナル強力ヲ有スル鍛鋼製又ハ鑄鋼製ノモノト爲スベシ但シ乙種機關又ハ丙種機關ニ在リテハ検査員ノ見込ニ依リ鍛鋼製又ハ鑄鋼製ニ非ザルモノト爲スコトヲ得

第三條 軸ノ寸法ハ汽機及軸ノ種類ニ應ジ次ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

一、往復動汽機ニ用フル鍛鋼製ノ「クランク」軸、中間軸又ハ推力軸ノ徑

$$d = C \sqrt[3]{\frac{PL^2S}{\left(\frac{L}{H}\right)^2 + 2}}$$

d ハ軸ノ徑 (耗ニテ)

P ハ汽罐ノ制限汽壓 (毎平方糎ニテ)

S ハ行長 (糎ニテ)

L ハ低壓汽筒ノ徑、若シ低壓汽筒二箇以上ナルトキハ其ノ截面積ノ和ニ相當スル截面積ヲ有スル汽筒ノ徑 (糎ニテ)

Hハ高壓汽筒ノ徑 (耗ニテ)
Cハ定數ニシテ次表ニ依ル

「クランク」ノ數	「クランク」間ノ角度	C			
		甲種機關又ハ乙種機關		丙種機關	
		「クランク」軸又ハ推力軸	中間軸	「クランク」軸又ハ推力軸	中間軸
2	90	2.06	1.96	1.98	1.89
	180	2.30	2.19	2.23	2.12
3	120	1.97	1.88	1.90	1.81
4	平衡ノ場合	1.97	1.88	1.90	1.81
	90	1.98	1.89	1.93	1.84

二、銅製「クランク」腕ノ厚サ及幅

組成型「クランク」軸又ハ半組成型「クランク」軸ナルトキ

$$t = 0.625 d$$

$$w = 0.438 d$$

一體型「クランク」軸ナルトキ

$$bt^2 = 0.417 d^3$$

tハ軸ノ方向ノ腕ノ厚サ (耗ニテ)

wハ組成型「クランク」軸又ハ半組成型「クランク」軸ニ於ケル腕ノ孔ノ周圍ノ半徑方向ノ厚サ (耗ニテ)

bハ一體型「クランク」軸ノ腕ノ幅 (耗ニテ)

dハ「クランク」軸ノ徑 (耗ニテ)

三、「タービン」汽機ノ鍛鋼製ノ中間軸又ハ推力軸ノ徑

$$d = K \sqrt[3]{\frac{T}{R}}$$

dハ軸ノ徑 (耗ニテ)

Tハ計畫軸馬力

Rハ軸ノ計畫毎分回轉數

Kハ定數ニシテ次表ニ依ル

軸ノ種類	中間軸		推力軸	
	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關
K	100	95	105	100

四、往復動汽機ト其ノ廢汽ニ依リ動作スル「タービン」汽機ト同一推進軸系ニ聯動スル汽機ノ鍛鋼製ノ中間軸又ハ推力軸ノ徑

$$d = K \sqrt[3]{\frac{0.90 E + 0.95 T}{R}}$$

dハ軸ノ徑 (耗ニテ)

Eハ往復動汽機ノ計畫指示馬力

Tハ「タービン」汽機ノ初齒車軸ニ於ケル計畫軸馬力

Rハ當該推進軸系ノ計畫毎分回轉數

Kハ定數ニシテ次表ニ依ル

軸ノ種類	中間軸		推力軸	
	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關
K	102	97	107	102

五、鍛鋼製螺旋軸ノ徑

$$d_s = d + \frac{P}{C}$$

d_sハ螺旋軸ノ徑 (耗ニテ)

dハ汽機ノ種類ニ應ジ第一號、第三號、前號又ハ第三項ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑 (耗ニテ)

Pハ螺旋推進器ノ徑 (耗ニテ)

Cハ定數ニシテ次ノ各號ニ依ル

(一) 一帶被金ヲ有スル螺旋軸ナルトキ 144

(二) 其ノ他ノモノナルトキ 100

「クランク」栓ノ徑ハ前項第一號ノ算式ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ

回轉力ノ變動ヲ少カラシムル特殊ノ裝置ヲ備フル推進軸系ノ推力軸又ハ中間

軸=付テハ第一項第一號ノCノ數値ハ之ヲ委員會ノ適當ト認ムルモノト爲スコトヲ得

螺旋軸ハ前部軸鏝ノ附近ニ於テハ其ノ徑ガ汽機ノ種類ニ應ジ第一項第一號、第三號又ハ第四號ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑ノ1.05倍トナル迄漸次之ヲ減ズルコトヲ得

推力軸ハ推力受臺ノ前部又ハ後部ニ於テハ其ノ徑ガ汽機ノ種類ニ應ジ第一項第一號、第三號又ハ第四號ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑トナル迄漸次之ヲ減ズルコトヲ得

第四條 齒車連結式「タービン」汽機ノ主齒車軸ノ徑ハ中間軸ニ要スル徑ノ1.05倍以上ナルコトヲ要ス但シ之ニ連結スル小齒車ノ數一箇ナルトキ又ハ二箇ニシテ是等ノ中心ト主齒車軸ノ中心トヲ連結スル線ノ爲ス角度ガ120度未滿ナルトキハ1.1倍以上ト爲スベシ
前項但書ノ場合ニ於テハ軸受部ノ後部ニ於テ軸徑ヲ漸次減少シ其ノ最小徑ヲ中間軸ニ要スル徑ノ1.05倍ト爲スコトヲ得

第五條 軸鏝ヲ連結スル螺釘ノ軸鏝連結面ニ於ケル徑ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$d = 0.75 \sqrt{\frac{D^3}{N}}$$

d ハ螺釘ノ徑 (耗ニテ)

N ハ螺釘ノ數

d₁ ハ螺釘心圈ノ徑 (耗ニテ)

D ハ第三條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑 (耗ニテ)

前項ノ螺釘ガ中間軸ト回轉數ヲ異ニスル往復動汽機ノ「クランク」軸ニ用フルモノナルトキハ前項ノ算式中Dハ第三條第一項第一號ノ規定ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑(耗ニテ)ニ0.95ヲ乘ジタルモノトス

螺釘心圈ニ於ケル軸鏝ノ厚サハ第一項又ハ前項ノ規定ニ依リ算定シタル螺釘ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ

螺旋軸ノ螺釘心圈ニ於ケル軸鏝ノ厚サハ前項ノ規定ニ依ルノ外第三條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑ノ0.25倍ヨリ小ナルコトヲ得ズ

軸鏝根元ニハ當該軸ノ徑ノ0.125倍ヨリ小ナラザル半徑ノ丸味ヲ附スベシ
軸鏝ガ組成型ナルトキハ軸及軸鏝ヲ後退力ニ堪フル様適當ナル構造ト爲スベシ

第六條 船尾管後端ノ軸受部ノ長サハ第三條第一項第五號ノ算式ニ依リ算定シタル軸ノ徑ノ4倍未滿ト爲スコトヲ得ズ

螺旋軸ハ成ルベク其ノ軸身ニ海水ノ接觸セザル様之ヲ適當ニ包被スベシ

螺旋軸ノ被金ノ厚サハ船尾管及軸支肘ノ「ブツシユ」ニ當ル部分ニ付テハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$T = 0.03 d_s + 7.5$$

T ハ被金ノ厚サ (耗ニテ)

d_s ハ第三條第一項第五號ノ算式ニ依リ算定シタル螺旋軸ノ徑 (耗ニテ)
前項以外ノ部分ノ被金ノ厚サハ前項ニ依リ算定シタルモノノ $\frac{3}{4}$ ヨリ小ナルコトヲ得ズ

第七條 甲種機關又ハ乙種機關ニ在リテハ往復動汽機ニハ各汽筒ノ兩端及汽筒間ノ蒸汽通路ニ「タービン」汽機ニハ適當ノ箇所ニ有效ナル逃出弁ヲ備ヘ該部ニ於ケル最大汽壓ノ1.4倍以下ノ壓力ニ於テ逃汽スル様之ヲ調整スベシ

第八條 汽筒ニハ適當ナル排水裝置ヲ備フベシ

第九條 多汽筒式「タービン」汽機一箇ノミヲ裝備スル船舶ニ在リテハ該「タービン」汽機ノ汽筒中其ノ一箇ニ對シ蒸汽ヲ遮斷スルモ推進器ヲ回轉シ得ル様適當ニ裝置スベシ

前項ノ「タービン」汽機ニ在リテハ少クとも二箇ノ汽筒ニ後退翼車ヲ備フベシ

第十條 汽筒又ハ之ニ附屬スル弁等ハ之ヲ製造シ削仕上ヲ爲シタルトキ夫々次ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ但シ内外全面ヲ削仕上ゲタル内筒ニ付テハ検査員ノ見込ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得

一、單式汽機ノ汽筒

汽罐ノ制限汽壓ガ每平方糎6疋以上ナルトキハ汽罐ノ制限汽壓ニ每平方糎6疋ヲ加ヘタル壓力

汽罐ノ制限汽壓ガ每平方糎6疋未滿ナルトキハ汽罐ノ制限汽壓ノ2倍ノ壓力

二、二聯成汽機

高壓汽筒 單式汽機ノ汽筒=同ジ

低壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓= 0.50 ヲ乘ジタル壓力

三、三聯成汽機

高壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓= 每平方糎 6 疋ヲ加ヘタル壓力

中壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓= 0.75 ヲ乘ジタル壓力

低壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓= 0.30 ヲ乘ジタル壓力

四、四聯成汽機

高壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓= 每平方糎 6 疋ヲ加ヘタル壓力

第一中壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓

第二中壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓= 0.50 ヲ乘ジタル壓力

低壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓= 0.25 ヲ乘ジタル壓力

五、「タービン」汽機ノ汽筒

各膨脹階段ノ初壓力ノ 1.50 倍及每平方糎 2 疋ノ中大ナル壓力

六、高壓「タービン」汽機ノ配汽室

汽罐ノ制限汽壓ノ 1.50 倍ノ壓力但シ適當ナル逃出弁ヲ備フルモノハ配汽室内蒸氣壓力ノ 1.50 倍ノ壓力

七、中壓又ハ低壓「タービン」汽機ノ配汽室

該室内蒸氣壓力ノ 1.50 倍ノ壓力

八、收汽室、收汽管、汽包室、汽筒蓋、弁匣及弁匣蓋

其ノ附屬スル汽筒ニ對スル壓力ト同一ノ壓力

第十一條 復水器管ノ管板間ノ長サガ管ノ外徑ノ 120 倍以上ナルトキハ 120 倍毎ニ一箇ノ割合ヲ以テ支板ヲ設クベシ

第十二條 復水器ノ器胴、通水室又ハ蓋ハ之ヲ製造シタルトキ每平方糎 1.5 疋ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

復水器管ヲ取附ケタルトキハ 2 米以上ノ水高壓力又ハ之ニ相當スル壓力ヲ以テ漏否試驗ヲ執行スベシ

第十三條 蒸化器ハ常用最大壓力ノ 2 倍ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

第二節 筒形汽罐及直立汽罐

第十四條 主トシテ張力ヲ受クル部分ハ鍛合又ハ別ニ定ムル所ニ依ルノ外熔接

スルコトヲ得ズ但シ鍛合部又ハ熔接部ニ覆板ヲ附シ適當ナル銲接合ト爲ストキハ此ノ限ニ在ラス

小ナル汽兜ノ胴板又ハ直立汽罐ノ又管ノ縱接合ハ前項ノ規定ニ拘ラス之ヲ鍛合又ハ熔接スルコトヲ得

第十五條 工事ノ爲加熱シタル鋼板又ハ鋼製支柱ニハ適當ナル熱處理ヲ爲スベシ

二枚以上ノ鋼板ヲ銲接合スル場合ニ於テハ之ヲ銲縮スル以前ニ於テモ是等ノ鋼板ガ充分密着スル状態ト爲シ且銲孔ハ成ルベク該鋼板ヲ假接合シタル後銲孔スベシ

鋼板ノ銲孔ハ銲孔シタルモノト爲スベシ

第十六條 胴板ニ設クル橢圓形ノ孔ハ短徑ヲ罐ノ長サニ平行セシムベシ

胴板ニ設クル人孔又ハ他ノ孔ノ徑ガ胴板ノ厚サノ 2.5 倍ニ 70 疋ヲ加ヘタルモノヨリ大ナルトキハ適當ナル補強環ヲ附シ該部分ノ強率ヲ胴板ノ縱接合ニ於ケル所要強率ヨリ小ナラザルモノト爲スベシ

長徑 150 疋ヲ超ユル人孔其ノ他ノ孔ヲ鏡板ニ設クルトキハ相當ノ強力ヲ有スル縁環又ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナラザル深サヲ有スル曲縁ニ依リテ鏡板ヲ補強スベシ

$$h = \sqrt{t \times W}$$

h ハ孔ノ短徑部ニ於テ板ノ外面ヨリ測リタル曲縁ノ深サ (耗ニテ)

t ハ板ノ厚サ (耗ニテ)

W ハ孔ノ短徑 (耗ニテ)

第十七條 人孔、泥孔及視孔ノ蓋ハ板ヲ二枚合セト爲スカ、板ヲ所要ノ形ニ押壓シタル上燒鈍スルカ又ハ板ノ周圍ニ衛帶ヲ施スベキ機械仕上ノ溝ヲ穿ツカ其ノ中何レカノ方法ニ依リ製造シタルモノナルコトヲ要ス蓋ノ突出部ハ其ノ周圍ニ於テ孔トノ間ニ 1.5 疋ヲ超ユル遊隙ヲ有スルコトヲ得ズ

第十八條 胴板ノ縱接合ニ用フル覆板ハ胴板ト同質ノ板ヲ用キ其ノ厚サハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

一、各列ノ銲數ガ同一ナル場合

外覆板 $t_0 = \frac{5}{8} \times T$

内覆板 $t = \frac{5}{8} \times T + 3$

二、外列ノ銲數ガ其ノ他ノ列ノ銲數ノ半數ナル場合

外覆板 $t_0 = \frac{5}{8} \times \frac{T(p-d)}{(p-2d)}$

内覆板 $t = \frac{5}{8} \times \frac{T(p-d)}{(p-2d)} + 3$

T ハ接合スベキ胴板ノ厚サ (耗ニテ)

t₀ ハ外覆板ノ厚サ (耗ニテ)

t ハ内覆板ノ厚サ (耗ニテ)

p ハ外列ニ於ケル銲ノ心距 (耗ニテ)

d ハ銲孔ノ徑 (耗ニテ)

第十九條 端列ニ於ケル銲孔ノ中心ヨリ板端迄ノ距離ハ其ノ孔徑ノ 1.5 倍以上ナルコトヲ要ス

二列以上ノ銲接合ニ於ケル銲列間ノ距離ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

一、各列ノ銲數ガ同一ナル場合

千鳥形銲接合ナルトキ $V_1 = 0.33p + 0.67d$

竝列銲接合ナルトキ $V_1 = 2d$

二、外列ノ銲數ガ其ノ他ノ列ノ銲數ノ半數ナル場合

千鳥形銲接合ナルトキ $\begin{cases} V = 0.2p + 1.15d \\ V_1 = 0.165p + 0.67d \end{cases}$

竝列銲接合ナルトキ $\begin{cases} V = 0.33p + 0.67d \\ V = 2d \\ V_1 = 2d \end{cases}$ ノ中其ノ大ナルモノ

V₁ ハ銲數同一ナル各銲列ノ距離 (耗ニテ)

V ハ外列ト其ノ次ノ列トノ距離 (耗ニテ)

p ハ外列ニ於ケル銲ノ心距 (耗ニテ)

d ハ銲孔ノ徑 (耗ニテ)

第二十條 胴板ノ縦接合ニ於ケル銲ノ心距ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ大ナルコトヲ得ズ

$p = C \times T + 40$

p ハ銲ノ心距 (耗ニテ)

T ハ板ノ厚サ (耗ニテ)

C ハ定數ニシテ次表ニ依ル

pナル心距ニ於ケル銲數	累接合ナルトキ	兩覆板銲接合ナルトキ
1	1.31	1.75
2	2.62	3.50
3	3.47	4.63
4	4.14	5.52
5		6.00

第二十一條 胴板ト鏡板トノ接合ハ接合強率ヲ 0.42 以上ト爲シ胴板ノ厚サ 16 耗ヲ超ユルトキハ接合銲列數ハ 2 以上ト爲スベシ

筒形汽罐ノ胴板相互ノ周圍接合ハ片面型汽罐ニ在リテハ接合強率ヲ 0.60 以上ト爲シ接合銲列數ヲ胴板ノ厚サ 16 耗ヲ超ユルトキハ 2 以上、35 耗ヲ超ユルトキハ 3 以上ト爲シ兩面型汽罐ニ在リテハ接合強率ヲ 0.62 以上ト爲シ接合銲列數ヲ胴板ノ厚サ 13 耗ヲ超ユルトキハ 2 以上、30 耗ヲ超ユルトキハ 3 以上ト爲スベシ

直立汽罐ノ胴板相互ノ周圍接合ハ接合強率ヲ 0.42 以上ト爲シ其ノ接合ガ全周ニ互ラザルトキ又ハ胴板ノ厚サ 16 耗ヲ超ユルトキハ接合銲列數ヲ 2 以上ト爲スベシ

第二十二條 胴板ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$P = \frac{(T-a) \times S \times C \times J}{D}$

P ハ制限汽壓 (毎平方糎ニテ)

T ハ胴板ノ厚サ (耗ニテ)

- S ハ胴板ノ最小抗張力 (每平方耗疔ニテ)
- D ハ胴ノ最大内徑 (耗ニテ)
- J ハ縦接合ノ強率ニシテ第二項ニ依リ定メタルモノ
- a ハ胴板ノ厚サ 45 耗未滿ナルトキハ 1.5、45 耗以上ナルトキハ零
- C ハ定數ニシテ次表ニ依ル

縦接合ガ兩覆板ヲ有シ胴板ノ厚サ 45 耗未滿ナルトキ	52.1
縦接合ガ兩覆板ヲ有シ胴板ノ厚サ 45 耗以上ナルトキ	50.0
縦接合ガ累接三列鋸ナルトキ	50.5
縦接合ガ累接二列鋸ナルトキ	49.3
縦接合ガ累接一列鋸ナルトキ	43.3 *

縦接合ノ強率ハ次ノ各號ノ強率中最小ノモノトス

一、接合ニ於ケル胴板ノ強率

$$J_1 = \frac{p-d}{p}$$

二、接合ニ於ケル鋸ノ強率

$$J_2 = \frac{S_2 \times d^2 \times n \times K}{S_1 \times p \times T}$$

三、外列ノ鋸ノ心距ガ其ノ他ノ列ノ鋸ノ心距ノ 2 倍ナルトキノ鋸及胴板ノ聯合強率

$$J_3 = \frac{p-2d}{p} + \frac{J_2}{n}$$

p ハ外列ニ於ケル鋸ノ心距 (耗ニテ)

d ハ鋸孔ノ徑 (耗ニテ)

n ハ p ナル心距ニ於ケル鋸數

T ハ胴板ノ厚サ (耗ニテ)

S₁ ハ胴板ノ最小抗張力 (每平方耗疔ニテ)

S₂ ハ鋸材ノ最小抗張力 (每平方耗疔ニテ)

K ハ定數ニシテ次表ニ依ル

鋸ノ受クル剪力ノ種別	K
單 剪 力	0.67
兩 剪 力	1.25

第十四條第二項ニ依リ鍛合又ハ熔接シタル胴板ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ委員會ノ適當ト認ムル所ニ依ル

四箇以上ノ螺旋支柱ノ取附孔ガ胴ノ中心線ニ平行又ハ略平行ニ配置セラルルトキハ孔ノ間隔ハ該支柱間ニ於ケル胴板ノ強率ガ縦接合ノ強率ヨリ小ナラザル様之ヲ定ムベシ

第二十三條 平板ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ次ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ中最小ノモノトス

一、螺旋支柱又ハ其ノ他ノ支柱ヲ以テ支ヘラレタル部分

$$P = C_1 \times \frac{(T-1)^2 + KW^2}{a^2 + b^2}$$

P ハ制限汽壓 (每平方耗疔ニテ)

T ハ板ノ厚サ (耗ニテ)

a ハ支柱各列中心線ノ距離 (耗ニテ)

b ハ各列ニ於ケル支柱心距 (耗ニテ)

W ハ座金、條板又ハ二重張板ノ厚サ (耗ニテ)

K ハ定數ニシテ次表ニ依ル但シ座金、條板又ハ二重張板ヲ取附ケザルトキ又ハ板ニ固着セザル座金ヲ備フル場合ニ於テ其ノ厚サ又ハ徑ガ表ニ掲グル寸法ニ適合セザルトキハ零トス

厚サハ板ノ厚サノ 1.00 乃至 0.66 倍、徑ハ支柱ノ徑ノ 3.5 倍以上ノ座金ヲ外面ニ備フルトキ	0.15
厚サハ板ノ厚サノ 1.00 乃至 0.66 倍、徑ハ支柱ノ心距ノ 0.66 倍以上ノ座金ヲ鋸ニテ板ニ固着シタルトキ	0.35
厚サハ板ノ厚サノ 1.00 乃至 0.66 倍、幅ハ支柱ノ心距ノ 0.66 倍以上ノ條板ヲ鋸ニテ板ニ固着シタルトキ	0.55
厚サハ板ノ厚サノ 1.00 乃至 0.66 倍ナル二重張板ヲ鋸ニテ板ニ固着シタルトキ	0.85

C₁ ハ定數ニシテ次表ニ依ル

支 點 ノ 種 類	板ガ火焰ノ接觸 ヲ受ケザルモノ ナルトキ	板ガ火焰ノ接觸 ヲ受クルモノナ ルトキ
支柱ヲ板ニ挿込ミ其ノ端ヲ絞縮シタルトキ	4200	3710
支柱ヲ板ニ挿込ミ外面ヨリ母螺締ト爲シタルトキ	6310	5520
支柱ヲ板ニ挿込ミ内外ヨリ母螺締ト爲シタルトキ	7000	6150
支柱ヲ板ニ挿込ミKノ表ニ掲グル座金條板又ハ二重張板ヲ附シ内外ヨリ母螺締ト爲シタルトキ	7360	6450
管支柱ヲ管板ニ挿込ミ其ノ端ヲ擴張シ緊着シタルトキ		3820
管支柱ヲ管板ニ挿込ミ其ノ端ヲ擴張シ且外面ヨリ母螺締ト爲シタルトキ		5280

二、管支柱ヲ以テ支ヘラレタル管板ノ焰管巢相互間又ハ焰管巢ト胴板トノ間ノ部分

$$P = C_2 \times \frac{(T-1)^2 + KW^2}{a^2 + b^2}$$

P 及 T ハ前號ニ同ジ

a ハ管支柱ノ水平心距 (耗ニテ)

b ハ管支柱ノ縦心距 (耗ニテ)

W ハ二重張板ヲ取附ケタルトキハ其ノ厚サ (耗ニテ)

K ハ二重張板ヲ取附ケタルトキハ 0.55、之ヲ取附ケザルトキハ零

C₂ ハ定數ニシテ次表ニ依ル

端列ノ管支柱ノ外端ヲ母螺締ト爲サザルトキ	3820
端列ノ管支柱ノ外端ヲ一箇置ニ母螺締ト爲シタルトキ	4630
端列ノ管支柱ノ外端ヲ總テ母螺締ト爲シタルトキ	5280

三、管支柱ヲ以テ支ヘラレタル管板ノ焰管巢ニ於ケル部分

$$P = C_3 \times \frac{(T-1)^2}{p^2}$$

P 及 T ハ第一號ニ同ジ

p ハ當該部分ニ於ケル四箇ノ管支柱ノ中心點ノ構成スル四邊形ノ四邊ノ平均長サ (耗ニテ)

C₃ ハ定數ニシテ次表ニ依ル

管支柱ヲ管板ニ挿込ミ其ノ端ヲ擴張シ緊着シタルトキ	2800
管支柱ヲ管板ニ挿込ミ其ノ端ヲ擴張シ且外面ヨリ母螺締ト爲シタルトキ	3600

前項ノ算式ヲ適用スルニ當リ當該部分ニ於ケル支點ノ種類ガ同一ナラザルトキハ定數 C₁、C₂、C₃ 及 K ハ各種類ノ支點ノ數ニ之ニ對スル定數ヲ乘ジタルモノノ和ヲ支點ノ總數ニテ除シタルモノトス

前二項ノ規定ヲ支點ノ配置不規則ナル部分又ハ曲線シタル板ノ曲線ニ近キ部分ニ適用スルニ當リテハ次ノ規定ニ依ル

一、曲線ノ彎曲起點ハ之ヲ支點ト看做シ其ノ彎曲内半徑ガ板ノ厚サノ 2.5 倍ヨリ大ナルトキハ曲線ノ外面ヨリ板ノ厚サノ 3.5 倍ノ距離ノ點ヲ彎曲起點ト看做ス

二、少クトモ三支點ヲ通り内部ニ支點ヲ有セザル最大圓ノ徑ヲ d トシ第一項ノ算式中 a²+b² ノ代リニ d² ヲ用フ

三、曲線ノ彎曲起點ガ支點ナル場合ノ定數 C₁ ハ板ガ火焰ノ接觸ヲ受ケザルモノナルトキハ 8060、板ガ火焰ノ接觸ヲ受クルモノナルトキハ 7040 トス

第二十四條 支柱ヲ板ニ挿込ミ其ノ端ヲ絞縮スル場合ニ於ケル板ノ厚サハ支柱ノ螺糸底ニ於ケル徑ノ $\frac{1}{2}$ ヲリ小ナルコトヲ得ズ

燃燒室ノ頂板及側板ニ於テ後管板又ハ背板ニ最モ近キ支柱列ト後管板又ハ背板ノ曲線ノ彎曲部起點トノ距離ハ汽罐各部ノ強力ニ對スル制限汽壓中最小ノモノヲ前條第一項第一號ノ算式ニ用キ算定シタル a ヲリ大ナルコトヲ得ズ

燃燒室ノ頂板ヲ側板ト接合スル爲ノ彎曲部ノ彎曲外半徑ガ汽罐各部ノ強力ニ對スル制限汽壓中最小ノモノヲ第二十七條ノ算式ニ用キ算定シタル支梁ノ心距 D ノ $\frac{1}{2}$ ヲリ小ナルトキハ側板ノ内面ト之ニ最モ近キ支梁ノ中心トノ距離ハ D ヲリ大ナルコトヲ得ズ 又右ノ彎曲外半徑ガ D ノ $\frac{1}{2}$ ヲリ大ナルトキハ支梁ノ中心ヨリ彎曲起點迄測リタル平坦部ノ幅ハ D ノ $\frac{1}{2}$ ヲリ大ナルコトヲ得ズ

第二十五條 焔管巢ヲ形成スル焔管ガ水平ナル直立汽罐ノ管板ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ第二十三條ノ規定ニ拘ラズ同條ノ算式及次ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ中最小ノモノトス

$$P = \frac{49.2 \times (T-1.5) \times S \times (p-d)}{D \times p}$$

P ハ制限汽壓 (毎平方糎ニテ)

T ハ管板ノ厚サ (耗ニテ)

S ハ管板ノ抗張力 (毎平方糎ニテ)

D ハ胴ノ中心線ヨリ管板ノ縦端列ノ管嵌孔ノ中心迄ノ距離ノ2倍 (耗ニテ)

p ハ管ノ縦心距 (耗ニテ)

d ハ管板ニ於ケル管孔ノ徑 (耗ニテ)

前項ノ管板ノ縦端列ニ於ケル管ハ少クトモ一箇置ニ管支柱ト爲スベシ

第二十六條 筒形汽罐ノ後管板ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ第二十三條ノ規定ニ拘ラズ同條ノ算式及次ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ中最小ノモノトス

$$P = \frac{2500 (D-d)T}{W \times D}$$

P ハ制限汽壓 (毎平方糎ニテ)

T ハ管板ノ厚サ (耗ニテ)

D ハ焔管ノ水平心距 (耗ニテ)

d ハ普通焔管ニ對スル管孔ノ徑 (耗ニテ)

W ハ燃燒室上部ノ奥行 (耗ニテ)

第二十七條 燃燒室ノ頂板ヲ支フル鋼製支梁ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{C \times d^2 \times T \times S}{(L-p) \times D \times L}$$

P ハ制限汽壓 (毎平方糎ニテ)

d ハ支梁中央部ノ深サ (耗ニテ)

T ハ支梁ノ厚サ但シ二枚合せ支梁ナルトキハ各板ノ厚サノ和 (耗ニテ)

L ハ燃燒室上部ノ内側ニ於テ測リタル奥行 (耗ニテ)

p ハ支梁ノ支フル支柱ノ心距 (耗ニテ)

D ハ支梁ノ心距 (耗ニテ)

S ハ支梁ニ用フル鋼材ノ最小抗張力 (毎平方糎ニテ)

C ハ定數ニシテ次表ニ依ル

各支梁ノ支フル支柱ノ數nガ奇數ナルトキ	$\frac{n}{n+1} \times 25.3$
各支梁ノ支フル支柱ノ數nガ偶數ナルトキ	$\frac{n+1}{n+2} \times 25.3$

第二十八條 燃燒室ノ筒形底部ニシテ支柱其ノ他ニ依リ補強セラレザル部分ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ中小ナルモノトス

$$P = \frac{C \times (T-1)^2}{(L+610) \times D}$$

$$P = \frac{C_1 \times [325(T-1) - L]}{D}$$

P ハ制限汽壓 (毎平方糎ニテ)

T ハ燃燒室底部ノ鋼板ノ厚サ (耗ニテ)

D ハ燃燒室底部ノ外徑 (耗ニテ)

L ハ燃燒室底部ノ奥行ニシテ該部ヲ形成スル鋼板ヲ他ノ鋼板ト銲接合スル銲ノ中心線ヨリ測リタルモノ (耗ニテ)

C 及 C₁ ハ定數ニシテ次表ニ依ル

縦接合ノ種類	C	C ₁
鍛合又ハ熔接	107,000	3.52
銲接合	96,000	3.16

第二十九條 筒形火爐ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ中小ナルモノトス

$$P = \frac{C \times (T-1)^2}{(L+610) \times D}$$

$$P = \frac{C_1 \times [325(T-1) - L]}{D}$$

P、C 及 C₁ ハ前條=同ジ

T ハ火爐鋼板ノ厚サ (耗ニテ)

D ハ火爐ノ外徑 (耗ニテ)

L ハ火爐ノ長サニシテ火爐鋼板ヲ曲線ト爲シ板、補強環等ト接合スル場合ニ於テハ曲線ノ彎曲起點ヨリ又火爐鋼板ヲ他ノ鋼板ノ曲線ト接合スル場合ニ於テハ接合ノ中心線ヨリ測リタルモノ (耗ニテ)

第三十條 皺形火爐ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{C(T-1)}{D}$$

P ハ制限汽壓 (每平方糎ニテ)

T ハ火爐ノ皺形部ニ於ケル鋼板ノ最小厚サ (耗ニテ)

D ハ火爐ノ皺形部ニ於ケル最小外徑 (耗ニテ)

C ハ定數ニシテ次表ニ依ル

火 爐 ノ 種 類	C
「モリソン」式、「ダイトン」式又ハ之ニ類スルモノ	1090
「リーズ フォー ジ バルブ」式又ハ之ニ類スルモノ	1160

第三十一條 支柱又ハ其ノ他ニ依リ補強セラレザル半球狀火爐ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{627(T-1)}{R}$$

P ハ制限汽壓 (每平方糎ニテ)

T ハ火爐鋼板ノ厚サ (耗ニテ)

R ハ火爐ノ球面外半徑 (耗ニテ)

第三十二條 截頭圓錐形直立火爐ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ次ノ記號ヲ用キ第二十九條ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ中小ナルモノトス

D ハ火爐板ノ頂板トノ接合部ノ中心線ニ於テ測リタル外徑ト火爐底部ノ補強部ニ接合スル箇所ニ於テ測リタル外徑トノ平均 (耗ニテ)

L ハ火爐板ト頂板トノ接合部ノ中心線ヨリ火爐底部ノ補強部ニ接合スル箇

所迄ノ距離 (耗ニテ)

火爐底部ト胴板トヲ螺旋支柱列ニ依リ連結シタル場合ニ於テ螺旋支柱ノ心距ガ其ノ端ヲ絞締シタルモノニ在リテハ火爐板ノ厚サノ 14 倍ヲ、母螺締ト爲シタルモノニ在リテハ 16 倍ヲ超ユルコトナク且螺旋支柱ノ螺糸上ノ徑ガ火爐板ノ厚サノ 2.25 倍以上ナルトキハ前項ノ L ハ螺旋支柱列ノ中心迄測ルコトヲ得

第三十三條 直立汽罐ノ火爐底部ト胴板トヲ接合スル「オジー」環ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{10,300(T-1)^2}{D \times (D-d)}$$

P ハ制限汽壓 (每平方糎ニテ)

T ハ「オジー」環ノ厚サ (耗ニテ)

D ハ胴ノ内徑 (耗ニテ)

d ハ火爐底部ノ外徑ニシテ「オジー」環トノ接合部ニ於テ測リタルモノ (耗ニテ)

第三十四條 火爐板ノ厚サハ 21 耗ヲ超ユルコトヲ得ズ

第三十五條 胴ノ内徑ヨリ大ナラザル内半徑ヲ有シ外方ニ突出スル球面狀鏡板ニシテ支柱其ノ他ニ依リ補強セラレザルモノノ強力ニ對スル制限汽壓ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{21.6 \times S \times (T-1)}{R}$$

P ハ制限汽壓 (每平方糎ニテ)

T ハ鏡板ノ厚サ (耗ニテ)但シ鏡板ニ人孔ヲ設ケタル場合ニ於テハ其ノ厚サヨリ 3 耗ヲ減ジタルモノ

R ハ鏡板ノ球面内半徑 (耗ニテ)

S ハ鏡板ノ抗張力 (每平方糎ニテ)

前項ノ鏡板ニ在リテハ其ノ周圍ノ曲線部ニ於ケル曲線ノ彎曲内半徑ハ鏡板ノ厚サノ 4 倍未滿ナルコトヲ得ズ

第三十六條 二枚以上ノ板ヨリ成リ外方ニ突出スル半球狀鏡板ニシテ支柱其ノ

他ニ依リ補強セラレザルモノノ強力ニ對スル制限汽壓ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{C \times (T - 1.5) \times S \times J}{R}$$

- P ハ制限汽壓 (毎平方糎ニテ)
- T ハ鏡板ノ厚サ (耗ニテ)
- S ハ鏡板ノ最小抗張力 (毎平方糎ニテ)
- J ハ第二十二條第二項ノ規定ヲ準用シ算定シタル鏡板相互ノ接合強率
- R ハ鏡板ノ球面内半径 (耗ニテ)
- C ハ定數ニシテ次表ニ依ル

鏡板相互ノ接合ガ一列銲ナルトキ	43.3
鏡板相互ノ接合ガ二列銲ナルトキ	49.3
鏡板相互ノ接合ガ三列銲ナルトキ	50.3

第三十七條 螺旋支柱又ハ縦支柱ノ螺糸底又ハ其ノ他ノ部分ニ於ケル最小ノ徑ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$d = C\sqrt{PA} + 3$$

- d ハ螺旋支柱又ハ縦支柱ノ最小ノ徑 (耗ニテ)
- P ハ制限汽壓 (毎平方糎ニテ)
- A ハ平板中該支柱ノ支持スベキ部分ノ實面積 (平方糎ニテ)
- C ハ定數ニシテ次表ニ依ル

螺旋支柱ナルトキ	0.44
縦支柱ナルトキ	0.40

前項ノ算式ヲ斜向支柱ニ適用スル場合ニ於テハ算式中ノ C ノ代リニ次ノ C' ヲ用フベシ

$$C' = C \times \sqrt{\frac{L}{H}}$$

C ハ前項ニ同ジ

- L ハ斜向支柱ノ長サ (耗ニテ)
- H ハ斜向支柱ノ一端ニ於ケル平板ヨリ他端迄ノ距離 (耗ニテ)

燃燒室ノ内側ニ於ケル螺旋支柱ノ母螺ノ高サハ該螺旋支柱ノ螺絲部ノ徑ノ $\frac{1}{2}$ ヨリ小ナルコトヲ得ズ

第三十八條 管板ヲ支持スベキ管支柱ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{527.2a}{A}$$

- P ハ制限汽壓 (毎平方糎ニテ)
- a ハ管支柱ノ最小横截實面積 (平方糎ニテ)
- A ハ管板中該管支柱ノ支持スベキ部分ノ實面積 (平方糎ニテ)

管支柱ノ厚サハ管支柱ガ焰管巢ノ外周列ニ在ルモノナルトキハ 6.0 耗以上、其ノ他ノモノナルトキハ 4.5 耗以上ナルコトヲ要ス
管支柱ハ兩管板ニ挿入ミタル上之ヲ適當ニ擴張シ緊着スベシ
管支柱ノ燃燒室端ニハ母螺ヲ附スベカラズ

第三十九條 前二條ノ支柱ノ螺絲ノ數ハ成ルベク次ノ各號ニ依ルベシ

- 一、徑 23 耗以上 50 耗未滿ノ螺旋支柱ニ在リテハ 25.4 耗ニ付九箇
- 二、徑 50 耗以上ニシテ板ニ挿入ミ且板ノ内外ヨリ母螺締ト爲ス支柱ニ在リテハ 25.4 耗ニ付六箇以下
- 三、管支柱ニ在リテハ 25.4 耗ニ付九箇、若シ之ニ依ラザル場合ト雖モ 25.4 耗ニ付十箇ヲ超エザルコト

第四十條 焰管ノ厚サハ成ルベク次ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナラザルモノト爲スベシ

$$T = \frac{PD}{700} + 2$$

- T ハ焰管ノ厚サ (耗ニテ)
- D ハ焰管ノ外徑 (耗ニテ)
- P ハ制限汽壓 (毎平方糎ニテ)

第四十一條 汽罐ニハ火焰ノ接觸ヲ受クル板及管ヲ検査又ハ掃除スル爲罐内ニ

出入シ得ベキ適當ナル人孔ヲ設クベシ

小ナル汽罐ニ於テ前項ノ規定ニ依リ難キトキハ之ヲ掃除スルニ十分ナル徑ヲ有スル泥孔及覗孔ヲ適當ニ設クベシ

又管ヲ有スル直立汽罐ニハ管内ヲ掃除スル爲泥孔其ノ他適當ナル裝置ヲ設クベシ

前項ノ又管ノ徑大ナルトキハ胴板ノ容易ニ接近シ得ベキ部分ニ於テ管毎ニ一箇ノ覗孔ヲ設ケ其ノ徑ヲ掃除及検査ニ十分ナルモノト爲スベシ

第三節 水管汽罐及過熱器

第四十二條 水管汽罐ノ構造ハ本節ニ特ニ規定シタルモノノ外前節ノ規定ニ依ルベシ

第四十三條 水管汽罐ノ汽胴又ハ水胴ノ縦接合ハ胴ノ縦接合部ニ於ケル内徑ガ該接合部ニ於ケル胴板ノ厚サノ100倍未滿ナルトキハ累接ト爲スコトナク該部ノ横截内面ヲ圓形ナラシムベシ

第四十四條 水管汽罐ノ汽胴又ハ水胴ノ一部ヲ成ス管板ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{47.2 \times S \times (T-3)}{D} \times \frac{p-d}{p}$$

P ハ制限汽壓 (毎平方糎ニテ)

D ハ胴ノ内徑 (耗ニテ)

T ハ管板ノ厚サ (耗ニテ)

S ハ管板ノ抗張力 (毎平方糎ニテ)

p ハ胴ノ中心線ニ平行ニ測リタル管孔ノ心距 (耗ニテ)

d ハ管孔ノ徑 (耗ニテ)

管板ノ厚サハ胴板又ハ鏡板ト接合スル部分ニ於テハ第二十二條ノ規定ニ依ル胴板ノ強力ニ相當スル厚サ迄之ヲ減ズルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ厚サノ急激ナル變化ヲ避ケ且其ノ部分ヲ機械仕上ト爲スベシ

第四十五條 水管汽罐ノ胴、管寄等ニ設クル管孔ハ管ヲ緊密ニ取附ケ得ルモノト爲スベシ

管孔ヲ其ノ中心線ガ管板ニ垂直ナル様穿ツトキハ孔ノ管座ノ深サヲ10.耗以

上ト爲シ斜ニ穿ツトキハ孔ノ管座ノ直圓筒部ノ深サヲ13.耗以上ト爲スベシ
第四十六條 水管汽罐ノ水管ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{1,400(T-a)}{D} - 28$$

P ハ制限汽壓 (毎平方糎ニテ)

T ハ水管ノ厚サ (耗ニテ)

D ハ水管ノ外徑 (耗ニテ)

a ハ定數ニシテ次表ニ依ル

火焔若ハ高熱瓦斯ノ通路ニ直面スル管集端列又ハ其ノ次ノ列ノ管ナルトキ	2.0
其ノ他ノ管及過熱器ニ用フル管ナルトキ	1.5

水管ハ總テ擴張其ノ他ノ適當ナル方法ニ依リ之ヲ管板ニ緊密ニ取附ケ管端ハ管座ヨリ6.耗以上突出セシムベシ

水管ハ脱出セザル様其ノ兩端ヲ固定スベシ單ニ其ノ端部ヲ喇叭形ニ擴張シテ固定シタル場合ニ於テハ端部ノ外徑ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

$$D = 1.03d + 1.5$$

D ハ水管端部ノ外徑 (耗ニテ)

d ハ水管ノ外徑 (耗ニテ)

第四十七條 管寄其ノ他之ニ類似ノモノノ管ヲ取附ケザル平面部ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = C \times \left(\frac{T-2.5}{B} \right)^2$$

P ハ制限汽壓 (毎平方糎ニテ)

T ハ平面部ノ厚サ (耗ニテ)

B ハ内側支點間ニ於テ測リタル平面部ノ幅 (耗ニテ)

C ハ定數ニシテ次表ニ依ル

鍛鋼ナルトキ	5830
鑄鋼ナルトキ	4600

管寄ノ管ヲ取附クル平面部ノ厚サハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$T = 0.47\sqrt{d} + 6.5$$

T ハ平面部ノ厚サ (耗ニテ)

d ハ管孔ノ徑 (耗ニテ)

過熱器ノ管寄其ノ他火焰ノ放射熱ニ暴露シ又ハ高熱瓦斯ノ衝撃ヲ受ケ且使用中内部ニ蒸汽ノミヲ有スル管寄ノ厚サハ前二項ニ依リ算定シタルモノノ1.125倍ヨリ小ナルコトヲ得ズ

管寄ノ覗孔部ハ蓋ヲ有效ニ取附ケ得ル様機械仕上ト爲スベシ此ノ場合該部分ノ厚サハ第一項ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ2.5耗ヲ減ズルコトヲ得但シ8耗未満ト爲スコトヲ得ズ

覗孔ノ蓋ハ堅牢ナル構造ト爲シ取外及取附作業ヲ繰返スモ安全ヲ害スル虞ナキコトヲ要シ蓋ヲ螺釘ニ依リ取附クル構造ト爲ストキハ該取附螺釘ノ折損シタル場合ニ於テモ危険ナキモノト爲スベシ

管寄ノ「フレンジ」ト頸部トノ連続部ニハ丸味ヲ附シ其ノ半徑ヲ頸部ノ厚サ以上ト爲スベシ

第四十八條 強制循環式ニ非ザル水管汽罐ノ胴又ハ管寄ヲ連結スル管ニシテ蒸汽發生ノ際罐水ノ循環ヲ爲サシムルモノハ水平線ト15度以上傾斜セシムルコトヲ要ス但シ各管ガ連続セル管聯ヲ構成スル汽罐ニ在リテハ前記ノ傾斜ヲ5度迄ニ減ズルモ妨ナシ

第四節 汽罐附屬品

第四十九條 汽罐ニ接続スル管ニハ罐板ト接合スル部分ニ於テ接近シ易キ箇所ニ弁又ハ「コック」ヲ備フベシ

第五十條 汽罐ニハ徑40耗以上ノ發條式安全弁二箇以上ヲ備ヘ其ノ合計面積ヲ次ノ算式ニ依リ算定シタル面積ヨリ小ナラザルモノト爲スベシ但シ次ノ算式ニ依リ算定シタル面積ガ19.5平方糎未満ナルトキハ徑50耗以上、12.5

平方糎未満ナルトキハ徑40耗以上ノ安全弁各一箇ヲ備フルニ止ムルコトヲ得

$$A = \frac{0.21 \times H \times E}{P + I}$$

A ハ安全弁ノ合計面積 (平方糎ニテ)

E ハ汽罐ノ受熱面積一平方米ニ對スル每一時間蒸發量 (疋ニテ)

但シ該蒸發量ガ29.0疋未満ナルトキハ29.0

H ハ Eノ算定ニ用フル汽罐ノ總受熱面積 (平方米ニテ)

P ハ汽罐ノ制限汽壓 (每平方糎疋ニテ)

先驅弁ヲ有スル安全弁又ハ高揚程型安全弁ニシテ検査員ニ於テ適當ト認ムルモノニ付テハ其ノ合計面積ヲ前項ノ規定ニ依リ算定シタルモノノ $\frac{1}{2}$ 迄減ズルコトヲ得

特殊ノ型ノ安全弁ヲ使用セントスルトキハ委員會ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス汽罐ノ制限汽壓ヲ低下シタル爲安全弁ノ面積ガ第一項又ハ第二項ノ規定ニ適合セザルモノト爲リタル場合ト雖モ安全弁ガ第五十二條第二項ノ規定ニ適合スルトキハ検査員ノ見込ニ依リ之ヲ合格ト爲スコトヲ得

第五十一條 安全弁ノ弁匣ハ汽罐ニ直接取附ケ他ノ弁ニ共用スルコトヲ得ズ安全弁ノ弁匣ノ蒸汽進入路ノ横截面積ハ安全弁ノ合計面積ノ $\frac{1}{2}$ 以上ト爲シ廢汽路及廢汽管ノ横截面積ハ安全弁ノ合計面積ノ1.1倍以上ト爲スベシ廢汽路ニハ適當ナル排水装置ヲ設ケ之ヲ溢水溜其ノ他適當ナル箇所ニ導クベシ

安全弁ニハ弁ヲ同時ニ開キ得ル揚弁装置ヲ設ケ其ノ把手ハ之ヲ近寄り易キ安全ナル位置ニ導クベシ

安全弁發條ハ汽罐ノ制限汽壓ニ相當スル壓力ヲ加ヘタルトキ其ノ長サガ弁徑ノ $\frac{1}{4}$ 以上短縮シ更ニ之ヲ弁徑ノ $\frac{1}{4}$ 壓縮スルモ原形ニ復スルモノナルコトヲ要ス

第五十二條 安全弁ハ汽罐ノ制限汽壓ノ1.03倍以下ノ壓力ニ於テ自然ニ噴汽スル様調整スベシ

安全弁ハ塞汽弁ヲ閉ヂ充分ニ焚火シ水管汽罐ニ在リテハ數分間、其ノ他ノ汽

罐=在リテハ15分間以上噴汽セシムルモ汽壓ノ昇騰尙汽罐ノ制限汽壓ノ $\frac{1}{10}$ ヲ超エザルモノナルコトヲ要ス此ノ場合=於テハ汽罐=適當ナル水準ヲ維持セシムル=必要ナル程度ヲ超エ給水ヲ爲スコトヲ得ズ

第五十三條 蒸汽過熱器ト汽罐トノ連絡ヲ遮斷シ得ル装置アルトキハ蒸汽過熱器=適當ナル逃出口ヲ備ヘ之ヲ容易ニ操縦シ得ル揚弁装置ヲ設クベシ

第五十四條 汽罐=ハ次表=依リ罐内ノ水準面ヲ容易ニ知り得ベキ装置ヲ互ニ近接セザル位置ニ備ヘ且筒形汽罐及直立汽罐=ハ燃燒室頂部ノ高サヲ適當ニ標示スベシ

汽罐ノ種類	装置ノ種類及數	摘要
直立汽罐	硝子示面計一箇及驗面「コック」一組	
筒形片面汽罐	硝子示面計二箇	徑5米未満ノ汽罐=在リテハ中一箇ヲ驗面「コック」一組ヲ以テ代用スルコトヲ得
筒形兩面汽罐	硝子示面計二箇及驗面「コック」二組	硝子示面計及驗面「コック」ハ夫々汽罐ノ各面ニ於テ他面ニ於ケルト反對ノ位置ニ取附クベシ
水管汽罐	硝子示面計二箇	長サ4米ヲ超ユル胴ヲ船體ニ對シ横ニ配置シタル場合=於テハ胴ノ兩端ニ近ク取附クベシ

前項ノ驗面「コック」ハ三箇ヲ以テ一組ト爲スベシ但シ徑2.5米未満ノ筒形汽罐又ハ高サ2.5米未満ノ直立汽罐=在リテハ二箇ヲ以テ一組ト爲スコトヲ得

驗面「コック」ハ成ルベク之ヲ汽罐ニ直接取附クベシ

硝子示面計及驗面「コック」ヲ筒ニ取附クル場合該筒ノ徑ハ次表=依リ之ヲ定ムベシ

汽罐ノ徑	筒ノ内徑
2.5米以下ナルトキ	45耗以上
2.5米ヲ超エ3.0米以下ナルトキ	50耗以上
3.0米ヲ超ユルトキ	65耗以上

前項ノ筒ハ成ルベク汽罐ニ近接シテ固定スルコトヲ要シ之ヲ導管ニ依リ汽罐ニ連結セシムル場合=於テハ筒ノ位置ガ不慮ニ變動セザル様取附ケ汽側ノ導管ハ凝結水ノ滯留スベキ彎曲部ヲ有セザルコトヲ要ス

前項ノ導管ハ銅其ノ他腐蝕シ難キ金屬製ト爲シ其ノ内徑ハ驗水器ノ筒ノ徑ニ應ジ次表ニ依リ之ヲ定ムベシ

筒ノ内徑	導管ノ内徑
45耗	25耗以上
50耗	30耗以上
65耗	40耗以上

導管ハ煙路ヲ貫通スルコトヲ得ズ但シ已ムコトヲ得ザル場合=於テハ煙路ヲ貫通スル圍壁ヲ設ケ導管ノ周圍ニ50耗以上ノ通氣路ヲ存スル配置ト爲ストキハ此ノ限ニ在ラズ

第五十五條 汽罐=ハ焚口面ノ見易キ位置ニ壓力計一箇ヲ備フベシ焚口ガ汽罐ノ兩面ニ在ル場合=於テハ各焚口面ニ之ヲ備フベシ

第五十六條 汽罐=ハ正副二組ノ給水制限弁ヲ備フベシ

第五十七條 汽罐=ハ適當ノ位置ニ檢鹽弁又ハ檢鹽「コック」ヲ備フベシ但シ湖沼ノミヲ航行スル船舶ノ汽罐=在リテハ之ヲ備ヘザルコトヲ得

第五十八條 汽罐ノ放水弁又ハ放水「コック」ヨリ船外ニ通ズル放水管ハ内徑20耗以上ナルコトヲ要ス

二箇以上ノ汽罐ヲ備フル船舶=在リテ各汽罐ノ放水管ヲ一箇ノ共通管ニ接続セシムル場合=於テハ捩締不還弁ニ依リ各汽罐ノ連絡ヲ遮斷シ得ル装置ト爲スベシ

第五十九條 汽罐=ハ主塞汽弁一箇ヲ備ヘ直接罐胴ニ取附クベシ

補助塞汽弁ハ罐胴ニ孔ヲ穿ツコトヲ少カラシムル爲成ルベク其ノ數ヲ減ズベシ

第五節 汽罐ニ關スル雜則

第六十條 汽罐ノ充汽部=於ケル鏡板ニシテ煙路ノ一部ヲ構成スルモノニハ防板ヲ備ヘ火焰ノ接觸ヲ防グコトヲ要ス

第六十一條 汽罐ハ肋板又ハ内底板上成ルベク高キ位置ニ於テ移動セザル様之ヲ据附クベシ

汽罐下ノ空隙ハ特ニ委員會ノ承認ヲ經タル場合ヲ除クノ外之ヲ450耗未満ト

爲スコトヲ得ズ

汽罐ノ底部ニハ成ルベク適當ナル防熱装置ヲ設クベシ

第六十二條 汽罐ニ取附ケタル弁又ハ「コック」ノ周圍ニハ相當ノ空積ヲ存スベシ

第六十三條 汽罐ハ之ヲ製造シタルトキ次ノ壓力ヲ以テ水壓試験ヲ執行スベシ
一、汽罐ノ制限汽壓ガ每平方糎7 疋以下ナルトキハ汽罐ノ制限汽壓ノ2 倍ノ壓力

二、汽罐ノ制限汽壓ガ每平方糎7 疋ヲ超ユルトキハ其ノ1.5 倍ニ每平方糎3.5 疋ヲ加ヘタル壓力

第六十四條 蒸汽過熱器ハ之ヲ製造シタルトキ汽罐ノ制限汽壓ノ2 倍ノ壓力ヲ以テ水壓試験ヲ執行スベシ

第六十五條 汽罐ニ取附ケタル弁、「コック」、第五十四條第五項ノ導管又ハ筒ハ之ヲ製造シタルトキ汽罐ノ制限汽壓ノ2 倍ノ壓力ヲ以テ水壓試験ヲ執行スベシ

第六節 給水装置

第六十六條 主汽罐ノ給水装置ハ正給水装置及副給水装置ヨリ成リ各装置ハ汽機ヲ全力ニ於テ運轉スル場合ニ必要ナル給水能力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第六十七條 正給水装置ノ「ポンプ」ガ主機ニ依リ動作セラルルモノナルトキハ該「ポンプ」ハ發條逃出弁ヲ備ヘタルモノニシテ其ノ數ハ二箇トシ各「ポンプ」ハ必要ナル全給水ヲ爲シ得ルモノニシテ其ノ一箇ヲ使用中ト雖モ他ヲ解放シ得ルモノト爲スベシ但シ長サ50 米未滿ノ船舶ノ機關ニ在リテハ正給水装置ノ「ポンプ」ヲ一箇ト爲スコトヲ得

二箇ノ主機ヲ備フル船舶ニ於テ前項ノ給水「ポンプ」ヲ各主機ニ一箇宛配置シタルトキハ各「ポンプ」ガ雙方ノ温水溜ヨリ吸水シ得ル様装置スベシ

正給水装置ノ「ポンプ」ガ獨立ノ動力ニ依リ動作セラルルモノナルトキハ之ニ自動調整装置ヲ備フベシ

長サ30 米以上ノ船舶ニシテ前項ノ「ポンプ」一箇ノミヲ備フルモノニ在リテハ第六十八條ノ副給水装置ノ「ポンプ」ニ自動調整装置ヲ備フベシ

第六十八條 副給水装置ノ「ポンプ」ハ獨立ノ動力ニ依リ動作セラルルモノニシテ温水溜及清水槽ヨリ吸水シ得ルモノナルコトヲ要ス但シ受熱面積20 平方米未滿ノ汽罐ノ副給水装置ハ之ヲ給水注射器ト爲スコトヲ得

給水「ポンプ」ノ吸水管中釀汽ノ際汽罐内ノ水ヲ循環セシムル爲メ汽罐ノ底部ヨリ吸水スル管ハ之ヲ他ノ吸水管ト別箇ノモノト爲スベシ

第六十九條 補汽罐ニハ適當ナル正副二重ノ給水装置ヲ備フベシ但シ受熱面積20 平方米未滿ノ補汽罐ノ副給水装置ハ之ヲ給水注射器ト爲スコトヲ得

第七節 排水、吸水、循環水及潤滑油ニ關スル装置

第七十條 排水装置ニ付テハ本節ニ於テ特ニ規定シタルモノノ外第二編第二十三章ノ規定ニ依ル

國際航海ニ従事スル旅客船ニ在リテハ本節ノ規定ニ依ルノ外逡信省令船舶區畫規程第十二章ノ規定ニ依ルノ必要アルコトニ注意スベシ

第七十一條 滄水「ポンプ」ハ船ノ長サニ應ジ次表ニ依リ之ヲ備フベシ

船ノ長サ (米)	主機ニ依リ動作セラルル「ポンプ」ノ數	獨立ノ動力ニ依リ動作セラルル「ポンプ」ノ數	手動「ポンプ」ノ數	摘 要
以上 未滿				検査員ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限り長サ25 米未滿ノ非旅客船ニ在リテハ主機ニ依リ動作セラルル「ポンプ」ヲ省略シ又長サ10 米未滿ノ船舶ニ在リテハ滄水汲桶一箇ヲ以テ「ポンプ」ニ代フルコトヲ得
25 50	1	1	1	検査員長サ30 米未滿ノ船舶ニ付獨立動力「ポンプ」ノ備附ガ實際上困難ナリト認ムルトキハ他ノ「ポンプ」ノ能力其ノ他ヲ考慮シ其ノ備附ヲ省略セシムルコトヲ得
50 100	2	1		
100	2	2		

前項ノ滄水「ポンプ」ハ夫々動力「ポンプ」ヲ以テ手動「ポンプ」ニ、獨立動力「ポンプ」一箇ヲ以テ主機ニ依リ動作セラルル「ポンプ」二箇ニ代フルコトヲ得

雑用「ポンプ」、脚荷水「ポンプ」、衛生「ポンプ」等ニシテ滲水排出ノ目的ニ對シ適當ニ装置セラレタルモノナルトキハ之ヲ第一項ノ「ポンプ」ト看做スコトヲ得

獨立動力「ポンプ」中一箇ハ呼水ヲ要セズシテ即時使用シ得ルモノト爲スベシ

第七十二條 航路ヲ沿海區域以下ニ制限スル船舶及長サ 35 米未滿ノ船舶ニ在リテハ滲水吸引主管ノ内徑ハ船ノ長サニ應ジ次ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノヲ標準トシテ之ヲ定ムベシ但シ第三號ノ船舶ニシテ國際航海ニ從事スルモノニ在リテハ 60 耗未滿ト爲スコトヲ得ズ

一、長サ 25 米未滿ノ船舶

$$d = 1.22(L - 10) + 10$$

二、長サ 25 米以上 35 米未滿ノ船舶

$$d = 2.67(L - 20) + 15$$

三、長サ 35 米以上ノ船舶

$$d = 1.67\sqrt{L(B + D)} + 25$$

d ハ滲水主管ノ内徑 (耗ニテ)

L, B, D ハ夫々船ノ長サ、幅及深サ (米ニテ)

前項第三號ノ船舶ニ在リテハ各水密區畫ニ對スル滲水吸引主管ノ内徑ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノヲ標準トシテ之ヲ定ムベシ但シ 100 耗ヲ超ユルコトヲ要セズ又國際航海ニ從事スル船舶ニ在リテハ 50 耗未滿ト爲スコトヲ得ズ

$$d' = 2.15\sqrt{l(B + D)} + 25$$

d' ハ滲水支管ノ内徑 (耗ニテ)

l ハ當該支管ニ依リ排水スベキ區畫室ノ長サ (米ニテ)

B, D ハ夫々船ノ幅及深サ (米ニテ)

第七十三條 滲水排水装置ハ次ノ各號ノ規定ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一、各動力滲水「ポンプ」ハ實際上手動「ポンプ」ニテ差支ナキ箇所ヲ除クノ外各艙、機關室及軸路ヨリ汲水シ得ル配置ト爲スコト

二、第七十一條第一項ノ規定ニ依リ備フベキ各獨立動力滲水「ポンプ」ハ滲水主管内ノ水ノ流速ガ通常ノ操作状態ニ於テ毎分 122 米以上トナル吸水能

力ヲ有スルモノナルコト但シ第七十一條第一項ノ規定ニ依ル「ポンプ」ノ外向其ノ他ニ獨立動力滲水「ポンプ」ヲ備フルトキハ其ノ各箇ノ吸水能力ヲ同條同項ノ規定ニ依ル獨立動力滲水「ポンプ」一箇毎ノ吸水能力ニ加算スルコトヲ得ルコト

三、獨立動力滲水「ポンプ」中少クトモ一箇ハ他ノ滲水「ポンプ」ガ船體ノ他ノ箇所ヨリ排水中ト雖モ直接機關室ヨリ排水シ得ル装置ト爲スコト

四、機關室ニ於ケル滲水吸引管ハ之ヲ泥芥箱ニ接続シ泥芥箱ハ滲水溜ニ通ズル眞直ナル尾管及急速ニ開閉シ得ル構造ノ蓋ヲ有シ成ルベク機關室床上ヨリ容易ニ掃除シ得ル場所ニ之ヲ設置スルコト但シ検査員ニ於テ船體ノ構造、吸引管ノ配置其ノ他ニ依リ差支ナシト認ムル箇所ニ限り吸引管端ニ附シタル芥除箱ヲ以テ泥芥箱ニ代フルコトヲ得ルコト

五、各艙、軸路及石炭庫ニ於ケル滲水吸引管端ニハ吸引管ノ接合部ヲ取外サザルモ容易ニ掃除シ得ル構造ノ芥除箱ヲ備フルコト

前項第四號及第五號ノ芥除箱ノ吸水孔巢ノ各孔ノ徑ハ 10 耗以下ニシテ孔ノ總面積ハ吸水管ノ横截面積ノ 3 倍以上ト爲スベシ

第七十四條 循環水「ポンプ」ハ不還弁ヲ經テ機關室ノ成ルベク最低部ヨリ直接滲水ヲ吸引シ得ル装置ト爲シ其ノ吸引管ノ内徑ハ該「ポンプ」ノ海水吸引管ノ内徑ノ $\frac{2}{3}$ 以上ト爲スベシ

前項ノ不還弁ニハ成ルベク適當ナル揚弁装置ヲ備フベシ

燃料ニ石炭ヲ使用シ又ハ使用スルコトアルベキ汽罐ト汽機トノ間ニ水密隔壁ナキ長サ 110 米以上ノ船舶ニシテ沿海區域以上ノ航路ニ使用シ得ベキ旅客船又ハ近海區域以上ノ航路ニ使用シ得ベキ非旅客船ニハ少クトモ一箇ノ循環水「ポンプ」ヨリ復水器管ヲ經ズシテ直接船外ニ排出シ得ル様装置スベシ但シ委員會ニ於テ差支ナシト認ムルモノ又ハ装置スルコト甚シク困難ナリト認ムルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第七十五條 長サ 40 米以上ノ船舶又ハ長サ 30 米以上ノ旅客船ニ在リテハ獨立動力「ポンプ」中一箇ハ海水ヲ吸引シテ甲板上ニ送水シ且船體ノ前後部ニ同時ニ配水シ得ル装置ト爲スベシ

第七十六條 海水ヲ吸引シ得ル「ポンプ」ニ接続スル滲水管ニハ海水又ハ水槽

ト滲水ト=同時=開通シ得ザル「コック」又ハ不還弁ヲ備ヘ海水、脚荷水又ハ水槽ノ水ガ貨物艙、機関室若ハ軸路ニ流入シ又ハ一區畫ヨリ他區畫ニ流入スルコトヲ防止スベシ

滲水配流箱ニ於ケル弁ハ不還弁ト爲スベシ

貨物艙、機関室又ハ軸路ヨリ排水スベキ「ポンプ」ノ吸引管ハ二重底又ハ水槽ノ充水管又ハ排水管トハ別箇ノモノト爲スベシ

滲水吸引管ヲ連結スル弁又ハ「コック」ハ機関室床板以上ノ近寄り易キ場所ニ之ヲ備フベシ

滲水管ガ銅管ナルトキハ成ルベク亜鉛鍍ト爲スベシ

石炭庫其ノ他損傷ヲ受ケ易キ場所ニ於ケル滲水吸引管ハ之ニ適當ナル保護装置ヲ備フベシ

第七十七條 二重底又ハ水槽ヲ有スル船舶ハ二重底又ハ水槽ノ水ヲ獨立ノ動力「ポンプ」ニ依リ排出シ得ル適當ナル装置ヲ備フベシ

第七十八條 長サ 35 米以上ノ船舶ハ循環水「ポンプ」ニ依ラズシテ冷却水ヲ復水器ニ送り得ル装置ヲモ備フベシ但シ獨立ノ動力ニ依リ動作セラルル循環水「ポンプ」二箇以上ヲ備ヘ其ノ吐出口ニ於テ互ニ連絡スル装置アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七十九條 船外ヨリ吸引スル管ハ海水弁又ハ海水「コック」ニ連絡シ海水弁又ハ海水「コック」ハ之ヲ直接外板ニ取附クルカ又ハ外板ニ取附ケタル堅牢ナル脚筒ニ取附ケ機関室床板上ニ於テ容易ニ操作シ得ルモノト爲スベシ
外板ニ弁、「コック」又ハ前項ノ脚筒ヲ取附クル螺釘ハ之ヲ外板ニ摺込ムカ又ハ埋頭ト爲スベシ

第八十條 第五十八條ノ放水管ハ近寄り易キ場所ニ於テ外板ニ取附ケタル弁又ハ「コック」ニ連結スベシ

前項ノ弁又ハ「コック」ハ外板ヲ貫通スル突出口ヲ備ヘ其ノ取附部ニ於ケル板ノ腐蝕ヲ防止スル爲外板ニ適當ナル装置ヲ爲スベシ

第一項ノ「コック」ハ之ヲ閉鎖スルニ非ザレバ其ノ開閉把手ヲ取放チ得ザル装置ト爲スベシ

第一項ノ放水管ヲ罐水循環ノ爲使用スル船舶ニ在リテハ同項ノ弁又ハ「コッ

ク」ト罐水循環路トヲ遮斷シ得ル様適當ニ装置スベシ

第八十一條 排水管ハ成ルベク近寄り易キ場所ニ於テ外板ニ取附ケタル排水弁又ハ排水「コック」ニ連結スベシ但シ長サ 30 米未滿ノ船舶ニ在リテハ最大吃水線以上ニ於テ船外ニ通ズル排水管ニ限リ検査員ノ見込ニ依リ弁又ハ「コック」ヲ備ヘザルコト得

第八十二條 相當ノ壓力ヲ以テ潤滑油ヲ循環セシムルコトヲ要スル汽機ヲ備フル船舶ニ在リテハ常用動力潤滑油「ポンプ」ノ外該「ポンプ」中最大能力ノモノト同等ノ能力ヲ有シ且遲滞ナク使用シ得ル配置ト爲シタル豫備動力潤滑油「ポンプ」ヲ備ヘ且油冷却器ヲ備フルトキハ二様ノ冷却水送水装置ヲ備フベシ但シ委員會ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ二様ト爲サザルコトヲ得
前項ノ豫備潤滑油「ポンプ」ハ委員會ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ手動「ポンプ」ト爲スコトヲ得

第八節 管

第八十三條 毎平方糎 5 疋ヲ超ユル壓力ヲ受クル汽管、給水管及放水管ニ用フル銅管ハ引拔管ナルコトヲ要ス

第八十四條 毎平方糎 12.5 疋ヲ超ユル壓力ヲ受クル内徑 125 耗以上ノ汽管及攝氏 220 度以上ノ過熱蒸汽ヲ通ズル管ニハ銅管ヲ用フルコトヲ得ズ

第八十五條 汽管又ハ給水管ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス但シ小徑ノ過熱汽管ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

$$P = \frac{(T-a)}{D} \times K$$

P ハ制限汽壓 (毎平方糎疋ニテ)

D ハ管ノ内徑 (耗ニテ)

T ハ管ノ厚サ (耗ニテ)

a 及 K ハ定數ニシテ次表ニ依ル

管ノ種類 定數	汽 管					給 水 管		
	引拔銅管	鐵附銅管	常溫引拔管	高溫仕上無接合銅管	鍛合銅管	引拔銅管	鐵附銅管	常溫引拔管
a	1.0	1.0	2.5	3.0	3.0	1.0	1.0	2.0
K	440	330	844	844	633	355	266	703

第五十四條第五項ノ導管中汽側ノモノノ強力ニ對スル制限汽壓ハ前項汽管ノ例ニ依リ、水側ノモノ及第五十八條ノ放水管ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ前項給水管ノ例ニ依ル

第八十六條 銅管ハ之ヲ彎曲スル場合ニ於テハ前條ニ依リ算定シタル厚サヨリ大ナル厚サノモノヲ用ヒ且管ノ中心線ニ於テ測リタル彎曲半徑ヲ管ノ外徑ノ2倍以上ト爲スベシ

第八十七條 汽管、給水管、第五十四條第五項ノ導管又ハ第五十八條ノ放水管ニ用フル銅管ハ之ヲ取附クル前適當ニ熱處理ヲ爲スベシ
銅管ニシテ工事ノ爲加熱シタルモノハ之ヲ取附クル前適當ニ熱處理ヲ爲スベシ

第八十八條 汽管ハ伸縮ノ影響ヲ緩和スル様適當ニ裝置スベシ
汽管ニハ適當ナル排水裝置ヲ備フベシ

減壓弁ヲ備フル場合ニ於テハ減壓蒸汽ノ側ニ適當ナル逃出口ヲ備フベシ

第八十九條 汽罐二箇以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ少クとも二箇ノ汽罐ヨリ汽笛、操舵汽機及發電汽機ニ送汽シ得ル裝置ト爲スベシ

第九十條 220度以上ノ蒸汽ヲ通ズル弁匣、膨脹接手等ハ鑄鋼其ノ他ノ適當ナル材料ヲ以テ製造スルコトヲ要ス

第九十一條 管ハ振動ヲ防止スル爲帶金其ノ他ノ方法ニ依リ適當ニ之ヲ取附クベシ

第九節 給水、排水其ノ他ノ裝置ノ水壓試驗

第九十二條 給水「ポンプ」ノ水筒ハ之ヲ製造シ削仕上ヲ爲シタルトキ汽罐ノ制限汽壓ノ2倍ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

給水「ポンプ」ノ送水側ニ於ケル弁、「コック」、給水加熱器、給水濾器等ニシテ給水ノ壓力ヲ受クル部分ハ之ヲ製造シ仕上ゲタルトキ汽罐ノ制限汽壓ノ2倍ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

給水「ポンプ」ノ送水側ニ於ケル管ハ鏝ヲ附シ仕上ヲ爲シタルトキ次ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

銅管ナルトキ 汽罐ノ制限汽壓ノ2.5倍ノ壓力

鋼管ナルトキ 汽罐ノ制限汽壓ノ4.0倍ノ壓力

制限汽壓毎平方糎 30 疋ヲ超ユル汽罐ノ給水「ポンプ」ノ送水側ニ於ケル銅管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ検査員ノ見込ニ依リ水壓試驗ノ壓力ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第九十三條 主汽管ハ鏝ヲ附シ仕上ヲ爲シタルトキ次ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

銅管ナルトキ 汽罐ノ制限汽壓ノ2倍ノ壓力

鋼管ナルトキ 汽罐ノ制限汽壓ノ3倍ノ壓力

第九十四條 循環水「ポンプ」ノ水筒又ハ扇車匣ハ之ヲ製造シ削仕上ヲ爲シタルトキ毎平方糎4疋ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ但シ獨立ノ動力ニ依リ動作セラルルモノナルトキハ毎平方糎2疋ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スルコトヲ得

第九十五條 抽氣「ポンプ」ノ氣筒又ハ扇車匣ハ之ヲ製造シ削仕上ヲ爲シタルトキ毎平方糎2疋ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

第九十六條 潤滑油「ポンプ」ノ油筒又ハ扇車匣ハ之ヲ製造シ削仕上ヲ爲シタルトキ常用最大壓力ノ2倍ノ壓力ヲ以テ試驗スベシ
油冷却器ハ之ヲ製造シタルトキ附屬具ヲ取附ケタル儘常用最大壓力ノ2倍ノ壓力ヲ以テ試驗スベシ

第九十七條 塗水「ポンプ」ノ水筒又ハ扇車匣ハ之ヲ製造シ削仕上ヲ爲シタルトキ毎平方糎2疋ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

第九十八條 最大吃水線以下ノ外板ニ取附クル弁匣、「コック」、第七十九條ノ脚筒又ハ船尾管ハ之ヲ製造シタルトキ毎平方糎2疋ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

第十節 燃油裝置

第九十九條 本節ノ規定ハ「エーベル」式密閉試験ニ依ル引火點 65 度以上ノ燃料油ヲ汽罐ニ於テ燃焼スル裝置ヲ有スル船舶ニ之ヲ適用ス

第一百條 汽罐ニハ適當ナル防熱裝置ヲ施シ且之ト油槽ノ側壁又ハ二重底頂板トハ適當ノ間隔ヲ保タシムベシ

第一百一條 油ノミヲ燃焼スル汽罐ニ在リテハ煙突又ハ煙路内ニ堰板ヲ設クルコトヲ得ズ

隨時ニ石炭又ハ油ヲ燃燒シ得ル装置ヲ備フル汽罐ニ在リテ煙突又ハ煙路内ニ堰板ヲ有スルトキハ該堰板ヲ全開シ得ル構造ト爲シ且全開シタルトキハ不慮ニ開度ヲ變更スル虞ナキモノト爲スベシ

第二百二條 噴油「ポンプ」、油濾器及燃料油加熱器ハ充分ナル能力ヲ有シ且隨時使用シ得ルモノ二組以上ヲ備フベシ但シ補汽罐又ハ長サ 30 米未滿ノ船舶ノ汽罐ニ在リテハ之ヲ一組ニ止ムルコトヲ得

噴油「ポンプ」ハ吸油側及送油側ニ弁又ハ「コック」ヲ附シ且送油側ニ有效ナル逃出口ヲ備ヘ之ヨリ逃出口タル油ヲ該「ポンプ」ノ吸油側ニ導入スル装置ト爲スベシ

燃油装置ヲ有スル汽罐二箇以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ噴油「ポンプ」ノ送油管ヲ配油弁匣ニ接続スルカ又ハ各汽罐ニ對スル送油管ニ弁又ハ「コック」ヲ備フベシ

噴油器、噴油「ポンプ」、加熱器及油濾器等ヨリノ漏油ニ對シテハ適當ナル油受ヲ設クベシ

第二百三條 噴油「ポンプ」及之ニ接続スル管系ハ給水「ポンプ」、滲水「ポンプ」、又ハ脚荷水「ポンプ」及是等ニ接続スル管系ト兼用スルコトヲ得ズ油管ハ總テ清水管ト兼用スルコトヲ得ズ

第二百四條 噴油「ポンプ」ノ送油側ニ於ケル油管ハ無接合鋼管トシ其ノ管鏝ハ之ヲ機械仕上ト爲シ且成ルベク直接接合ト爲シ接合材ヲ用フル場合ニ於テハ高温ノ油ノ滲透セザル薄キモノヲ用フベシ

前項以外ノ油管ハ鋼管又ハ鐵管ト爲スベシ

油管ハ機關室ニ於テハ検査及修繕ニ便宜ナル位置ニ之ヲ取附クベシ

第二百五條 噴油「ポンプ」ノ動力装置ハ其ノ所在區畫室ニ於テ又該區畫室ノ失火ノ際ニハ接近シ得ベキ他ノ場所ニ於テ之ヲ操縦シ得ルモノナルコトヲ要ス

第二百六條 油槽ニハ硝子製示面計ヲ取附クルコトヲ得ズ但シ自動閉塞式ノ弁又ハ「コック」及適當ノ硝子保護装置ヲ備フル厚硝子製ノモノハ此ノ限ニ在ラズ

第二百七條 燃料油槽ト脚荷水槽トニ兼用スル區畫室二箇以上ヲ有スル船舶ニ在リテハ移油「ポンプ」ニテ該區畫室中ノ一室ヨリ吸油中脚荷水「ポンプ」ニ

テ他室ノ排水ヲ爲シ得ル装置ト爲スベシ但シ容積大ニシテ屢補充スルヲ要セザル澄油槽又ハ常用油槽ヲ備フルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

深水槽ヲ貨物艙、脚荷水槽又ハ燃料油槽ニ兼用スル船舶ニ在リテハ該槽ニ貨物ヲ積載スル場合脚荷水及燃料油ノ注入管竝ニ吸出管ニ、該槽ヲ燃料油槽又ハ脚荷水槽トシテ使用スル場合滲水吸出管ニ盲蓋ヲ取附ケ得ル装置ト爲スベシ

第二百八條 移油管ニハ機關室又ハ「ポンプ」室隔壁ノ内側ニ弁又ハ「コック」ヲ備ヘ移油「ポンプ」ニハ之ヲ解放スル場合移油管ト遮斷シ得ル様其ノ吸油側ニ弁又ハ「コック」ヲ備フベシ

第二百九條 二重底ヲ除クノ外燃料油槽ヨリ吸油スル管ニハ槽壁ニ於テ弁又ハ「コック」ヲ備ヘ其ノ所在區畫ノ失火ノ際接近シ易キ他ノ場所ヨリ開閉シ得ル装置ト爲スベシ

燃料油ヲ積載スル船首艙又ハ船尾艙ヨリ吸油スル管ニ在リテハ前項ノ装置ヲ有スル弁又ハ「コック」ハ之ヲ該艙ノ内壁ニ附スベシ但シ機關室ガ船尾艙ニ隣接スル船舶ニ在リテハ該弁又ハ「コック」ハ之ヲ船尾隔壁ノ機關室側ニ附スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ小型油槽ニ付検査員差支ナシト認ムルトキハ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第二百十條 澄油槽及常用油槽ノ充油管ニハ前條第一項ノ装置ヲ有スル弁若ハ「コック」又ハ不還弁ヲ槽ニ接続スル箇所ニ備フベシ但シ充油管ガ槽ノ頂部ニ接続セラルルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

二重底ヲ有スル船舶ニ在リテハ成ルベク燃料油ヲ澄油槽及常用油槽ヨリ二重底ニ放出スル管ヲ設ケ槽ニ接続スル箇所ニ於テ之ニ前條第一項ノ装置ヲ有スル弁又ハ「コック」ヲ備フベシ

第二百十一條 機關室内ノ油管ニ附スル弁又ハ「コック」ハ機關室床板以上ニ於テ開閉シ得ルモノト爲スベシ

第二百十二條 機關室内ノ油槽ニ附スル沈澱水ノ排水管ニハ自動閉塞式又ハ封鎖装置附ノ弁若ハ「コック」ヲ備フベシ

第二百十三條 蒸汽ニ依リ燃料油ヲ加熱スル場合ニ於テハ加熱用蒸汽管ノ末端ハ

凝汽中ニ於ケル油ノ有無ヲ検査シ得ル様之ヲ驗水槽ニ導クベシ
燃料油ト接觸スル加熱用蒸汽管ハ之ヲ銅管又ハ鐵管ト爲スベシ

第百十四條 機關室又ハ燃料油槽、澄油槽若ハ燃料油「ポンプ」ヲ備フル室ニ於ケル滲水吸引管ハ鉛管ト爲スコトヲ得ズ

第百十五條 油槽ハ検査及掃除ヲ爲スニ適當ナル構造ノモノト爲スベシ

第百十六條 燃油裝置ノ各部分ハ次ノ壓力ヲ以テ之ヲ試驗スベシ

- 一、噴油「ポンプ」ノ油筒又ハ之ニ附屬スル弁ハ常用最大壓力ノ2倍ノ壓力
 - 二、噴油「ポンプ」ノ送油弁ヨリ噴油器ニ至ル管、燃料油加熱器及其ノ附屬具ハ常用最大壓力ノ2倍ト毎平方糎 28 疋トノ中大ナル壓力
 - 三、前號以外ノ油管ニシテ機關室ニ在ルモノハ毎平方糎 2 疋
 - 四、燃料油ト接觸スル加熱用蒸汽管ハ常用最大汽壓ノ2倍ノ壓力
- 前項第一號ニ掲グルモノノ試験ハ製造シ削仕上ヲ爲シタルトキ、第二號乃至第四號ニ掲グルモノノ試験ハ船内取附後之ヲ執行スベシ

第三章 内燃機ヲ主機トスル船舶ノ機關

第一節 内 燃 機

第一條 内燃機ハ容易且確實ニ推進器ヲ反轉セシメ又船舶ニ充分ナル後退力ヲ有セシメ得ルモノナルコトヲ要ス

軸馬力 300 ヲ超ユル内燃機ハ成ルベク自己反轉式ノモノト爲スベシ

軸馬力 60 ヲ超ユル内燃機ニシテ「クラツチ」ヲ用ヒ推進器ヲ反轉スルモノニハ適當ナル整速裝置ヲ備フベシ

第二章第二條ノ規定ハ内燃機ニモ亦之ヲ適用ス

第二條 徑 250 耗以上ノ氣筒ニシテ最大壓力毎平方糎 35 疋以上ノモノニハ取扱者ニ危害ヲ及ボス虞ナキ位置ニ適當ナル安全弁又ハ逃出弁ヲ備ヘ最大壓力ノ 1.4 倍以下ノ壓力ニ於テ逃氣スル様調整スベシ

第三條 輕油、燈油、揮發油又ハ瓦斯ヲ燃料トスル單動内燃機ニシテ氣筒内ノ最大壓力毎平方糎 18 疋以下ノモノノ鍛鋼製ノ軸ノ徑ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$d = C\sqrt{D^2 S}$$

d ハ軸ノ徑 (耗ニテ)

D ハ氣筒ノ徑 (耗ニテ)

S ハ行長 (耗ニテ)

C ハ定數ニシテ次表ニ依ル

「クラック」栓ノ徑ハ前項ノ算式ニ依リ算定シタル「クラック」軸ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ

内燃機ノ種類	氣筒數	C										
		「クラック」軸			推力軸		中間軸		一體被金ヲ有スル螺旋軸		其ノ他ノ螺旋軸	
		甲種	乙種	丙種	甲種	乙種	甲種	乙種	甲種	乙種	甲種	乙種
二衝程内燃機	1	0.373	0.354	0.221	0.210	0.210	0.200	0.231	0.220	0.245	0.233	
	2	0.373	0.354	0.244	0.232	0.232	0.220	0.255	0.242	0.271	0.257	
	3	0.381	0.362	0.263	0.250	0.250	0.237	0.275	0.261	0.292	0.277	
	4	0.388	0.369	0.278	0.265	0.265	0.252	0.292	0.277	0.309	0.294	
	5	0.393	0.373	0.292	0.278	0.278	0.264	0.306	0.291	0.324	0.308	
	6	0.399	0.379	0.305	0.290	0.290	0.275	0.319	0.303	0.338	0.321	
四衝程内燃機	1	0.331	0.315	0.175	0.167	0.167	0.159	0.184	0.175	0.195	0.185	
	2	0.353	0.335	0.197	0.188	0.188	0.179	0.207	0.197	0.220	0.209	
	3	0.368	0.350	0.216	0.206	0.206	0.196	0.227	0.216	0.241	0.229	
	4	0.381	0.362	0.232	0.221	0.221	0.210	0.243	0.231	0.258	0.245	
	5	0.390	0.371	0.247	0.235	0.235	0.223	0.258	0.245	0.274	0.260	
	6	0.401	0.382	0.259	0.247	0.247	0.235	0.272	0.258	0.289	0.275	
	7	0.409	0.390	0.271	0.258	0.258	0.245	0.284	0.270	0.302	0.287	
	8	0.423	0.402	0.280	0.267	0.267	0.254	0.294	0.279	0.312	0.296	

第四條 前條ノ内燃機ニシテ氣筒内ノ最大壓力每平方糎 18 疋ヲ超ユルモノ
 ノ鍛鋼製ノ軸ノ徑ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタルモノニ次ノ係數 K ヲ乗ジ
 タルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$K = \sqrt[3]{\frac{P}{18}}$$

P ハ氣筒内ノ最大壓力 (每平方糎疋ニテ)

第五條 重油ヲ燃料トスル燒球式二衝程單動内燃機ニシテ氣筒内ノ最大壓力
 每平方糎 25 疋以下ノモノノ鍛鋼製ノ軸ノ寸法ハ次ノ各號ノ算式ニ依リ算定
 シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

一、「クランク」軸ノ徑

$$d_c = \sqrt[3]{\frac{D^2 \times (AS + BL)}{100}}$$

d_c ハ「クランク」軸ノ徑 (耗ニテ)

D ハ氣筒ノ徑 (耗ニテ)

S ハ行長 (耗ニテ)

L ハ「クランク」ノ兩側ニ於ケル軸受金内側間ノ距離 (耗ニテ)

A 及 B ハ定數ニシテ次表ニ依ル

氣筒數	「クランク」 ノ配置	甲種機關又ハ乙種機關		丙種機關	
		A	B	A	B
1		2.75	2.69	2.36	2.31
2		2.75	2.69	2.36	2.31
	L	3.43	2.60	2.94	2.23
3	人	3.03	2.68	2.60	2.30
4	+	3.46	2.62	2.97	2.25
		6.88	2.10	5.90	1.80

氣筒數	「クランク」 ノ配置	甲種機關又ハ乙種機關		丙種機關	
		A	B	A	B
5	✳	3.88	2.50	3.33	2.14
	✳	4.29	2.43	3.68	2.08
6	人	5.08	2.31	4.36	1.98
	人	6.83	2.11	5.86	1.81

二、一體型「クランク」軸ノ腕ノ幅又ハ厚サ

$$bt^2 = 0.417 d_c^3$$

d_c ハ「クランク」軸ノ徑 (耗ニテ)

b ハ腕ノ幅 (耗ニテ)

t ハ軸ノ方向ノ腕ノ厚サ (耗ニテ) ニシテ d_c ノ 0.60 倍以上ナルコト

三、推力軸、中間軸又ハ螺旋軸ノ徑

$$d = C \sqrt[3]{D^2 S}$$

d ハ軸ノ徑 (耗ニテ)

D ハ氣筒ノ徑 (耗ニテ)

S ハ行長 (耗ニテ)

C ハ定數ニシテ次表ニ依ル

氣筒數	「クランク」 ノ配置	C							
		推 力 軸		中 間 軸		一體被金ヲ有 スル螺旋軸		其ノ他ノ螺旋軸	
		甲種機關 又ハ 乙種機關	丙種機關	甲種機關 又ハ 乙種機關	丙種機關	甲種機關 又ハ 乙種機關	丙種機關	甲種機關 又ハ 乙種機關	丙種機關
1		0.242	0.230	0.230	0.218	0.254	0.241	0.269	0.255
2		0.266	0.253	0.253	0.240	0.280	0.265	0.296	0.281
	L	0.273	0.259	0.259	0.246	0.286	0.272	0.303	0.288
3	人	0.286	0.272	0.272	0.258	0.300	0.285	0.318	0.302

気筒数	「クランク」ノ配置	C							
		推力軸		中間軸		一體被金ヲ有スル螺旋軸		其ノ他ノ螺旋軸	
		甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關
4		0.304	0.289	0.289	0.274	0.319	0.303	0.338	0.321
		0.341	0.324	0.324	0.308	0.358	0.340	0.379	0.360
5		0.319	0.303	0.303	0.288	0.335	0.318	0.354	0.336
		0.332	0.315	0.315	0.299	0.348	0.330	0.369	0.350
6		0.348	0.330	0.330	0.313	0.365	0.346	0.386	0.367
		0.355	0.337	0.337	0.320	0.372	0.353	0.394	0.374

「クランク」栓ノ徑ハ前項第一號ノ算式ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ

勢車又ハ「ポンプ」用偏心盤ヲ最後部「クランク」軸受ト推力軸ノ間ニ於テ「クランク」軸又ハ特設軸ニ取附クルトキハ該部又ハ特設軸ノ徑ハ第一項第一號ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

第六條 前條ノ内燃機ニシテ気筒内ノ最大壓力每方糎 25 糎ヲ超ユルモノノ鍛鋼製ノ軸ノ徑ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタルモノニ左ノ係數Kヲ乗ジタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$K = \sqrt[3]{0.02P + 0.5}$$

P ハ気筒内ノ最大壓力 (每平方糎ニテ)

前項ノ内燃機ノ鍛鋼製ノ一體型「クランク」軸ノ腕ノ幅又ハ厚サハ前項ノ規定ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑 (耗ニテ) ヲ d_c ニ充テ前條第二號ノ算式ヲ用ヒ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

第七條 「ディーゼル」式内燃機ノ鍛鋼製ノ「クランク」軸ノ徑ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$d_c = \sqrt[3]{\frac{D^2 \times (ASp + BLP)}{1,000}}$$

d_c ハ「クランク」軸ノ徑 (耗ニテ)

D ハ気筒ノ徑 (耗ニテ)

S ハ行長 (耗ニテ)

L ハ「クランク」ノ兩側ニ於ケル軸受金内側間ノ距離 (耗ニテ)




P ハ気筒内ノ最大壓力 (每平方糎ニテ)

p ハ気筒内平均有效圖示壓力 (每平方糎ニテ)












A 及 B ハ定數ニシテ次表ニ依ル

一、二衝程單動式ナルトキ

気筒数	「クランク」ノ配置	甲種機關又ハ乙種機關		丙種機關	
		A	B	A	B
1		8.7	1.8	7.5	1.5
2		8.7	1.8	7.5	1.5
3		10.0	1.8	8.6	1.5
4		12.5	1.6	10.7	1.4
		23.3	1.2	20.0	1.0
5		12.6	1.6	10.8	1.4
6		13.6	1.6	11.7	1.4
		20.0	1.3	17.1	1.1
		24.1	1.2	20.7	1.0
7		14.0	1.6	12.0	1.4
8		15.3	1.5	13.1	1.3
		26.0	1.3	22.3	1.1
9		16.5	1.5	14.1	1.3
10		18.5	1.4	15.9	1.2
		26.7	1.3	22.9	1.1
11		19.2	1.4	16.5	1.2

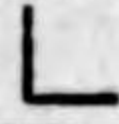















氣筒数	「クランク」ノ配置	甲種機關又ハ乙種機關		丙種機關	
		A	B	A	B
12		20.2	1.4	17.3	1.2
		27.3	1.3	23.4	1.1
		36.5	1.1	31.3	0.94

二、四衝程單動式ナルトキ



氣筒数	「クランク」ノ配置	甲種機關又ハ乙種機關		丙種機關	
		A	B	A	B
1		8.7	1.8	7.5	1.5
2		8.7	1.8	7.5	1.5
3		8.7	1.8	7.5	1.5
4		8.7	1.8	7.5	1.5
5		10.0	1.8	8.6	1.5
6		10.0	1.8	8.6	1.5
7		12.5	1.6	10.7	1.4
8		12.5	1.6	10.7	1.4
9		12.6	1.6	10.8	1.4
10		12.6	1.6	10.8	1.4
11		18.6	1.6	11.7	1.4
12		13.6	1.6	11.7	1.4

三、二衝程複動式ナルトキ

氣筒数	「クランク」ノ配置	甲種機關又ハ乙種機關		丙種機關	
		A	B	A	B
1		6.2	1.8	5.3	1.5

氣筒数	「クランク」ノ配置	甲種機關又ハ乙種機關		丙種機關	
		A	B	A	B
2		10.8	1.7	9.3	1.5
3		7.5	1.8	6.4	1.5
4		17.0	1.6	14.6	1.4
		13.0	1.6	11.1	1.4
5		14.0	1.6	12.0	1.4
6		17.8	1.5	15.3	1.3
		17.8	1.5	15.3	1.3
		20.0	1.4	17.1	1.2
7		19.0	1.4	16.3	1.2
8		23.2	1.4	19.9	1.2
9		24.2	1.4	20.7	1.2
10		28.0	1.3	24.0	1.1
		34.0	1.3	29.1	1.1
11		34.0	1.0	29.1	0.86
12		38.0	1.0	32.6	0.86
		48.0	1.0	41.1	0.86

四、四衝程複動式ナルトキ

氣筒数	「クランク」ノ配置	甲種機關又ハ乙種機關		丙種機關	
		A	B	A	B
1		6.3	1.8	5.4	1.5
2		9.2	1.8	7.9	1.5
3		9.2	1.8	7.9	1.5

気筒数	「クランク」ノ配置	甲種機関又ハ乙種機関		丙種機関	
		A	B	A	B
4	+	11.8	1.6	10.1	1.4
5	✳	15.1	1.5	12.9	1.3
6	✳	13.7	1.5	11.7	1.3
	✳	13.7	1.5	11.7	1.3
	✳※	19.7	1.2	16.9	1.0
7	✳	17.8	1.5	15.3	1.3
8	✳	15.6	1.5	13.4	1.3
	✳※	19.2	1.4	16.5	1.2
9	✳	21.6	1.1	18.5	0.94
10	✳	20.0	1.2	17.1	1.0
	✳	20.0	1.2	17.1	1.0
	✳※	28.4	1.1	24.3	0.94
11	✳	21.7	1.2	18.6	1.0
12	✳	22.1	1.1	18.9	0.94
	✳※	26.5	1.1	22.7	0.94

※印ヲ附シタルモノハ二箇ノ気筒ガ同時ニ點火スルモノナルコトヲ示ス

「クランク」栓ノ徑ハ前項ノ算式ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ

勢車又ハ「ポンプ」用偏心盤ヲ最後部「クランク」軸受ト推力軸トノ間ニ於テ「クランク」軸又ハ特設軸ニ取附クルトキハ該部又ハ特設軸ノ徑ハ第一項ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

第八條 「ディーゼル」式内燃機ノ「クランク」軸ノ鋼製ノ腕ノ幅又ハ厚サハ

次ノ各號ノ算式ニ依リ定メタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

一、組成型「クランク」軸又ハ半組成型「クランク」軸ナルトキ

$$w = 0.438 d_c$$

$$t = 0.625 d_c$$

d_c ハ「クランク」軸ノ徑 (耗ニテ)

w ハ「クランク」軸ニ於ケル腕ノ孔ノ周圍ノ半徑方向ノ厚サ (耗ニテ)

t ハ軸ノ方向ノ腕ノ厚サ (耗ニテ)

二、一體型「クランク」軸ナルトキ

$$bt^2 = 0.417 d_c^3$$

d_c ハ前號ニ同ジ

t ハ軸ノ方向ノ腕ノ厚サ (耗ニテ) ニシテ d_c ノ 0.56 倍以上ナルコト

b ハ「クランク」軸ノ腕ノ幅 (耗ニテ)

前項ノ規定ハ高速機関又ハ委員會ニ於テ差支ナシト認ムル機関ニ付テハ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第九條 「ディーゼル」式内燃機ノ鍛鋼製ノ中間軸ノ徑ハ次ノ算式ニ依リ算定

シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$d = C \times \sqrt[3]{\frac{H \times (1 + Y)}{R}}$$

d ハ軸ノ徑 (耗ニテ)

H ハ機関ノ計畫軸馬力

R ハ軸ノ計畫毎分回轉數

C ハ定數ニシテ甲種機関又ハ乙種機関ニ在リテハ 102、丙種機関ニ在リテハ 97

Y ハ定數ニシテ次ノ各號ニ依ル

一、勢車及釣合錘ノ何レヲモ有セザル機関ニ付テハ次表ニ依ル

二、勢車若ハ釣合錘又ハ其ノ兩者ヲ併セ有スル機関ニ付テハ次表ニ於ケル Y ガ零ナル場合ニ於テハ零トシ其ノ他ノ場合ニ於テハ次ノ算式ニ依リ算定ス

$$Y = \frac{81,900 \times D^2 \times P \times S}{(WF^2 + 6.24 WG^2) R^2 \times X}$$

- D ハ氣筒ノ徑 (耗ニテ)
- S ハ行長 (耗ニテ)
- P ハ氣筒内ノ最大壓力 (每平方糎珎ニテ)
- W ハ勢車ノ重量 (珎ニテ)
- F ハ勢車ノ徑 (耗ニテ)
- W ハ釣合錘ノ總重量 (珎ニテ)
- G ハ釣合錘ノ環動半徑 (耗ニテ)
- R ハ軸ノ計畫毎分回轉數
- X ハ定數ニシテ次表ニ依ル

單動機關 { Pガ每平方糎 21珎以上ニシテ氣筒内平均實效壓力ガ每平方糎 2.8~9.8珎ナルトキ						複動機關 { Pガ每平方糎 42珎以上ニシテ氣筒内平均實效壓力ガ每平方糎 5.6~8.4珎ナルトキ					
四衝程式			二衝程式			四衝程式			二衝程式		
氣筒數	X	Y	氣筒數	X	Y	氣筒ノ數及「クランク」ノ配置	X	Y	氣筒ノ數及「クランク」ノ配置	X	Y
1,2,3,4	4		1,2	4		1	2.5		1	7	
5	6		3	12		2	2.5		2	7	
6	12	0.6	4	18		3	3		3	23	0.35
7	20	0.4	5	50	0.15	4	6		4	11	0.70
8	30	0.2	6	200	0.05	5	15	0.46	4	22	0.35
9	80	0.1	7	400	0.02	6	33	0.27	5	200	0.05
10	200	0.05	8		0	7	27	0.40	6	300	0.03
11	400	0.02	9	--	0	8	40	0.21	6	15	0.35
12	--	0	10	--	0	※8	30	0.28	6	300	0.03
			11		0				7	400	0.02
			12		0				8	400	0.02
		※	8	12	0.45				9		0
			10	35	0.15				10		0
			12	130	0.05				10	130	0.05

備考 ※印ヲ附シタルモノハ二箇ノ氣筒ガ同時ニ點火スルモノナルコトヲ示ス

回轉力ノ變動ヲ少カラシムル特殊ノ装置ヲ備フル推進軸系ノ中間軸ニ在リテハ委員會ノ見込ニ依リ其ノ徑ヲ前項ノ規定ニ依ルモノヨリ適當ニ減ジタルモノト爲スコトヲ得

第十條 「ディーゼル」式内燃機ノ鍛鋼製ノ推力軸ノ徑ハ前條ノ規定ニ依リ定メタル中間軸ノ徑ノ 1.05 倍ヨリ小ナルコトヲ得ズ

第十一條 「ディーゼル」式内燃機ノ鍛鋼製ノ螺旋軸ノ徑ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$d_s = d + \frac{P}{C}$$

d_s ハ螺旋軸ノ徑 (耗ニテ)

d ハ第九條ノ規定ニ依リ定メタル中間軸ノ徑 (耗ニテ)

P ハ螺旋推進器ノ徑 (耗ニテ)

C ハ定數ニシテ次表ニ依ル

一體被金ヲ有スル螺旋軸ナルトキ	144
其ノ他ノ螺旋軸ナルトキ	100

第十二條 船舶ノ推進ニ關係ヲ有スル發電機又ハ空氣壓縮機ヲ動作スル内燃機ノ鍛鋼製「クランク」軸ノ徑ハ機關ノ種類ニ應ジ第三條乃至第七條ノ規定ニ依リ丙種機關トシテ定メタルモノ以上ト爲シ又「クランク」軸ノ腕ノ寸法ハ該徑ヲ用ヒ第八條ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

第十三條 鍛鋼製中空軸ノ外徑ハ内燃機及軸ノ種類ニ應ジ第三條乃至第七條、第九條乃至第十一條又ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタルモノニ次ノ係數 K ヲ乗ジタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ但シ内徑ガ外徑ノ $\frac{1}{3}$ 未滿ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

$$K = \sqrt[3]{\frac{1}{1-R^4}}$$

R ハ中空軸ノ内徑ヲ外徑ニテ除シタル商

第十四條 鍛鋼製推力軸ハ推力受臺ノ前部及後部ニ於テハ其ノ徑ハ内燃機ノ種類ニ應ジ第三條乃至第六條、第九條又ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸

ノ徑ノ 1.05 倍トナル迄漸次之ヲ減ズルコトヲ得

鍛鋼製螺旋軸ハ前部軸鏝ノ附近ニ於テハ其ノ徑ガ内燃機ノ種類ニ應ジ第三條乃至第六條、第九條又ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑ノ 1.05 倍トナル迄漸次之ヲ減ズルコトヲ得

第十五條 抗張力ガ不明ナル壓延黃銅製螺旋軸ノ徑ハ内燃機ノ種類ニ應ジ第三條乃至第六條又ハ第十一條ノ規定ニ依リ算定シタル一體被金ヲ有スル鍛鋼製螺旋軸ノ徑ノ 1.05 倍以上ト爲スベシ

第十六條 軸鏝ヲ連結スル螺釘ノ軸鏝連結面ニ於ケル徑ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$d = 0.75 \sqrt{\frac{D^3}{Nd_1}}$$

d ハ螺釘ノ徑 (耗ニテ)

N ハ螺釘ノ數

d₁ ハ螺釘心圈ノ徑 (耗ニテ)

D ハ内燃機ノ種類ニ應ジ第三條乃至第六條又ハ第九條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑 (耗ニテ)

前項ノ螺釘ガ中間軸ノ回轉數ト異ル回轉數ノ「クランク」軸ニ用フルモノナルトキハ前項ノ算式中ノ D ハ第三條乃至第七條ノ規定ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑 (耗ニテ) = 0.95 ヲ乘ジタルモノトス

螺釘心圈ニ於ケル軸鏝ノ厚サハ第一項又ハ前項ノ規定ニ依リ算定シタル螺釘ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ

螺旋軸ノ螺釘心圈ニ於ケル軸鏝ノ厚サハ前項ノ規定ニ依ルノ外内燃機ノ種類ニ應ジ第三條乃至第六條又ハ第九條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑ノ 0.25 倍ヨリ小ナルコトヲ得ズ

軸鏝根元ニハ當該軸ノ徑ノ 0.125 倍ヨリ小ナラザル半徑ノ丸味ヲ附スベシ
軸鏝ガ組成型ナルトキハ軸竝ニ軸鏝ヲ後退力ニ堪フル様適當ナル構造ト爲スベシ

第十七條 船尾管後端ノ軸受部ノ長サハ第三條乃至第六條、第十一條又ハ第十五條ノ規定ニ依リ算定シタル螺旋軸ノ徑ノ 4 倍未滿ト爲スコトヲ得ズ

螺旋軸ハ成ルベク其ノ軸身ニ海水ノ接觸セザル様之ヲ適當ニ包被スベシ
螺旋軸ノ被金ノ厚サハ船尾管又ハ軸支肘ノ「ブツシユ」ニ當ル部分ニ付テハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$T = 0.03 d_s + 7.5$$

T ハ被金ノ厚サ (耗ニテ)

d_s ハ内燃機ノ種類ニ應ジ第三條乃至第六條又ハ第十一條ノ規定ニ依リ算定シタル螺旋軸ノ徑 (耗ニテ)

前項以外ノ部分ノ被金ノ厚サハ前項ニ依リ算定シタルモノノ $\frac{3}{4}$ ヲリ小ナルコトヲ得ズ

第十八條 内燃機ノ電氣點火装置ノ導線ハ完全ニ絶縁シタルモノニシテ損傷ヲ受クル虞ナク且油管、油槽又ハ油ト接觸セザル様之ヲ布設スベシ
整流子ハ之ヲ蔽圍スベシ

點火装置ノ「コイル」ハ爆發性瓦斯ニ暴露スル處アル場所ニ之ヲ備フルコトヲ得ズ

燃料油ノ點火又ハ氣化ノ爲燈ヲ使用スルトキハ之ヲ適當ナル臺ニ取附ケ且其ノ火焰ヲ蔽圍スベシ

第十九條 内燃機ノ氣化器ハ内燃機ノ停止シタル場合自動的ニ燃料ノ供給ヲ遮斷スル装置ト爲スベシ

氣化器ガ油ノ溢出ノ虞アルモノナルトキハ金網蓋ヲ有スル油受ヲ設ケ之ニ排油装置ヲ備フベシ

氣筒ト氣化器トノ間又ハ氣化器ノ空氣吸入口ニハ成ルベク金網ノ隔膜ヲ備フベシ

第二十條 第二條及前二條ノ規定ハ補機動作用ノ内燃機ニ之ヲ準用ス

第二節 油槽、油管、潤滑油装置等

第二十一條 油槽、油管及是等ニ附屬スル弁竝ニ「コック」ニ付テハ本節ニ於テ特ニ規定シタルモノノ外第二章第十節ノ規定ヲ準用ス

第二十二條 内燃機ニハ其ノ停止中ニ於テモ手動「ポンプ」其ノ他ノ適當ナル方法ニ依リ氣筒ノ噴油弁ニ燃料油ヲ供給シ得ル装置ヲ設クベシ

長サ 30 米以上ノ船舶ノ「ディーゼル」式内燃機ノ燃料油管ニハ燃料油濾器

二組ヲ備ヘ内燃機ノ運轉中ト雖モ其ノ一組ヲ解放掃除シ得ル装置ト爲スベシ

第二十三條 重油管ニ非ザル燃料油管ニハ適當ニ熱處理ヲ爲シタル引拔銅管ヲ用ヒ其ノ配置ハ伸縮ノ自由ヲ妨ゲザルモノト爲シ其ノ連結ハ金屬製ノ圓錐形又ハ球面形接合ト爲スベシ

第二十四條 燃料重油管ニハ成ルベク引拔銅管ヲ用ヒ其ノ配置ハ伸縮ノ自由ヲ妨ゲザルモノト爲スベシ

噴油「ポンプ」ト氣筒トヲ連絡スル重油管ノ連結ハ成ルベク金屬製ノ圓錐形又ハ球面形接合ト爲スベシ

第二十五條 燃料油管ハ容易ニ検査スルコトヲ得且外部ヨリ損傷ヲ受クル處ナキ様敷設スベシ

燃料油管ノ強力ニ對スル制限壓力ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{t-a}{D} \times K$$

P ハ制限壓力 (毎平方糎ニテ)

t ハ管ノ厚サ (糎ニテ)

D ハ管ノ内徑 (糎ニテ)

a 及 K ハ常數ニシテ次表ニ依ル

管ノ種類	a	K
銅管	0.8	422
鋼管	1.0	802

第二十六條 燃料油槽ハ之ヲ汽罐、汽管、廢氣管、消音器其ノ他ノ高熱物ヨリ適當ニ隔離シ其ノ弁又ハ「コック」等ハ外部ヨリ損傷ヲ受クル處ナキ安全ナル場所ニ取附ケベシ

第二十七條 燃料油槽ノ注油管ハ専用ノモノトシ成ルベク甲板上ニ達セシメ其ノ開口部ハ堅牢ナル蓋ヲ以テ密閉シ得ルモノト爲スベシ

揮發油槽及壓力ヲ受クル油槽ニハ適當ナル逃出口ヲ備ヘ之ニ排氣管ヲ設ケ其ノ他ノ燃料油槽ニハ適當ナル空氣管ヲ設ケベシ

前項ノ排氣管及空氣管ハ其ノ端ヲ暴露甲板上排氣ニ因ル危險ナキ場所ニ導キ

且排氣ノ流通ヲ阻害シ又ハ波浪ノ侵入スル處ナキモノト爲スベシ

第二十八條 油槽ノ開口部ニハ容易ニ取外シ得ル堅牢ナル金網膜ヲ裝置スベシ

第二十九條 船體ノ一部ヲ成サザル燃料油槽ニハ排油裝置ヲ設ケ且内部ノ検査及掃除ヲ爲スニ適當ナル構造ト爲スベシ

前項ノ油槽ニハ金屬製油受ヲ備ヘ之ニ排油裝置ヲ設クベシ

第三十條 前三條ノ規定ハ小形油槽ニ付テハ検査員ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限り之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第三十一條 強壓ヲ受クル燃料油槽ノ強力ハ氣槽ノ強力ニ準ジ之ヲ算定スベシ

第三十二條 相當ノ壓力ヲ以テ潤滑油ヲ循環セシムルコトヲ要スル内燃機ヲ備フル船舶ニ在リテハ常用動力潤滑油「ポンプ」ノ外該「ポンプ」中最大能力ノモノト同等ノ能力ヲ有シ且遲滯ナク使用シ得ル配置ト爲シタル豫備動力潤滑油「ポンプ」ヲ備ヘ且油冷却器ヲ備フルトキハ二様ノ冷却水送水裝置ヲ備フベシ

前項ノ豫備潤滑油「ポンプ」ハ委員會ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ手動「ポンプ」ト爲シ又ハ之ヲ備ヘザルコトヲ得

「クランク」室ヲ潤滑油溜トシテ使用スル「クランク」室密閉式内燃機ニハ「クランク」室内ノ油ヲ隨時排出シ得ル裝置ヲ備フベシ

前項ノ内燃機ヲ備フル船舶ニ在リテハ潤滑油ノ清淨機又ハ濾器ヲ備フベシ
潤滑油管系ニハ適當ノ位置ニ潤滑油ノ流動狀況ヲ見易キ様適當ノ裝置ヲ備フルカ又ハ壓力計ヲ備フベシ

第三十三條 機關室及燃料油槽ヲ設置シタル區畫室ハ通風良好ナルモノト爲スベシ

第三節 廢氣裝置及空氣壓縮機

第三十四條 廢氣管及消音器ハ循環水ニ依リ之ヲ冷却スルカ又ハ之ニ適當ナル防熱裝置ヲ施スベシ

消音器ハ容易ニ掃除シ得ルモノト爲スベシ

二箇以上ノ内燃機ノ廢氣ヲ一箇ノ消音器ニ導クトキハ停止セル内燃機ノ氣筒内ニ廢氣ノ侵入セザル様裝置スベシ

廢氣管ノ端ヲ船外ノ水線附近ニ開放スルトキハ氣筒ニ水ノ侵入セザル様裝置

スベシ

前四項ノ規定ハ補機動作用内燃機ニ之ヲ準用ス

第三十五條 長サ 30 米以上ノ船舶ニシテ單動掃除空氣「ポンプ」、獨立掃除送風機又ハ獨立複動掃除空氣「ポンプ」一箇ノミヲ備フルモノニ在リテハ其ノ $\frac{1}{2}$ 以上ノ能力ヲ有シ且隨時使用シ得ル副掃除装置ヲ備フベシ但シ獨立掃除送風機又ハ獨立複動掃除空氣「ポンプ」ヲ備フル場合ニ於テ該送風機又ハ「ポンプ」ガ其ノ動源ノ $\frac{1}{2}$ 以上ノ能力ヲ有シ且隨時使用シ得ル他ノ動源ニ依リ容易ニ動作セラルルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十六條 空氣噴油式内燃機ヲ備フル船舶ニ在リテハ其ノ全力運轉ニ必要ナル壓縮空氣ヲ供給シ得ル噴油用空氣壓縮機ノ外該壓縮機中最大能力ノモノノ $\frac{1}{2}$ 以上ノ能力ヲ有シ且隨時使用シ得ル噴油用副空氣壓縮機ヲ備フベシ
始動ニ壓縮空氣ヲ要スル内燃機ヲ備フル船舶ニ在リテハ始動用氣槽ニ壓縮空氣ヲ充填スル正副二様ノ装置ヲ備ヘ少クトモ其ノ一ハ主機ト獨立ノ動力ニ依リ動作セラルルモノト爲スベシ但シ副装置ハ内燃機ガ壓縮空氣ニ依ラズシテ推進器ヲ反轉セシメ得ルモノナルカ又ハ小形ノモノナルトキハ委員會ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限り之ヲ手動空氣壓縮機ト爲シ又ハ之ヲ備ヘザルコトヲ得

前項ノ獨立動力空氣壓縮機ノ原動機ガ其ノ始動ニ壓縮空氣ヲ要スルモノナルトキハ應急用空氣壓縮機ヲ備フベシ

應急用空氣壓縮機ガ動力ニ依リ動作セラルルモノナルトキハ其ノ原動機ハ他ノ機關ノ停止中ト雖モ始動シ得ルモノナルコトヲ要ス

應急用空氣壓縮機ガ動力ニ依リ動作セラレ其ノ原動機ノ始動ニ壓縮空氣ヲ要スルモノナルトキハ該原動機ノ始動ニ用フル小形氣槽及之ニ充氣スル適當ナル手動空氣壓縮機ヲ備フベシ

手動空氣壓縮機ハ構造堅牢且容量十分ナルモノトシ使用上便宜ナル適當ノ場所ニ之ヲ備フベシ

第三十七條 空氣壓縮機ノ壓縮筒ニハ安全弁又ハ逃出弁ヲ備ヘ各壓縮筒内ノ最大壓力ノ 1.1 倍以下ノ壓力ニ於テ逃氣スル様ノヲ調整スベシ

壓縮空氣ノ冷却器ハ容易ニ解放シテ検査及掃除ヲ爲シ得ル構造ト爲スベシ

壓縮空氣管ノ強力ニ對スル制限壓力ハ第二十五條第二項ノ算式ヲ用ヒテ算定シタルモノトス

第四節 氣 槽

第三十八條 内燃機ノ始動用氣槽ノ容量ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$V = C \times \frac{nD^2S}{P-p}$$

V ハ始動用氣槽ノ容量 (立方米ニテ)

n ハ始動ノ際必要ナル始動弁ヲ備フル氣筒ノ數

D ハ氣筒ノ徑 (米ニテ)

S ハ行長 (米ニテ)

P ハ始動用氣槽内ノ壓縮瓦斯ノ最大使用壓力 (每平方糎ニテ)

p ハ定數ニシテ「ディーゼル」式内燃機ニ對シテハ 10、燒球式内燃機ニ對シテハ 4

C ハ定數ニシテ「ディーゼル」式内燃機ニ對シテハ 60、燒球式内燃機ニ對シテハ 12 但シ壓縮空氣ニ依ラズシテ推進器ヲ反轉セシメ得ル内燃機ニ付テハ之ヲ夫々其ノ $\frac{1}{2}$ ト爲スコトヲ得

内燃機二箇以上ヲ備フル船舶ノ内燃機ノ始動用氣槽ノ容量ハ前項ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ 1.5 倍ヨリ小ナルコトヲ得ズ

第三十九條 空氣噴油式内燃機ヲ備フル船舶ニ在リテハ噴油用氣槽ハ二箇以上トシ其ノ一箇ヲ使用セザルモノ内燃機ノ運轉ニ支障ナキ装置ト爲スベシ但シ始動用氣槽ノ強力ガ噴油用空氣壓力ニ對シ充分ナルモノナルトキハ始動用氣槽ヲ以テ噴油用氣槽ノ全部又ハ一部ト爲スコトヲ得

第四十條 氣槽ノ構造ニ關シテハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外第二章第二節ノ規定ヲ準用ス

第四十一條 氣槽ノ制限壓力ハ前條ノ規定竝ニ第四十五條乃至第四十八條ノ規定ニ依リ算定シタル氣槽各部ノ強力ニ對スル制限壓力中最小ノモノトス

第四十二條 無接合筒形氣槽ノ胴板ニハ第一號試驗片ニ依ル抗張力每平方糎 45 糎以上 55 糎以下ニシテ標點間伸長百分率ハ厚サ 9 糎以上ナルトキ 18

以上、厚サ9耗未満ナルトキ15以上ナル鋼材ヲ用フルコトヲ得

第四十三條 氣槽ハ内部ノ検査及掃除ヲ爲スニ適當ナル構造ト爲スベシ

氣槽ニハ制限壓力及水壓試験壓力ヲ適當ニ表示スベシ

氣槽ノ制限壓力ガ之ニ連絡スル空氣壓縮機ノ最大壓力ヨリ小ナルトキハ氣槽ニ適當ナル安全弁又ハ逃出弁ヲ備ヘ制限壓力ノ1.1倍以下ノ壓力ニ於テ逃氣スル様之ヲ調整スベシ

氣槽ニハ取扱者ノ見易キ位置ニ壓力計ヲ備フベシ

氣槽ニハ其ノ下部ニ排水弁又ハ排水「コック」ヲ備ヘ且成ルベク之ヲ二重ニ設クベシ

氣槽ニ接続スル管ニハ槽ニ接続スル部分ニ於テ弁又ハ「コック」ヲ備フベシ

第四十四條 氣槽ハ別ニ定ムル所ニ依ルノ外其ノ各部ヲ瓦斯熔接又ハ電氣熔接

ニ依リ接合スルコトヲ得ズ但シ制限壓力毎平方糎14糎以下ニシテ鋼板ノ厚サ6耗以上ノモノニ付委員會ニ適當ト認ムル所ニ依リ熔接スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ規定ニ依リ氣槽ノ縦接合ヲ熔接シタルトキハ鏡板取附前検査ヲ受クベシ

無接合氣槽又ハ鍛合若ハ瓦斯熔接シタル氣槽ハ附屬具取附ノ爲メ機械工事ヲ行フ前之ニ適當ナル熱處理ヲ爲スコトヲ要ス電氣熔接シタル氣槽ニ付委員會ニ於テ必要ト認メタル場合亦同ジ

第四十五條 無接合筒形氣槽又ハ鍛合若ハ熔接シタル筒形氣槽ノ胴ノ強力ニ對

スル制限壓力ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{C \times S \times (T - 1.5)}{D}$$

P ハ制限壓力 (毎平方糎ニテ)

S ハ胴板ノ抗張力 (毎平方糎ニテ)

D ハ胴ノ内徑 (耗ニテ)

T ハ胴板ノ厚サ (耗ニテ)

C ハ無接合氣槽ニ在リテハ52、鍛合又ハ熔接シタル氣槽ニ在リテハ36

第四十六條 筒形氣槽ノ支柱ヲ有セザル扁平鏡板ノ強力ニ對スル制限壓力ハ次

ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{140 S (T - 1.5)^2}{D^2}$$

P ハ制限壓力 (毎平方糎ニテ)

S ハ鏡板ノ抗張力 (毎平方糎ニテ)

T ハ鏡板ノ厚サ (耗ニテ)

D ハ平板ヲ銑又ハ螺釘ヲ以テ胴ニ固着シタル場合ニハ銑又ハ螺釘心圏ノ徑(耗ニテ)、平板ヲ胴ニ熔接シタル場合ニハ胴ノ内徑(耗ニテ)、曲線板ノ場合ニハ曲線ノ彎曲起點ヲ連ヌル圓ノ徑但シ曲線ノ彎曲ノ内半徑ガ鏡板ノ彎曲部ノ厚サノ2.5倍ヨリ大ナルトキハ胴ノ内徑ヨリ鏡板ノ曲線部ノ厚サノ7倍ヲ控除シタルモノ (耗ニテ)

第四十七條 筒形氣槽ノ内徑ヨリ大ナル内半徑ヲ有スル曲面狀ノ皿形鏡板ニシテ支柱ヲ備ヘザルモノノ強力ニ對スル制限壓力ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{233 S (T - 1.5)^2}{d^2}$$

P ハ制限壓力 (毎平方糎ニテ)

S ハ鏡板ノ抗張力 (毎平方糎ニテ)

T ハ鏡板ノ厚サ (耗ニテ)

d ハ鏡板ノ曲線ノ彎曲起點ヲ連ヌル圓ノ徑但シ曲線ノ彎曲ノ内半徑ガ鏡板ノ曲線部ノ厚サノ2.5倍ヨリ大ナルトキハ胴ノ内徑ヨリ鏡板ノ曲線部ノ厚サノ7倍ヲ控除シタルモノ (耗ニテ)

第四十八條 筒形氣槽ノ内徑ヨリ大ナラザル内半徑ヲ有スル球面狀ノ鏡板ニシテ支柱ヲ備ヘザルモノノ強力ニ對スル制限壓力ハ次ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{C \times S \times (T - 1.5)}{R}$$

P ハ制限壓力 (毎平方糎ニテ)

S ハ鏡板ノ抗張力 (毎平方糎ニテ)

T ハ鏡板ノ厚サ (耗ニテ) 但シ鏡板ニ人孔ヲ設ケタルトキハ其ノ厚サヨリ

3 耗ヲ減ジタルモノ

R ハ鏡板球面ノ内半径 (耗ニテ)

C ハ鏡板ガ氣槽ノ外方ニ突出スルモノナルトキハ 25.7、内方ニ突入スルモノナルトキハ 20.5

前項ノ鏡板ト銅板トヲ接合スル爲曲縁シタル部分ノ彎曲内半径ハ鏡板ノ厚サノ4倍未満ナルコトヲ得ズ

第五節 排水、吸水及冷却水ニ關スル装置

第四十九條 排水、吸水及冷却水ニ關スル装置ニ付テハ第二章第七十四條、同章第七十八條及第八十二條ノ規定竝ニ本節ニ於テ特ニ規定スル場合ヲ除クノ外第二章第七節及同章第一百四條ノ規定ヲ準用ス

第五十條 内燃機ノ冷却水ヲ船外ヨリ吸引スル管ニハ適當ナル芥除ヲ備ヘ且之ヲ解放又ハ掃除ヲ爲ス場合ニ於テモ當該内燃機ヲ停止スルコトヲ要セザル装置ト爲スベシ

冷却水又ハ冷却油ノ排出管ニハ溫度計ヲ備ヘ且成ルベク管内ノ流動狀況ヲ見得ル装置ヲ設クベシ

冷却「ポンプ」ニ故障ヲ生ジタル場合ニ於テモ他ノ動力「ポンプ」ニ依リ遲滞ナク充分冷却水又ハ冷却油ヲ供給セシメ得ル様装置スベシ

氣筒二箇以上ヲ備フル内燃機ニ在リテハ各氣筒ニ供給スル冷却水又ハ冷却油ノ量ヲ加減シ得ル装置ヲ設クベシ

氣筒ノ水包室及冷却水管ノ最低部ニハ排水装置ヲ備フベシ

前五項ノ規定ハ小形船ニ付テハ検査員ノ見込ニ依リ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

冷却水又ハ冷却油ハ冷却スベキ部分ノ成ルベク高キ箇所ヨリ之ヲ排出セシムベシ

第五十一條 脚荷水「ポンプ」ハ機關室ノ滲水ヲ直接吸引シ得ル様装置スベシ

第六節 水 壓 試 験

第五十二條 「ディーゼル」式内燃機ノ氣筒、内筒、氣筒蓋、鑄造「ピストン」、氣筒高壓部ニ屬スル諸弁匣又ハ鑄造噴油「ポンプ」ハ之ヲ製造シ削仕上ヲ爲シタルトキ次表ニ依リ水壓試験ヲ執行スベシ但シ検査員ノ見込ニ依リ内面

ヲ仕上ゲ且外面ヲ適當ニ旋削シテ十分ニ検査ヲ爲シ重大ナル缺點ナキモノト認メタル内筒ノ水壓試験及内外兩面ヲ適當ニ削仕上ゲタル「ピストン」ノ高温高壓ノ氣體ニ接觸スル部分ノ水壓試験ハ之ヲ省略シ又内筒ヲ有セザル氣筒若ハ氣筒蓋等ノ高温高壓ノ氣體ニ接觸スル部分ノ水壓試験ハ其ノ冷却部ヲ每平方糎 10 疋以上ノ壓力ヲ以テ水壓試験ヲ執行スルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

水 壓 試 験 執 行 部 分	試 験 壓 力
氣筒又ハ内筒ノ高温高壓部ニシテ行長ノ $\frac{1}{3}$ ニ相當スル間	氣筒内ノ最大壓力ノ 1.5 倍ノ壓力
氣筒蓋ノ高温高壓ノ氣體ニ接觸スル部分	同 上
「ピストン」ノ高温高壓ノ氣體ニ接觸スル部分	同 上
氣筒高壓部附屬諸弁匣	同 上
「ピストン」ノ冷却部	每平方糎 4 疋
氣筒水包室、氣筒蓋ノ冷却部	每平方糎 4 疋
噴 油 「ポ ン プ」	常用最大壓力ガ每平方糎 400 疋未満ナルトキハ其ノ 1.5 倍ノ壓力、每平方糎 400 疋以上ナルトキハ常用最大壓力ニ每平方糎 200 疋ヲ加ヘタルモノ

前項ノ規定ハ船舶ノ推進ニ關係ヲ有スル發電機又ハ空氣壓縮機ヲ動作スル「ディーゼル」式内燃機ニ之ヲ準用ス但シ小形「ディーゼル」式内燃機ニ付テハ検査員ノ見込ニ依リ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第五十三條 「ディーゼル」式内燃機ノ噴油用又ハ始動用ノ空氣壓縮機ノ壓縮筒、壓縮筒蓋若ハ壓縮空氣弁匣ハ之ヲ製造シ削仕上ヲ爲シタルトキ空氣部ハ最大壓力ノ 1.5 倍、水部ハ每平方糎 2 疋ノ壓力ヲ以テ水壓試験ヲ執行スベシ壓縮空氣冷却器ハ之ヲ製造シタルトキ空氣部ハ該部ニ於ケル空氣ノ最大壓力ノ 1.5 倍、水部ハ該部ニ於ケル冷却水ノ常用最大壓力ノ 2 倍ノ壓力ヲ以テ水

歴試験ヲ執行スベシ

第五十四條 潤滑油「ポンプ」、燃料油「ポンプ」又ハ冷却「ポンプ」ノ油筒、水筒又ハ扇車匣ハ之ヲ製造シ削仕上ヲ爲シタルトキ常用最大壓力ノ2倍ノ壓力ヲ以テ試験スベシ

油冷却器又ハ清水冷却器ハ之ヲ製造シタルトキ附屬具ヲ取附ケタル儘常用最大壓力ノ2倍ノ壓力ヲ以テ試験スベシ

前二項ノ規定ハ小形内燃機ニ付テハ検査員ノ見込ニ依リ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第五十五條 氣槽ハ次ノ壓力ヲ以テ水壓試験ヲ執行スベシ

一、鋸接合又ハ無接合ノモノナルトキ 制限壓力ノ1.5倍ノ壓力

二、鍛合又ハ熔接合ノモノナルトキ 制限壓力ノ2.0倍ノ壓力

氣槽ニ附屬スル弁若ハ「コック」、氣槽ニ連絡スル空氣管又ハ之ニ附屬スル弁若ハ「コック」ハ之ヲ製造シ仕上ゲタルトキ制限壓力ノ1.5倍ノ壓力ヲ以テ水壓試験ヲ執行スベシ但シ空氣管ニ付テハ検査員ノ見込ニ依リ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第五十六條 燃料油槽ハ之ヲ製造シタルトキ附屬具ヲ取附ケタル儘頂板上2.5米以上ノ水高壓力又ハ之ニ相當スル壓力ヲ以テ試験スベシ但シ強壓油槽ノ試験壓力ハ油槽ノ常用壓力ノ2倍トス

第五十七條 機關室内ニ在ル燃料油管系ハ噴油管系ヲ除クノ外船内取附後毎平方糎2疋ノ壓力ヲ以テ試験スベシ但シ短小ナル燃料油管系ニ付テハ検査員ノ見込ニ依リ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第五十八條 燃料油加熱用蒸汽管ハ船内取附後常用最大汽壓ノ2倍ノ壓力ヲ以テ水壓試験ヲ執行スベシ

第五十九條 第二章第九十七條及同章第九十八條ノ規定ハ内燃機ヲ主機トスル船舶ニ付之ヲ適用ス但シ小形船ニ在リテハ検査員ノ見込ニ依リ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第七節 補 汽 罐

第六十條 補汽罐ノ構造、附屬品、給水装置其ノ他ニ付テハ蒸汽機關ヲ主機トスル船舶ノ補汽罐ニ關スル規定ヲ適用ス但シ内燃機ノ廢氣ニ依リ加熱スル補

汽罐ノ安全弁ノ面積ノ算定ニ當リテハ第二章第五十條第一項ノ算式中定數0.21ハ之ヲ0.12ト爲スベシ

第四章 特殊施設

第一條 寒冷ノ地域ニ碇泊スルコトアルベキ船舶ノ内燃機ハ碇泊中其ノ冷却水ヲ排出スル装置及出火ノ虞ナキ適當ナル始動促進装置ヲ備ヘ且潤滑油ノ凝固ヲ防止スル様之ヲ適當ニ裝置スベシ

結氷セル水域又ハ浮氷多キ水域ヲ主トシテ航行スル船舶ノ螺旋軸ノ徑ハ成ルベク第二章第一節又ハ第三章第一節ノ規定ニ依リ算定シタルモノニ1.05ヲ乗ジタルモノ以上ト爲スベシ

前項ノ船舶ノ螺旋推進器ノ翼ノ材料ハ成クベク通常ノ鑄鐵ニ非ザル他ノ強靱ナルモノト爲スベシ

第一項ノ船舶ノ外板ニ付スル弁、「コック」又ハ脚筒等ハ氷又ハ寒氣ノ爲損傷セザル様之ヲ適當ニ裝置スベシ

第一項ノ船舶ノ外板ニ於ケル循環水又ハ冷却水ノ吸入口ハ氷ノ爲閉塞セラルルコトヲ防止スル様之ヲ適當ニ裝置スベシ

第二條 汽機、内燃機若ハ他ノ機械ノ回轉部若ハ往復動部、機關ノ高熱部又ハ強電氣ノ帶電部ハ之ヲ監視シ若ハ操作スル者又ハ之ニ近接スル者適當ナル注意ヲ怠リタル場合ノ外傷害ヲ受ケザル様適當ニ施設スベシ

第三條 機關室其ノ他通風良好ナラザル場所ハ油瓦斯、「アンモニア」瓦斯其ノ他取扱者ノ健康ニ障害ヲ及シ易キ瓦斯ノ漏洩停滯ヲ防止スル様適當ニ施設スベシ

第五章 艦裝品及備品

第一條 蒸汽溜其ノ他ノ高温ノ受壓容器ノ材料、構造、強力及試験ニ付テハ第二章第二節乃至第五節ノ規定ヲ準用ス

前項以外ノ受壓容器ノ材料、構造、強力及試験ニ付テハ第三章第四節及同章第六節ノ規定ヲ準用ス

第二條 艦裝品ハ前條ニ規定セザルモノト雖モ其ノ用途ニ應ジ適當ニ之ヲ構

造スルコトヲ要ス

検査員必要アリト認ムルトキハ前項ノ機部品ニ付適當ノ試験ヲ執行スルコト
アルベシ

第三條 機關備品ハ次ノ各號ニ依リ之ヲ機關室又ハ船内適當ノ場所ニ備フベシ

但シ検査員ニ於テ特ニ必要ナシト認ムルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一、蒸汽機關ヲ主機トスル船舶 別表甲

二、内燃機ヲ主機トスル船舶 別表乙

三、前號ノ船舶ニシテ補汽罐ヲ 別表乙及別表甲中汽罐ニ關スルモノ

備フルモノ

四、船舶推進ニ必要ナル主發電 前各號ニ依ルノ外別表乙中「ピストン」

装置又ハ正空氣壓縮装置ノ原 環乃至潤滑油「ポンプ」弁及發條ニ付近

海區域以上ヲ航行シ得ル船舶ハ沿海區域

ニ對スル規定ニ依リ、沿海區域ヲ航行シ

得ル船舶ハ平水區域ニ對スル規定ニ依ル

漁船ノ機關備品ハ漁船ノ種類及大小ニ應ジ委員會ノ適當ト認ムル所ニ依ル

別表甲

航行區域 備品名	遠洋區域	近海區域	沿海區域	平水區域	摘要
往復動汽機ニ關スル備品					
「ピストン」環	各一組	同	左		同形ニシテ相轉用シ得ルモノハ1組ニ止ムルコトヲ得
「ピストン」發條	各一組	同	左		
「ピストン」抑環螺釘及母螺	六	同	左	三	筒
滑 弁 桿	各形一箇				
偏 心 器 桿	各形一箇				
連接桿上下ノ栓受金	一桿分	同	左		
連接桿上下ノ螺釘及母螺	一桿分	同	左	同	左
「クランク」軸受螺釘及母螺	各種一組	同	上		
「ピストン」桿用金屬衝帶	一	組			

航行區域 備品名	遠洋區域	近海區域	沿海區域	平水區域	摘要
「タービン」汽機ニ關スル備品					
「ローター」軸受金	各形一組	同	左		廢氣「タービン」用ノモノハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ
「ローター」軸受螺釘及母螺	各種一組	同	左		
減速裝置軸受金	各形一組	同	左		
減速裝置ノ軸受螺釘及母螺	各種一組	同	左		
「ローター」推力受及調整片	各「タービン」ニ付片面一組	同	左		
「ローター」軸汽密裝置	各填座每ニ半組	同	左		
汽罐ニ關スル備品					
給 水 制 限 弁	一 罐 分	同	左	同	左
安 全 弁 發 條	各 罐 一 付 一 箇	同	左	一	箇
火 床 機	總數ノ $\frac{1}{5}$	同	左	總數ノ $\frac{1}{10}$	同
噴油「ポンプ」弁及發條	一 臺 分	同	左	但シ最少四箇	同
移油「ポンプ」弁及發條	一 臺 分	同	左		同
燃油裝置用噴油器	各 罐 一 付 一 箇	同	左	同	左
微粉炭燃燒裝置用噴炭器	各 罐 一 付 一 箇	同	左	同	左
碎 炭 具	一 組	同	左		
自動給炭機部分品	汽罐二箇又ハ其ノ端數每ニ一組	同	左		
示 面 計 磅 子 管	各 罐 一 付 四 箇 但シ最少六箇	同	左	六	箇
管 擴 器	各 形 一 箇	同	左	同	左
管 塞 器	各 罐 一 付 四 箇 但シ最少八箇	各 罐 一 付 二 箇 但シ最少六箇	同	四	箇
各種裝置ニ關スル備品					
接軸鈎螺釘及母螺	各種一組	同	左		廢氣「タービン」用ノモノハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ

航行區域	遠洋區域	近海區域	沿海區域	平水區域	摘要	
單環式推力軸推力受及調整片	片面分	同	左			
復水器管	總數ノ1/40 但シ最少10本	同	左			
復水器管填筒	總數ノ1/30 但シ最少三十筒	同	左			
抽氣「ポンプ」桿	一筒	同	左		扇重「ポンプ」ナルトキハ桿ノ代リニ扇車軸ヲ備フベシ	
抽氣「ポンプ」弁	一臺分	同	左	同		左
循環水「ポンプ」桿	一筒	同	左		扇車「ポンプ」ナルトキハ桿ノ代リニ扇車軸ヲ備フベシ	
循環水「ポンプ」弁	一臺分	同	左	同		左
給水「ポンプ」弁	一臺分	同	左	同	左	多弁式ノモノニ在リテハ半臺分ニ止ムルコトヲ得
塗水「ポンプ」弁	一臺分	同	左	同	左	
潤滑油「ポンプ」弁及發條	一臺分	同	左	同	左	
逃出弁發條	各種一筒	同	左			
一般備品						
滑車及綱	二組	一組				
螺旋切道具	一組	同	左			
鑽孔器	一組	同	左			
輪	一筒	同	左			
金	一筒	同	左			
据附萬力	一筒	同	左			
鋼板	各種若干	同	左			
鋼棒	各種若干	同	左			
螺釘及母螺	各種若干	同	左	同	左	
機關室小道具	一揃	同	左	同	左	
驗鹽器	二筒	同	左	一筒	同	
溫度計	二筒	同	左	一筒	同	
備考 汽機又ハ同一用途ノ「ポンプ」ニシテ同形ノモノ二筒以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ汽機ニ關スル備品及各種裝置ニ關スル備品ハ該汽機又ハ「ポンプ」一臺分ニ止ムルコトヲ得						

別表乙

航行區域	遠洋區域	近海區域	沿海區域	平水區域	摘要
氣筒蓋(弁其ノ他附屬品ノ完備セルモノ)	各形一組	同	左		長サ 50 米以上ノ船舶ニ備フル「ディーゼル」式内燃機ニ限ル
「ピストン」(完備セルモノ)	一組	同	左		
「ピストン」環	二組	同	左		氣筒四筒又ハ其ノ端數毎ニ一組但シ二組ヲ超ユルコトヲ要セズ
氣筒ノ内筒	一筒				
「ピストン」桿	一筒				
「ピストン」桿用衛帶環	一組				複動式内燃機ニ限ル
噴油弁(弁座、弁匣、發條其ノ他附屬品ノ完備セルモノ)	氣筒二筒又ハ其ノ端數毎ニ一組	同	左		中半數ハ弁弁座及發條ノミニ止ムルコトヲ得
吸氣弁(弁座、弁匣、發條其ノ他ノ附屬品ノ完備セルモノ)	氣筒四筒又ハ其ノ端數毎ニ一組	同	左	一組	複動式内燃機ニ在リテハ左記ノ倍數トス
廢氣弁(弁座、弁匣、發條其ノ他ノ附屬品ノ完備セルモノ)	氣筒一筒	同	左		燒球式内燃機ニ在リテハ噴油器口金ノミニ止ムルコトヲ得
始動弁(弁座、弁匣、發條其ノ他ノ附屬品ノ完備セルモノ)	二組	一組			中半數ハ弁、弁座、及發條ノミニ止ムルコトヲ得、複動式機關ナルトキハ左記ノ倍數トス
噴油管及接合金具	氣筒一筒	氣筒二筒	氣筒四筒	一氣筒分	無空氣噴油「ディーゼル」式内燃機ニ限ル
「ピストン」冷却用拔差管又ハ搖動管	一組	同	左		同形ノモノハ半數ニ止ムルコトヲ得
「クランク」軸受螺釘及母螺	一軸受分	同	左		
減速裝置軸受金	各形一組	同	左		
減速裝置ノ軸受螺釘及母螺	各形一組	同	左		
單環式推力軸推力受及調整片	片面分	同	左		

備品名	航行區域				摘要		
	遠洋區域	近海區域	沿海區域	平水區域			
連接桿上下ノ栓受金	一桿分	同	左	同	左	單動式內燃機=在リテハ上部受金ノ下半及下部受金ノ上半ノミニ止ムルコトヲ得	
連接桿上下ノ螺釘及母螺	一桿分	同	左	同	左		
接軸鈎螺釘及母螺	各種一組	同	左				
正副空氣壓縮機ノ壓縮筒ノ「ピストン」環	各形一組	同	左				
正副空氣壓縮機ノ吸入弁及排出弁並ニ發條	各形半組	同	左				
掃除空氣「ポンプ」弁及發條	一組	同	左	同	左		
燒球式內燃機ノ掃除空氣弁	氣筒二箇又ハ其ノ端數每ニ一氣筒分	同	左	氣筒四箇又ハ其ノ端數每ニ一氣筒分			
噴油「ポンプ」ノ動作部	氣筒一箇每ニ一氣筒分	氣筒二箇又ハ其ノ端數每ニ一氣筒分	同	氣筒四箇又ハ其ノ端數每ニ一氣筒分	一氣筒分	四氣筒分ニ止ムルコトヲ得 テ燒球式內燃機=在リテハ弁、弁座及發條ノミニ止ムルコトヲ得	
氣筒、氣筒蓋、「ピストン」等ノ冷却「ポンプ」ノ扇車軸	一箇	同	左				
氣筒、氣筒蓋、「ピストン」等ノ冷却「ポンプ」ノ弁及發條	各形一臺分	同	左	一組	同	左	
潤滑油「ポンプ」弁及發條	一臺分	同	左	同	左	同	左
移油「ポンプ」弁及發條	一臺分	同	左				
塗水「ポンプ」弁	一臺分	同	左	同	左	同	左
燒球	氣筒一箇每ニ一箇	同	左	氣筒二箇又ハ其ノ端數每ニ一箇	同	左	
點火栓	氣筒一箇每ニ一箇	同	左	氣筒二箇又ハ其ノ端數每ニ一箇	同	左	
電池	常用ト同數	同	左	常用ノ半數	同	左	
電線	若干	同	左				
始動用燈	常用ノ外ニ箇	同	左	常用ノ外一箇			

備品名	航行區域				摘要		
	遠洋區域	近海區域	沿海區域	平水區域			
滑車及綱	二組	一組				航路ヲ近海區域ニ制限スル小形帆船=在リテハ省略スルコトヲ得	
螺旋切道具	一組	同	左				
鑽孔器	一組	同	左				
輔金	一箇	同	左				
据附萬力	一箇	同	左				
銅板	各種若干	同	左				
銅棒	各種若干	同	左				
螺釘及母螺	各種若干	同	左	同	左		
機關室小道具	一揃	同	左	同	左		
溫度計	二箇	同	左	一箇	同		左
備考 內燃機又ハ同一用途ノ「ポンプ」ニシテ同形ノモノ二箇以上ヲ備フル船舶=在リテハ氣筒蓋乃至點火栓ハ之ヲ該內燃機又ハ該「ポンプ」一臺分ニ止ムルコトヲ得 第五章第三條第四號ノ補助內燃機=付亦同ジ							

第六章 電氣裝置

第一節 通則

第一條 本章ノ規定ハ船舶ノ推進以外ノ用途ニ使用セラルル電氣裝置ニ之ヲ適用ス

船舶ノ推進ニ使用セラルル電氣裝置ハ委員會ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第二條 發電機、配電盤及電動機ハ通風良好ニシテ易燃性瓦斯ノ蓄積セザル區畫室内ノ取扱容易ナル位置ニ之ヲ設置シ且機械的損傷又ハ水蒸氣、熱若ハ油ニ依ル傷害ヲ受クル處ナキ様爲スモノトス

第三條 發電機、電動機等ノ臺及枠ハ總テ有效ニ接地スルモノトス

第四條 木材其ノ他ノ可燃物ハ發電機、配電盤、電動機等ヨリ水平ニハ 30 糎以上、上方ニ於テハ 120 糎以上隔離スルモノトス

第五條 發電機及電動機ノ軸ハ成ルベク船ノ前後ノ方向ニ向ケ設置スルモノトス

第六條 主要補機ガ電力ニ依リ運轉セラルル船舶ニ在リテハ二臺以上ノ發電機ヲ備フルコトヲ要シ且發電機ノ容量ハ其ノ内ノ一臺ガ運轉不能トナルモ補機ノ運轉ニ何等ノ支障ナキモノナルコトヲ要ス、又過負荷ニ對スル安全裝置ハ重要ナラザル用途ニ對スル裝置ヲ第一ニ自動的ニ切放シ得ル様考慮スルモノトス

第七條 熱帯航路ニ使用スル船舶ニ在リテハ電氣機械及器具ノ定格ハ機關室ニ使用スルモノニ付テハ室内溫度攝氏 45 度其ノ他ノ場所ニ使用スルモノニ付テハ攝氏 40 度ノ場合ヲ基準トシテ之ヲ定ムルモノトス

第八條 供給電壓ハ次ノ各號ニ掲グルモノヲ超ユルコトヲ得ズ

一、直流定電壓式

甲、動力用 500「ボルト」(電氣扇其ノ他ノ小形電氣器具用ノモノハ 250「ボルト」)

乙、點燈及電熱用 250「ボルト」

二、交流定電壓式 (60「サイクル」ヲ標準トス)

甲、動力及電熱用 250「ボルト」(電氣扇其ノ他ノ小形電氣器具用ノモノハ 150「ボルト」)

乙、點燈用 150「ボルト」

引火點攝氏 65 度未滿ノ油ヲ積載スル船舶ニ付テハ第十四節ノ規定ニ依ルコトヲ要ス

特ニ委員會ノ承認ヲ受ケタルトキハ供給電壓ヲ前二項ニ規定スルモノヨリ増加スルコトヲ得

第九條 電氣方式ハ次ノ各號ニ依ルモノトス

一、直流單線式

二、直流又ハ交流單相ノ二線式

三、直流又ハ交流單相ノ三線式

四、交流三相三線式

五、交流三相四線式

第二節 發電機及電動機

第十條 發電機及電動機ハ第一附屬規程ニ規定スル規格ニ合格ノモノナルコトヲ要ス

トヲ要ス

第十一條 發動機及電動機ノ絶縁ニハ第一附屬規程第一條ニ規定スルA種又ハB種ノ絶縁材料ヲ使用シ卷線ハ濕氣、油氣ニ對シ抵抗シ得ベキ絶縁物ヲ以テ含浸スルモノトス、尙雲母又ハ「マイカナイト」ヲ以テ棒及鐵心ト絶縁スルモノトス

第十二條 發電機ハ普通複卷式トシ直卷線ハ負(一)ノ端子ニ接續スベシ

第十三條 100「キロワット」以上ノ發電機及電動機ニ在リテハ検査員立會ノ上試験ヲ行フコトヲ要シ 100「キロワット」未滿ノ機械ニ在リテハ工場試験成績表ヲ提出シテ承認ヲ受ケルニ止ムルコトヲ得又 $\frac{1}{2}$ 「キロワット」以下ノ容量ノ同型ノ機械ニ付テハ其ノ内一臺ニ對シ試験ヲ爲シ成績良好ナルトキハ其ノ他ノモノニ對スル試験ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第十四條 發電機カ蒸汽機關又ハ内燃機關ニ依リ運轉セラルルモノナルトキハ各機關ニハ急激ニ全負荷ヲ加ヘ又ハ負荷ヲ除キタル場合其ノ速度ノ變化ヲ次表ニ掲グル割合以内ニ自動的ニ止ムル爲メノ調速器ヲ備フルコトヲ要ス

發電機ノ容量	原動機ノ種別	瞬間的變化 (%)	永久的變化 (%)
50「キロワット」以下ナルトキ	蒸汽機關又ハ内燃機關	10	5
50「キロワット」ヲ超ユルトキ	蒸汽機關	10	3
	内燃機關	10	5

發電機ガ竝行運轉セラルル場合ニ在リテハ各負荷ニ對シ細密ニ調整シ得ル加減抵抗器ヲ備フルコトヲ要ス

第三節 配電盤

第十五條 配電盤ハ凡テ耐久不燃性不吸收性物質ヲ以テ構成シ其ノ絶縁ハ永ク良好ナル絶縁耐力及絶縁抵抗ヲ保持スルモノナルコトヲ要ス
大理石又ハ石盤石ノ如キ半絶縁性物質ヲ配電盤ニ使用シタル場合ニ於テハ導電部ハ凡テ雲母其ノ他ノ不吸收性物質ヲ以テ該半絶縁物質ト絶縁シ棒ハ有效ニ接地スルコトヲ要ス

第十六條 配電盤ノ裏面ニハ點檢及修理ノ爲適當ノ餘地ヲ存スベシ

第十七條 配電盤ノ各帶電部ハ其ノ間ニ弧光ノ持續セザル様配置スルモノトス

配電盤上ノ母線及接續線ハ定格全電流ヲ連續シテ通ズルモ其ノ最高溫度攝氏80度ヲ超エザルモノトス但シ電流容量2000「アンペア」未滿ノモノニ在リテハ最高溫度ハ75度ヲ限度トス

第十八條 各電壓計、表示燈、接地燈及其ノ接續線ハ各絶縁極ニ取附ケタル「ヒューズ」ニ依リ保護スルモノトス
開閉器ハ之ヲ開キタルトキ其ノ又又ハ可動部ガ帶電セザル様母線ニ接續シ又開閉器ト「ヒューズ」トヲ同一極ニ取附クル場合ニ在リテハ開閉器ノ開キタルトキ「ヒューズ」ガ帶電セザル様爲スベシ

第十九條 均壓線用開閉器及接續線ハ發電機ノ全負荷電流ノ $\frac{1}{2}$ ヨリ少カラザル電流容量ヲ有スルモノトス
接續線ガ各發電機ニ依リ異ル長サヲ有スルトキハ電壓降下ガ同一ナル様線ノ太サニ付適當ニ考慮スベキモノトス

第二十條 本章ノ規定ニ依リ單極開閉器又ハ「ヒューズ」附開閉器ヲ要スル場合ニ在リテハ該開閉器ハ當該装置中凡テ同一極ニ之ヲ取附クルコトヲ要シ又「ヒューズ」ト開閉器又ハ「ヒューズ」ト連繫開閉器トヲ要スル場合ニ於テハ便宜「ヒューズ」附開閉器又ハ「ヒューズ」附連繫開閉器ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

第四節 主開閉装置

第二十一條 各主配電盤ニハ少クトモ以下本節ノ規定ニ依ル開閉装置ヲ備フルコトヲ要ス

第二十二條 二線式ノ場合ニ於ケル開閉装置ハ次ノ各號ニ依ル

一、發電機一臺ナル場合

(イ) 發電機ニ對スル装置

單線接地式(兩線ヲ用ヒ其ノ一線ヲ裸線トシ接地セルモノヲ含ム)ニ在リテハ單極過負荷遮斷器又ハ單極「ヒューズ」及單極開閉器ヲ絶縁極ニ備フルコト

兩線絶縁式ニ在リテハ二極過負荷遮斷器又ハ「ヒューズ」及二極連繫開閉器ヲ備ヘ「ヒューズ」ハ各極ニ附スルコト

(ロ) 各送電回路ニ對スル装置

單線接地式ニ在リテハ單極「ヒューズ」及單極開閉器ヲ絶縁極ニ備フルコト

兩線絶縁式ニ在リテハ「ヒューズ」ヲ各極ニ備ヘ且單極開閉器ヲ同一極ニ備フルコト

二、發電機二臺以上ヲ使用シ並行運轉セラレザル場合

(イ) 各發電機ニ對スル装置

單線接地式ニ在リテハ單極過負荷遮斷器又ハ單極「ヒューズ」及單極開閉器ヲ絶縁極ニ備フルコト

兩線絶縁式ニ在リテハ二極過負荷遮斷器又ハ「ヒューズ」及二極連繫開閉器ヲ備ヘ「ヒューズ」ハ各極ニ附スルコト

(ロ) 各送電回路ニ對スル装置

單線接地式ニ在リテハ單極「ヒューズ」及單極切換開閉器ヲ絶縁極ニ備フルコト

兩線絶縁式ニ在リテハ「ヒューズ」ヲ各極ニ備ヘ且單極切換開閉器ヲ一極ニ備フルコト但シ切換開閉器ハ凡テ同極ニ備フルモノトス

三、發電機二臺以上ニシテ並行運轉セラルル場合

(イ) 分巻式ナルトキ各發電機ニ對スル装置

過負荷及逆流引外シ装置ヲ有スル遮斷器ヲ備フルコト但シ該遮斷器ハ單線接地式ニ在リテハ單極、兩線絶縁式ニ在リテハ二極ノモノトス

(ロ) 複巻式ナルトキ各發電機ニ對スル装置

過負荷及逆流引外シ装置ヲ有スル遮斷器及單極均壓開閉器ヲ備ヘ均壓開閉器ハ遮斷器ノ閉サルルニ先チ閉チ且主回路ガ遮斷セラルル迄開キ得ザル様装置スルコト又遮斷器ハ單線接地式ニ在リテハ單極、兩線絶縁式ニ在リテハ二極ノモノトス

(ハ) 各送電回路ニ對スル装置

單線接地式ニ在リテハ單極「ヒューズ」及開閉器ヲ絶縁極ニ備フルコト

兩線絶縁式ニ在リテハ「ヒューズ」ヲ各極ニ備ヘ且單極開閉器ヲ一極ニ備フルコト但シ開閉器ハ凡テ同一極ニ附スルモノトス

第二十三條 三相三線式又ハ四線式ノ場合ニ於ケル開閉装置ハ次ノ各號ニ依ル

一、各發電機ニ對スル裝置

少クトモ二極ニ過負荷引外シ裝置ヲ有スル三極遮斷器ヲ備フルコト

二、各送電回路ニ對スル裝置

(イ) 三相ヨリ供給ヲ受クル三線式ニ在リテハ少クトモ二極ニ過負荷引外シ裝置ヲ有スル三極連繫遮斷器ヲ備フルコト但シ其ノ回路ニ電動機ヲ有セザル場合又ハ回路ニ於ケル電動機ガ小形ノモノナル場合ニハ各極ニ「ヒューズ」ヲ有スル三極ノ連繫開閉器ヲ備フルコト

(ロ) 二相ノ一相ト中性線ヨリ供給ヲ受クル二線式ニ在リテハ二極負荷引外シ裝置ヲ有スル遮斷器又ハ各極ニ「ヒューズ」ヲ有スル二極連繫開閉器ヲ備フルコト

(ハ) 三相ノ一相ト中性線ヨリ供給ヲ受クル三線式ニ在リテハ單極「ヒューズ」及單極開閉器ヲ絶縁極ニ備フルコト

(ニ) 三線又ハ二線回路ニ供給スル區分電盤又ハ分電盤ニ供給セラルル四線式ニ在リテハ各相ニ過負荷引外シ裝置ヲ有スル三極遮斷器又ハ各相ニ「ヒューズ」ヲ有スル三極連繫開閉器ヲ備フルコト

前項ノ規定ニ依ル「ヒューズ」又ハ開閉器ハ中性線ニ之ヲ挿入スベカラズ但シ試験用ノ爲單獨ナル連繫トシテ之ヲ置クコトハ妨ナシ

第五節 計 器

第二十四條 主配電盤ニハ少クトモ以下本節ノ規定ニ依リ計器ヲ備フベシ

第二十五條 二線式ノ場合ニ於ケル計器ハ次ノ各號ニ依ル

一、發電機一臺ナル場合

電壓計及電流計各一個

二、發電機二臺以上ヲ使用シ竝行運轉セラレザル場合

各發電機ニ電壓計及電流計各一箇

三、發電機二臺以上ニシテ竝行運轉セラルル場合

電壓計二箇及各發電機毎ニ電流計一箇尙交流發電機ニ在リテハ竝行運轉用同期裝置一組

複巻發電機ニ在リテハ電流計ハ均壓線ヲ接續シタル極ノ反對極ニ取附クベシ、電壓計ハ其ノ中一箇ハ連繫二極複式開閉器又ハ「プラグ」ヲ裝備シ

之ニ依リ任意ノ發電機ガ回路ニ接續セラルル前發電機ト連結セシメ得ルモノト爲シ他ノ一箇ハ母線ト連結シタルモノト爲スモノトス

第二十六條 直流三線式ノ場合ニ於ケル計器ハ前條ニ依リ二線式ニ要スルモノノ外中性線ト各外側母線トノ間ニ電壓計一箇及主中性線ニ中央零位ナル電流計一箇ヲ備フルモノトス

第二十七條 三相交流式ノ場合ニ於ケル計器ハ次ノ各號ニ依ル

一、發電機ガ一臺ナル場合又ハ二臺以上ヲ使用シ竝行運轉セラレザル場合ニ於テハ各發電機毎ニ各相ノ電流ヲ讀ミ得ル様電流計ヲ備ヘ且發電機ニ電壓計一箇ヲ備フルコト

二、發電機ガ二臺以上ニシテ竝行運轉セラルル場合ニ於テハ各發電機ノ各相ニ電流計一箇宛竝ニ電壓計二箇、周波計一箇及竝行運轉用同期裝置ヲ備フルコト

電壓計ハ其ノ中一箇ハ連繫二極複式開閉器又ハ「プラグ」ヲ裝備シ之ニ依リ任意ノ發電機ガ回路ニ接續セラルル前發電機ノ一相ニ連結セシメ得ルモノトシ他ノ一箇ハ母線ノ一相ニ連結シタルモノト爲スモノトス
電壓計ノ連結ハ總テ各發電機ノ同一位相ニ行ハルベキモノトス

第二十八條 主配電盤ニハ一極ヲ永久的ニ接地シタル場合ヲ除クノ外電燈電壓計又ハ其他ノ方法ニ依リ回路ノ絶縁状態ヲ表示スル適當ノ裝置ヲ備フベシ
100「キロワツト」以上ノ裝置ニ在リテハ500「ボルト」ノ「メツガー」ヲ備ヘ定期ニ絶縁状態ヲ検査スルコトヲ要ス

第六節 開閉器及遮斷器

第二十九條 開閉器及遮斷器ノ各部ハ定格電流ヲ連續流通セシムルモ其ノ最高溫度ハ攝氏80度ヲ超エザルモノトス但シ2,000「アンペア」未滿ノ定格電流ノモノニ在リテハ攝氏75度ヲ限度トス

第三十條 遮斷器ハ負荷ノ如何ニ拘ラズ過度ノ弧光ヲ生ズルコトナク遮斷シ又船體ノ動搖、振動ニ依リ自動的ニ開クコトナキ構造ノモノトス

第三十一條 「ヒューズ」トシテ回路ヲ遮斷スル「ヒューズ」附開閉器及遮斷器ニ付テハ「ヒューズ」器ニ關スル第三十三條ノ規定ヲ準用ス
遮斷器ノ過電流引外シ裝置ハ次ノ各號ノ電流ニ於テ作動スル様調整スルヲ可

トス

- 一、電纜ニ於テハ其ノ使用電流ノ 1.25 倍ノ電流
 - 二、發電機及短時間定格回路ニ於テハ使用電流ノ 1.5 倍ノ電流
 - 三、操舵機及非常用回路ニ於テハ使用電流ノ 2.0 倍ノ電流
- 逆電流又ハ逆電力(交流ノ場合)ノ引外シ装置ハ發電機ノ全負荷値ノ 15% 以内ニテ作動スル様調整スルヲ可トス

第三十二條 開閉器及遮斷器ノ臺ハ不燃性ノ絶縁體ニシテ不吸收性ナル物質ヲ以テ構成スルモノトス

配電盤上ニ在ラザル開閉器ハ不燃性ノ覆蓋ヲ以テ蔽圍シ且機械的損傷ヲ受ケザル様之ヲ保護スルモノトス

125「ボルト」以上ノ電壓ニテ 6「アンペア」以上ノ電流ヲ通ズル開閉器ノ金屬製外函ニハ不燃性絶縁物ヲ以テ内張スルカ又ハ適當ナル方法ヲ講ズルモノトス

雨露又ハ強度ノ濕氣ニ暴露スル場所ニ設置スル開閉器ハ防水函内ニ之ヲ納ムルモノトス

第三十三條 「ヒューズ」器ハ次ノ各號ノ規定ニ適合スルコトヲ要ス

- 一、「ヒューズ」ノ熔解電流ハ該「ヒューズ」ヲ以テ保護スベキ最小電纜ノ最大許容電流ノ 2 倍ヲ超エザルコト
- 二、各「ヒューズ」器ニハ適當ナル不燃性絶縁體ノ「ヒューズ」支持具ヲ備ヘ之ニ保護セラルベキ電纜ノ最大許容電流ヲ標示スルコト
- 三、接觸點及其ノ端子ハ「ヒューズ」ガ切斷シタルトキ弧光ノ持續セザル様互ニ間隔ヲ保タシムルカ又ハ遮蔽ヲ設ケテ之ヲ保護スルコト
- 四、「ヒューズ」ハ撥動開閉器、壁附挿込受口又ハ紐線吊ニ之ヲ取附ケザルコト
- 五、「ヒューズ」ハ配電盤ニ取附ケラレザル場合ニハ區電盤、分電盤又ハ保護筐内ニ之ヲ集ムルコト

第七節 接續函、區電盤及分電盤

第三十四條 接續函、區電盤及分電盤ノ構造ニ付テハ第三節ノ規定ヲ適用ス

第三十五條 區電盤又ハ分電盤ハ船内ノ別箇ノ區畫又ハ場所ニ設置スル場合ヲ

除クノ外總テ保護函内ニ納ムルモノトス

第三十六條 前條ノ保護函ハ之ヲ金屬製ト爲スベシ但シ居住區域ニ設クルモノハ之ヲ木製ト爲スコトヲ得

金屬製函ハ開閉器及「ヒューズ」(密閉式ナルト否トヲ問ハズ)ニ面スル部分ハ不燃性絶縁物ヲ以テ内張シ函内ノ帶電部ハ總テ之ト 20 耗以上隔離スルモノトス

木製函ハ不燃性ノ物質ヲ以テ内張シ函内ノ帶電部ハ總テ之ト 13 耗以上隔離スルモノトス但シ「チーク」其ノ他ノ堅材ヲ以テ製造シタルモノハ内張ヲ要セズ

雨露又ハ強度ノ濕氣ニ暴露スル場所ニ設置スベキ函ハ總テ防水構造ト爲シ電纜引込用「グラウンド」ヲ備フルモノトス

第三十七條 接續筐ハ濕氣ニ犯サルル虞アル箇所ニ於テハ總テ防水型ト爲スモノトス

第八節 導線

第三十八條 導體ハ總テ第二附屬規程第一節ニ規定スル軟銅線ナルコトヲ要ス」導體ノ絶縁被覆ガ硫黄ヲ含有スルモノナルトキハ不純物ヲ含有セザル錫ヲ以テ各線ヲ有效ニ且一様ニ鍍金スルコトヲ要ス

導體ノ太サ及構成ハ「ゴム」絶縁電纜ニ在リテハ別表第一表又ハ第二表ニ依リ、紙絶縁電纜ニ在リテハ別表第三表又ハ第四表ニ依ルモノトス

第三十九條 斷面積 1 平方耗未滿ノ導線ヲ有スル電纜ハ之ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ裝飾用電氣器具類ノ布線ニ在リテハ其ノ導線ノ斷面積ヲ 0.4 平方耗迄減ズルコトヲ得

有效斷面積 2.1 平方耗ヲ超ユル導線ハ撚線ト爲スモノトス

磁氣ヲ帶ブルコトアル材料ヲ以テ鍍裝シタル單心線ハ交流ニ之ヲ使用スベカラズ

第四十條 導體ハ最大負荷ニテ主配電盤上ノ母線ト該装置中ノ各點トノ間ニ於ケル電壓降下ガ點燈回路ニ在リテハ母線電壓ノ 4%ヲ、動力及電熱用回路ニ在リテハ母線電壓ノ 6%ヲ、又主電流及電池電流ニ依リ交互ニ使用スル無線用回路ニ在リテハ母線電壓ノ 1%ニ 1「ボルト」ヲ加ヘタルモノヲ超エザル

様其ノ太サヲ定ムルコトヲ要ス但シ電流ハ各導線ノ太サニ對シ別表第六十八表乃至第七十三表ニ掲グル許容電流ヲ超エザル様爲スベシ

第四十一條 電纜ガ束ニテ布設セララルトキハ過熱セラレザル様前條ノ電流許容量ヲ減ズルモノトス

第四十二條 揚錨機、「キャプスタン」等ニ用フル電動機ニ送電スル電纜ハ當該電動機ノ最大容量ニ對シ一時間定格トス但シ揚貨機又ハ操舵機ニ用フル電動機ニ付テハ半時間定格ト爲スコトヲ得
揚貨機ノ一群ニ對シ送電スル電纜ハ電動機各箇ノ同時負荷ヲ考慮シテ其ノ大サヲ定ムルモノトス

第九節 電纜ノ絶縁及保護被覆

第四十三條 電纜ノ絶縁ハ第二附屬規程第二節ノ規定ニ依ルコトヲ要ス

第四十四條 電纜ハ其ノ種別ニ應ジ第二附屬規程第三節ノ規定ニ依ル絶縁耐力試験、絶縁抵抗試験及彎曲試験ニ合格ノモノナルコトヲ要ス

第十節 電纜ノ布設及取附

第四十五條 電纜ハ成ルベク水又ハ油ノ滴下又ハ停滯スルコトナク汽罐、汽管等ニ依ル高熱ニ暴露セズ且取扱容易ナル場所ニ之ヲ布設スルコトヲ要シ尙機械的損傷ヲ受ケザル様適當ニ之ヲ保護スルコトヲ要ス

電纜ハ成ルベク眞直ニ布設シ「ゴム」絶縁電纜ニ在リテハ其ノ徑ノ6倍、紙絶縁電纜ニ在リテハ其ノ徑ノ3倍ヨリ小ナル半徑ヲ以テ之ヲ屈曲セザルモノトス

第四十六條 機械室、厨室、洗濯室、浴室及雨露又ハ海水ニ暴露スル場所ニ布設スル電纜ハ鉛被ヲ施シタルモノナルコトヲ要シ之ニ鎧裝ヲ施シ又鎧裝上ニ編組ヲ施スコトヲ得

前項ノ電纜ハ鉛被ヲ施ス代リ「ゴム」絶縁電纜ヲ金屬管中ニ納メテ布設シ若ハ「ゴム」裝線ヲ使用スルコトヲ得

冷凍室ニ引込ム電纜ハ該室防熱被覆ニ直角ニ通ジ兩端ニ鍔ヲ有スル全通鉛管又ハ亞鉛鍍鐵管ヲ以テ保護スルモノトス

冷凍室内ニ布設スル電纜ハ「ゴム」裝線又ハ完全ニ接地シタル鉛被線ヲ使用シ磁器、堅材其他非金屬耐濕性物質ノ「クリツブ」ヲ以テ之ヲ支持スルコト

ヲ要シ防熱被覆中ニ之ヲ埋設スルコトヲ得ズ但シ鎧裝線ヲ使用スルトキハ亞鉛鍍鐵製ノ「クリツブ」ヲ以テ之ヲ支持スルモ妨ナシ

第四十七條 船内通信用電纜ハ容易ニ認識セラレ且他ノ回路ヲ妨グルコトナキ様布設スルモノトス

第四十八條 鎧裝線、鉛被線又ハ「ゴム」裝線ハ金屬製扣金具ニ依リ次表ニ掲グル間隔ヲ標準トシ之ヲ取附クルモノトス

電纜ノ外徑(耗)	「クリート」又ハ「クリツブ」ノ標準間隔(釐)	
	鉛被線又ハ「ゴム」裝線ナルトキ	鎧裝線ナルトキ
7.5 以下	20	25
7.5 ヲ超エ 12.5 以下	25	30
12.5 " 19 "	30	35
19 " 32 "	35	40
32 ヲ超ユルモノ	40	45

第四十九條 電纜ノ金屬被覆ハ其ノ全長ヲ通ジテ電氣的ニ連續スル様適當ノ方法ヲ講ズルモノトス

鉛被線又ハ鉛被鎧裝線ノ鉛及鎧裝用鋼線ハ兩端ニ於テ完全ニ接地スルコトヲ要ス但シ最終回路ニ於テハ供給側ノ一方ノミ接地スルモノトス
前項ノ接地ハ縮金、鐵附又ハ此ノ目的ノ爲特ニ設計シタル「グラウンド」ニ依リ之ヲ實施スルモノトス

第五十條 交流ノ通ズル電纜ト直流ノ通ズル電纜トハ特別ノ場合ノ外互ニ隔離スルモノトス

直流ナルトキハ反對極ノ電纜ハ同一導管内ニ於テ之ヲ束ヌルコトヲ得又交流ナルトキハ往復線ハ同一ノ導管内ニ之ヲ束ヌルモノトス
木製樋ヲ以テ電纜ヲ保護スル場合ニ於テハ同極ノ電纜ハ之ヲ束ヌルコトヲ得鉛被線及鎧裝線ハ極ノ如何ニ拘ラズ之ヲ束ヌルコトヲ得

第五十一條 電纜ノ導管ニハ検査筐及引出筐ヲ裝置シ且總テノ接續ヲ通ジテ電氣的及機械的ニ連續セララルコトヲ要シ又完全ニ接地スルコトヲ要ス
導管ニハ其ノ最高及最低ノ位置ニ通風口ヲ設ケ空氣ノ流通ヲ十分ナラシメ且水分ガ何レノ部分ニモ滯留セザル様裝置スベシ

導管ノ屈曲部ノ内側半径ハ 32 耗ヨリ小ナラザルモノトス

一導管内ニ於ケル電纜ノ數ハ電纜ヲ容易ニ引込ミ得ル程度トシ又電纜ヲ出入スベキ導管ノ口ニハ電纜ノ擦傷ヲ防グ爲適當ナル「ブツシュ」ヲ備フルコトヲ要ス

第五十二條 木製種ハ乾燥シタル場所ニ限り電纜保護用トシテ之ヲ使用スルコトヲ得、其ノ覆又ハ蓋ハ眞鍮螺釘ヲ以テ之ヲ取附ケルモノトス
木製種ハ電纜ガ容易ニ近寄り得ルコトヲ妨ゲラレザル限り裝飾的木造物ノ一部ヲ形成セシムル様之ヲ構造スルコトヲ得但シ他ノ種ヨリノ電纜ガ交叉スル場合ニ於テハ成ルベク絶縁物ヲ以テ相互ニ隔離スル様注意スルモノトス
通信用電纜ハ電燈又ハ動力用ノ電纜ト同一種内ニ之ヲ設置セザル様爲スモノトス

第五十三條 大ナル「ゴム」絶縁電線相互ノ接続ハ總テ接続函ニ於ケル螺止「スリーブ」又ハ「テイー」等ニ依リ又小ナル電纜相互ノ接続及小ナル電纜ト可撓紐線トノ接続ハ適當ナル受器内ニ於テ締附接続ノ方法ニ依ルモノトス但シ電燈器具ノ場合ニ於テハ其ノ一部ヲ受器ト爲スコトヲ得
可撓紐線相互ノ接続ハ之ヲ爲スコトヲ得ズ
鉛被紙絶縁電纜相互ノ接続ハ「ゴム」絶縁電纜ノ場合ト同一ノ方法ニ依リ之ヲ行ヒ接続端ノ絶縁體ニ濕氣ヲ受ケザル様適當ニ封ズルカ又ハ導線ヲ銅「スリーブ」ニ依リ接合シ其ノ全體ヲ鐵附スルモノトス
前項後段ノ接続部ハ使用直前ニ含浸シタル紙又ハ純木綿ノ「テープ」ヲ以テ纏卷シ之ヲ函内ニ納ムルモノトス、一層良好ナル方法トシテハ上記ノ如ク被覆シタル上鉛「スリーブ」又ハ「テイー」ニテ包ミ該受器内ニ防濕性絶縁混和物ヲ填充スルヲ可トス
前項ノ鉛「スリーブ」及「テイー」ニハ接合完了後強靱ナル彈性「エナメル」ヲ二回塗裝スルコトヲ要ス

第五十四條 電纜ガ甲板又ハ水密隔壁ヲ貫通スル部分ニハ甲板管又ハ水密「グランド」ヲ備フルコトヲ要ス
無鐵裝電纜ガ梁又ハ非水密隔壁ヲ貫通スル場合ニ於テハ其ノ貫通スル孔ニ鉛又ハ其ノ他ノ軟質非鐵物質ノ「ブツシュ」ヲ備フルコトヲ要ス

第十一節 配 線

第五十五條 電燈其ノ他小電流用ノ装置ハ之ヲ 15「アンペア」以下ノ最終回路ニ併合スルコトヲ得但シ各最終回路内ニ於ケル電燈其ノ他ノ装置ノ數ハ十箇ヲ超ユルコトヲ得ズ

前項ノ最終回路ハ小分電盤ヨリ分岐スルモノトス

各小分電盤及 15「アンペア」ヨリ大ナル電流ヲ要スル各電燈其ノ他ノ電氣装置ハ區分電盤又ハ主分電盤ヨリ別途ニ分岐スルモノトス

各區分電盤又ハ主分電盤ハ順次ニ更ニ大ナル電流ニ對スル分電盤又ハ主配電盤ヨリ分岐スルモノトス

第五十六條 機關室ニ於ケル回路及旅客船ノ端艇甲板ニ通ズル廊下及階段ニ於ケル回路ハ何レノ一箇ノ「ヒューズ」ガ切レタル場合ニ於テモ其ノ場所ガ暗黒トナラザル様装置スルモノトス

第五十七條 分電盤又ハ區分電盤ヨリ出ヅル回路ハ各極ニ於ケル「ヒューズ」又ハ遮斷器ニ依リ保護セラルルコトヲ要ス又 100「アンペア」以上ノ二線式回路ニ在リテハ一極ハ開閉器ニ依リ管制セラルル装置ト爲スモノトス

第五十八條 「ヒューズ」又ハ開閉器ハ接地シタル極又ハ接地シタル導線ヨリ導キタル極ニ連結スベカラズ又三線式及三相四線式ノ中性線ハ接地ノ有無ニ拘ラズ「ヒューズ」又ハ開閉器ニ依リ遮斷スベカラズ

第五十九條 直流ナルト交流ナルトヲ問ハズ三線式ノ中性線ハ電壓ノ如何ニ拘ラズ一點又ハ多クノ點ニ於テ接地スルコトヲ得但シ電壓ガ 250「ボルト」ヲ超ユルトキ(直流ノ場合ニ限り許サル)ハ中性線ハ少クトモ一點ニ於テ確實且永久的ニ接地スルモノトス

第六十條 常時電流ノ通ラザル接地用導線ニハ銅線ヲ用ヒ其ノ斷面積ハ次ノ各號ニ依ルベシ

一、電線ノ斷面積ガ 4.5 平方耗以下ナルトキハ之ト同面積以上但シ 1.95 平方耗未滿ナルコトヲ得ズ

二、電線ノ斷面積ガ 4.5 平方耗ヲ超ユルトキハ電流 50「アンペア」又ハ其ノ未滿毎ニ 4.5 平方耗ノ割合以上但シ 64.5 平方耗ヨリ大ナルコトヲ要セス

第六十一條 單線式ニ於テ船體ニ接続スル導線ハ絶縁極ニ接続スル導線ト同一

斷面積ヲ有スルモノトス

前項ノ導線ハ徑 9.5 耗ヨリ小ナラザル眞鍮螺釘ト錫鍍金シタル眞鍮座金トヲ以テ取扱ヒ易キ場所ニ有效ニ取附クベシ

第六十二條 二線式回路ニ 250「ボルト」ヲ超ユル電壓(直流ノ場合ニ限リ許サル)ヲ以テ送電スル場合ニ於テハ次ノ各號ノ規定ニ依ルコトヲ要ス

- 一、發電機又ハ電動機ハ開放型ナルコトヲ得ズ
- 二、電動機以外ノモノニ對シ送電スルコトヲ得ズ、電動機ニシテ可搬式ノモノ又ハ 3 馬力未滿ノモノニ對シ亦同ジ
- 三、帶電部以外ノ金屬製ノ部分ハ有效ニ接地スベシ
- 四、布線ハ鉛被鎧裝電纜又ハ編組鎧裝電纜トシ鎧裝及鉛被ハ共ニ電氣的ニ連續セシメ且完全ニ接地スベシ
- 五、電動機及其ノ附屬品ハ通常ノ取扱ニ際シテ感電スルコトナク且火災ノ危険ナキ様蔽圍保護セラレタル構造ト爲スベシ
- 六、配電盤ハ總テ適當ニ保護セラレ不慮ニ接觸スルノ危険ナカラシムベシ

第六十三條 三線式ニシテ外側線間ノ電壓ガ 250「ボルト」ヲ超ユル場合ニ於テハ携帶器具又ハ其ノ附屬品ノ使用セラルル場所又ハ一區畫内ニ於ケル任意ノ二點間ノ電壓ハ 250「ボルト」ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ携帶器具又ハ其ノ附屬品ヲ互ニ 1.5 米以内ニ接近セシメ得ザル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第十二節 特殊ノ設備又ハ場所ニ對スル裝置

第六十四條 發電機、電動機、二次電池、抵抗及其ノ他使用中外部磁場ヲ生ズル裝置ハ總テ羅針儀ニ有害ナル影響ヲ及サザル位置ニ設置スルコトヲ要ス前項ニ規定スル條件ハ羅針儀調整ノ場合ニ於テ試驗シテ之ヲ確メ、計測シタル誤差ノ記録ヲ保存スルコトヲ要ス

第六十五條 直流單線式回路ハ標準羅針儀又ハ操舵羅針儀ヨリ 9.15 米未滿ノ距離ニ之ヲ布敷スルコトヲ得ズ

二線式ニ在リテハ往復電流ヲ互ニ中和セシムル爲メ羅針儀ノ附近ニ於ケル導線ハ成ルベク二心電纜ト爲スベシ若シ分離シタル導線ヲ使用スルトキハ之ヲ互ニ接近セシメ且全長ニ互リ各線ヲ羅針儀ヨリ等距離ニ布設スルモノトス

第六十六條 羅盤函内ノ導線ハ出來得ル限リ短キ直線ト爲シ導線ガ分離シタル

モノナル場合ニ於テハ互ニ撚合スコトヲ要シ之ヲ螺旋狀ニ卷クベカラズ

第六十七條 羅針照明用電燈ノ電流ハ 0.6「アンペア」ヲ超ユルコトヲ得ズ

前項ノ電燈ハ其ノ帶電部ガ羅針儀ノ磁石ヨリ 180 耗未滿ノ距離ニ在ラザル様之ヲ設置スルモノトス

第六十八條 船燈ハ燈毎ニ獨立ノ配線ヲ備ヘ各別ノ開閉器及「ヒューズ」ニ依リ制御セラルル裝置ト爲スコトヲ要シ開閉器及「ヒューズ」ハ一分電盤ニ集メ當直運轉士ノ取扱ヒ易キ場所ニ設置スルコトヲ要ス

船燈ニハ燈火ノ減シタルトキ自動的ニ之ヲ表示スル裝置ヲ備フベシ

第六十九條 木製檣又ハ上檣ヲ備フル船ノ各檣ニハ避雷針ヲ裝備スルコトヲ要ス

避雷針ノ導體ハ斷面積 9 平方耗以上ノ銅索又ハ銅帶トシ檣頭ノ銅製避雷針ニ取附ケ下部ハ最モ近キ船體金屬部ニ連結スルコトヲ要ス、銅索ヲ靜索ニ沿ヒ取附クルトキハ其ノ徑ヲ 12 耗以上ト爲スベシ

導體ノ抵抗ハ檣頭ト接地端子間ニ於テ 0.02「オーム」ヲ超ユベカラズ

第七十條 暴露甲板、汽罐室、機械室其ノ他露滴又ハ濕氣ニ暴露スル場所ニ設次置スル電燈、開閉器其ノ他ノ器具ハ防水型ト爲スベシ

電燈器具ハ易燃性若ハ爆發性ノ塵若ハ瓦斯ノ存在シ易キ場所又ハ易燃性物質ヲ貯藏スル場所ニ使用スルモノニ在リテハ之ヲ耐爆型ト爲シ開放型ト爲スベカラズ

開閉器其ノ他ノ電氣器具ニシテ使用ノ際弧光ヲ發生シ易キモノハ石炭庫其ノ他易燃性若ハ爆發性ノ塵若ハ瓦斯ノ存在シ易キ場所ニ之ヲ設置スルコトヲ得ズ

第七十一條 弧光燈ノ回路ニハ各絶緣極ニ「ヒューズ」及開閉器ヲ備ヘ二極以上絶緣シタル回路ニ在リテハ開閉器ハ連繫式ト爲スベシ

弧光燈ハ可燃物ヲ貯藏スル場所又ハ易燃性瓦斯ノ蓄積スル處アル場所ニ之ヲ設置スルコトヲ得ズ

第七十二條 移動燈ノ金具ハ其ノ可撓紐線ニ含マレタル接地線ニ依リ接地スルヲ可トス

小形ノ電燈受金ハ低電壓式ノ場合ニ限リ之ヲ使用スルコトヲ得

第七十三條 煖房又ハ炊事用ノ電熱装置ハ取扱者ノ操作スル部分ガ攝氏 54 度ヲ超ユル温度ニ上ラザル構造ノモノナルコトヲ要ス

電熱器用電熱帶及開閉器竝ニ外部導線ノ取附ニハ鐵附ヲ用フルコトヲ得ズ、煖房又ハ炊事用器具ハ總テ絶縁ヲ施サザル各部ヲ接地スル適當ナル装置ヲ備フルコトヲ要ス

煖房又ハ炊事用器具ハ移動式タルト固定式タルトヲ問ハズ固定シタル開閉器ニ依リ操作シ且各絶縁極ニハ「ヒューズ」ヲ備フルコトヲ要ス

第七十四條 煖房器ノ各帶電部ハ損傷又ハ短絡セザル様適當ナル構造ト爲スペシ

直接輻射ニ依リ加温スル煖房器ハ公室内ニ限リ之ヲ使用スルコトヲ得

第七十五條 煖房及炊事装置ノ附近ニ於ケル易燃性材料ハ總テ適當ナル防火材料ヲ以テ之ヲ保護スルコトヲ要ス

煖房及炊事用電熱装置ノ各部分ハ總テ甲板又ハ隔壁トノ間ニ 50 耗以上ノ空隙ヲ存スルモノトス

第十三節 點燈及動力用二次電池

第七十六條 點燈用又ハ動力用ノ二次電池ハ船體ノ動搖ニ因リ移動シ又ハ電解液ノ散出スルコトナキ様適當ナル構造、配電及取附ト爲スモノトス

第七十七條 電池室ハ充電及放電ノ際瓦斯ノ蓄積セザル様吸氣及排氣装置ヲ以テ通氣ヲ十分良好ナラシムルモノトス

電池ニ酸ヲ使用スルトキハ電池ノ下部ニ當ル甲板ニハ鉛ヲ張り尙船體構造部ニ酸又ハ酸氣ノ接觸セザル様適當ニ保護スルモノトス

第七十八條 酸電池室内ニ於ケル總テノ導線ハ裸導線又ハ鉛被電纜ト爲スペシ開閉器、「ヒューズ」其ノ他弧光ヲ生ジ易キモノハ電池室内ニ之ヲ装置スベカラズ

導體ハ電池室内ニ於テハ絶縁物ニ依リ隔壁ヨリ少クとも 75 離シテ布設スルモノトシ「ヒューズ」ハ電池室外ノ手近ノ場所ニ裝備シ導體ヲ甲板又ハ隔壁ヲ通ス箇所ニハ密着スル様「ブツシュ」ヲ入ルルコトヲ要ス

第七十九條 電池ノ充電ハ自動的ニ開閉スル開閉器及「ヒューズ」又ハ逆電流繼電器附過負荷遮斷器ヲ以テ制御セララルモノトス

第十四節 引火點攝氏 65 度未滿ノ油ヲ積載スル船舶ニ對スル特別規定

第八十條 引火點攝氏 65 度未滿ノ油ヲ積載スル船舶ニ於ケル電氣装置ハ本章前諸條ニ依ルノ外本節ノ規定ニ依ル

第八十一條 供給電壓ハ次ノ各號ニ掲グルモノヲ超ユルコトヲ得ズ

一、直流ナルトキ

甲、動力用 220 ボルト

乙、點燈用及電熱用 110 ボルト

二、交流ナルトキ

總テノ用途ニ對シ 110 ボルト

第八十二條 主配電盤ヨリ出ヅル各回路及「ヒューズ」附接續盤又ハ區分電盤ヲ制御スル各分岐回路ニハ二極連繫開閉器ヲ備フルモノトス

接續函區分電盤及分電盤用ノ函ハ高級船員室區域ニ於ケルモノヲ除キ總テ金屬性ト爲シ電纜引込口ニ水密「グラウンド」ヲ備フルモノトス

第八十三條 「ヒューズ」ハ藥莢形包裝式ノモノヲ使用スルモノトス

第八十四條 電纜ハ居住室ニハ鉛被線又ハ「ゴム」裝線ヲ使用シ得ルモ其ノ他ノ場所ニ於テハ機械的損傷ヲ防グ爲ノ保護装置ノ有無ニ拘ラズ鉛被鎧裝線又ハ「ゴム」裝網代鎧裝線ヲ使用スルモノトス

第八十五條 配線ハ各極ニ絶縁シタル別箇ノ導線ヲ有スル二線式ト爲シ其ノ何レノ部分モ接地セザルモノトス

移動燈ノ金具ハ其ノ可撓紐線ニ含マレタル接地線ニ依リ接地スルコトヲ要ス

甲板上又ハ常設歩路下ニ布設スル電纜ハ溝形鋼又ハ鑄接シタル亞鉛鍍鐵管ニ配置シ船體ノ伸縮及船内ノ作業ニ對シ支障ヲ生ゼザル様適當ノ装置ヲ爲スモノトス

電纜ヲ鐵管内ニ布設スル場合ニハ電纜ノ合計斷面積ハ成ルベク管ノ横截面積ノ $\frac{1}{3}$ ヲ超エザル様爲スモノトスモノトス

第八十六條 電動機及管制装置ハ油槽ニ接スル暴露甲板上ニ据附クルモノニ在リテハ防火型ト爲シ其ノ他ノ甲板上ニ備フルモノニ在リテハ水密型ト爲スモノトス

第八十七條 油槽、防油區畫及「ポンプ」室ニハ電燈、配線其ノ他一切ノ電氣裝置ヲ設クルコトヲ得ズ

前項ノ場所ヲ電燈ニ依リ照明スル場合ニ於テハ配線ハ總テ外部ニ設ケ電燈ハ氣密ニ裝置シタル硝子球ヲ以テ内部ト隔離スルコトヲ要ス

甲板間ノ場所及油槽ニ隣接スル場所ニ於ケル電燈ハ之ヲ氣密器具内ニ、配線ハ氣密管内ニ收メ其ノ開閉器ハ外部ニ設クルコトヲ要ス

開閉器ハ何レノ場合ニ於テモ二極ト爲スベシ

第八十八條 油槽、防油區畫又ハ「ポンプ」室ニ於テ使用スル携帯電燈ハ特ニ本會ノ承認ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス

第十五節 試 驗

第八十九條 電氣裝置ハ完成シタルトキ第九十條及第九十一條ノ規定ニ依リ試驗スルコトヲ要ス

第九十條 絶縁抵抗ハ電線ト大地トノ間ニ於テ電燈回路ニ在リテハ次ノ算式ニ依ルモノヨリ小ナルベカラズ但シ最終回路ノ絶縁抵抗ガ1「メガオーム」ヲ超ユルコトヲ要セザル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

$$R = \frac{10}{N}$$

R ハ絶縁抵抗（「メガオーム」ニテ）

N ハ當該回路上ノ電燈ノ數

發電機、電動機、電熱器、電燈、附屬管制裝置、開閉器、抵抗器等ヲ含ム全絶縁抵抗ハ $\frac{1}{2}$ 「メガオーム」ヨリ小ナラザルコトヲ要ス

第九十一條 電氣裝置ハ之ヲ一體トシテ其ノ使用状態ニ於テ相當時間繼續シテ試運轉ヲ行ヒ發電機、電動機等ヲ十分試験スベシ

前項ノ試運轉執行中開閉器ノ遮斷器ハ總テ作動試験ヲ爲シ又電燈、電熱器及其ノ他ノ施設ニ付テモ検査員ノ適當ト認ムル試験ヲ執行スルコトアルベシ

第十六節 豫 備 品

第九十二條 各種ノ發電機並ニ空氣壓縮機、送風機、燃料油「ポンプ」、冷却水「ポンプ」、複水器「ポンプ」、空氣「ポンプ」、給水「ポンプ」、消火「ポンプ」、塗水「ポンプ」、油分離機、強壓通風機、操舵機、揚錨機其ノ他重要ナル補機

用電動機ニハ次ノ各號ニ依リ豫備品ヲ備フルコトヲ要ス

一、發電機及電動機

刷子保持器 同型ノ機械毎ニ 二箇

刷 子 機械一臺毎ニ 一臺分 (同型ノモノニ付テハ三臺分ニ止ム)

二、操舵機用電動機及電動發電機ニシテ豫備ノ機械ヲ備ヘザル場合

電 機 子 各種一箇

界 磁 卷 線 各種一箇

三、電動機用起動裝置

接 觸 片 (火花ヲ發生スルモノニ限ル) 各種一組

發 條 各種一組

抵 抗 片 十箇ニ付一箇但シ各種ニ付少クトモ一箇

卷 線 (絶縁シタルモノ) 各種一箇

四、配電盤及分電盤類

接 觸 片 (火花ヲ發生スルモノニ限ル) 一 組

發 條 一 組

分卷引外線輪 一 箇

抵 抗 片 各種一箇

「ヒューズ」(「ケース」附)

取換ヘ得ザルモノニ付テハ總數ノ $\frac{1}{10}$ 但シ最少十二箇

取換ヘ得ルモノニ付テハ總數ノ $\frac{5}{100}$ 但シ十二箇ニ止ムルコトヲ得

航海燈、信號燈及非常用燈ハ豫備ノモノ若干ヲ備フルコトヲ要ス

第一 附 屬 規 程

發電機、電動機、制御裝置及抵抗ニ關スル規程

第一條 發電機及電動機ガ連續定格及短時間定格ニテ運轉セラレタル後溫度計ヲ用ヒ測定シタル各部分ノ溫度上昇ハ次表ニ定ムル限度ヲ超ユベカラズ

欄	機 械 ノ 部 分	外 被 ノ 型 種	溫度上昇限度(攝氏度)	
			A種絶縁	B種絶縁
1	巻 線	全閉型=非ザルモノ	50	70
		全閉型	55	75
2	鐵心其ノ他機械的部分ニシテ絶縁物ニ接近スル部分	全閉型=非ザルモノ	50	70
		全閉型	55	75
3	露出セル巻線又ハ接続導體	全閉型=非ザルモノ	60	80
		全閉型	65	85
4	整流子竝ニ集電環	各 型	65	85
5	軸 受	外部ヨリ溫度ヲ測定スルモノ	40	
		軸受「メタル」中ニ溫度計先端ヲ埋入シタルモノ	45	

備 考 本表ハ周圍溫度攝氏 40 度ナル場合ニ之ヲ適用ス周圍溫度ガ 40 度ヲ超ユル場所ニ於テ使用スル機械ニ對シテハ其ノ超過溫度ヲ表ニ掲グル溫度ヨリ減ジタルモノヲ以テ溫度上昇ノ限度トス

刷子保持器及刷子等ノ溫度上昇ニ付テハ特ニ制限ヲ設ケザルモ實際上機械ノ故障ヲ生ゼザルモノナルコトヲ要ス

本表ニ於テA種絶縁トハA種絶縁材料ヲ以テ絶縁シタルモノヲ謂ヒB種絶縁トハB種絶縁材料ヲ以テ絶縁シタルモノヲ謂フ

A種絶縁材料トハ木綿、絹、紙又ハ類似ノ有機質材料ヲ「ワニス」其ノ他ノ適當ナル材料ヲ以テ含浸シ若ハ常ニ油中ニ浸シタルモノヲ謂ヒB種絶縁材料トハ雲母、石棉又ハ類似ノ無機質材料ヲ接着材料ト共ニ用ヒタルモノヲ謂フ

合成樹脂(「ペークライト」類ヲ含ム)、絶縁「エナメル」等ハ之ヲA種絶縁材料ト看做ス

第二條 特ニ指定ナキ限り連続定格ノ直流機ハ界磁抵抗ヲ定格電壓、定格出力、定格回轉數ニ相當スル値ニ調整シタル儘刷子ノ位置ヲ變更スルコトナクシテ定格電流ノ 100% 迄ノ任意ノ電流ニ對シ良好ナル整流ヲ行フモノナルコトヲ要ス

過電流ニ對スル整流試験ハ特ニ指定ナキ限り溫度上昇試験ノ直後ニ於テ定格電流ノ 150% ノ電流ヲ通ジテ一分間之ヲ行フモノトス

第三條 各機械ハ機械的ニ十分ナル強度ヲ有シ少クモ定格出力ノ二倍ニ相當

スル機械的負荷ニ耐フル様之ヲ構造スルモノトス但シ強度試験ハ特ニ指定アル場合ノ外之ヲ省略スルコトヲ得

急激ニ變化スル負荷ニ對シ使用スル機械ニ在リテハ其ノ機械的強度ニ付特ニ考慮スルモノトス

各機械ハ其ノ運轉中振動少キ様各部ヲ十分平衡セシメ且十分ナル剛度ヲ有スルモノトス

第四條 發電機ハ次表ニ掲グル過速度ノ運轉ニ一分間耐ヘ得ル構造ノモノトス

發電機ノ種類	過 速 度	
蒸汽「タービン」直結發電機	定格速度ノ	115%
内燃機關直結發電機	定格速度ノ	120%
其ノ他ノ發電機及同期機	定格速度ノ	125%

備 考 表ニ掲グル過速度ニ對スル回轉部最大周速ガ毎秒 50 米ヲ超過スル場合ニ於テハ周速ガ毎秒 50 米ヲ下ラザル限り定格速度ノ 115%ヲ以テ過速度試験ヲ行フコトヲ得

第五條 電動機ハ次表ニ掲グル過速度ノ運轉ニ一分間耐ヘ得ルモノトス

電動機ノ種類	基 準 速 度	過 速 度	
		基準速度ニ於ケル周速(V)ガ毎秒 20 米以下ナルトキ	基準速度ニ於ケル周速(V)ガ毎秒 20 米ヲ超ユルトキ
分巻電動機	定格回轉數(N)	1.5 N	$(1 + \frac{10}{V})N$
複巻電動機	無負荷回轉數(No)	1.5 No	$(1 + \frac{10}{V})No$
直巻電動機	定格回轉數(N)	2.5 N	検査員ノ適當ト認ムル速度
誘導電動機	定格回轉數(N)	1.25 N	1.25 N

高速度直流機ノ臨界速度ハ使用速度ヨリ其ノ 20% 以上上下ニ離ルル様爲スモノトス

第六條 各機械ノ絶縁耐力試験及絶縁抵抗試験ハ次ノ各號ニ依ル

一、絶縁耐力試験

本試験ハ組立完了シタル新製ノ機械ニ對シ行フモノニシテ特ニ指定ナキ限り製造工場ニ於テ溫度上昇試験終了後直ニ之ヲ執行スルモノトス

試験方法ハ巻線ト鐵心及枠ヲ總括シタルモノトノ間竝ニ巻線ト他ノ巻線トノ間ニ一分間次表ニ掲グル試験電壓ヲ加フルモノトシ試験電壓ハ周波數100「サイクル」以下ノ交流ニシテ波形ハ成ルベク正弦波ニ近キモノトス

欄	機械及部分ノ種別	試験電壓	
1	(イ) 定格出力1「キロワット」未満ノモノ 定格電壓(E) 50「ボルト」未満 // 50「ボルト」以上 250「ボルト」未満 // 250「ボルト」以上 2,000「ボルト」未満 // 2,000「ボルト」以上	500「ボルト」 1,000「ボルト」 2E+1,000「ボルト」 1.25E+2,500「ボルト」	
	(ロ) 定格出力1「キロワット」以上100「キロワット」未満ノモノ 定格電壓(E) 2,000「ボルト」未満 // 2,000「ボルト」以上	2E+1,000「ボルト」但シ最低1,500「ボルト」トス 1.25E+2,500「ボルト」(直流ノ場合)	
	(ハ) 定格出力100「キロワット」以上 定格電壓(E) 2,000「ボルト」未満	2E+1,000「ボルト」但シ最低1,500「ボルト」トス	
2	勵磁機	(イ) 直流機用 (ロ) 同期機用	第一欄ニ依ル電壓 定格電壓(E)ノ10倍但シ最高3,500「ボルト」最低1,500「ボルト」トス
	3	多巻線	(イ) 各巻線獨立シテ使用セラルル場合 (ロ) 兩巻線ガ直列ニ接續シテ使用セラルル場合

欄	機械及部分ノ種別	試験電壓	
4	(イ) 固定子巻線	定格電壓(E)ノ2倍ニ1,000「ボルト」ヲ加ヘタルモノ但シ最低1,500「ボルト」トス	
	(ロ) 巻線型回轉子	最大誘起電壓ノ2倍ニ1,000「ボルト」ヲ加ヘタルモノ但シ最低1,200「ボルト」トス又殆ド全速度ニ回轉セル時其ノ方向ヲ變更スル爲切換ヲ爲スモノニ在リテハ最大誘起電壓ノ2倍ニ1,000「ボルト」ヲ加ヘタルモノトス	
5	電機子巻線	(イ) 定格出力1「キロワット」又ハ1「キロボルトアンペア」未満 (ロ) 定格出力1「キロワット」又ハ1「キロボルトアンペア」以上	第一欄(イ)ト同様 定格電壓(E)ノ2倍ニ1,000「ボルト」ヲ加ヘタルモノ但シ最低1,500「ボルト」トス
	電動機トシテ起動セザル同期機ノ界磁巻線	勵磁機ノ定格電壓ノ10倍但シ最低1,500「ボルト」トス	
	電動機トシテ起動スル同期機ノ界磁巻線	勵磁機ノ定格電壓ノ10倍但シ最低1,500「ボルト」トス	
	機	(イ) 界磁巻線ヲ短絡シテ起動スルモノ (ロ) 界磁巻線ヲ開路シテ起動スルモノ 絶縁セル起動用回轉子巻線	2E _d +1,000「ボルト」 2E _d +1,000「ボルト」

備考 E_d ハ回轉子ヲ靜止セシメ起動電壓ヲ電機子巻線ニ加ヘタル場合ノ界磁巻線又ハ起動用回轉子巻線ノ端子間ニ於ケル誘起電壓トス但シ界磁巻線又ハ起動用回轉子巻線ニ高抵抗ヲ接續シテ起動スル場合ハ其ノ状態ニ於ケル端子電壓トス

二、絶縁抵抗試験

絶縁抵抗ハ絶縁耐力試験前ニ於テ測定シ次ノ算式ニ依ル値ヨリ小ナルベカラズ

$$R = \frac{V}{P+1,000}$$

R ハ絶縁抵抗(「メガオーム」ニテ)

Vハ定格電壓(「ボルト」ニテ)

Pハ定格出力(「キロボルトアンペア」又ハ「キロワット」ニテ)

第七條 各機械及装置ハ船舶ガ横揺又ハ縦揺ヲ爲ス場合横方向ニハ 20 度、縦方向ニハ 10 度傾斜スルモ完全ニ作動シ其ノ給油装置ハ有效ニ作用スルモノトス

第八條 制御装置及抵抗各部ノ溫度上昇ハ次表ニ掲グル限度ヲ超エザルモノトス

器械ノ部分ノ名稱	度上昇限度 温(寒暖計ニテ測定)攝氏度
接触部分及導體	30
釋放線輪	
(イ) 木綿、絹、紙及類似ノ材料ニ「ワニス」ヲ含浸シタルモノ	50
(ロ) 「エナメル」線	50
(ハ) 「アスベスト」、「マイカ」、「マイカナイト」及裸線輪	100
接觸器用線輪	70
抵抗(裸線ノ上ニテ測定)	260

第九條 制御装置及抵抗ハ導體ト棒トノ間ニ定格電壓ノ二倍ニ 1,000「ボルト」ヲ加ヘタル電壓(但シ最低 2,000「ボルト」トス)ヲ課シ一分間之ニ耐ヘ得ルモノトス

第二 附 屬 規 程

電 纜 規 程

第一節 電線用銅線

(本節ハ日本電氣工藝委員會ノ規程ニ依ルモノトス)

第一款 通 則

第一條 銅線ハ品質均一且表面平滑ニシテ疵、鏽、裂目其ノ他總テ不完全ナル點ヲ有セザルモノトス

第二條 銅線ハ接續點ナキモノトス但シ線引作業中ニ接續セルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 銅線ノ太サヲ表スニハ其ノ直徑ヲ「ミリメートル」(以下耗ノ略字ヲ用フ)ニテ測リタル値ヲ用フルモノトシ最大ヲ 12 耗、最小ヲ 0.1 耗トシ第一表ノ直徑欄ニ示セル如ク 42 種ノ單線ニ區別ス(表省略)

第四條 銅線ノ太サノ公差ハ次記ニ依ルモノトス

太 サ	直徑公差
6.00 耗以上	0.06 耗
3.20 "	0.04 "
1.00 "	0.03 "
0.55 "	0.02 "
0.26 "	0.01 "
0.10 "	0.008 "

第五條 導電率ヲ表ハスニハ 1923 年萬國電氣工藝委員會ニテ定メタル標準軟銅ノ導電率(第一號參考表参照)ヲ 100% トシテ比較シタル百分率ニ依ルモノトス(參考表省略)

第六條 密度ハ攝氏 20 度ニ於テ一立方「センチメートル」ニ付 8.89「グラム」トス

第七條 直徑ノ測定、扯斷力及伸長率ノ試験ハ次記ニ依ルモノトス

- 一、直徑ハ少クトモ一條中其ノ兩端及中央ノ三箇所ニ於テ測定スルコト
- 二、扯斷力試験ニ於テ供試線ガ其ノ支持點ニテ切斷セル場合ニハ其ノ試験ハ無効トス
- 三、伸長率ハ原標點距離ヲ 250 耗トシテ之ヲ測定スルコト
供試線ガ標點外又ハ標點ノ内側 25 耗以內ノ點ニ於テ切斷セル場合ニハ其ノ試験ハ無効トス
供試線ノ扯斷力又ハ伸長率ガ本規程ニ合格セザルトキハ更ニ二本ノ供試線ヲ採リ前後三回ノ平均測定値ヲ以テ其ノ線ノ扯斷力又ハ伸長率ト爲スモノトス

第二款 軟 銅 線

一、軟 銅 線

第八條 導電率ハ太サ 2 耗以上ノモノハ 99% 以上、0.5 耗以上ノモノハ 98%

以上、0.1 耗以上ノモノハ 97% 以上トス

第九條 最大扯斷力及最小伸長率ハ次記ニ依ルモノトス

太サ	最大扯斷力 (疋/平方耗)	最小伸長率 (250 耗ニ付)
8.0 耗以上	25.0	35%
2.0 "	26.7	30%
0.8 "	27.0	25%
0.1 "	28.0	20%

二、錫鍍軟銅線

第十條 導電率ハ次記以上トス

太サ	導電率
2.00 耗以上	97% ●
1.00 "	96%
0.50 "	95%
0.26 "	94%
0.10 "	93%

第十一條 最大扯斷力及最小伸長率ハ次記ニ依ルモノトス

太サ	最大扯斷力 (疋/平方耗)	最小伸長率 (250 耗ニ付)
2.00 耗以上	26.0	25%
0.80 "	27.0	20%
0.10 "	28.0	10%

第十二條 錫鍍ハ之ヲ「アルコール」ニテ能ク拭ヒタル後充分水洗シ次ニ攝氏 15 度ニ於テ比重 1.088 ヲ有スル鹽酸液ニ浸スコト一分間ノ後取出シテ能ク水洗シ比重 1.142 ヲ有スル硫化曹達液ニ浸スコト一分間ニシテ又之ヲ取出シ水洗ス、斯クノ如クスルコト四回ニ及ブモ其ノ表面ニ黑色ノ硫化銅ヲ生成スルコトナキモノトス

第二節 電纜ノ絶縁及保護被覆

第十三條 「ゴム」絶縁電纜ハ次ノ各號ニ依リ絶縁シタルモノトス

一、導體ハ純「ゴム」35% 以上ヲ含有スル品質均一ナル黑色「ゴム」混合物

ヲ以テ多層式ニ第五表乃至第二十八表又ハ第四十七表乃至第六十六表ニ示セル厚サニ導體ト同心圓ニ被覆シ且「ゴム」引布「テープ」ヲ重覆纏卷シタル後完全ニ硫化ヲ施スコト

二、多心電纜ニ在リテハ前號ノ「ゴム」引布「テープ」ハ色別ヲ施スコト

第十四條 紙絶縁電纜ハ次ノ各號ニ依リ絶縁シタルモノトス

一、絶縁紙「テープ」ヲ以テ緊密且均等ニ導體又ハ線心撚合上ニ纏卷シテ層ヲ構成セシメ、之ニ絶縁混和物ヲ浸潤セシムルコト

二、絶縁紙ハ厚サ 0.17 耗以下ニシテ組織均等品質強靱ニシテ針孔少ク高キ吸油性ヲ有シ金屬粉、機械的碎木紙料又ハ水ニ溶解シ易キ物質ヲ含有スルコトナク且紙、金屬、絶縁混和物等ニ對シ有害ナル物質ヲ含有セザルモノナルコト

三、絶縁層ニ浸潤セシムベキ絶縁混和物ハ不乾燥性ニシテ品質均等絶縁高ク電纜ニ使用スル諸材料ニ對シ有害ナル作用ヲ及サザルモノナルコト

四、多心電纜ノ線心絶縁紙層ノ最上層ニハ夫々異ナル色ヲ以テ標識セル絶縁紙ヲ纏卷シ線心相互ノ識別ヲ容易ナラシムルコト而シテ此等線心ハ紙又ハ「ジユート」ノ介在物ト共ニ圓形ニ且右撚リニ撚合セ更ニ絶縁紙ヲ纏卷スルモノトス

五、絶縁ノ厚サハ導體ノ大サニ從ヒ第二十九表乃至第四十六表ニ依ルコト

第十五條 電纜ノ保護被覆ハ次ノ各號ニ依ルモノトス

一、鉛被ハ品質均等ナル鉛合金ヲ以テ緊密ニ包圍セルモノニシテ疵、針孔其ノ他ノ缺點ナキモノナルコト

鉛被ノ厚サハ別表第五表乃至第四十六表ニ依リ、其ノ公差ハ±10% (厚サ 2 耗未滿ノモノニ在リテハ ±0.2 耗) トシ且同一切斷面ニ於テ測定シタル平均厚ハ標準厚ヨリ小ナラザルコト

二、「ゴム」裝ハ「ゴム」炭化水素 40% 以上ヲ含有スル「ゴム」混合物ヲ以テシ單心線ニ在リテハ布「テープ」上ニ二心、三心及多心線ニ在リテハ線心撚合後ノ布「テープ」上ニ一様ノ厚サニ緊密ニ被覆シ布「テープ」ヲ重覆纏卷シテ完全ニ加硫ヲ施スコト

「ゴム」裝「ゴム」ハ強靱ニシテ全長ニ互リ品質均一且疵、裂目等ノ不完

全ナル點ナク耐水耐油性ニ富ムモノナルコト

「ゴム」装「ゴム」ノ厚サハ第四十七表乃至第六十六表ニ依リ其ノ公差ハ±10%トス、厚サハ同一断面ニ於テ測定シタル平均値ヲ採ルコト但シ測定最小値ハ標準厚ノ80%以上ナルコト

第十六條 鉛被電纜及「ゴム」装電纜ノ鍍装ハ次ノ各號ニ依ルモノトス

一、防蝕性混和物ヲ浸潤セシメタル良質ノ「ジユート」又ハ他ノ適當ナル材料ヲ以テ鉛被上又ハ「ゴム」装上ニ反對ノ方向ニ二重ニ緊密ナル横卷ヲ施シ其ノ上ニ亞鉛鍍軟鋼線ヲ以テ緊密ナル鍍装ヲ爲スコト

二、「ジユート」ノ横卷ノ厚サ及鍍装軟鋼線ノ太サハ電纜ノ種類ニ應ジ夫々別表鉛被鍍装線、鉛被鍍装編組線、「ゴム」装鍍装線又ハ「ゴム」装鍍装編組線ノ表ニ依リ、亞鉛鍍軟鋼線ノ性能ハ第四節ニ依ルコト

三、鍍装ハ右摺リトシ其ノ摺程ハ鍍装用鋼線ノ直径ガ2.0耗以上ナルトキハ層心徑ノ10倍以下、1.8耗以下ナルトキハ層心徑ノ8倍以下トスルコト

第十七條 電纜ノ網代鍍装ハ次ノ各號ニ依ルモノトス

一、鉛被電纜ニ在リテハ防蝕性混和物ヲ浸潤セシメタル紙「テープ」及「ゴム」引布「テープ」ヲ鉛被上ニ重覆纏卷シタル後防蝕耐燃性混和物ヲ塗布シツツ亞鉛鍍軟鋼線ヲ以テ緊密齊一ナル網代打ヲ施シ更ニ其ノ表面ニ上記ノ混和物ヲ塗布スルコト

二、「ゴム」装電纜ニ在リテハ「ゴム」装上ニ白色防蝕耐燃性混和物ヲ塗布シツツ亞鉛鍍軟鋼線ヲ以テ緊密齊一ナル網代打ヲ施シ更ニ其ノ表面ニ上記ノ混和物ヲ塗布スルコト

三、亞鉛鍍軟鋼線ノ太サハ電纜ノ種類ニ應ジ夫々別表鉛被網代鍍装線、鉛被網代鍍装編組線、「ゴム」装網代鍍装線又ハ「ゴム」装網代鍍装編組線ノ表ニ依リ其ノ性能ハ第四節ニ依ルコト

第十八條 電纜ノ鉛被、「ゴム」装、鍍装又ハ網代鍍装上ニ施ス編組ハ強靱ナル撚絲ヲ以テ緊密齊一ニ之ヲ爲スモノトス
編組ニハ白色耐水耐燃性混和物ヲ十分浸透セシメ表面ヲ平滑ニ仕上グルモノトス

第三節 電纜ノ試験

第十九條 電纜ノ絶縁耐力及絶縁抵抗試験ハ次ノ各號ニ依ルモノトス

一、「ゴム」絶縁電纜

(イ) 「ゴム」絶縁電纜ニ在リテハ半成品試験トシテ絶縁ヲ施シタル線心ヲ12時間水ニ浸シタル後導體大地間ニ於テ交流1,500「ボルト」ノ電壓ヲ一分間課シ之ニ耐フルコト、此試験ニ使用スル交流ハ50「サイクル」又ハ60「サイクル」ノ正弦波ニ近キ電壓波形ヲ有スルモノトス

(ロ) (イ)ノ耐力試験後100「ボルト」ノ直流ヲ以テ一分間充電シ直接偏斜法ニ依リ測定シタル絶縁抵抗ガ攝氏15度ニ於テ鉛被線ニ在リテハ別表第五表乃至第二十八表、「ゴム」装線ニ在リテハ別表第四十七表乃至第六十六表ニ掲グル値以上ナルコト

(ハ) 完成品ニ付テハ水ニ浸スコトナクシテ鉛被線ニ在リテハ導體相互間及導體鉛被間、「ゴム」装線ニ在リテハ導體相互間及導體大地間ニ於テ(イ)及(ロ)ノ試験ヲ行フコト但シ「ゴム」装ノ編組線ニ在リテハ導體大地間ノ試験ヲ省略スルモノトス

二、紙絶縁電纜

(イ) 紙絶縁電纜ニ在リテハ導體相互間及導體ト鉛被トノ間ニ常温ニ於テ交流3,000「ボルト」ノ電壓ヲ加ヘ10分之ニ耐フルコト、此ノ試験ニ使用スル交流ハ50「サイクル」又ハ60「サイクル」ノ正弦波ニ近キ電壓波形ヲ有スルモノトス

(ロ) (イ)ノ耐力試験後測定セントスル導體ヲ悉ク鉛被及大地ニ接続シ100「ボルト」ノ直流ヲ以テ一分間充電シ直接偏斜法ニ依リ測定シタル絶縁抵抗ガ攝氏15度ニ於テ第二十九表乃至第四十六表ニ掲グル値以上ナルコト

(ハ) 二心及三心電纜ニ在リテハ各導體ノ絶縁抵抗ハ各條毎ニ平衡シ一條ノ平均値ヨリ10%以上ノ差異ナキコト

絶縁抵抗ヲ攝氏15度以外ノ温度ニ於テ測定シタルトキハ第六十七表ニ掲グル係數ヲ用ヒテ攝氏15度ニ於ケルモノニ換算シ前項ノ規定ヲ適用スルモノトス

第二十條 電纜ノ彎曲試験ハ鉛被線ニ付之ヲ行ヒ次ノ各號ニ依ルモノトス

一、「ゴム」絶縁電纜

完成品ヨリ適當ノ長サノ試料ヲ採リ之ヲ鉛被外徑ノ18倍ノ直徑ヲ有スル圓塼ノ周圍ニ除々ニ卷附ケタル後更ニ反對方向ニ卷附ク、斯クスルコト二回ニ及ブモ鉛被ニ罅裂ヲ生ゼザルコト

二、紙絶縁電纜

完成品10條又ハ其ノ端數毎ニ任意ノ一條ヲ選ビ其ノ一端ヨリ鉛被外徑ノ約50倍ニシテ2「メートル」ヲ下ラザル長サノ試料ヲ採リ之ヲ攝氏約5度ノ水中ニ二時間浸漬シタル後直ニ單心電線ニ在リテハ其ノ鉛被外徑ノ20倍、多心電線ニ在リテハ其ノ15倍ノ直徑ヲ有スル圓塼ノ周圍ニ徐々ニ卷附ケタル後更ニ反對方向ニ卷附ク、斯クスルコト三回ニ及ビタル後中央部約1.5「メートル」ニ對シ導體ト鉛被トノ間ニ5,000「ボルト」ノ電壓ヲ5分間加フルモ之ニ耐フルコト

前項ノ試験ニ於テ鉛被ハ其ノ表面ニ罅裂ヲ生ズルコトナク又線心絶縁紙ハ同一箇所ニ於テ三層以上連續シテ裂傷セザルコト

第四節 鍍裝用亞鉛鍍鋼線

第二十一條 亞鉛鍍鋼線ノ直徑公差、最小抗張力及最小伸長率ハ附表ニ依ルモノトス

第二十二條 亞鉛鍍鋼線ハ附表ニ示ス徑ノ捲附圓塼ニ六回捲附ケルモ亞鉛鍍ニ龜裂又ハ剝脫ノ形跡ヲ呈セザルモノトス

第二十三條 亞鉛鍍ハ供試線ノ鍍面ヲ石油、「ベンジン」又ハ「ベンゾール」等ニ浸シタル綿布ニテ能ク拭ヒ油氣ヲ取去リタル後攝氏17度乃至19度ニ保持セル硫酸銅溶液ニ附表ニ示ス時間浸漬シテ取出シ次ニ清水ニテ能ク洗滌シ清淨ナル布ニテ附着銅ヲ拭ヒ去ル斯クスルコト附表記載ノ回數ニ及ブモ其ノ表面ニ光輝アル銅ノ鍍着ヲ認メザルモノトス

前項ノ硫酸銅溶液ハ結晶硫酸銅36「グラム」ニ對シ水100立方糎ノ割合ニ調合シ之ヲ加熱溶解シ更ニ酸化第二銅ヲ加ヘ遊離硫酸ヲ完全ニ中和シタル後濾過シ攝氏20度ニ於ケル飽和溶液(比重1.198)ト爲スモノトス

第二十四條 亞鉛鍍ハ長サ約60糎ノ供試線ノ鍍面ヲ石油、「ベンジン」、「ベン

ゾール」等ニ浸シタル布ニテ能ク拭ヒ油氣ヲ取去リタル後攝氏75度乃至80度ニ保持セル「アルカリ」溶液中ニ浸スコト附表ニ示ス時間ニ及ブモ尙亞鉛ノ殘存スルモノトス(備考、鍍亞鉛ガ全部溶解シ終ラントスル時期ニ於テハ活潑ナル氣泡ノ發生停止ス)

前項ノ「アルカリ」溶液ハ苛性曹達20「グラム」又ハ苛性「カリ」28「グラム」ニ對シ水100立方糎ノ割合ニテ調合シ溶解シタルモノトス

附表 亞鉛鍍鋼線性能表

直徑 (糎)	直徑公差 (糎)	最小抗張力 (斤/平方糎)	最小伸長率 200糎ニ付 (%)	捲附圓塼 ノ徑 供試線 標準徑 ノ倍數	硫酸銅試驗		アルカリ 試驗 浸漬時間 (分)
					浸漬時間 (秒)	浸漬回數	
2.6	0.06	35	8	20	60	2	150
2.0	0.06	35	8	20	60	2	100
1.6	0.05	35	7	20	30	2	70
1.2	0.05	35	7	20	30	2	50
0.4	0.03	35	5	15	10	1	40
0.3	0.02	35	5	15	10	1	40

別表

第一表 錫鍍軟銅線表

第二表 錫鍍軟銅撚線表

第三表 軟銅線表

第四表ノ1 軟銅撚線表(單心用)

第四表ノ2 軟銅撚線表

第五表 單心「ゴム」絶縁鉛被線

第六表 單心「ゴム」絶縁鉛被編組線

第七表 單心「ゴム」絶縁鉛被鍍裝線

第八表 單心「ゴム」絶縁鉛被鍍裝編組線

第九表 單心「ゴム」絶縁鉛被網代鍍裝線

第十表 單心「ゴム」絶縁鉛被網代鍍裝編組線

第十一表 二心「ゴム」絶縁鉛被線

第十二表 二心「ゴム」絶縁鉛被編組線

- 第十三表 二心「ゴム」絶縁鉛被鍍装線
 第十四表 二心「ゴム」絶縁鉛被鍍装編組線
 第十五表 二心「ゴム」絶縁鉛被網代鍍装線
 第十六表 二心「ゴム」絶縁鉛被網代鍍装編組線
 第十七表 三心「ゴム」絶縁鉛被線
 第十八表 三心「ゴム」絶縁鉛被編組線
 第十九表 三心「ゴム」絶縁鉛被鍍装線
 第二十表 三心「ゴム」絶縁鉛被鍍装編組線
 第二十一表 三心「ゴム」絶縁鉛被網代鍍装線
 第二十二表 三心「ゴム」絶縁鉛被網代鍍装編組線
 第二十三表 多心「ゴム」絶縁鉛被線
 第二十四表 多心「ゴム」絶縁鉛被編組線
 第二十五表 多心「ゴム」絶縁鉛被鍍装線
 第二十六表 多心「ゴム」絶縁鉛被鍍装編組線
 第二十七表 多心「ゴム」絶縁鉛被網代鍍装線
 第二十八表 多心「ゴム」絶縁鉛被網代鍍装編組線
 第二十九表 單心紙絶縁鉛被線
 第三十表 單心紙絶縁鉛被編組線
 第三十一表 單心紙絶縁鉛被鍍装線
 第三十二表 單心紙絶縁鉛被鍍装編組線
 第三十三表 單心紙絶縁鉛被網代鍍装線
 第三十四表 單心紙絶縁鉛被網代鍍装編組線
 第三十五表 二心紙絶縁鉛被線
 第三十六表 二心紙絶縁鉛被編組線
 第三十七表 二心紙絶縁鉛被鍍装線
 第三十八表 二心紙絶縁鉛被鍍装編組線
 第三十九表 二心紙絶縁鉛被網代鍍装線
 第四十表 二心紙絶縁鉛被網代鍍装編組線
 第四十一表 三心紙絶縁鉛被線

- 第四十二表 三心紙絶縁鉛被編組線
 第四十三表 三心紙絶縁鉛被鍍装線
 第四十四表 三心紙絶縁鉛被鍍装編組線
 第四十五表 三心紙絶縁鉛被網代鍍装線
 第四十六表 三心紙絶縁鉛被網代鍍装編組線
 第四十七表 單心「ゴム」装編組線
 第四十八表 單心「ゴム」装鍍装線
 第四十九表 單心「ゴム」装鍍装編組線
 第五十表 單心「ゴム」装網代鍍装線
 第五十一表 單心「ゴム」装網代鍍装編組線
 第五十二表 二心「ゴム」装編組線
 第五十三表 二心「ゴム」装鍍装線
 第五十四表 二心「ゴム」装鍍装編組線
 第五十五表 二心「ゴム」装網代鍍装線
 第五十六表 二心「ゴム」装網代鍍装編組線
 第五十七表 三心「ゴム」装編組線
 第五十八表 三心「ゴム」装鍍装線
 第五十九表 三心「ゴム」装鍍装編組線
 第六十表 三心「ゴム」装網代鍍装線
 第六十一表 三心「ゴム」装網代鍍装編組線
 第六十二表 多心「ゴム」装編組線
 第六十三表 多心「ゴム」装鍍装線
 第六十四表 多心「ゴム」装鍍装編組線
 第六十五表 多心「ゴム」装網代鍍装線
 第六十六表 多心「ゴム」装網代鍍装編組線
 第六十七表ノ1 「ゴム」絶縁電線絶縁抵抗温度換算係數表
 第六十七表ノ2 紙絶縁電線絶縁抵抗温度換算係數表
 第六十八表 單心「ゴム」絶縁電線許容電流表(直流)
 第六十九表 二心「ゴム」絶縁電線許容電流表(直流及交流 60「サイクル」)

- 第七十表 三心「ゴム」絶縁電線許容電流表 (交流 60「サイクル」)
- 第七十一表 単心紙絶縁電線許容電流表 (直流)
- 第七十二表 二心紙絶縁電線許容電流表 (交流 60「サイクル」)
- 第七十三表 三心紙絶縁電線許容電流表

第一表 錫鍍軟銅線表

径 mm	径公差 mm	断面積 mm ²	重量 kg/km	電氣抵抗 20°C Ω/km	導電率 %
0.5	0.01	0.1964	1.746	92.41	95
0.6	0.02	0.2827	2.513	64.20	95
0.7	0.02	0.3848	3.412	47.16	95
0.8	0.02	0.5027	4.469	36.10	95
0.9	0.02	0.6362	5.656	28.53	95
1.2	0.03	1.131	10.05	15.88	96
1.4	0.03	1.539	13.68	11.67	96
1.6	0.03	2.011	17.88	8.931	96
2.0	0.03	3.142	27.93	5.657	97

第二表 錫鍍軟銅撚線表

索線数/索線径 mm	計算断面積 mm ²	外 径 mm	電 氣 抵 抗 20°C Ω/km	
			単心の場合	2心及3心の場合
7/0.5	1.375	1.5	13.47	
7/0.6	1.979	1.8	9.355	
7/0.7	2.694	2.1	6.872	
7/0.8	3.519	2.4	5.260	5.339
12/0.8	6.032	3.4	3.069	3.112
19/0.8	9.551	4.0	1.938	1.967
30/0.8	15.08	5.2	1.227	1.245
37/0.9	23.54	6.3	0.7865	0.7983
56/0.9	35.63	7.9	0.5197	0.5275
80/0.9	50.90	9.4	0.3638	0.3693
61/1.2	68.99	10.8	0.2655	0.2695
56/1.4	86.19	12.2	0.2126	0.2158
70/1.4	107.7	14.0	0.1701	0.1727
85/1.4	130.8	15.0	0.1400	0.1421
80/1.6	160.9	16.7	0.1139	0.1156
61/2.0	191.7	18.0	0.09459	
70/2.0	219.9	20.0	0.08243	
85/2.0	267.1	21.4	0.06783	
108/2.0	329.3	24.3	0.05342	
127/2.0	399.0	26.0	0.04543	
169/2.0	530.9	30.0	0.03414	
208/2.0	653.5	33.4	0.02774	

第三表 軟銅線表

徑 mm	徑公差 mm	斷面積 mm ²	重量 kg/km	電氣抵抗 20°C Ω/km	導電率 %
0.9	0.02	0.6362	5.056	27.65	98
1.2	0.03	1.131	10.05	15.56	98
1.4	0.03	1.539	13.68	11.43	98
1.6	0.03	2.011	17.88	8.748	98
1.8	0.03	2.545	22.63	6.913	98
2.0	0.03	3.142	27.93	5.543	99
2.3	0.03	4.155	36.94	4.191	99
2.6	0.03	5.309	47.20	3.280	99
2.9	0.03	6.605	58.72	2.637	99

第四表ノ一 軟銅撚線表(單心用)

素線數/素線徑 mm	計算斷面積 mm ²	外徑 mm	電氣抵抗 20°C Ω/km
37/0.9	23.54	6.3	0.7697
56/0.9	35.63	7.9	0.5086
80/0.9	50.90	9.4	0.3560
61/1.2	68.99	10.8	0.2627
56/1.4	80.19	12.2	0.2102
70/1.4	107.7	14.0	0.1652
85/1.4	130.8	15.0	0.1385
80/1.6	160.9	16.7	0.1123
61/2.0	191.7	18.0	0.09359
70/2.0	219.9	20.0	0.08156
85/2.0	267.1	21.4	0.06717
108/2.0	339.3	24.3	0.05256
127/2.0	399.0	26.0	0.04496
169/2.0	530.9	30.0	0.03379
208/2.0	653.4	33.4	0.02772

第四表ノ二 軟銅撚線表

2 心 用			3 心 用		
素線數/素線徑 mm	計算斷面積 mm ²	電氣抵抗 20°C Ω/km	素線數/素線徑 mm	計算斷面積 mm ²	電氣抵抗 20°C Ω/km
24/1.2	27.14	0.6710	19/1.4	29.24	0.6229
24/1.4	36.94	0.4931	19/1.6	38.21	0.4764
24/1.6	48.26	0.3774	19/1.8	48.36	0.3767
24/1.8	61.08	0.2982	19/2.0	59.70	0.3020
24/2.0	75.41	0.2391	19/2.3	78.95	0.2284
24/2.3	99.72	0.1808	38/1.8	96.71	0.1883
24/2.6	127.4	0.1415	38/2.0	119.4	0.1510
48/2.0	150.8	0.1196	38/2.3	157.9	0.1142
48/2.3	199.4	0.09040	38/2.6	201.7	0.08937
48/2.6	254.8	0.07075	38/2.9	251.0	0.07184
78/2.3	324.1	0.05563	63/2.6	334.5	0.05391
78/2.6	414.1	0.04354	63/2.9	416.1	0.04333
78/2.9	515.2	0.03500	94/2.6	499.0	0.03613

第五表 單心「ゴム」絶緣鉛被線

型	番	導 線		絶緣體		ゴム 絶緣體 厚 mm	布 厚 mm	ブ 厚 mm	信 厚 mm	仕 外 徑 mm	上 徑 mm	外 公 差 mm	徑 差 mm	概 重 量 kg/km	電 壓 耐 電 壓 V/1分	電 氣 絶緣 抵抗 15°C MΩ/km	試 験 導 線 絶緣 抵抗 20°C Ω/km	1 巻 の 全 長 m
		素線數 mm	計算 斷面積 mm ²	絶緣體 厚 mm	外 徑 mm													
L	1	1/1.2	1.131	1.2	0.9	0.25	1.0	5.5	0.3	188	1,500	2,000以上	15.88	以下	500			
L	2	1/1.4	1.539	1.4	0.9	0.25	1.0	5.7	0.3	220	1,500	2,000	11.67	"	500			
L	3	1/1.6	2.011	1.6	0.9	0.25	1.0	5.9	0.3	212	1,500	2,000	8.931	"	500			
L	4	7/0.5	1.375	1.5	0.9	0.25	1.0	5.8	0.3	202	1,500	2,000	13.47	"	500			
L	5	7/0.6	1.979	1.8	0.9	0.25	1.0	6.1	0.3	222	1,500	2,000	9.355	"	500			
L	6	7/0.7	2.694	2.1	1.0	0.25	1.0	6.6	0.3	249	1,500	2,000	6.872	"	500			
L	7	7/0.8	3.519	2.4	1.0	0.25	1.0	6.9	0.3	270	1,500	1,200	5.260	"	500			
L	8	12/0.8	6.032	3.4	1.1	0.25	1.0	8.1	0.3	347	1,500	1,200	3.069	"	500			
L	9	19/0.8	9.551	4.0	1.2	0.25	1.0	8.9	0.4	414	1,500	1,200	1.938	"	500			
L	10	30/0.8	15.08	5.2	1.3	0.25	1.1	10.5	0.4	570	1,500	1,200	1.227	"	500			
L	11	37/0.9	23.54	6.3	1.4	0.25	1.1	11.8	0.5	709	1,500	800	0.7865	"	500			
L	12	56/0.9	35.63	7.9	1.6	0.35	1.2	14.2	0.6	995	1,500	800	0.5197	"	500			
L	13	80/0.9	50.90	9.4	1.7	0.35	1.2	15.9	0.6	1,230	1,500	800	0.3638	"	500			
L	14	61/1.2	68.99	10.8	1.9	0.35	1.3	17.9	0.7	1,570	1,500	600	0.2655	"	500			
L	15	56/1.4	86.19	12.2	2.0	0.35	1.3	19.5	0.8	1,820	1,500	600	0.2126	"	500			
L	16	70/1.4	107.7	14.0	2.2	0.35	1.4	21.9	0.9	2,250	1,500	600	0.1701	"	500			
L	17	85/1.4	130.8	15.0	2.3	0.35	1.4	23.1	0.9	2,560	1,500	600	0.1400	"	500			
L	18	80/1.6	160.9	16.7	2.5	0.35	1.5	25.4	1.0	3,070	1,500	600	0.1139	"	500			
L	19	61/2.0	191.7	18.0	2.6	0.35	1.5	26.9	1.1	3,460	1,500	600	0.09459	"	500			
L	20	70/2.0	219.9	20.0	2.8	0.5	1.6	29.8	1.2	4,050	1,500	600	0.08243	"	500			
L	21	85/2.0	267.1	21.4	2.9	0.5	1.7	31.6	1.3	4,720	1,500	600	0.06788	"	500			
L	22	108/2.0	339.3	24.3	3.2	0.5	1.8	35.3	1.4	5,850	1,500	600	0.05342	"	250			
L	23	127/2.0	399.0	26.0	3.4	0.5	1.8	37.4	1.5	6,600	1,500	600	0.04543	"	250			
L	24	169/2.0	530.9	30.0	3.8	0.5	2.0	42.6	1.6	8,600	1,500	600	0.03414	"	100			
L	25	208/2.0	653.5	33.4	4.1	0.5	2.1	46.8	1.7	10,400	1,500	600	0.02774	"	100			

第六表 單心「ゴム」絕緣鉛被編組線

型	番	導線		外徑 mm	絶緣層厚 mm	布テーパー厚 mm	鉛被厚 mm	絕緣編厚 mm	仕外徑 mm	外公差 mm	概算重量 kg/km	電氣試驗		1卷の標準長 m	
		導線數	計算斷面積 mm ²									絶緣抵抗 15°C NΩ/km	導線抵抗 20°C Ω/km		
L B	1	1/1.2	1.131	1.2	0.9	0.25	1.0	1.0	7.6	0.3	220	1,500	2,000以上	15.88 以下	500
L B	2	1/1.4	1.539	1.4	0.9	0.25	1.0	1.0	7.8	0.3	230	1,500	2,000	11.67	500
L B	3	1/1.6	2.011	1.6	0.9	0.25	1.0	1.0	8.0	0.3	247	1,500	2,000	8.931	500
L B	4	7/0.5	1.375	1.5	0.9	0.25	1.0	1.0	7.9	0.3	235	1,500	2,000	13.47	500
L B	5	7/0.6	1.979	1.8	0.9	0.25	1.0	1.0	8.2	0.3	255	1,500	2,000	9.355	500
L B	6	7/0.7	2.694	2.1	1.0	0.25	1.0	1.0	8.7	0.3	290	1,500	2,000	6.872	500
L B	7	7/0.8	3.519	2.4	1.0	0.25	1.0	1.0	9.0	0.4	310	1,500	1,200	5.280	500
L B	8	12/0.8	6.032	3.4	1.1	0.25	1.0	1.0	10.2	0.4	400	1,500	1,200	3.060	500
L B	9	19/0.8	9.551	4.0	1.2	0.25	1.0	1.0	11.0	0.4	465	1,500	1,200	1.928	500
L B	10	30/0.8	15.08	5.2	1.3	0.25	1.1	1.0	12.6	0.5	635	1,500	1,200	1.227	500
L B	11	37/0.9	23.54	6.3	1.4	0.25	1.1	1.0	13.9	0.6	775	1,500	800	0.7865	500
L B	12	56/0.9	35.63	7.9	1.6	0.35	1.2	1.0	16.3	0.7	1,080	1,500	800	0.5197	500
L B	13	80/0.9	50.90	9.4	1.7	0.35	1.2	1.0	18.0	0.7	1,320	1,500	800	0.3638	500
L B	14	61/1.2	68.99	10.8	1.9	0.35	1.3	1.0	20.0	0.8	1,670	1,500	600	0.2655	500
L B	15	56/1.4	88.19	12.2	2.0	0.35	1.3	1.0	21.6	0.9	1,940	1,500	600	0.2126	500
L B	16	70/1.4	107.7	14.0	2.2	0.35	1.4	1.5	25.0	1.0	2,440	1,500	600	0.1701	500
L B	17	85/1.4	130.8	15.0	2.3	0.35	1.4	1.5	26.2	1.0	2,740	1,500	600	0.1400	500
L B	18	80/1.6	160.9	16.7	2.5	0.35	1.5	1.5	28.5	1.1	3,280	1,500	600	0.1139	500
L B	19	61/2.0	191.7	18.0	2.6	0.35	1.5	1.5	30.0	1.2	3,680	1,500	600	0.09459	500
L B	20	70/2.0	219.6	20.0	2.8	0.5	1.6	1.5	32.9	1.3	4,300	1,500	600	0.08243	500
L B	21	85/2.0	297.1	21.4	2.9	0.5	1.7	1.5	34.7	1.4	4,950	1,500	600	0.06788	250
L B	22	108/2.0	339.3	24.3	3.2	0.5	1.8	1.5	38.4	1.5	6,100	1,500	600	0.05342	250
L B	23	127/2.0	399.0	26.0	3.4	0.5	1.8	1.5	40.5	1.6	6,950	1,500	600	0.04543	250
L B	24	169/2.0	530.9	30.0	3.8	0.5	2.0	1.5	45.7	1.7	8,950	1,500	600	0.03414	100
L B	25	208/2.0	653.5	33.4	4.1	0.5	2.1	1.5	49.9	1.8	10,800	1,500	600	0.02774	100

第七表 單心「ゴム」絕緣鉛被鍍裝線

型	番	導線數	計算斷面積 mm ²	外徑 mm	絶緣層厚 mm	布テーパー厚 mm	鉛被厚 mm	ジュート厚 mm	仕外徑 mm	外公差 mm	概算重量 kg/km	電氣試驗		1卷の標準長 m	
												絶緣抵抗 15°C NΩ/km	導線抵抗 20°C Ω/km		
L A	1	1/1.2	1.131	1.2	0.9	0.25	1.0	1.0	9.9	0.4	407	1,500	2,000以上	15.88 以下	500
L A	2	1/1.4	1.539	1.4	0.9	0.25	1.0	1.0	10.1	0.4	424	1,500	2,000	11.67	500
L A	3	1/1.6	2.011	1.6	0.9	0.25	1.0	1.0	10.5	0.4	442	1,500	2,000	8.931	500
L A	4	7/0.5	1.375	1.5	0.9	0.25	1.0	1.0	10.2	0.4	430	1,500	2,000	13.47	500
L A	5	7/0.6	1.979	1.8	0.9	0.25	1.0	1.0	10.5	0.4	456	1,500	2,000	9.355	500
L A	6	7/0.7	2.694	2.1	1.0	0.25	1.0	1.0	11.0	0.4	500	1,500	2,000	6.872	500
L A	7	7/0.8	3.519	2.4	1.0	0.25	1.0	1.0	11.3	0.5	525	1,500	1,200	5.260	500
L A	8	12/0.8	6.032	3.4	1.1	0.25	1.0	1.0	12.5	0.5	635	1,500	1,200	3.069	500
L A	9	19/0.8	9.551	4.0	1.2	0.25	1.0	1.0	13.3	0.5	722	1,500	1,200	1.938	500
L A	10	30/0.8	15.08	5.2	1.3	0.25	1.1	1.0	14.9	0.6	925	1,500	1,200	1.227	500
L A	11	37/0.9	23.54	6.3	1.4	0.25	1.1	1.0	16.2	0.6	1,090	1,500	800	0.7865	500
L A	12	56/0.9	35.63	7.9	1.6	0.35	1.2	1.5	20.4	0.8	1,650	1,500	800	0.5197	500
L A	13	80/0.9	50.90	9.4	1.7	0.35	1.2	1.5	22.1	0.9	1,930	1,500	800	0.3638	500
L A	14	61/1.2	68.99	10.8	1.9	0.35	1.3	1.5	24.1	1.0	2,350	1,500	600	0.2655	500
L A	15	56/1.4	88.19	12.2	2.0	0.35	1.3	1.5	25.7	1.0	2,660	1,500	600	0.2126	500
L A	16	70/1.4	107.7	14.0	2.2	0.35	1.4	2.5	30.9	1.2	3,530	1,500	600	0.1701	500
L A	17	85/1.4	130.8	15.0	2.3	0.35	1.4	2.5	32.1	1.3	3,850	1,500	600	0.1400	500
L A	18	80/1.6	160.9	16.7	2.5	0.35	1.5	2.5	35.6	1.4	4,920	1,500	600	0.1139	500
L A	19	61/2.0	191.7	18.0	2.6	0.35	1.5	2.5	37.1	1.5	5,390	1,500	600	0.09459	500
L A	20	70/2.0	219.9	20.0	2.8	0.5	1.6	2.5	40.0	1.6	6,160	1,500	600	0.08243	500
L A	21	85/2.0	297.1	21.4	2.9	0.5	1.7	2.5	41.8	1.6	6,920	1,500	600	0.06788	250
L A	22	108/2.0	339.3	24.3	3.2	0.5	1.8	2.5	45.5	1.7	8,260	1,500	600	0.05342	250
L A	23	127/2.0	399.0	26.0	3.4	0.5	1.8	2.5	47.6	1.8	9,130	1,500	600	0.04543	250
L A	24	169/2.0	530.9	30.0	3.8	0.5	2.0	2.5	52.8	1.9	11,400	1,500	600	0.03414	100
L A	25	208/2.0	653.5	33.4	4.1	0.5	2.1	2.5	57.0	2.0	13,500	1,500	600	0.02774	100

第八表 単心「ゴム」絶縁鉛被鍍装編組線

型	番	算		絶縁層		鉛被厚 mm	銅線編組厚 mm	鋼線		仕上外徑 mm	外徑公差 mm	圓周重量 kg/km	電氣試驗		1巻の標準長 m		
		素線数	計算断面積 mm ²	外径 mm	厚 mm			芯線厚 mm	鋼線厚 mm				絶縁抵抗 15°C MΩ/km	導電抵抗 20°C Ω/gm			
L A B	1	1/1.2	1.131	1.2	0.9	0.25	1.0	1.0	1.2	1.0	0.8	461	1,500	2,000以上	15.88	以下	500
L A B	2	1/1.4	1.539	1.4	0.9	0.25	1.0	1.0	1.2	1.0	0.8	484	1,500	2,000	11.67	#	500
L A B	3	1/1.6	2.011	1.6	0.9	0.25	1.0	1.0	1.2	1.0	0.8	500	1,500	2,000	8.931	#	500
L A B	4	7/0.5	1.375	1.5	0.5	0.25	1.0	1.0	1.2	1.0	0.8	488	1,500	2,000	13.47	#	500
L A B	5	7/0.6	1.979	1.8	0.5	0.25	1.0	1.0	1.2	1.0	0.8	518	1,500	2,000	9.355	#	500
L A B	6	7/0.7	2.694	2.1	1.0	0.25	1.0	1.0	1.2	1.0	0.8	566	1,500	2,000	6.872	#	500
L A B	7	7/0.8	3.519	2.4	1.0	0.25	1.0	1.0	1.2	1.0	0.8	590	1,500	2,000	5.260	#	500
L A B	8	12/0.8	6.032	3.4	1.1	0.25	1.0	1.0	1.2	1.0	0.9	685	1,500	1,200	3.069	#	500
L A B	9	19/0.8	9.551	4.0	1.2	0.25	1.0	1.0	1.2	1.0	0.9	795	1,500	1,200	1.988	#	500
L A B	10	30/0.8	15.08	5.2	1.3	0.25	1.1	1.0	1.2	1.0	1.0	1,000	1,500	1,200	1.227	#	500
L A B	11	37/0.9	23.54	6.3	1.4	0.25	1.1	1.0	1.2	1.0	1.0	1,180	1,500	800	0.7865	#	500
L A B	12	55/0.9	35.63	7.9	1.6	0.35	1.2	1.5	1.6	1.0	1.2	1,780	1,500	800	0.5197	#	500
L A B	13	80/0.9	50.90	9.4	1.7	0.35	1.2	1.5	1.6	1.0	1.3	2,060	1,500	800	0.3638	#	500
L A B	14	61/1.2	68.99	10.8	1.9	0.35	1.3	1.5	1.6	1.0	1.3	2,480	1,500	600	0.2655	#	500
L A B	15	56/1.4	86.19	12.2	2.0	0.35	1.3	1.5	1.6	1.0	1.4	2,810	1,500	600	0.2126	#	500
L A B	16	70/1.4	107.7	14.0	2.2	0.35	1.4	2.5	2.0	1.5	1.7	3,780	1,500	600	0.1701	#	500
L A B	17	85/1.4	130.8	15.0	2.3	0.35	1.4	2.5	2.0	1.5	1.7	4,150	1,500	600	0.1400	#	500
L A B	18	80/1.6	100.9	16.7	2.5	0.35	1.5	2.5	2.6	1.5	1.8	5,200	1,500	600	0.1139	#	500
L A B	19	61/2.0	191.7	18.0	2.6	0.35	1.5	2.5	2.6	1.5	1.8	5,700	1,500	600	0.09459	#	500
L A B	20	70/2.0	219.9	20.0	2.8	0.5	1.6	2.5	2.6	1.5	1.9	6,500	1,500	600	0.08243	#	500
L A B	21	85/2.0	267.1	21.4	2.9	0.5	1.7	2.5	2.6	1.5	2.0	7,250	1,500	600	0.06788	#	250
L A B	22	108/2.0	339.3	24.3	3.2	0.5	1.8	2.5	2.6	1.5	2.1	8,650	1,500	600	0.05342	#	250
L A B	23	127/2.0	399.0	26.0	3.4	0.5	1.8	2.5	2.6	1.5	2.1	9,550	1,500	600	0.04543	#	250
L A B	24	169/2.0	530.9	30.0	3.8	0.5	2.0	2.5	2.6	1.5	2.2	11,900	1,500	600	0.03414	#	100
L A B	25	208/2.0	653.5	33.4	4.1	0.5	2.1	2.5	2.6	1.5	2.3	13,900	1,500	600	0.02774	#	100

第九表 単心「ゴム」絶縁鉛被網代鍍装線

型	番	算		絶縁層		鉛被厚 mm	網代鍍装		仕上外徑 mm	外徑公差 mm	圓周重量 kg/km	電氣試驗		1巻の標準長 m			
		素線数/素線径 mm	計算断面積 mm ²	外径 mm	厚 mm		鋼線厚 mm	網代鍍装厚 mm				絶縁抵抗 15°C MΩ/km	導電抵抗 20°C Ω/km				
L C	1	1/1.2	1.131	1.2	0.9	0.25	0.5	0.3	0.8	8.1	0.6	305	1,500	2,000以上	15.88	以下	500
L C	2	1/1.4	1.539	1.4	0.9	0.25	0.5	0.3	0.8	8.3	0.6	321	1,500	2,000	11.67	#	500
L C	3	1/1.6	2.011	1.6	0.9	0.25	0.5	0.3	0.8	8.5	0.6	336	1,500	2,000	8.931	#	500
L C	4	7/0.5	1.375	1.5	0.9	0.25	0.5	0.3	0.8	8.4	0.6	326	1,500	2,000	13.47	#	500
L C	5	7/0.6	1.979	1.8	0.9	0.25	0.5	0.3	0.8	8.7	0.6	348	1,500	2,000	9.355	#	500
L C	6	7/0.7	2.694	2.1	1.0	0.25	0.5	0.3	0.8	9.2	0.7	390	1,500	2,000	6.872	#	500
L C	7	7/0.8	3.519	2.4	1.0	0.25	0.5	0.3	0.8	9.5	0.7	410	1,500	1,200	5.260	#	500
L C	8	12/0.8	6.032	3.4	1.1	0.25	0.5	0.3	0.8	10.7	0.7	510	1,500	1,200	3.069	#	500
L C	9	19/0.8	9.551	4.0	1.2	0.25	0.5	0.3	0.8	11.5	0.8	590	1,500	1,200	1.938	#	500
L C	10	30/0.8	15.08	5.2	1.3	0.25	0.5	0.3	0.8	13.1	0.8	775	1,500	1,200	1.227	#	500
L C	11	37/0.9	23.54	6.3	1.4	0.25	0.5	0.3	0.8	14.4	0.9	940	1,500	800	0.7865	#	500
L C	12	56/0.9	35.63	7.9	1.6	0.35	0.5	0.3	0.8	16.8	1.0	1,290	1,500	800	0.5197	#	500
L C	13	80/0.9	50.90	9.4	1.7	0.35	0.5	0.3	0.8	18.5	1.0	1,520	1,500	800	0.3638	#	500
L C	14	61/1.2	68.99	10.8	1.9	0.35	0.5	0.3	0.8	20.5	1.2	1,890	1,500	600	0.2655	#	500
L C	15	56/1.4	86.19	12.2	2.0	0.35	0.5	0.3	0.8	22.1	1.2	2,180	1,500	600	0.2126	#	500
L C	16	70/1.4	107.7	14.0	2.2	0.35	0.5	0.3	0.8	24.5	1.3	2,650	1,500	600	0.1701	#	500
L C	17	85/1.4	130.8	15.0	2.3	0.35	0.5	0.3	0.8	25.7	1.3	2,950	1,500	600	0.1400	#	500
L C	18	80/1.6	100.9	16.7	2.5	0.35	0.5	0.4	1.1	28.6	1.4	3,680	1,500	600	0.1139	#	500
L C	19	61/2.0	191.7	18.0	2.6	0.35	0.5	0.4	1.1	30.1	1.5	4,080	1,500	600	0.09459	#	500
L C	20	70/2.0	219.9	20.0	2.8	0.5	0.5	0.4	1.1	33.0	1.6	4,760	1,500	600	0.08243	#	500
L C	21	85/2.0	267.1	21.4	2.9	0.5	0.5	0.4	1.1	34.8	1.7	5,450	1,500	600	0.06788	#	250
L C	22	108/2.0	339.3	24.3	3.2	0.5	0.5	0.4	1.1	38.5	1.8	6,670	1,500	600	0.05342	#	250
L C	23	127/2.0	399.0	26.0	3.4	0.5	0.5	0.4	1.1	40.6	1.9	7,490	1,500	600	0.04543	#	250
L C	24	169/2.0	530.9	30.0	3.8	0.5	0.5	0.4	1.1	45.8	2.0	9,620	1,500	600	0.03414	#	100
L C	25	208/2.0	653.5	33.4	4.1	0.5	0.5	0.4	1.1	50.0	2.1	11,400	1,500	600	0.02774	#	100

第十三表 二心「ゴム」絶縁鉛被鍍装線

Table with 12 columns: 型番, 素線数/素線径, 計算断面積, 外径, ゴム絶縁層厚, 芯線外径, 芯線合外径, テーパー厚, 絶縁層厚, 鋼線直径, 鋼線厚, 鋼線重量, 耐電圧, 絶縁抵抗, 電氣試験, 1巻の標準長.

第十四表 二心「ゴム」絶縁鉛被鍍装編組線

Table with 12 columns: 型番, 素線数/素線径, 計算断面積, 外径, ゴム絶縁層厚, 芯線合外径, 芯線合外径, テーパー厚, 絶縁層厚, 鋼線直径, 鋼線厚, 鋼線重量, 耐電圧, 絶縁抵抗, 電氣試験, 1巻の標準長.

第十五表 二心「ゴム」絶縁鉛被網代鍍装線

Table with 12 columns: 型番, 素線数/素線径, 計算断面積, 外径, ゴム絶縁層厚, 芯線合外径, 芯線合外径, テーパー厚, 絶縁層厚, 鋼線直径, 鋼線厚, 鋼線重量, 耐電圧, 絶縁抵抗, 電氣試験, 1巻の標準長.

第十六表 二心「ゴム」絶縁鉛被網代鍍装編組線

Table with 12 columns: 型番, 素線数/素線径, 計算断面積, 外径, ゴム絶縁層厚, 芯線合外径, 芯線合外径, テーパー厚, 絶縁層厚, 鋼線直径, 鋼線厚, 鋼線重量, 耐電圧, 絶縁抵抗, 電氣試験, 1巻の標準長.

第十七表 三心「ゴム」絶縁鉛被線

Table with 12 columns: 型番, 素線数/素線径, 計算断面积, 外径, ゴム絶縁層厚, 布テープ厚, 線芯合外径, 布テープ厚, 絶縁層厚, 鉛被厚, 仕上外徑, 外公差, 概重量, 耐電試験電圧, 絶縁抵抗, 電氣試験, 1巻の標準長.

第十八表 三心「ゴム」絶縁鉛被編組線

Table with 12 columns: 型番, 素線数/素線径, 計算断面积, 外径, ゴム絶縁層厚, 布テープ厚, 線芯合外径, 布テープ厚, 絶縁層厚, 鉛被厚, 仕上外徑, 外公差, 概重量, 耐電試験電圧, 絶縁抵抗, 電氣試験, 1巻の標準長.

第十九表 三心「ゴム」絶縁鉛被鍍装線

Table with 12 columns: 型番, 素線数/素線径, 計算断面积, 外径, ゴム絶縁層厚, 布テープ厚, 線芯合外径, 布テープ厚, 絶縁層厚, 鉛被厚, 仕上外徑, 外公差, 概重量, 耐電試験電圧, 絶縁抵抗, 電氣試験, 1巻の標準長.

第二十表 三心「ゴム」絶縁鉛被鍍装編組線

Table with 12 columns: 型番, 素線数/素線径, 計算断面积, 外径, ゴム絶縁層厚, 布テープ厚, 線芯合外径, 布テープ厚, 絶縁層厚, 鉛被厚, 仕上外徑, 外公差, 概重量, 耐電試験電圧, 絶縁抵抗, 電氣試験, 1巻の標準長.

第二十一表 三心「ゴム」絶縁鉛被網代鍍裝線

Table with 12 columns: 型番, 素線数, 素線径, 計算断面積, 體積, ゴム絶縁層厚, テーパー厚, 線心燃合外徑, テーパー厚, 布厚, 鉛被厚, 網代鍍裝編組厚, 網代鍍裝編組厚, 仕上外徑公差, 外徑公差, 重量, 耐壓試験電圧, 絶縁抵抗, 導電抵抗, 1巻の標準長.

第二十二表 三心「ゴム」絶縁鉛被網代鍍裝編組線

Table with 12 columns: 型番, 素線数, 素線径, 計算断面積, 體積, ゴム絶縁層厚, テーパー厚, 線心燃合外徑, テーパー厚, 布厚, 鉛被厚, 網代鍍裝編組厚, 網代鍍裝編組厚, 仕上外徑公差, 外徑公差, 重量, 耐壓試験電圧, 絶縁抵抗, 導電抵抗, 1巻の標準長.

第二十三表 多心「ゴム」絶縁鉛被線

Table with 12 columns: 型番, 線心数, 線径, 計算断面積, 體積, ゴム絶縁層厚, テーパー厚, 燃合外徑, テーパー厚, 布厚, 鉛被厚, 仕上外徑, 仕上外徑公差, 重量, 耐壓試験電圧, 絶縁抵抗, 導電抵抗, 1巻の標準長.

第二十四表 多心「ゴム」絶縁鉛被編組線

型番	線心数	導線		ゴム絶縁厚 mm	ゴム絶縁體厚 mm	布テーパー厚 mm	撚合外徑 mm	撚合徑 mm	布テーパー厚 mm	鉛被厚 mm	撚組編組 mm	仕上外徑 mm	外徑公差 mm	規算重量 kg/km	耐壓試験電圧 V/1分	絶縁抵抗 15°C MΩ/km	絶縁抵抗 20°C Ω/km	1巻の標準長 m
		徑 mm	斷面積 mm ²															
LBM-1	2	1.2	1.131	0.9	0.9	0.25	7.0	0.25	1.0	1.0	11.6	0.5	425	1,500	2,000以上	16.2以下	500	
LBM-2	3	1.2	1.131	0.9	0.9	0.25	7.5	0.25	1.0	1.0	12.1	0.5	465	1,500	2,000	16.2	500	
LBM-3	4	1.2	1.131	0.9	0.9	0.25	8.5	0.25	1.1	1.0	13.3	0.5	570	1,500	2,000	16.2	500	
LBM-4	5	1.2	1.131	0.9	0.9	0.25	9.5	0.25	1.1	1.0	14.3	0.6	650	1,500	2,000	16.2	500	
LBM-5	7	1.2	1.131	0.9	0.9	0.25	10.5	0.25	1.1	1.0	15.3	0.6	730	1,500	2,000	16.2	500	
LBM-6	9	1.2	1.131	0.9	0.9	0.25	12.6	0.25	1.2	1.0	17.0	0.7	940	1,500	2,000	16.2	250	
LBM-7	12	1.2	1.131	0.9	0.9	0.25	14.5	0.25	1.3	1.0	19.7	0.8	1,170	1,500	2,000	16.2	250	
LBM-8	16	1.2	1.131	0.9	0.9	0.25	16.5	0.25	1.3	1.0	21.7	0.9	1,370	1,500	2,000	16.2	250	
LBM-9	19	1.2	1.131	0.9	0.9	0.25	17.5	0.25	1.3	1.5	23.7	0.9	1,540	1,500	2,000	16.2	250	
LBM-10	23	1.2	1.131	0.9	0.9	0.25	21.0	0.25	1.5	1.5	27.6	1.1	2,050	1,500	2,000	16.2	250	
LBM-11	27	1.2	1.131	0.9	0.9	0.25	21.5	0.25	1.5	1.5	28.1	1.1	2,150	1,500	2,000	16.2	250	
LBM-12	33	1.2	1.131	0.9	0.9	0.25	23.5	0.25	1.5	1.5	30.1	1.2	2,400	1,500	2,000	16.2	250	
LBM-13	37	1.2	1.131	0.9	0.9	0.25	24.5	0.25	1.6	1.5	31.8	1.3	2,680	1,500	2,000	16.2	250	
LBM-14	2	1.6	2.011	0.9	0.9	0.25	7.8	0.25	1.1	1.0	12.6	0.5	520	1,500	2,000	9.11	500	
LBM-15	3	1.6	2.011	0.9	0.9	0.25	8.4	0.25	1.1	1.0	13.2	0.5	560	1,500	2,000	9.11	500	
LBM-16	4	1.6	2.011	0.9	0.9	0.25	9.4	0.25	1.1	1.0	14.2	0.6	660	1,500	2,000	9.11	500	
LBM-17	5	1.6	2.011	0.9	0.9	0.25	10.5	0.25	1.1	1.0	15.3	0.6	750	1,500	2,000	9.11	500	
LBM-18	7	1.6	2.011	0.9	0.9	0.25	11.7	0.25	1.2	1.0	16.7	0.7	910	1,500	2,000	9.11	500	
LBM-19	9	1.6	2.011	0.9	0.9	0.25	14.1	0.25	1.2	1.0	19.1	0.8	1,110	1,500	2,000	9.11	250	
LBM-20	12	1.6	2.011	0.9	0.9	0.25	16.2	0.25	1.3	1.0	21.4	0.9	1,390	1,500	2,000	9.11	250	
LBM-21	16	1.6	2.011	0.9	0.9	0.25	18.3	0.25	1.4	1.5	24.7	1.0	1,780	1,500	2,000	9.11	250	
LBM-22	19	1.6	2.011	0.9	0.9	0.25	19.5	0.25	1.4	1.5	25.9	1.0	1,940	1,500	2,000	9.11	250	
LBM-23	23	1.6	2.011	0.9	0.9	0.25	22.4	0.25	1.5	1.5	30.0	1.2	2,450	1,500	2,000	9.11	250	
LBM-24	27	1.6	2.011	0.9	0.9	0.25	24.0	0.25	1.5	1.5	30.6	1.2	2,600	1,500	2,000	9.11	250	
LBM-25	33	1.6	2.011	0.9	0.9	0.25	26.1	0.25	1.6	1.5	32.9	1.3	3,010	1,500	2,000	9.11	250	
LBM-26	37	1.6	2.011	0.9	0.9	0.25	27.3	0.25	1.6	1.6	34.1	1.4	3,290	1,500	2,000	9.11	250	

第二十五表 多心「ゴム」絶縁鉛被鍍装線

型番	線心数	導線		ゴム絶縁厚 mm	ゴム絶縁體厚 mm	布テーパー厚 mm	撚合外徑 mm	撚合徑 mm	布テーパー厚 mm	鉛被厚 mm	鋼線鍍装厚 mm	仕上外徑 mm	外公差 mm	規算重量 kg/km	耐壓試験電圧 V/1分	絶縁抵抗 15°C MΩ/km	絶縁抵抗 20°C Ω/kg	1巻の標準長 m
		徑 mm	斷面積 mm ²															
LAM-1	2	1.2	1.131	0.9	0.9	0.25	7.0	0.25	1.0	1.0	1.2	13.9	0.6	695	1,500	2,000以上	16.2以下	500
LAM-2	3	1.2	1.131	0.9	0.9	0.25	7.5	0.25	1.0	1.0	1.2	14.4	0.6	745	1,500	2,000	16.2	500
LAM-3	4	1.2	1.131	0.9	0.9	0.25	8.5	0.25	1.1	1.0	1.2	15.0	0.6	878	1,500	2,000	16.2	500
LAM-4	5	1.2	1.131	0.9	0.9	0.25	9.5	0.25	1.1	1.5	1.6	18.4	0.7	1,150	1,500	2,000	16.2	500
LAM-5	7	1.2	1.131	0.9	0.9	0.25	10.5	0.25	1.1	1.5	1.6	19.4	0.8	1,270	1,500	2,000	16.2	500
LAM-6	9	1.2	1.131	0.9	0.9	0.25	12.6	0.25	1.2	1.5	1.6	21.7	0.9	1,550	1,500	2,000	16.2	250
LAM-7	12	1.2	1.131	0.9	0.9	0.25	14.5	0.25	1.3	1.5	1.6	23.8	1.0	1,840	1,500	2,000	16.2	250
LAM-8	16	1.2	1.131	0.9	0.9	0.25	16.5	0.25	1.3	1.5	1.6	25.8	1.0	2,100	1,500	2,000	16.2	250
LAM-9	19	1.2	1.131	0.9	0.9	0.25	17.5	0.25	1.3	2.5	2.0	29.6	1.2	2,600	1,500	2,000	16.2	250
LAM-10	23	1.2	1.131	0.9	0.9	0.25	21.0	0.25	1.5	2.5	2.0	33.5	1.3	3,250	1,500	2,000	16.2	250
LAM-11	27	1.2	1.131	0.9	0.9	0.25	21.5	0.25	1.5	2.5	2.0	35.2	1.4	3,750	1,500	2,000	16.2	250
LAM-12	33	1.2	1.131	0.9	0.9	0.25	23.5	0.25	1.5	2.5	2.0	37.2	1.5	4,130	1,500	2,000	16.2	250
LAM-13	37	1.2	1.131	0.9	0.9	0.25	24.5	0.25	1.6	2.5	2.0	38.4	1.5	4,450	1,500	2,000	16.2	250
LAM-14	2	1.6	2.011	0.9	0.9	0.25	7.8	0.25	1.1	1.0	1.2	14.9	0.6	810	1,500	2,000	9.11	500
LAM-15	3	1.6	2.011	0.9	0.9	0.25	8.4	0.25	1.1	1.0	1.2	15.5	0.6	882	1,500	2,000	9.11	500
LAM-16	4	1.6	2.011	0.9	0.9	0.25	9.4	0.25	1.1	1.5	1.6	18.3	0.7	1,160	1,500	2,000	9.11	500
LAM-17	5	1.6	2.011	0.9	0.9	0.25	10.5	0.25	1.1	1.5	1.6	19.4	0.8	1,280	1,500	2,000	9.11	500
LAM-18	7	1.6	2.011	0.9	0.9	0.25	11.7	0.25	1.2	1.5	1.6	20.8	0.8	1,500	1,500	2,000	9.11	500
LAM-19	9	1.6	2.011	0.9	0.9	0.25	14.1	0.25	1.2	1.5	1.6	23.2	0.9	1,760	1,500	2,000	9.11	250
LAM-20	12	1.6	2.011	0.9	0.9	0.25	16.2	0.25	1.3	1.5	1.6	25.5	1.0	2,110	1,500	2,000	9.11	250
LAM-21	16	1.6	2.011	0.9	0.9	0.25	18.3	0.25	1.4	2.5	2.0	30.6	1.2	2,870	1,500	2,000	9.11	250
LAM-22	19	1.6	2.011	0.9	0.9	0.25	19.5	0.25	1.4	2.5	2.0	31.8	1.3	3,080	1,500	2,000	9.11	250
LAM-23	23	1.6	2.011	0.9	0.9	0.25	22.4	0.25	1.5	2.5	2.0	37.1	1.5	4,150	1,500	2,000	9.11	250
LAM-24	27	1.6	2.011	0.9	0.9	0.25	24.9	0.25	1.5	2.5	2.0	37.7	1.5	4,350	1,500	2,000	9.11	250
LAM-25	33	1.6	2.011	0.9	0.9	0.25	26.1	0.25	1.6	2.5	2.0	40.0	1.6	4,900	1,500	2,000	9.11	250
LAM-26	37	1.6	2.011	0.9	0.9	0.25	27.3	0.25	1.6	2.5	2.0	41.2	1.6	5,170	1,500	2,000	9.11	250

第三十表 單心紙絕緣鉛被編組線

型番	線		轉		紙絕緣厚 mm	鉛被厚 mm	編被厚 mm	粗厚 mm	仕外 mm	上徑 mm	外公 mm	徑差 mm	概算重量 kg/km	電氣試驗		1巻の標準長 m
	素線數/mm	素線徑 mm	計斷面積 mm ²	算斷面積 mm ²										耐壓試驗電壓 V/10分	絕緣抵抗 MΩ/km 15°C	
P B - 1	37/0.9		23.54		1.5	1.4	1.0	14.2	0.6	3,000	100以上	0.7697 以下	300			
P B - 2	56/0.9		35.63		1.5	1.4	1.0	15.8	0.6	3,000	100	0.5086	300			
P B - 3	80/0.9		50.90		1.5	1.5	1.0	17.5	0.7	3,000	100	0.3560	300			
P B - 4	61/1.2		68.99		1.5	1.5	1.0	18.9	0.8	3,000	100	0.2627	300			
P B - 5	56/1.4		86.19		1.5	1.6	1.0	20.5	0.8	3,000	50	0.2102	300			
P B - 6	70/1.4		107.7		1.5	1.6	1.5	23.3	0.9	3,000	50	0.1682	300			
P B - 7	85/1.4		130.8		1.5	1.6	1.5	24.3	1.0	3,000	50	0.1385	300			
P B - 8	80/1.6		160.9		2.0	1.7	1.5	27.2	1.1	3,000	50	0.1126	300			
P B - 9	61/2.0		191.7		2.0	1.8	1.5	28.7	1.1	3,000	50	0.09359	300			
P B - 10	70/2.0		219.9		2.0	1.8	1.5	30.7	1.2	3,000	50	0.08156	300			
P B - 11	85/2.0		267.1		2.0	1.9	1.5	32.3	1.3	3,000	50	0.06717	250			
P B - 12	108/2.0		339.3		2.0	2.0	1.5	35.4	1.4	3,000	50	0.05286	250			
P B - 13	127/2.0		399.0		2.5	2.0	1.5	38.1	1.5	3,000	50	0.04496	250			
P B - 14	169/2.0		530.9		2.5	2.2	1.5	42.5	1.6	3,000	50	0.03379	250			
P B - 15	208/2.0		653.4		2.5	2.3	1.5	46.1	1.7	3,000	50	0.02772	200			

第三十一表 單心紙絕緣鉛被鍍裝線

型番	線		轉		紙絕緣厚 mm	鉛被厚 mm	鍍厚 mm	鋼徑 mm	仕外 mm	上徑 mm	外公 mm	徑差 mm	概算重量 kg/km	電氣試驗		1巻の標準長 m
	素線數/mm	素線徑 mm	計斷面積 mm ²	算斷面積 mm ²										耐壓試驗電壓 V/10分	絕緣抵抗 MΩ/km 15°C	
P A - 1	37/0.9		23.54		1.5	1.4	1.5	1.6	13.3	0.7	1,400	100以上	0.7697 以下	800		
P A - 2	56/0.9		35.67		1.5	1.4	1.5	1.6	19.9	0.8	1,670	100	0.5086	300		
P A - 3	80/0.9		50.90		1.5	1.5	1.5	1.6	21.6	0.9	2,000	100	0.3560	300		
P A - 4	61/1.2		68.99		1.5	1.5	1.5	1.6	23.0	0.9	2,310	100	0.2627	300		
P A - 5	56/1.4		86.19		1.5	1.6	1.5	1.6	24.6	1.0	2,680	50	0.2102	300		
P A - 6	70/1.4		107.7		1.5	1.6	1.6	2.0	29.2	1.2	3,410	50	0.1682	300		
P A - 7	85/1.4		130.8		1.5	1.6	1.6	2.0	30.2	1.2	3,740	50	0.1385	300		
P A - 8	80/1.6		160.9		2.0	1.7	2.5	2.0	33.1	1.3	4,450	50	0.1126	300		
P A - 9	61/2.0		191.7		2.0	1.8	2.5	2.6	35.8	1.4	5,400	50	0.09359	300		
P A - 10	70/2.0		219.9		2.0	1.8	2.5	2.6	37.8	1.5	6,000	50	0.08156	300		
P A - 11	85/2.0		267.1		2.0	1.9	2.5	2.6	39.4	1.6	6,700	50	0.06717	250		
P A - 12	108/2.0		339.3		2.0	2.0	2.5	2.6	42.5	1.6	7,880	50	0.05286	250		
P A - 13	127/2.0		399.0		2.5	2.0	2.5	2.6	45.5	1.7	8,830	50	0.04496	250		
P A - 14	169/2.0		530.9		2.5	2.2	2.5	2.6	49.2	1.8	11,000	50	0.03379	250		
P A - 15	208/2.0		653.4		2.5	2.3	2.5	2.6	53.2	1.9	12,800	50	0.02772	200		

第三十二表 單心紙絕緣鉛被鍍裝編組線

型番	導線數/素線徑 mm		計算斷面積 mm ²	紙絕緣厚 mm	鉛被厚 mm	鍍裝鋼線徑 mm		編組厚 mm	仕外徑 mm	上外徑 mm	公差 mm	概算重量 kg/km	耐壓試驗電壓 V/10分	絕緣抵抗 15°C MΩ/km	電氣試驗 絕緣抵抗 20°C Ω/km	1卷の標準長 m
	素線數	素線徑				鋼線厚	鋼線徑									
PAB-1	37	0.9	23.54	1.5	1.4	1.5	1.6	1.0	20.4	0.8	1.500	3,000	100以上	0.7697	以下	300
PAB-2	56	0.9	35.63	1.5	1.4	1.5	1.6	1.0	22.0	0.9	1,780	3,000	100	0.5686	#	300
PAB-3	80	0.9	50.90	1.5	1.5	1.5	1.6	1.0	23.7	1.0	2,130	3,000	100	0.3560	#	300
PAB-4	61	1.2	63.99	1.5	1.5	1.5	1.6	1.0	25.1	1.0	2,440	3,000	100	0.2627	#	300
PAB-5	55	1.4	86.19	1.5	1.6	1.5	1.6	1.0	26.7	1.1	2,820	3,000	50	0.2102	#	300
PAB-6	70	1.4	107.7	1.5	1.6	2.5	2.0	1.5	32.3	1.3	3,660	3,000	50	0.1682	#	300
PAB-7	85	1.4	130.8	1.5	1.6	2.5	2.0	1.5	33.3	1.3	4,000	3,000	50	0.1385	#	300
PAB-8	80	1.6	160.9	2.0	1.7	2.5	2.0	1.5	36.2	1.4	4,750	3,000	50	0.1126	#	300
PAB-9	61	2.0	191.7	2.0	1.8	2.5	2.6	1.5	38.9	1.6	5,700	3,000	50	0.09259	#	300
PAB-10	70	2.0	219.9	2.0	1.8	2.5	2.6	1.5	40.9	1.6	6,300	3,000	50	0.08156	#	300
PAB-11	85	2.0	267.1	2.0	1.9	2.5	2.6	1.5	42.5	1.6	7,000	3,000	50	0.06717	#	250
PAB-12	108	2.0	339.3	2.0	2.0	2.5	2.6	1.5	45.6	1.7	8,200	3,000	50	0.05286	#	250
PAB-13	127	2.0	399.0	2.5	2.0	2.5	2.6	1.5	48.3	1.8	9,250	3,000	50	0.04496	#	250
PAB-14	169	2.0	530.9	2.5	2.2	2.5	2.6	1.5	52.7	1.9	11,400	3,000	50	0.03279	#	250
PAB-15	208	2.0	653.4	2.5	2.3	2.5	2.6	1.5	56.3	2.0	13,200	3,000	50	0.02772	#	200

第三十三表 單心紙絕緣鉛被網代鍍裝線

型番	導線數/素線徑 mm		計算斷面積 mm ²	紙絕緣厚 mm	鉛被厚 mm	網代鍍裝鋼線徑 mm		仕外徑 mm	上外徑 mm	公差 mm	概算重量 kg/km	耐壓試驗電壓 V/10分	絕緣抵抗 15°C MΩ/km	電氣試驗 絕緣抵抗 20°C Ω/km	1卷の標準長 m	
	素線數	素線徑				鋼線厚	鋼線徑									
PC-1	37	0.9	23.54	1.5	1.4	0.5	0.3	0.8	14.7	0.9	1,050	3,000	100以上	0.7697	以下	300
PC-2	56	0.9	35.63	1.5	1.4	0.5	0.3	0.8	16.3	1.0	1,300	3,000	100	0.5686	#	300
PC-3	80	0.9	50.90	1.5	1.5	0.5	0.3	0.8	18.0	1.0	1,600	3,000	100	0.3560	#	300
PC-4	61	1.2	68.99	1.5	1.5	0.5	0.3	0.8	19.4	1.1	1,880	3,000	100	0.2627	#	300
PC-5	55	1.4	86.19	1.5	1.6	0.5	0.3	0.8	21.0	1.1	2,200	3,000	50	0.2102	#	300
PC-6	70	1.4	107.7	1.5	1.6	0.5	0.3	0.8	22.8	1.2	2,570	3,000	50	0.1682	#	300
PC-7	85	1.4	130.8	1.5	1.6	0.5	0.3	0.8	23.8	1.3	2,870	3,000	50	0.1385	#	300
PC-8	80	1.6	160.9	2.0	1.7	0.5	0.3	0.8	26.7	1.4	3,500	3,000	50	0.1126	#	300
PC-9	61	2.0	191.7	2.0	1.8	0.5	0.4	1.1	28.8	1.5	4,170	3,000	50	0.09259	#	300
PC-10	70	2.0	219.9	2.0	1.8	0.5	0.4	1.1	30.8	1.5	4,600	3,000	50	0.08156	#	300
PC-11	85	2.0	267.1	2.0	1.9	0.5	0.4	1.1	32.4	1.6	5,250	3,000	50	0.06717	#	250
PC-12	108	2.0	339.3	2.0	2.0	0.5	0.4	1.1	35.5	1.7	6,350	3,000	50	0.05286	#	250
PC-13	127	2.0	399.0	2.5	2.0	0.5	0.4	1.1	38.2	1.8	7,250	3,000	50	0.04496	#	250
PC-14	169	2.0	530.9	2.5	2.2	0.5	0.4	1.1	42.6	1.9	9,220	3,000	50	0.03279	#	250
PC-15	208	2.0	653.4	2.5	2.3	0.5	0.4	1.1	46.2	2.0	10,900	3,000	50	0.02772	#	200

第三十四表 單心紙絕緣鉛被網代鉛裝編組線

型番	線徑/mm		紙絕緣厚/mm	鉛被厚/mm	網代鉛厚/mm		鋼線徑/mm		編組厚/mm	仕外徑/mm	上外徑/mm	外徑公差/mm	概算重量/kg/km	電壓試驗電壓 V/10分	耐壓試驗絕緣抵抗 15°C MΩ/km	試驗導電抵抗 20°C Ω/km	1卷の標準長/mm
	素線數/素線徑	計斷面積			鋼線厚	鋼線徑	鋼線厚	鋼線徑									
PCB-1	37/0.9	23.54	1.5	1.4	0.5	0.5	0.3	0.8	1.0	13.8	1.0	1.0	1,150	3,000	100以上	0.7697以下	300
PCB-2	56/0.9	35.63	1.5	1.4	0.5	0.5	0.3	0.8	1.0	18.4	1.0	1.0	1,390	3,000	100	0.5086	300
PCB-3	89/0.9	59.90	1.5	1.5	0.5	0.5	0.3	0.8	1.0	20.1	1.0	1.1	1,710	3,000	100	0.3560	300
PCB-4	61/1.2	68.99	1.5	1.5	0.5	0.5	0.3	0.8	1.0	21.5	1.0	1.2	2,000	3,000	100	0.2627	300
PCB-5	56/1.4	86.19	1.5	1.6	0.5	0.5	0.3	0.8	1.0	23.1	1.0	1.2	2,350	3,000	50	0.2102	300
PCB-6	70/1.4	167.7	1.5	1.6	0.5	0.5	0.3	0.8	1.5	25.9	1.3	1.3	2,780	3,000	50	0.1632	300
PCB-7	85/1.4	130.8	1.5	1.6	0.5	0.5	0.3	0.8	1.5	26.9	1.4	1.4	3,080	3,000	50	0.1385	300
PCB-8	80/1.6	160.9	2.0	1.7	0.5	0.5	0.3	0.8	1.5	29.8	1.5	1.5	3,750	3,000	50	0.1126	300
PCB-9	61/2.0	191.7	2.0	1.8	0.5	0.5	0.4	1.1	1.5	31.9	1.6	1.6	4,400	3,000	50	0.09359	30
PCB-10	70/2.0	219.9	2.0	1.8	0.5	0.5	0.4	1.1	1.5	33.9	1.7	1.7	4,880	3,000	50	0.08155	300
PCB-11	85/2.0	267.1	2.0	1.9	0.5	0.5	0.4	1.1	1.5	35.5	1.7	1.7	5,600	3,000	50	0.06717	250
PCB-12	108/2.0	339.3	2.0	2.0	0.5	0.5	0.4	1.1	1.5	38.6	1.8	1.8	6,700	3,000	50	1.05286	250
PCB-13	127/2.0	399.0	2.5	2.0	0.5	0.5	0.4	1.1	1.5	41.3	1.9	1.9	7,650	3,000	50	0.04496	250
PCB-14	169/2.0	530.9	2.5	2.2	0.5	0.5	0.4	1.1	1.5	45.7	2.0	2.0	9,650	3,000	50	0.03379	250
PCB-15	208/2.0	653.4	2.5	2.3	0.5	0.5	0.4	1.1	1.5	49.3	2.1	2.1	11,300	3,000	50	0.02772	200

第三十五表 二心紙絕緣鉛被線

型番	線徑/mm		紙絕緣厚/mm	鉛被厚/mm	仕外徑/mm	上外徑/mm	概算重量/kg/km	電壓試驗電壓 V/10分	耐壓試驗絕緣抵抗 15°C MΩ/km	試驗導電抵抗 20°C Ω/km	1卷の標準長/m
	素線數/素線徑	計斷面積									
P-2-1	24/1.2	27.14	2.0	1.5	17.8	0.7	1,570	3,000	100以上	0.6710以下	300
P-2-2	24/1.5	36.94	2.0	1.5	19.6	0.8	1,920	3,000	100	0.4931	300
P-2-3	24/1.6	43.26	2.0	1.5	21.2	0.9	2,250	3,000	100	0.3774	300
P-2-4	24/1.8	61.08	2.0	1.5	23.0	0.9	2,700	3,000	100	0.2832	300
P-2-5	24/2.0	75.41	2.0	1.5	24.6	1.0	3,050	3,000	100	0.2321	300
P-2-6	24/2.3	99.72	2.0	1.5	27.2	1.1	3,770	3,000	100	0.1803	300
P-2-7	24/2.6	127.4	2.5	1.75	30.8	1.2	4,700	3,000	100	0.1415	300
P-2-8	48/2.0	150.8	2.5	1.75	32.8	1.3	5,600	3,000	50	0.1195	300
P-2-9	48/2.3	199.4	2.5	2.05	37.2	1.5	6,920	3,000	50	0.08040	200
P-2-10	48/2.6	254.8	2.5	2.05	40.8	1.6	8,400	3,000	50	0.07035	200
P-2-11	78/2.3	324.1	2.5	2.05	44.8	1.7	10,200	3,000	50	0.05563	200
P-2-12	78/2.6	414.1	2.5	2.05	49.6	1.8	12,700	3,000	50	0.04354	200
P-2-13	78/2.9	515.2	2.5	2.05	54.0	1.9	15,200	3,000	50	0.03500	150

第三十六表 二心紙絶縁鉛被編組線

型	番	導 線		紙 絶 縁 厚		鉛 被 厚	編 組 厚	仕 外 徑	外 公 差	概 算 重 量	電 壓	電 氣 試 験		1 巻 の 標 準 長
		素 線 徑	計 算 斷 面 積	導 線 間 距	導 線 間 距							絶 縁 抵 抗	導 絶 縁 抵 抗	
		mm	mm ²	mm	mm	mm	mm	mm	mm	kg/km	V/10分	MΩ/km	Ω/km	m
PB 2-1		24/1.2	27.14	2.0	1.5	1.5	1.0	19.5	0.8	1,670	3,000	100以上	0.6710 以下	300
PB 2-2		24/1.4	36.94	2.0	1.5	1.6	1.0	21.7	0.9	2,900	3,000	100	0.4531	300
PB 2-3		24/1.6	48.26	2.0	1.5	1.6	1.5	24.3	1.0	2,400	3,000	100	0.3774	300
PB 2-4		24/1.8	61.08	2.0	1.5	1.7	1.5	26.1	1.0	2,880	3,000	100	0.2982	300
PB 2-5		24/2.0	75.41	2.0	1.5	1.7	1.5	27.7	1.1	3,270	3,000	100	0.2291	300
PB 2-6		24/2.3	99.72	2.0	1.5	1.8	1.5	30.3	1.2	4,000	3,000	100	0.1808	300
PB 2-7		24/2.6	127.4	2.5	1.75	1.9	1.5	33.9	1.4	4,970	3,000	100	0.1415	300
PB 2-8		48/2.0	150.8	2.5	1.75	2.0	1.5	35.9	1.4	5,730	3,000	50	0.1196	300
PB 2-9		48/2.3	199.4	2.5	2.05	2.1	1.5	40.3	1.6	7,210	3,000	50	0.09040	200
PB 2-10		48/2.6	254.8	2.5	2.05	2.2	1.5	43.9	1.7	8,700	3,000	50	0.07075	200
PB 2-11		78/2.3	324.1	2.5	2.05	2.3	1.5	47.9	1.8	10,600	3,000	50	0.05563	200
PB 2-12		78/2.6	414.1	2.5	2.05	2.5	1.5	52.7	1.9	13,100	3,000	50	0.04354	200
PB 2-13		78/2.9	515.2	2.5	2.05	2.6	1.5	57.1	2.0	15,600	3,000	50	0.03500	150

第三十七表 二心紙絶縁鉛被鍍装線

型	番	導 線		紙 絶 縁 厚		鉛 被 厚	鍍 装 厚	仕 外 徑	外 公 差	概 算 重 量	電 壓	電 氣 試 験		1 巻 の 標 準 長
		素 線 徑	計 算 斷 面 積	導 線 間 距	導 線 間 距							絶 縁 抵 抗	導 絶 縁 抵 抗	
		mm	mm ²	mm	mm	mm	mm	mm	mm	kg/km	V/10分	MΩ/km	Ω/km	m
PA 2-1		24/1.2	27.14	2.0	1.5	1.5	1.5	24.0	1.0	2,350	3,000	100以上	0.6710 以下	300
PA 2-2		24/1.4	36.94	2.0	1.5	1.6	1.5	25.8	1.0	5,770	3,000	100	0.4831	300
PA 2-3		24/1.6	48.26	2.0	1.5	1.6	2.5	30.2	1.2	3,500	3,000	100	0.3774	300
PA 2-4		24/1.8	61.08	2.0	1.5	1.7	2.5	32.0	1.3	4,000	3,000	100	0.2982	300
PA 2-5		24/2.0	75.41	2.0	1.5	1.7	2.5	33.6	1.3	4,470	3,000	100	0.2291	300
PA 2-6		24/2.3	99.72	2.0	1.5	1.8	2.5	37.4	1.5	5,720	3,000	100	0.1808	300
PA 2-7		24/2.6	127.4	2.5	1.75	1.9	2.5	41.0	1.6	6,830	3,000	100	0.1415	300
PA 2-8		48/2.0	150.8	2.5	1.75	2.0	2.5	43.0	1.7	7,750	3,000	50	0.1196	300
PA 2-9		48/2.3	199.4	2.5	2.05	2.1	2.5	47.4	1.8	9,450	3,000	50	0.09040	200
PA 2-10		48/2.6	254.8	2.5	2.05	2.2	2.5	51.0	1.8	11,100	3,000	50	0.07075	200
PA 2-11		78/2.3	324.1	2.5	2.05	2.3	2.5	55.0	1.9	13,200	3,000	50	0.05563	200
PA 2-12		78/2.6	414.1	2.5	2.05	2.5	2.5	59.8	2.0	16,000	3,000	50	0.04354	200
PA 2-13		78/2.9	515.2	2.5	2.05	2.6	2.5	64.2	2.1	18,700	3,000	50	0.03500	150

第三十八表 二心紙絶縁鉛被鍍装編組線

型番	線径		紙絶縁厚		鉛被厚		鍍装厚		編組厚		仕上外径 mm	外径公差 mm	概重量 kg/km	耐壓試験電圧 V/10分	電絶縁抵抗 15°C MΩ/km	電絶縁抵抗 20°C Ω/km	1巻の標準長 m
	素線径/mm	計算断面/mm ²	導線間相互/mm	導線間相互/mm	導線間相互/mm	鉛被厚/mm	鍍装厚/mm	銅線径/mm	編組厚/mm								
PAB2-1	24/1.2	27.14	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.6	1.6	23.1	1.0	2,480	3,000	100以上	0.6710以下	300
PAB2-2	24/1.4	36.94	2.0	1.5	1.6	1.5	1.5	1.5	1.6	1.6	27.9	1.1	2,900	3,000	100	0.4931	300
PAB2-3	24/1.6	48.26	2.0	1.5	1.6	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	33.3	1.3	3,770	3,000	100	0.3774	300
PAB2-4	24/1.8	61.08	2.0	1.5	1.7	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	35.1	1.4	4,300	3,000	100	0.2982	300
PAB2-5	24/2.0	75.41	2.0	1.5	1.7	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	36.7	1.5	4,770	3,000	100	0.2391	300
PAB2-6	24/2.3	99.72	2.0	1.5	1.8	1.5	1.5	1.5	2.0	2.0	40.5	1.6	6,000	3,000	100	0.1808	300
PAB2-7	24/2.6	127.4	2.5	1.75	1.9	1.5	1.5	1.5	2.6	2.6	44.1	1.7	7,200	3,000	100	0.1415	300
PAB2-8	48/2.0	250.8	2.5	1.75	2.0	1.5	1.5	1.5	2.6	2.6	46.1	1.7	8,200	3,000	50	0.1196	300
PAB2-9	48/2.3	199.4	2.5	2.05	2.1	1.5	1.5	1.5	2.6	2.6	50.5	1.8	9,850	3,000	50	0.09040	200
PAB2-10	48/2.6	254.8	2.5	2.05	2.2	1.5	1.5	1.5	2.6	2.6	54.1	1.9	11,500	3,000	80	0.07075	200
PAB2-11	78/2.3	324.1	2.5	2.05	2.3	1.5	1.5	1.5	2.6	2.6	58.1	2.0	13,700	3,000	50	0.05563	200
PAB2-12	78/2.6	414.1	2.5	2.05	2.5	1.5	1.5	1.5	2.6	2.6	62.9	2.1	16,500	3,000	50	0.04354	200
PAB2-13	78/2.9	515.2	2.5	2.05	2.6	1.5	1.5	1.5	2.6	2.6	67.3	2.2	19,300	3,000	50	0.03500	150

第三十九表 二心紙絶縁鉛被網代鍍装線

型番	線径		紙絶縁厚		鉛被厚		網代鍍装厚		編組厚		仕上外径 mm	外径公差 mm	概重量 kg/km	耐壓試験電圧 V/10分	電絶縁抵抗 15°C MΩ/km	電絶縁抵抗 20°C Ω/km	1巻の標準長 m
	素線径/mm	計算断面/mm ²	導線間相互/mm	導線間相互/mm	導線間相互/mm	鉛被厚/mm	網代鍍装厚/mm	銅線径/mm	編組厚/mm								
PC2-1	24/1.2	27.14	2.0	1.5	1.5	0.5	0.5	0.3	0.8	0.8	20.4	1.1	1,900	3,000	100以上	0.6710以下	300
PC2-2	24/1.4	39.64	2.0	1.5	1.6	0.5	0.5	0.3	0.8	0.8	22.2	1.2	2,290	3,000	100	0.4931	300
PC2-3	24/1.6	48.26	2.0	1.5	1.6	0.5	0.5	0.3	0.8	0.8	23.8	1.3	3,640	3,000	100	0.3774	300
PC2-4	24/1.8	61.08	2.0	1.5	1.7	0.5	0.5	0.3	0.8	0.8	25.6	1.3	3,110	3,000	100	0.2982	300
PC2-5	24/2.0	75.41	2.0	1.5	1.7	0.5	0.5	0.3	0.8	0.8	27.2	1.4	3,500	3,000	100	0.2391	300
PC2-6	24/2.3	99.72	2.0	1.5	1.8	0.5	0.5	0.4	1.1	1.1	30.4	1.5	4,560	3,000	100	0.1808	300
PC2-7	24/2.6	127.4	2.5	1.75	1.9	0.5	0.5	0.4	1.1	1.1	34.0	1.7	5,450	3,000	100	0.1415	300
PC2-8	48/2.0	150.8	2.5	1.75	2.0	0.5	0.5	0.4	1.1	1.1	36.0	1.7	6,260	3,000	50	0.1196	300
PC2-9	48/2.3	199.4	2.5	2.05	2.1	0.5	0.5	0.4	1.1	1.1	40.4	1.9	7,800	3,000	50	0.09040	200
PC2-10	48/2.6	254.8	2.5	2.05	2.2	0.5	0.5	0.4	1.1	1.1	44.0	2.0	9,300	3,000	50	0.07075	200
PC2-11	78/2.3	324.1	2.5	2.05	2.3	0.5	0.5	0.4	1.1	1.1	48.0	2.1	11,300	3,000	50	0.05563	200
PC2-12	78/2.6	414.1	2.5	2.05	2.5	0.5	0.5	0.4	1.1	1.1	52.8	2.2	13,900	3,000	50	0.04354	200
PC2-13	78/2.9	515.1	2.5	2.05	2.6	0.5	0.5	0.4	1.1	1.1	57.2	2.3	16,500	3,000	50	0.03500	150

第四十表 二心紙絶縁鉛被網代鍍裝編組線

型 番	導 體		紙 絶 縁 厚		鉛 被 厚 mm	銅 線 徑 mm	銅 線 厚 mm	編 組 厚 mm	上 外 徑 mm	外 徑 公 差 mm	規 算 重 量 kg/km	耐 壓 試 験 電 壓 V/10分	電 氣 試 験		1 卷 の 標 準 長 m
	素 線 數 / 素 線 徑 mm	計 斷 面 積 mm ²	導 體 間 距 mm	導 體 間 距 mm									絶 縁 厚 mm	絶 縁 厚 mm	
PCB2-1	24/1.2	27.14	2.0	1.5	1.5	0.5	0.3	0.8	22.5	1.2	2,000	3,000	100以上	0.6710 以下	300
PCB2-2	24/1.4	33.94	2.0	1.5	1.6	0.5	0.3	0.8	24.3	1.3	2,400	3,000	100 "	0.4931 "	300
PCB2-3	24/1.6	48.26	2.0	1.5	1.6	0.5	0.3	0.8	26.9	1.4	2,830	3,000	100 "	0.3774 "	300
PCB2-4	24/1.8	61.08	2.0	1.5	1.7	0.5	0.3	0.8	28.7	1.5	3,340	3,000	100 "	0.2982 "	300
PCB2-5	24/2.0	75.41	2.0	1.5	1.7	0.5	0.3	0.8	30.3	1.5	3,740	3,000	100 "	0.2391 "	300
PCB2-6	24/2.3	99.72	2.0	1.5	1.8	0.5	0.4	1.1	33.5	1.6	4,700	3,000	100 "	0.1808 "	300
PCB2-7	24/2.6	127.4	2.5	1.75	1.9	0.5	0.4	1.1	37.1	1.8	5,720	3,000	100 "	0.1415 "	300
PCB2-8	48/2.0	150.8	2.5	1.75	2.0	0.5	0.4	1.1	39.1	1.9	6,550	3,000	50 "	0.1196 "	300
PCB2-9	48/2.3	199.4	2.5	2.05	2.1	0.5	0.4	1.1	43.5	2.0	8,100	3,000	50 "	0.09040 "	200
PCB2-10	48/2.6	254.8	2.5	2.05	2.2	0.5	0.4	1.1	47.1	2.0	9,700	3,000	50 "	0.07075 "	200
PCB2-11	78/2.3	324.1	2.5	2.05	2.3	0.5	0.4	1.1	51.1	2.1	11,700	3,000	50 "	0.05563 "	200
PCB2-12	78/2.6	414.1	2.5	2.05	2.5	0.5	0.4	1.1	55.9	2.2	14,300	3,000	50 "	0.04354 "	200
PCB2-13	78/2.9	515.2	2.5	2.05	2.6	0.5	0.4	1.1	60.3	2.3	17,000	3,000	50 "	0.03500 "	150

第四十一表 三心紙絶縁鉛被線

型 番	素 線 數 / 素 線 徑 mm	計 斷 面 積 mm ²	紙 絶 縁 厚 mm	導 體 間 距 mm	鉛 被 厚 mm	銅 線 徑 mm	銅 線 厚 mm	編 組 厚 mm	上 外 徑 mm	外 徑 公 差 mm	規 算 重 量 kg/km	耐 壓 試 験 電 壓 V/10分	電 氣 試 験		1 卷 の 標 準 長 m
													絶 縁 抵 抗 15°C MΩ/km	導 體 抵 抗 20°C Ω/km	
P 3 - 1	19/1.4	26.24	2.0	1.5	1.5	1.6	1.5	0.3	21.0	0.8	2,170	3,000	100以上	0.6229 以下	300
P 3 - 2	19/1.6	38.21	2.0	1.5	1.5	1.7	1.5	0.3	23.0	0.9	2,640	3,000	100 "	0.4764 "	300
P 3 - 3	19/1.8	48.36	2.0	1.5	1.5	1.7	1.5	0.3	24.6	1.0	3,050	3,000	100 "	0.3767 "	300
P 3 - 4	19/2.0	59.70	2.0	1.5	1.5	1.8	1.5	0.3	26.0	1.1	3,600	3,000	100 "	0.2320 "	300
P 3 - 5	19/2.3	78.95	2.0	1.5	1.5	1.9	1.5	0.3	29.4	1.2	4,440	3,000	100 "	0.2284 "	300
P 3 - 6	38/1.8	96.71	2.0	1.5	1.5	1.9	1.5	0.3	31.6	1.3	5,170	3,000	100 "	0.1883 "	300
P 3 - 7	38/2.0	119.4	2.5	1.75	1.75	2.1	1.5	0.3	35.6	1.4	6,440	3,000	100 "	0.1510 "	300
P 3 - 8	38/2.3	157.9	2.5	1.75	1.75	2.2	1.5	0.3	39.4	1.6	8,000	3,000	50 "	0.1142 "	200
P 3 - 9	38/2.6	201.7	2.5	2.05	2.05	2.3	1.5	0.3	44.0	1.7	9,900	3,000	50 "	0.08027 "	200
P 3 - 10	38/2.9	251.0	2.5	2.05	2.05	2.4	1.5	0.3	48.0	1.8	13,000	3,000	50 "	0.07184 "	200
P 3 - 11	62/2.6	334.5	2.5	2.05	2.05	2.6	1.5	0.3	54.0	1.9	15,200	3,000	50 "	0.05391 "	150
P 3 - 12	62/2.9	416.1	2.5	2.05	2.05	2.7	1.5	0.3	59.0	2.0	18,200	3,000	50 "	0.04333 "	150
P 3 - 13	94/2.6	499.0	2.5	2.05	2.05	2.9	1.5	0.3	63.8	2.1	21,500	3,000	50 "	0.03613 "	150

第四十二表 三心紙絶縁鉛被編組線

型番	導線		絶縁厚 mm	紙絶縁厚 mm	導體 相互間 mm	導體 給被膜 mm	鉛被 厚 mm	編組 厚 mm	仕上 外徑 mm	外徑 公差 mm	重量 kg/km	電氣試驗		1巻の 標準長 m
	素線数/ 素線徑 mm	計 斷面積 mm ²										絶縁抵抗 15°C MΩ/kP	導線抵抗 20°C Ω/km	
PB3-1	19/1.4	29.24	2.0	1.5	1.5	1.6	1.5	24.1	1.0	2,360	3,000	100以上	0.6229 以下	300
PB3-2	19/1.6	38.21	2.0	1.5	1.5	1.7	1.5	26.1	1.0	2,840	3,000	100 "	0.4764 "	300
PB3-3	19/1.8	48.36	2.0	1.5	1.5	1.7	1.5	27.7	1.1	3,260	3,000	100 "	0.3767 "	300
PB3-4	19/2.0	59.70	2.0	1.5	1.5	1.8	1.5	29.7	1.2	3,800	3,000	100 "	0.3020 "	300
PB3-5	19/2.3	78.95	2.0	1.5	1.5	1.9	1.5	32.5	1.3	4,680	3,000	100 "	0.2284 "	300
PB3-6	38/1.8	96.71	2.0	1.5	1.5	1.9	1.5	34.7	1.4	5,430	3,000	100 "	0.1883 "	300
PB3-7	38/2.0	119.4	2.5	1.75	1.75	2.1	1.5	38.7	1.5	6,730	3,000	100 "	0.1510 "	300
PB3-8	38/2.3	157.9	2.5	1.75	1.75	2.2	1.5	42.5	1.6	8,330	3,000	50 "	0.1142 "	200
PB3-9	38/2.6	201.7	2.5	2.05	2.05	2.3	1.5	47.1	1.7	10,200	3,000	50 "	0.08937 "	200
PB3-10	38/2.9	251.0	2.5	2.05	2.05	2.4	1.5	51.1	1.8	13,000	3,000	50 "	0.07184 "	200
PB3-11	63/2.6	334.5	2.5	2.05	2.05	2.6	1.5	57.1	2.0	15,600	3,000	50 "	0.05391 "	150
PB3-12	63/2.9	416.1	2.5	2.05	2.05	2.7	1.5	62.1	2.1	18,700	3,000	50 "	0.04333 "	150
PB3-13	94/2.6	499.0	2.5	2.05	2.05	2.9	1.5	66.9	2.2	22,000	3,000	50 "	0.03613 "	150

第四十三表 三心紙絶縁鉛被鋳装線

型番	導線		紙絶縁厚 mm	導體 相互間 mm	鉛被 厚 mm	鉛被 厚 mm	鉛被 厚 mm	仕上 外徑 mm	外徑 公差 mm	重量 kg/km	電氣試驗		1巻の 標準長 m	
	素線数/ 素線徑 mm	計 斷面積 mm ²									絶縁抵抗 15°C MΩ/km	導線抵抗 20°C Ω/km		
PA3-1	19/1.4	29.24	2.0	1.5	1.5	1.6	2.5	30.0	1.2	3,400	3,000	100以上	0.6229 以下	300
PA3-2	19/1.6	38.21	2.0	1.5	1.5	1.7	2.5	32.0	1.3	3,970	3,000	100 "	0.4764 "	300
PA3-3	19/1.8	48.36	2.0	1.5	1.5	1.7	2.5	33.6	1.3	4,450	3,000	100 "	0.3767 "	300
PA3-4	19/2.0	59.70	2.0	1.5	1.5	1.8	2.5	36.8	1.5	5,500	3,000	100 "	0.3020 "	300
PA3-5	19/2.3	78.95	2.0	1.5	1.5	1.9	2.5	39.6	1.6	6,510	3,000	100 "	0.2284 "	300
PA3-6	38/1.8	96.71	2.0	1.5	1.5	1.9	2.5	41.6	1.6	7,350	3,000	100 "	0.1883 "	300
PA3-7	38/2.0	119.4	2.5	1.75	1.75	2.1	2.5	45.8	1.7	8,860	3,000	100 "	0.1510 "	300
PA3-8	38/2.3	157.9	2.5	1.75	1.75	2.2	2.5	49.6	1.8	10,600	3,000	50 "	0.1142 "	200
PA3-9	38/2.6	201.7	2.5	2.05	2.05	2.3	2.5	54.2	1.9	12,800	3,000	50 "	0.08937 "	200
PA3-10	38/2.9	251.0	2.5	2.05	2.05	2.4	2.5	58.2	2.0	15,500	3,000	50 "	0.07184 "	200
PA3-11	63/2.6	334.5	2.5	2.05	2.05	2.6	2.5	64.2	2.1	18,600	3,000	50 "	0.05391 "	150
PA3-12	63/2.9	416.1	2.5	2.05	2.05	2.7	2.5	69.2	2.2	22,000	3,000	50 "	0.04333 "	150
PA3-13	94/2.6	499.0	2.5	2.05	2.05	2.9	2.5	74.0	2.3	25,500	3,000	50 "	0.03613 "	150

第四十四表 三心紙絕緣鉛被鍍裝編組線

型 番	導 線 數 / 素 線 徑 mm	計 斷 面 積 mm ²	磅	紙 絕 緣 厚		鉛 被 厚 mm	錫 厚 mm	鋼 線 徑 mm	編 組 厚 mm	仕 上 外 徑 mm	外 公 差 mm	概 重 量 kg/km	耐 壓 試 驗 電 壓 V/10分	電 氣 試 驗 絕 緣 抵 抗 15°C MΩ/km	導 體 抵 抗 20°C Ω/km	1 卷 の 標 準 長 m
				導 體 間 mm	錫 被 間 mm											
PAB3-1	19/1.4	29.24	2.0	1.5	1.6	2.5	2.0	1.5	33.1	1.3	3.660	3,000	100以上	0.6229	以下	300
PAB3-2	19/1.6	38.21	2.0	1.5	1.7	2.5	2.0	1.5	35.1	1.4	4.240	3,000	100	0.4764	"	300
PAB3-3	19/1.8	48.36	2.0	1.5	1.7	2.5	2.0	1.5	36.7	1.5	4.720	3,000	100	0.3767	"	300
PAB3-4	19/1.0	59.70	2.0	1.5	1.8	2.5	2.0	1.5	39.9	1.6	5.860	3,000	100	0.3020	"	300
PAB3-5	19/1.3	78.95	2.0	1.5	1.9	2.5	2.0	1.5	42.7	1.6	6.830	3,000	100	0.2284	"	300
PAB3-6	38/1.8	96.71	2.0	1.5	1.9	2.5	2.0	1.5	44.7	1.7	7.700	3,000	100	0.1883	"	300
PAB3-7	38/2.0	119.4	2.5	1.75	2.1	2.5	2.0	1.5	48.9	1.8	9.240	3,000	100	0.1510	"	300
PAB3-8	38/2.3	157.9	2.5	1.75	2.2	2.5	2.0	1.5	52.7	1.9	11.100	3,000	50	0.1142	"	200
PAB3-9	38/2.6	201.7	2.5	2.05	2.3	2.5	2.0	1.5	57.3	2.0	13.200	3,000	50	0.08937	"	200
PAB3-10	38/2.9	251.0	2.5	2.05	2.4	2.5	2.0	1.5	61.3	2.1	16.500	3,000	50	0.07184	"	200
PAB3-11	63/2.6	334.5	2.5	2.05	2.6	2.5	2.0	1.5	67.3	2.2	19.200	3,000	50	0.05391	"	150
PAB3-12	63/2.9	416.1	2.5	2.05	2.7	2.5	2.0	1.5	72.3	2.3	22.500	3,000	50	0.04333	"	150
PAB3-13	94/2.6	499.0	2.5	2.05	2.9	2.5	2.0	1.5	77.1	2.4	26.500	3,000	50	0.03613	"	150

第四十五表 三心紙絕緣鉛被網代鍍裝線

型 番	導 線 數 / 素 線 徑 mm	計 斷 面 積 mm ²	磅	紙 絕 緣 厚		鉛 被 厚 mm	錫 厚 mm	鋼 線 徑 mm	編 組 厚 mm	仕 上 外 徑 mm	外 公 差 mm	概 重 量 kg/km	耐 壓 試 驗 電 壓 V/10分	電 氣 試 驗 絕 緣 抵 抗 15°C MΩ/km	導 體 抵 抗 20°C Ω/km	1 卷 の 標 準 長 m
				導 體 間 mm	錫 被 間 mm											
PC3-1	19/1.4	29.24	2.0	1.5	1.6	0.5	0.3	0.8	23.6	1.2	2,550	3,000	100以上	0.6229	以下	300
PC3-2	19/1.6	38.21	2.0	1.5	1.7	0.5	0.3	0.8	25.6	1.3	3,050	3,000	100	0.4764	"	300
PC3-3	19/1.8	48.36	2.0	1.5	1.7	0.5	0.3	0.8	27.2	1.4	3,500	3,000	100	0.3767	"	300
PC3-4	19/2.0	59.70	2.0	1.5	1.8	0.5	0.4	1.1	29.8	1.5	4,240	3,000	100	0.3020	"	300
PC3-5	19/2.3	78.95	2.0	1.5	1.9	0.5	0.4	1.1	32.6	1.6	5,140	3,000	100	0.2284	"	300
PC3-6	38/1.8	96.71	2.0	1.5	1.9	0.5	0.4	1.1	34.8	1.7	5,900	3,000	100	0.1883	"	300
PC3-7	38/2.0	119.4	2.5	1.75	2.1	0.5	0.4	1.1	38.8	1.9	7,280	3,000	100	0.1510	"	300
PC3-8	38/2.3	157.9	2.5	1.75	2.2	0.5	0.4	1.1	42.6	1.9	8,930	3,000	50	0.1142	"	200
PC3-9	38/2.6	201.7	2.5	2.05	2.3	0.5	0.4	1.1	47.2	2.1	10,900	3,000	50	0.08937	"	200
PC3-10	38/2.9	251.0	2.5	2.05	2.4	0.5	0.4	1.1	51.2	2.1	14,000	3,000	50	0.07184	"	200
PC3-11	63/2.6	334.5	2.5	2.05	2.6	0.5	0.4	1.1	57.2	2.3	16,400	3,000	50	0.05391	"	150
PC3-12	63/2.9	416.1	2.5	2.05	2.7	0.5	0.4	1.1	62.2	2.4	19,500	3,000	50	0.04333	"	150
PC3-13	94/2.6	499.0	2.5	2.05	2.9	0.5	0.4	1.1	67.0	2.5	23,000	3,000	50	0.03613	"	150

第四十六表 三心紙絕緣鉛被網代鍍裝編組線

番 号	導 線 數 / 素 線 徑 mm	體 積 計 斷 面 積 mm ²	紙 絕 緣 厚 度 mm	鉛 被 厚 度 mm	鋼 絞 線 直 徑 mm	鋼 絞 線 厚 度 mm	仕 上 外 徑 mm	外 徑 公 差 mm	概 算 重 量 kg/km	耐 壓 試 驗 電 壓 V/10分	電 氣 試 驗		1 卷 の 標 準 長 mm			
											絕 緣 試 驗 絕 緣 抵 抗 MΩ/km	導 線 試 驗 絕 緣 抵 抗 Ω/km				
PCB3-1	19/1.4	29.24	2.0	1.5	1.6	0.5	0.3	0.8	1.5	26.7	1.4	2,750	3,000	100以上	0.6229 以下	300
PCB3-2	19/1.6	38.21	2.0	1.5	1.7	0.5	3.3	0.8	1.5	28.7	1.4	3,270	3,000	100	0.4764	300
PCB3-3	19/1.8	48.36	2.0	1.5	1.7	0.5	3.3	0.8	1.5	30.3	1.5	3,700	3,000	100	0.3767	300
PCB3-4	19/2.0	59.70	2.0	1.5	1.8	0.5	0.4	1.1	1.5	32.9	1.6	4,480	3,000	100	0.3020	300
PCB3-5	19/2.3	78.95	2.0	1.5	1.9	0.5	0.4	1.1	1.5	35.7	1.7	5,400	3,000	100	0.2284	300
PCB3-6	38/1.8	96.71	2.0	1.5	1.9	0.5	0.4	1.1	1.5	37.9	1.8	6,200	3,000	100	0.1883	300
PCB3-7	38/2.0	119.4	2.5	1.75	2.1	0.5	0.4	1.1	1.5	41.9	1.9	7,600	3,000	100	0.1510	300
PCB3-8	38/2.3	157.9	2.5	1.75	2.2	0.5	0.4	1.1	1.5	45.7	2.0	9,200	3,000	50	0.1142	200
PCB3-9	38/2.6	201.7	2.5	2.05	2.3	0.5	0.4	1.1	1.5	50.3	2.1	11,300	3,000	50	0.08937	200
PCB3-10	38/2.9	251.0	2.5	2.05	2.4	0.5	0.4	1.1	1.5	54.3	2.2	14,000	3,000	50	0.07184	200
PCB3-11	63/2.6	334.5	2.5	2.05	2.6	0.5	0.4	1.1	1.5	60.3	2.3	16,800	3,000	50	0.05391	150
PCB3-12	63/2.9	416.1	2.5	2.05	2.7	0.5	0.4	1.1	1.5	65.3	2.5	20,000	3,000	50	0.04333	150
PCB3-13	94/2.6	499.0	2.5	2.05	2.9	0.5	0.4	1.1	1.5	70.1	2.6	23,500	3,000	50	0.03613	150

第四十七表 單 心「ゴム」裝 編 組 線

型 番	素 線 數 / 素 線 徑 mm	體 積 計 斷 面 積 mm ²	外 徑 mm	ゴム 絶 緣 體 厚 度 mm	布 テー プ 厚 度 mm	ゴム 厚 度 mm	布 テー プ 厚 度 mm	ゴム 厚 度 mm	鋼 絞 線 厚 度 mm	仕 上 外 徑 mm	外 徑 公 差 mm	概 算 重 量 kg/km	耐 壓 試 驗 電 壓 V/10分	電 氣 試 驗		1 卷 の 標 準 長 m
														絕 緣 試 驗 絕 緣 抵 抗 MΩ/km	導 線 試 驗 絕 緣 抵 抗 Ω/km	
SB-1	1/1.2	1.131	1.2	0.9	0.25	1.0	0.25	1.0	0.25	8.1	0.3	85	1,500	2,000	15.88	500
SB-2	1/1.4	1.539	1.4	0.9	0.25	1.0	0.25	1.0	0.25	8.3	0.3	92	1,500	2,000	11.67	500
SB-3	1/1.6	2.011	1.6	0.9	0.25	1.0	0.25	1.0	0.25	8.5	0.3	99	1,500	2,000	8.931	500
SB-4	7/0.6	1.375	1.5	0.9	0.25	1.0	0.25	1.0	0.25	8.4	0.3	93	1,500	2,000	13.47	500
SB-5	7/0.6	1.979	1.8	0.9	0.25	1.0	0.25	1.0	0.25	8.7	0.3	104	1,500	2,000	9.355	500
SB-6	7/0.7	2.694	2.1	1.0	0.25	1.0	0.25	1.0	0.25	9.2	0.4	120	1,500	2,000	6.872	500
SB-7	7/0.8	3.519	2.4	1.0	0.25	1.0	0.25	1.0	0.25	9.5	0.4	132	1,500	2,000	5.260	500
SB-8	12/0.8	6.032	3.4	1.1	0.25	1.1	0.25	1.0	0.25	10.9	0.4	185	1,500	1,200	3.069	500
SB-9	19/0.8	9.551	4.0	1.2	0.25	1.1	0.25	1.0	0.25	11.7	0.5	231	1,500	1,200	1.938	500
SB-10	30/0.8	15.08	5.2	1.3	0.25	1.2	0.25	1.0	0.25	13.5	0.5	322	1,500	1,200	1.227	500
SB-11	37/0.9	23.54	6.3	1.4	0.25	1.3	0.25	1.0	0.25	15.0	0.6	432	1,500	800	0.7865	500
SB-12	56/0.9	35.63	7.9	1.6	0.35	1.4	0.35	1.0	0.35	17.4	0.7	611	1,500	800	0.5197	500
SB-13	80/0.9	50.90	9.4	1.7	0.35	1.5	0.35	1.0	0.35	19.3	0.8	805	1,500	800	0.3638	500
SB-14	61/1.2	68.99	10.8	1.9	0.35	1.6	0.35	1.0	0.35	21.3	0.9	1,030	1,500	600	0.2655	500
SB-15	58/1.4	86.19	12.2	2.0	0.35	1.6	0.35	1.5	0.35	23.9	1.0	1,310	1,500	600	0.2196	500
SB-16	70/1.4	107.7	14.0	2.2	0.35	1.8	0.35	1.5	0.35	26.5	1.1	1,610	1,500	600	0.1701	500
SB-17	85/1.4	130.8	15.0	2.3	0.35	1.8	0.35	1.5	0.35	27.7	1.1	1,870	1,500	600	0.1400	500
SB-18	80/1.6	160.9	16.7	2.5	0.35	1.9	0.35	1.5	0.35	30.3	1.2	2,270	1,500	600	0.1139	500
SB-19	61/2.0	191.7	18.0	2.6	0.35	2.0	0.35	1.5	0.35	32.0	1.3	2,630	1,500	600	0.09459	500
SB-20	70/2.0	219.9	20.0	2.8	0.5	2.1	0.5	1.5	0.5	34.9	1.4	3,030	1,500	600	0.08243	500
SB-21	85/2.0	267.1	21.4	2.9	0.5	2.2	0.5	1.5	0.5	36.7	1.5	3,560	1,500	600	0.06788	250
SB-22	108/2.0	339.3	24.3	3.2	0.5	2.4	0.5	1.5	0.5	40.6	1.6	4,430	1,500	600	0.05342	250
SB-23	127/2.0	399.0	26.0	3.4	0.5	2.5	0.5	1.5	0.5	42.9	1.7	5,120	1,500	600	0.04543	250
SB-24	169/2.0	530.9	30.0	3.8	0.5	2.7	0.5	1.5	0.5	48.1	1.8	6,640	1,500	600	0.02414	100
SB-25	208/2.0	653.5	33.4	4.1	0.5	2.9	0.5	1.5	0.5	52.5	1.9	8,130	1,500	600	0.02774	100

第五十六表 二心「ゴム」装網代鋳装編組線

Table with 12 columns: 型番, 素線数/素線径, 計算断面積, 計算外徑, ゴム絶縁体厚, ゴム厚, 心合外徑, 心合厚, ゴム厚, ゴム厚, 鋼線組厚, 鋼線組外厚, 仕外徑公差, 概重量, 耐壓試験電圧, 絶縁抵抗, 導電抵抗, 1巻の標準長.

第五十七表 三心「ゴム」装編組線

Table with 12 columns: 型番, 素線数/素線径, 計算断面積, 計算外徑, ゴム絶縁体厚, ゴム厚, 心合外徑, 心合厚, ゴム厚, ゴム厚, 鋼線組厚, 鋼線組外厚, 仕外徑公差, 概重量, 耐壓試験電圧, 絶縁抵抗, 導電抵抗, 1巻の標準長.

第五十八表 三心「ゴム」装鋳装線

Table with 12 columns: 型番, 素線数/素線径, 計算断面積, 計算外徑, ゴム絶縁体厚, ゴム厚, 心合外徑, 心合厚, ゴム厚, ゴム厚, 鋼線組厚, 鋼線組外厚, 仕外徑公差, 概重量, 耐壓試験電圧, 絶縁抵抗, 導電抵抗, 1巻の標準長.

第五十九表 三心「ゴム」装鋳装編組線

Table with 12 columns: 型番, 素線数/素線径, 計算断面積, 計算外徑, ゴム絶縁体厚, ゴム厚, 心合外徑, 心合厚, ゴム厚, ゴム厚, 鋼線組厚, 鋼線組外厚, 仕外徑公差, 概重量, 耐壓試験電圧, 絶縁抵抗, 導電抵抗, 1巻の標準長.

第六十七表ノ一

「ゴム」絶縁電線絶縁抵抗温度換算係数表

(絶縁抵抗ヲ 15°Cニ於ケル数值ニ換算スル係数)

測定温度 °C	換算係数	測定温度 °C	換算係数
0	0.560	19	1.17
1	0.580	20	1.22
2	0.600	21	1.27
3	0.625	22	1.32
4	0.650	23	1.37
5	0.675	24	1.43
6	0.700	25	1.49
7	0.725	26	1.55
8	0.755	27	1.61
9	0.785	28	1.68
10	0.815	29	1.75
11	0.850	30	1.82
12	0.885	31	1.89
13	0.920	32	1.97
14	0.960		
15	1.00	33	2.05
16	1.04	34	2.13
17	1.08	35	2.21
18	1.13	40	2.70

第六十七表ノ二

紙絶縁電線絶縁抵抗温度換算係数表

(絶縁抵抗ヲ 15°Cニ於ケル数值ニ換算スル係数)

測定温度 °C	換算係数	測定温度 °C	換算係数
0	0.281	19	1.40
1	0.306	20	1.52
2	0.333	21	1.66
3	0.363	22	1.81
4	0.395	23	1.97
5	0.430	24	2.14
6	0.468	25	2.33
7	0.509	26	2.53
8	0.554	27	2.76
9	0.602	28	3.00
10	0.655	29	3.26
11	0.713	30	3.55
12	0.776	31	3.87
13	0.845	32	4.21
14	0.919	33	4.58
15	1.00	34	4.98
16	1.09	35	5.42
17	1.19	40	8.27
18	1.29		

第六十八表
單心「ゴム」絶縁電線許容電流表 (直流)

導 體 素線數/素線徑 mm	計 算 斷 面 積 mm ²	許 容 電 流 A			
		連 續 定 格		30 分 定 格	
		周 圍 温 度 °C		周 圍 温 度 °C	
		40	45	40	45
1/1.2	1.131	13	11		
1/1.4	1.539	15	13		
1/1.6	2.011	17	15		
7/0.5	1.375	15	13		
7/0.6	1.979	19	16		
7/0.7	2.694	22	19		
7/0.8	3.514	26	22		
12/0.8	6.032	37	32		
19/0.8	9.551	49	42	55	45
30/0.8	15.08	65	58	70	60
37/0.9	23.54	85	75	95	80
56/0.9	35.63	115	100	130	115
80/0.9	50.90	145	125	160	145
61/1.2	68.99	180	155	205	185
56/1.4	86.19	210	180	240	210
70/1.4	107.7	250	215	295	260
85/1.4	130.8	280	240	330	300
80/1.6	160.9	320	280	400	360
61/2.0	191.7	365	315	470	420
70/2.0	219.9	405	350	535	475
85/2.0	267.1	460	395	620	550
108/2.0	639.3	550	465	760	670
127/2.0	399.0	600	520	870	765
169/2.0	530.9	725	630	1110	990
208/2.0	658.5	840	725	1240	1200

第六十九表
二心「ゴム」絶縁電線許容電流表 (直流及交流 60「サイクル」)

導 體 素線數/素線徑 mm	計 算 斷 面 積 mm ²	許 容 電 流 A			
		連 續 定 格		30 分 定 格	
		周 圍 温 度 °C		周 圍 温 度 °C	
		40	45	40	45
1/1.2	1.131	11	10		
1/1.6	2.011	17	15		
7/0.8	3.519	23	21		
12/0.8	6.032	32	28	35	29
19/0.8	9.551	43	37	48	43
30/0.8	15.08	60	50	65	60
37/0.9	23.45	75	65	90	75
56/0.9	35.63	100	90	120	105
80/0.9	50.90	130	110	155	135
61/1.2	68.99	160	135	200	180
56/1.4	86.19	185	160	240	215
70/1.4	107.7	215	185	285	255
85/1.4	130.8	240	210	330	295
80/1.6	160.9	280	240	380	340

第七十表

三心「ゴム」絶縁電線許容電流表 (交流 60「サイクル」)

導 素線數/素線徑 mm	體 計算斷面積 mm ²	許 容 電 流 A			
		連 續 定 格		30 分 定 格	
		周 圍 溫 度 °C		周 圍 溫 度 °C	
		40	45	40	45
1/1.2	1.131	10	9		
1/1.6	2.011	14	12		
7/0.8	3.519	18	16		
12/0.8	6.032	25	22		
19/0.8	9.551	35	30		
30/0.8	15.08	47	41	55	50
37/0.9	23.54	65	55	75	65
56/0.9	35.63	80	70	100	85
80/0.9	50.90	105	90	135	115
61/1.2	68.99	130	110	170	150
56/1.4	86.19	150	130	205	180
70/1.4	107.7	170	150	245	200
85/1.4	130.8	195	170	285	255
80/1.6	160.9	220	190	335	300

第七十一表

單心紙絶縁電線許容電流表 (直流)

導 素線數/素線徑 mm	體 計算斷面積 mm ²	許 容 電 流 A			
		連 續 定 格		30 分 定 格	
		周 圍 溫 度 °C		周 圍 溫 度 °C	
		40	45	40	45
37/0.6	23.54	145	140	155	145
56/0.9	35.63	190	175	198	180
80/0.9	50.90	235	220	248	230
61/1.2	68.99	260	245	310	300
56/1.4	86.19	340	325	375	360
70/1.4	107.7	400	375	430	420
85/1.4	130.8	445	420	510	490
80/1.6	160.9	520	490	600	580
61/2.0	191.7	580	550	690	665
70/2.0	219.9	640	605	760	735
85/2.0	267.1	710	670	890	864
108/2.0	339.3	820	775	1070	1020
127/2.0	399.0	910	860	1215	1170
169/2.0	530.9	1065	1010	1500	1440
208/2.0	653.4	1320	1250	1750	1700

第七十二表

二心紙絶縁電線許容電流表 (交流 60「サイクル」)

導 體 索線数/索線徑 mm	計 算 斷 面 積 mm ²	許 容 電 流 A			
		連 續 定 格		30 分 定 格	
		周 圍 温 度 °C		周 圍 温 度 °C	
		40	45	40	45
24/1.2	27.14	125	120	130	120
24/1.4	36.94	155	145	155	150
24/1.6	48.26	185	175	195	185
24/1.8	61.08	215	205	230	225
24/2.0	75.41	240	230	275	265
24/2.3	99.71	300	285	345	340
24/2.6	127.4	355	335	420	400
48/2.0	150.8	400	380	480	455
48/2.3	199.4	480	445	600	575
48/2.6	254.8	560	530	730	690
78/2.3	324.1	650	615	880	815
78/2.6	414.1	770	730	1050	1000
78/2.9	515.2	875	830	1250	1200

第七十三表

三心紙絶縁電線許容電流表

導 體 索線数/索線徑 mm	計 算 切 斷 面 積 mm ²	許 容 電 流 A			
		連 續 定 格		30 分 定 格	
		周 圍 温 度 °C		周 圍 温 度 °C	
		40	45	40	45
19/1.4	29.24	115	110	125	120
19/1.6	38.21	135	130	150	145
19/1.8	48.36	160	155	180	175
19/2.0	59.70	185	175	210	200
19/2.3	78.95	225	215	260	250
38/1.8	96.71	260	245	300	290
38/2.0	119.4	305	290	355	345
38/2.3	157.9	365	345	435	420
38/2.6	201.7	410	390	525	505
38/2.9	251.0	475	450	630	600
63/2.6	334.5	580	550	785	740
63/2.9	416.1	660	625	930	870
94/2.6	499.0	730	695	1050	990

第四編 冷蔵装置

- 第一條** 本編ノ規定ハ航路ニ制限ナキ船級船ノ冷蔵装置ニ之ヲ適用ス
 特殊ノ航路若ハ用途ニ使用スル船級船ノ冷蔵装置又ハ本編ノ規定ニ該當セザ
 ル特殊構造ノ冷蔵装置ニ付テハ委員會ノ適當ト認ムル所ニ依ル
- 第二條** 冷蔵機室ニハ有效ナル通風及排水ノ装置ヲ備ヘ且鋼製水密仕切隔壁
 フ設ケテ防熱區畫室ト完全ニ隔離スルコトヲ要ス
- 第三條** 油槽ノ頂板又ハ隔壁ニ防熱装置ヲ施ストキハ鋼板ト防熱装置トノ間
 ニ適當ノ空隙ヲ設ケテ通氣ヲ十分ナラシメ且當該場所ノ排水ヲ油道及滲水道
 ニ導ク様装置スベシ但シ油槽頂板上ニ厚サ 15 耗以上ノ無臭油密被覆ヲ施ス
 場合ニ於テハ油槽頂板ト防熱装置トノ間ニ空隙ヲ設クルコトヲ要セス
 前項ノ空隙ニハ大氣ニ通ズル通風筒ヲ設ケ其ノ末端ニ金網製ノ隔膜ヲ備フベ
 シ
- 第四條** 冷蔵艙ノ周壁、床面及貨物ニ接觸スベキ金屬ノ部分ハ總テ有效ナル
 材料ヲ以テ完全ニ防熱スルコトヲ要ス
 防熱装置ノ材料及構造ニ關シテハ其ノ詳細ニ付委員會ノ承認ヲ受クルコトヲ
 要ス
 防熱装置ニシテ貨物ノ爲損傷ヲ受クル虞アル部分ハ適當ニ之ヲ保護スベシ
 「ブライン」管ノ加減弁ハ防熱區畫室外ニ設ケ室外ニ於テ之ヲ取扱ヒ得ル裝
 置ト爲スベシ
 各防熱區畫室内ニ於ケル「ブライン」管ハ二箇以上ニ區分セラレ各區分ガ單
 獨ニ使用シ得ルモノナルコトヲ要ス
- 第五條** 防熱區畫室ニ於ケル諸管、通氣筒等ハ適當ニ配置シテ其ノ位置ニ固
 定シ且貨物ノ爲損傷セラレザル様之ヲ保護スベシ
 防熱區畫室ヲ通ル滲水吸引管、測水管及空氣管ニハ總テ適當ナル防熱装置ヲ
 施スコトヲ要ス
 石炭庫隔壁ノ防熱装置及石炭庫ヲ通過スル「ブライン」管ノ防熱装置ハ失火
 ニ對シ特別ノ注意ヲ以テ之ヲ施スコトヲ要ス
- 第六條** 寒暖計鞘ノ鍔及蓋ハ鋼甲板ヨリ傳熱セザル様防熱装置ヲ爲シ且鞘内

ニ浸水セザル様装置スルコトヲ要ス

寒暖計箱及冷却管ハ其ノ所屬防熱區畫室外ニ在リテハ之ヲ有效ナル防熱装置ヲ施スコトヲ要ス但シ蔽圍セラレ且防熱装置ヲ施シタル「ブライン」槽室及蒸化器室ニ於ケル冷却管ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 満載吃水線下ニ在ル防熱區畫室ノ排水ハ防熱装置ヲ施シタル不還弁又ハ水封弁ヲ經テ之ヲ滄水道ニ排泄スル装置ト爲スベシ

防熱區畫室ニ通ズル外部ヨリノ排水ハ該區畫室ニ冷蔵貨物ヲ積載セル間之ヲ遮斷シ得ル様装置スベシ尙該排水ニ對シ成ルベク別ノ排出装置ヲ備フベシ

第八條 防熱區畫室ニ於ケル滄水道、芥除箱等ハ容易ニ檢査シ得ル様施設スルコトヲ要ス

「リンバーハツチ」ノ底部ハ塗裝スルヲ可トス

第九條 冷蔵艙ノ船側、隔壁及床上ニテ總テ冷蔵貨物積載前ニ於テ「バツテン」ヲ施シ船側及隔壁ニ於ケルモノハ之ヲ固着スルコトヲ要ス但シ貨物ヲ吊シテ積載スル冷蔵艙ニ在リテハ床上ニ「バツテン」ヲ設クルコトヲ要セズ

「バツテン」ノ寸法ハ床上及船側ニ設クルモノニ在リテハ幅50耗、厚50耗以上、軸路頂板ニ設クルモノニ在リテハ幅75耗、厚サ75耗以上ト爲シ其ノ間隔ハ約30耗ト爲スベシ

第十條 冷凍機關ハ承認ヲ經タル構造ノモノ二組以上ヲ備ヘ其ノ各部ハ互ニ交換シ得ルモノナルコトヲ要ス

冷凍機關ノ各組ハ原動機、壓縮機、凝縮器及蒸化器若ハ冷却器ヨリ構成セラレルモノトス

第十一條 冷凍機關ハ一組ノ機關ヲ休止シ殘餘ノ機關ヲ毎日24時間運轉スル場合熱帶地ノ氣温ニ於テ冷蔵艙ヲ所要ノ温度ニ保持スルニ十分ナル能力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第十二條 冷凍機關ハ二箇以上ノ力源ヲ備フル船舶ニ在リテハ其ノ何レニ依リテモ運轉シ得ル装置ト爲スベシ

冷凍機關ガ蒸汽ニ依リ動作セラルル場合ニ於テハ其ノ排汽ヲ主及補助ノ復水器ニ連結セシムベシ

「ブラインポンプ」、循環水「ポンプ」及海水弁ハ各二重ニ備フルカ又ハ補

助「ポンプ」ニ獨立ノ連結ヲ有スルモノト爲スベシ

第十三條 冷凍機關ノ壓力ヲ受クル部分ハ次ノ各號ニ依リ耐壓試験ヲ行フコトヲ要ス

一、CO₂ 壓縮筒、分離器、凝縮器及蒸化器ノ「コイル」、「ヘツダー」竝ニ之等ヲ連結スル管ハ每平方糎210疋ノ水壓試験ヲ行ヒ次ニ水中ニ於テ每平方糎105疋ノ氣壓試験ヲ行フコト

二、NH₃ 壓縮筒及之ニ附屬スル管ハ每平方糎42疋ノ水壓試験ヲ行フコト

三、NH₃ 凝縮器、蒸化器及膨脹空氣冷却器ノ各「コイル」ハ每平方糎105疋ノ水壓試験ヲ行ヒ次ニ水中ニ於テ每平方糎35疋ノ氣壓試験ヲ行ヒ更ニ現場ニ取附ケタル後每平方糎14疋ノ氣壓試験ヲ行フコト

四、NH₃ 多管式凝縮器及蒸化器ハ每平方糎35疋ノ水壓試験ヲ行ヒ次ニ水中ニ於テ每平方糎17.5疋ノ氣壓試験ヲ行フコト

五、「ブライン」管ハ現場ニ取附ケタル後每平方糎6.5疋ノ水壓試験ヲ行フコト

六、瓦斯凝縮器及蒸化器ノ外管ハ使用壓力ノ2倍ノ水壓試験ヲ行フコト

第十四條 冷凍機關及防熱装置ハ完成後使用状態ニ於テ之ヲ試験スルコトヲ要ス

前項ノ試験ニ於テハ冷蔵艙ガ凍結肉及表面凍結肉ヲ積載セントスルモノナルトキハ攝氏約-12度ニ、又果實其ノ他輕度冷却ヲ要スル貨物ヲ積載セントスルモノナルトキハ約-7度ニ全艙ヲ同時ニ冷却スベシ、此ノ場合ニ於テハ成ルベク各艙ガ所定ノ温度ニ冷却セリト認メタル時機關ノ運轉ヲ停止シ約12時間ノ後各艙ノ温度ノ上昇ヲ檢シ之ヲ記録シ置ク様爲スベシ

第十五條 豫備品ハ次表ニ依リ之ヲ備ヘ近寄り易キ場所ニ藏置スルコトヲ要ス

品名	數量
「クランク」軸鏢螺釘	一組
電動機軸鏢螺釘及座金	一組
壓縮筒「ピストン」及「ピストン」桿	各形一組
壓縮筒「ピストン」及「ピストン」桿ノ「パツキング」	各形一組

品名	數量
壓縮筒ノ吸入弁及排出弁(弁匣及發條ノ完備セルモノ)	各形 一組
瓦斯加減弁(完備セルモノ)	一組
循環水、排氣及「ブライン」用「ポンプ」ノ弁	各形 一組
管、曲管、銲接手及締附用具	各種若干
弁、「コック」、銲及附屬品	各種若干
螺釘、母螺、植込螺釘、「パツキング」及接合環	各種若干
電氣豫備品ハ電動機、起動機其ノ他ニ對シ第三編第六章ノ規定ニ依リ之ヲ備フルノ外空氣循環用扇風機ニ對シ次ニ掲グルモノヲ備フベシ	
分捲界磁線輪	各形 一組
電機子(軸共)	各形 一組
內燃機豫備品ハ第三編第五章第三條第四號ニ規定スル補助內燃機ニ對スルモノヲ備フベシ	

第五編 材料及材料試驗

第一章 總則

第一條 船體及機關ノ製造ニ用フル壓延鋼材、鍛鋼材及鑄鋼材ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本編ノ規定ニ依ル材料試驗ニ合格ノモノナルコトヲ要ス管、特殊鋼材、黃銅材、可鍛鑄鐵材其ノ他ノ鐵材ニ付テハ本編ニ規定ナキ場合ト雖モ検査員ニ於テ特ニ必要アリト認ムルトキニ限り其ノ指定スル所ニ依リ材料試驗ヲ行フ

第二條 遞信省令船舶安全法施行規則ニ定ムル平水區域又ハ沿海區域ニ航路ヲ制限スル船級船若ハ小形漁船ノ船體又ハ乙種若ハ丙種ノ機關ニ用フル材料ニ付テハ検査員ノ見込ニ依リ材料試驗ヲ省略スルコトヲ得但シ機關ノ軸ノ一部ニ用フル鑄鋼材ノ材料試驗及制限汽壓每平方糎 10 疋ヲ超ユル汽罐若ハ高溫ノ受壓槽又ハ制限壓力每平方糎 14 疋ヲ超ユル其ノ他ノ受壓槽ニ用フル鋼板ノ屈曲試驗ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三條 本編ニ定ムル材料規格ニ適合セザル材料又ハ材料試驗ヲ受ケザル材料ト雖モ其ノ使用ノ方法若ハ箇所又ハ其ノ他ノ條件ニ依リ特ニ検査員ノ承認ヲ受ケタルトキハ之ヲ使用スルコトヲ得

第四條 試驗ニ合格シタル鋼材ニハ其ノ製造者ニ於テ次ノ區別ニ從ヒ容易ニ識別シ得ル様ニ箇所以上ニ刻印スベシ

一、一般試驗ニ合格シタル材料

AR

二、屈曲試驗ノミヲ受ケ之ニ合格シタル壓延鋼材

$\frac{AR}{B}$

壓延鋼材ニハ前項ノ刻印ノ外製造者ノ氏名又ハ商號及製造地ヲ明瞭ニ刻印スベシ

第五條 試驗ニ提供セラレタル壓延鋼材中試驗ニ不合格トナリ又ハ表面瑕瑾其ノ他ノ事由ニ因リ規格ニ適合セズト認メタルモノニハ AR ノ如ク縱横ニ

交叉シテ點ヲ刻シ本會記號ヲ抹消スベシ

第六條 壓延鋼材ノ試験ハ原則トシテ其ノ製造所ニ於テ材料ノ發送前之ヲ行フ

壓延鋼材ノ製造所ニ於テ試験ヲ受ケ第四條ニ依リ本會ノ記號ヲ刻印シタル鋼材ハ之ニ對スル「ミルシート」ニ検査員ノ署名又ハ捺印ヲ受ケタル後ニ非ザレバ之ヲ製造所ヨリ發送スルコトヲ得ズ

第七條 前條第二項ニ依リ「ミルシート」ニ検査員ノ署名又ハ捺印ヲ求メントスルトキハ鋼材ノ製造者ハ當該鋼材ガ平爐又ハ電氣爐ニ依リ製造セラレ且規定ノ試験ニ合格シタルモノニ相違ナキコトヲ保證スル書面ヲ検査員ニ差出スベシ

前項ノ書面ハ「ミルシート」ニ製造者ノ氏名又ハ名稱及次ノ事項ヲ印刷シ且試験室主任者ノ署名又ハ捺印シタルモノヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

下記鋼材ハ平爐(電氣爐)ニ依リ製造シ検査員立會ノ上帝國海事協會鋼船規則ニ依リ試験ヲ爲シ之ニ合格シタルモノナルコトヲ證明ス

他ヨリ供給ヲ受ケタル鋼塊等ヨリ壓延シタル鋼材ニ付試験ヲ受ケタルトキハ次ニ掲グル事項ヲ記載シタル證明書ヲ検査員ニ差出スベシ

一、鋼塊等ガ平爐又ハ電氣爐ニ依リ製造セラレタルモノナルコト

二、鋼塊等ノ製造者ノ氏名又ハ名稱

三、熔鋼番號(鋼塊等ノ製造者ノ帳簿ニ記入シアルモノ)

前項ノ場合ニ於テハ鋼材毎ニ熔鋼番號ヲ刻印スベシ

第八條 試験ヲ受ケントスル壓延鋼材ノ製造者ハ當該鋼材ト原熔鋼トノ關係ヲ明カナラシムル爲メ鋼塊、鋼片、試験片及壓延材ニ一定ノ符號ヲ附シ置クコトヲ要シ且検査員ニ對シ壓延材ノ原熔鋼ヲ識別スルニ必要ナル便宜ヲ與フベシ

壓延鋼材ノ製造者ハ試験ニ合格シタル鋼材ニ付明瞭適確ニ調製シタル試験成績書二通ヲ差出シ検査員ノ署名ヲ受クベシ、該試験成績書ノ中一通ハ製造者ヨリ注文者ニ送付シ他ノ一通ハ本會ニ提出スルモノトス

第九條 既ニ試験ヲ受ケ合格ト認メラレタル材料ト雖モ工事中缺點ヲ發見又ハ發生シタルトキハ之ヲ排除ス

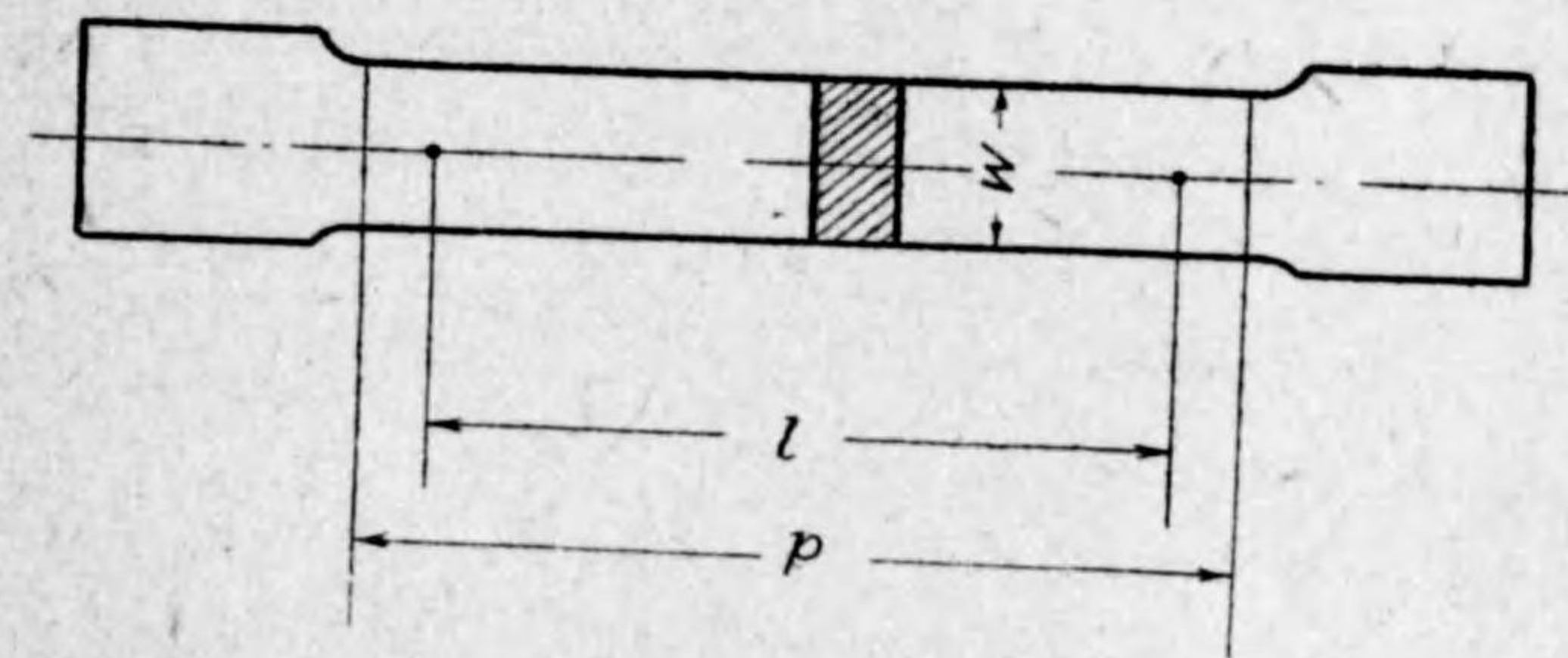
前項ノ場合ニ於テ材料ガ壓延鋼材ナルトキハ検査員ノ見込ニ依リ同一熔鋼ヨリ製造シタル他ノ鋼材ニ付更ニ試験ヲ行ヒ若シ再試験ノ成績ガ良好ナラザルトキハ之ニ依リ代表セラルル鋼材ハ之ヲ不合格ト爲スコトアルベシ

第十條 本則ニ依リ行フ材料試験ノ試験機ハ逓信省令船用品試験機取締規則ニ依リ定ムル使用期間内ニ在ルモノヲ用フベシ

第二章 試験片

第一條 抗張試験ニ用フル標準試験片ハ材料ノ種類ニ應ジ次ノ各號ニ掲グル形狀及寸法ト爲スベシ但シ其ノ兩端ハ試験機ニ應ジ之ニ適合スル形狀ニ仕上グルモノトス

一、第一號試験片(日本標準規格金屬材料標準抗張試験片第一號ニ同ジ)ノ主トシテ鋼板、平鋼及形鋼ニ對シテ用フルモノ



標點距離 l 200 耗
 平行部ノ長さ p 約 220 耗
 幅 W 次表ニ依ル

試験片ノ厚サ(耗)	試験片ノ幅 W (耗)
23 ヲ超ユルモノ	40 以下
9 以上 23 以下	50 "
9 未滿	60 "

二、第二號試験片(日本標準規格金屬材料標準抗張試験片第二號ニ同ジ)ノ主トシテ徑(又ハ對邊距離) 25 耗以下ノ棒鋼ニ對シテ用フルモノ